

国分寺市
障害者(児)施策に関するアンケート調査
集計結果報告書

2023年1月

国分寺市

目次

第1章 調査概要	1
1. 目的	3
2. 調査項目	3
3. 調査設計	4
4. 回収状況	4
5. 調査結果を見る上での注意事項	4
第2章 調査結果（一般）	5
1. 基本情報	
（1）記入者	7
（2）年齢	7
（3）居住地域	9
（4）生活をしていくための主な収入	10
2. 障害の状況について	
（1）障害の状況（種類または診断名）	12
（2）身体障害者手帳（程度）	13
（3）身体障害者手帳（障害の種類）	13
（4）愛の手帳（程度）	14
（5）精神障害者保健福祉手帳（等級）	14
3. 介助の状況について	
（1）日常生活で受けている介助や支援	15
（2）主な介助・支援者	16
（3）主な介助・支援者の年齢	18
（4）主な介助・支援者のご本人以外の世話や介護の有無	20
（5）主な介助・支援者が介助・支援ができなくなった場合	22
4. 福祉サービスについて	
（1）福祉サービスの利用状況・利用意向と満足度	24
（2）障害福祉サービスを利用していない理由	37
（3）障害福祉サービスに不満を感じている理由	38
5. その他のサービスについて	
（1）その他のサービスの利用状況・利用意向	39
6. 住まいの場について	
（1）現在の住まい	40
（2）福祉施設入所の理由	41
（3）福祉施設の入所年数	42
（4）将来希望する暮らし	43

(5) グループホームの利用を希望する時期	45
7. 日中活動の場・就労について	
(1) 平日昼間の過ごし方	47
(2) 働き方	49
(3) 就職支援の窓口	51
(4) 現在の仕事への悩みや不満	52
(5) 現在の仕事の就労年数	53
(6) 現在の仕事を継続している理由	54
(7) 施設等に通所するうえでの悩みや不満	55
(8) 今後の過ごし方の希望	56
(9) 就学や就労をしていない理由	57
(10) 将来における一般企業への就職希望の有無	58
(11) 一般企業への就職・就労を継続するために必要だと思うこと	60
(12) 退職経験の有無	61
(13) 退職の理由	62
8. 外出について	
(1) 外出頻度	63
(2) 外出をしたくてもできない理由	64
(3) 外出時に感じる困難や不便	65
9. 災害への備えについて	
(1) 災害発生時に困ることや不安に感じる事	66
(2) 災害に対する備え	68
(3) 災害発生時に頼れる人	69
10. 相談や福祉の情報について	
(1) 相談窓口・機関の認知度・利用状況	70
(2) 相談窓口・機関の満足度	71
(3) 福祉サービス等の情報の入手経路	72
11. ヘルプマークとヘルプカードについて	
(1) ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度	74
(2) ヘルプマーク・ヘルプカード所持の有無	74
(3) ヘルプマーク・ヘルプカードによる援助を受けた経験の有無	75
(4) ヘルプマーク・ヘルプカードを持っていない理由	75
12. 障害を理由とする差別について	
(1) 障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無	76
(2) 差別やいやな思いを受けた場所	78
(3) 差別やいやな思いを受けた相手	79
(4) 差別やいやな思いを受けた内容	80
(5) 差別やいやな思いを受けた時の相談先	81
(6) 差別やいやな思いを受けたが相談しなかった理由	82

13. 余暇活動について	
(1) 余暇の過ごし方	83
(2) 過去1年間の文化芸術活動の種類	85
(3) 過去1年間の運動やスポーツ経験の有無	86
(4) 運動やスポーツをする場所	87
(5) 文化芸術活動に関わるために必要な支援	88
(6) 運動やスポーツを行うために必要な支援	89
14. 成年後見人制度について	
(1) 成年後見人制度の認知度と利用意向	90
(2) 成年後見人制度を利用しない理由	92
15. 全体的な施策について	
(1) 暮らしのために充実してほしいこと	93
16. 自由意見	
(1) 相談支援体制及び関係機関のネットワーク	96
(2) サービスの利用	96
(3) サービス提供体制の整備	97
(4) 経済的支援	97
(5) 生涯学習・文化芸術・スポーツ・余暇活動	97
(6) 雇用・就業	97
(7) 情報アクセシビリティ	98
(8) 安全・安心	98
(9) 心のバリアフリー及び権利擁護	99
(10) 人材の育成と確保	99
(11) 障害当事者・家族への支援	99
(12) アンケート	100
(13) その他	100
第3章 調査結果（児童）	101
1. 基本情報	
(1) 記入者	103
(2) 年齢	103
(3) 居住地域	105
(4) 現在の住まい	106
2. 障害の状況について	
(1) 障害の状況（種類または診断名）	107
(2) 身体障害者手帳（程度）	108
(3) 身体障害者手帳（障害の種類）	108
(4) 愛の手帳（程度）	109
(5) 精神障害者保健福祉手帳（等級）	109

(6) 日常的に必要な医療的ケア（種類）	110
(7) お子さまの障害や心身の不調に気付いたきっかけ	111
(8) お子さまの不調に気付いてから相談するまでの期間	113
(9) お子さまの不調に気付いたが相談しなかった理由	114
3. 介助の状況について	
(1) 主な介助・支援者	115
(2) 主な介助・支援者の年齢	117
(3) 主な介助・支援者のお子さま以外の世話や介護の有無	119
(4) 主な介助・支援者が介助・支援ができなくなった場合	121
4. 福祉サービスについて	
(1) 福祉サービスの利用状況・利用意向	123
(2) 福祉サービスの満足度	125
(3) 障害福祉サービスを利用していない理由	127
(4) 障害福祉サービスに不満を感じている理由	128
(5) 主に18歳以上の方が利用するサービスの利用意向（お子さまが15歳以上）	129
5. その他のサービスについて	
(1) その他サービスの利用状況・利用意向	130
6. 教育・保育について	
(1) 通園・通所場所	131
(2) 通園・通所に関する困りごとや心配ごと	133
(3) 通学場所	134
(4) 通学に関する困りごとや心配ごと	136
7. 将来について	
(1) 将来就職するために必要だと思うこと	137
(2) 将来希望する暮らし	138
8. 外出について	
(1) 外出頻度・外出したくてもできない理由	140
(2) 外出時に感じる不便や困難	141
9. 災害への備えについて	
(1) 災害発生時に困ることや不安に感じること	142
(2) 災害に対する備え	143
10. 相談や福祉の情報について	
(1) お子さまの日常生活に関する不安や課題	144
(2) 保護者の日常生活に関する不安や課題	147
(3) 福祉の相談窓口・機関の認知度・利用状況	150
(4) 福祉の相談窓口・機関の満足度	151
(5) 福祉サービス等に関する情報の入手経路	152

1 1. ヘルプマークとヘルプカードについて	
(1) ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度	153
(2) ヘルプマーク・ヘルプカード所持の有無	153
(3) ヘルプマーク・ヘルプカードによる援助を受けた経験の有無.....	154
(4) ヘルプマーク・ヘルプカードを持っていない理由.....	154
1 2. 障害を理由とする差別について	
(1) 障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無.....	155
(2) 差別やいやな思いを受けた場所	156
(3) 差別やいやな思いを受けた相手	157
(4) 差別やいやな思いを受けた内容	158
(5) 差別やいやな思いを受けた時の相談先	159
(6) 差別やいやな思いを受けたが相談しなかった理由.....	160
1 3. 余暇活動について	
(1) 余暇の過ごし方	161
(2) 文化芸術への関わり方	162
(3) 過去1年の間の運動やスポーツ経験の有無	163
(4) 運動やスポーツをする場所	164
(5) 文化芸術活動に関わるために必要な支援	165
(6) 運動やスポーツを行うために必要な支援	166
1 4. 成年後見制度について	
(1) 成年後見人制度の認知度と利用傾向	167
(2) 成年後見人制度を利用させる予定がない理由	169
1 5. 全体的な施策について	
(1) 暮らしのために充実してほしいこと	170
1 6. 自由意見	
(1) 相談支援体制及び関係機関のネットワーク	173
(2) 経済的支援	173
(3) 保健・医療	174
(4) 療育	174
(5) 教育	174
(6) 保育	175
(7) 生涯学習・文化芸術・スポーツ・余暇活動	175
(8) 移動支援	175
(9) 安全・安心	175
(10) 心のバリアフリー	175
(11) 人材の育成と確保	176
(12) アンケート	176
(13) その他	176

第 1 章 調査概要

1. 目的

令和6年度以降の「第4次国分寺市障害者計画・第4次国分寺市障害者計画実施計画（後期）・第7期国分寺市障害福祉計画・第3期国分寺市障害児福祉計画」の策定の一環として、障害のある方の生活のご様子や福祉サービスに対するご意見等をいただき、新しい計画に反映する。

2. 調査項目

【一般向け】（18歳以上の方）

- | | |
|-----------------------|-----------|
| 1. 基本情報 | (問1～問4) |
| 2. 障害の状況について | (問5) |
| 3. 介助の状況について | (問6～問10) |
| 4. 福祉サービスについて | (問11～問13) |
| 5. その他のサービスについて | (問14) |
| 6. 住まいの場について | (問15～問19) |
| 7. 日中活動の場・就労について | (問20～問32) |
| 8. 外出について | (問33～問35) |
| 9. 災害への備えについて | (問36～問38) |
| 10. 相談や福祉の情報について | (問39～問40) |
| 11. ヘルプマークとヘルプカードについて | (問41～問44) |
| 12. 障害を理由とする差別について | (問45～問47) |
| 13. 余暇活動について | (問48～問53) |
| 14. 成年後見人制度について | (問54～問55) |
| 15. 全体的な施策について | (問56) |
| 16. 自由意見 | (問57) |

【児童向け】（18歳未満の方）

- | | |
|-----------------------|-----------|
| 1. 基本情報 | (問1～問4) |
| 2. 障害の状況について | (問5～問8) |
| 3. 介助の状況について | (問9～問12) |
| 4. 福祉サービスについて | (問13～問16) |
| 5. その他のサービスについて | (問17) |
| 6. 教育・保育について | (問18～問21) |
| 7. 将来について | (問22～問23) |
| 8. 外出について | (問24～問26) |
| 9. 災害への備えについて | (問27～問28) |
| 10. 相談や福祉の情報について | (問29～問32) |
| 11. ヘルプマークとヘルプカードについて | (問33～問36) |
| 12. 障害を理由とする差別について | (問37～問39) |
| 13. 余暇活動について | (問40～問45) |
| 14. 成年後見制度について | (問46～問47) |
| 15. 全体的な施策について | (問48) |
| 16. 自由意見 | (問49) |

3. 調査設計

- (1) 調査対象……国分寺市で援護を実施している身体障害，知的障害，精神疾患，難病等の方
- (2) 標本数……一般向け：2,650人 児童向け：350人
- (3) 抽出方法……無作為抽出法
- (4) 調査方法……郵送配布・郵送回収
- (5) 調査期間……令和4年8月下旬～令和4年9月下旬

4. 回収状況

【一般向け】(18歳以上の方)		【児童向け】(18歳未満の方)	
(1) 標本数	2,650人	(1) 標本数	350人
(2) 有効回収数	1,185人	(2) 有効回収数	174人
(3) 有効回収率	44.7%	(3) 有効回収率	49.7%

5. 調査結果を見る上での注意事項

- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって，回答率を合計しても100.0%にならない場合がある。
- (2) 回答者数は比率算出の基数であり，100.0%が何人の回答者数に相当するかを示している。
- (3) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は，場合によっては語句を簡略化してある。
- (4) 回答の比率(%)は，その設問の回答者数を基数nとして算出した。したがって，複数回答の設問は，すべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (5) クロス集計を行う場合，属性等によってnが少ない場合がある。nが少ない場合，1人の回答がその属性全体の結果に大きく影響するため，定量的には適切な分析をすることが難しい。このため本報告書では分析軸の項目のうちnが10未満と少ない場合，本文中にふれていない場合がある。
- (6) クロス結果の帯グラフや表について，表側となる設問に「無回答」がある場合，これを表示しない。ただし，全体の件数には含めているので，表側のカテゴリーの件数の合計が全体の件数と一致しないことがある。
- (7) 割合の表記については，以下のとおりとする。

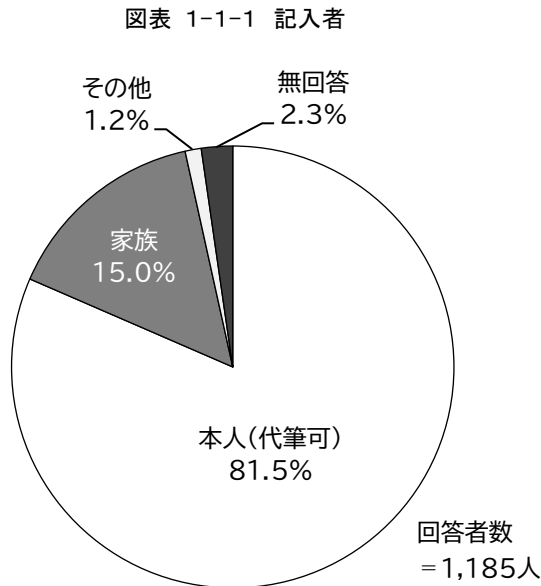
表記	約4割(4割)	4割以上	4割半ば	5割近く	約5割(5割)
範囲	39.0～41.0% (40.0%)	41.1～43.9%	44.0～46.0%	46.1～48.9%	49.0～51.0% (50.0%)

第 2 章 調査結果（一般）

1. 基本情報

(1) 記入者

問1 この調査票を記入する方はどなたですか。(1つに○)

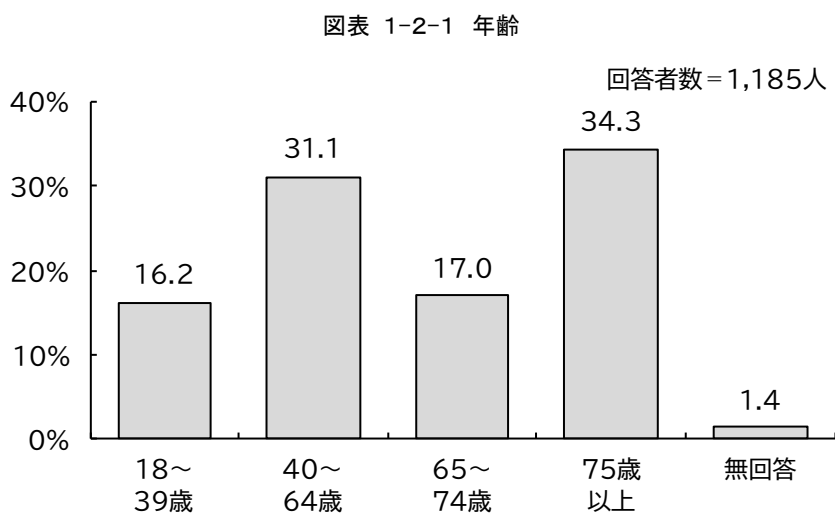


記入者について聞いたところ、「本人(代筆可)」81.5%が最も高く、8割以上となっている。次いで、「家族」15.0%、「その他」1.2%の順になっている。

(2) 年齢

問2 あなた(ご本人)の年齢を教えてください。(1つに○)

(令和4年(2022年)8月1日現在)



年齢について聞いたところ、「75歳以上」34.3%が最も高く、次いで、「40~64歳」31.1%、「65~74歳」17.0%、「18~39歳」16.2%の順になっている。

第2章 調査結果(一般)

図表 1-2-2 年齢〔障害種別〕

		回答者数 (人)	18 ～ 39 歳	40 ～ 64 歳	65 ～ 74 歳	75 歳 以上	無 回 答
全 体		1,185	16.2%	31.1%	17.0%	34.3%	1.4%
障 害 種 別	身体障害者手帳所持者	688	5.5%	22.4%	21.8%	49.9%	0.4%
	愛の手帳所持者	160	53.1%	34.4%	7.5%	5.0%	0.0%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	232	28.4%	55.2%	9.5%	6.5%	0.4%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	27	22.2%	44.4%	11.1%	18.5%	3.7%
	発達障害の診断あり	69	60.9%	34.8%	2.9%	1.4%	0.0%
	高次脳機能障害の診断あり	20	15.0%	45.0%	25.0%	15.0%	0.0%
	難病の診断あり	228	11.8%	36.8%	20.2%	31.1%	0.0%
	日常的に医療的ケアが必要	36	8.3%	16.7%	25.0%	50.0%	0.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

障害種別で第1位の割合をみると、身体障害者手帳所持者では、65歳以上が71.7%で、7割以上となっている。

愛の手帳所持者では、64歳以下が87.5%で9割近くとなっている。

精神障害者保健福祉手帳所持者では、「40～64歳」が55.2%で5割半ば、手帳未所持で精神疾患の診断ありの方では、「40～64歳」が44.4%で4割半ばとなっている。

発達障害の診断ありの方では、「18～39歳」が60.9%で約6割となっている。

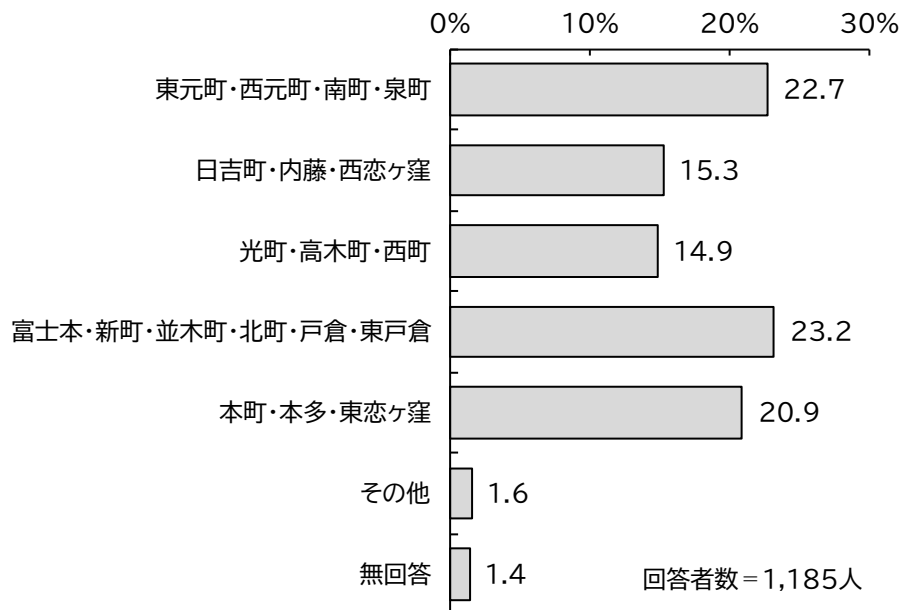
高次脳機能障害の診断ありの方では、「40～64歳」が45.0%で4割半ば、難病の診断ありの方では、「40～64歳」が36.8%で4割近く、日常的に医療的ケアが必要な方では、「75歳以上」が50.0%で5割となっている。

身体障害者手帳所持者と日常的に医療的ケアが必要な方は「75歳以上」、愛の手帳所持者と発達障害の診断ありの方は「18～39歳」、それ以外は「40～64歳」の割合が高く、4割近くから約6割となっている。

(3) 居住地

問3 あなた(ご本人)のお住まいの地域はどこですか。(1つに○)

図表 1-3-1 居住地

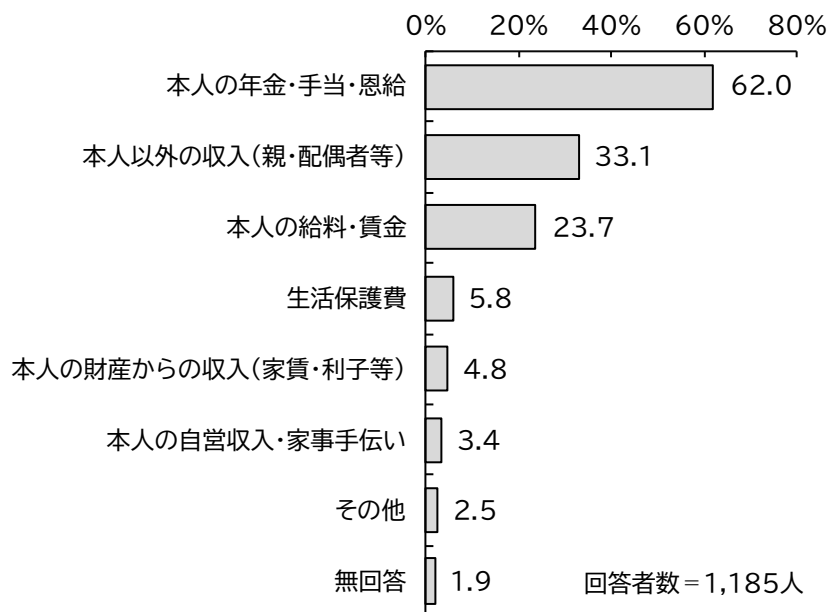


居住地について聞いたところ、「富士本・新町・並木町・北町・戸倉・東戸倉」23.2%が最も高く、次いで、「東元町・西元町・南町・泉町」22.7%、「本町・本多・東恋ヶ窪」20.9%、「日吉町・内藤・西恋ヶ窪」15.3%、「光町・高木町・西町」14.9%、「その他」1.6%の順になっている。

(4) 生活をしていくための主な収入

問4 あなた(ご本人)が現在の生活をしていくうえでの主な収入は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

図表 1-4-1 生活をしていくための主な収入



生活をしていくための主な収入について聞いたところ、「本人の年金・手当・恩給」62.0%が最も高く、6割以上となっている。次いで、「本人以外の収入(親・配偶者等)」33.1%、「本人の給料・賃金」23.7%と続いている。

図表 1-4-2 生活をしていくための主な収入〔年齢別・障害種別〕

		回答者数 (人)	恩給 本人の年金・手当・	本人以外の収入	本人の給料・賃金	生活保護費	収入 本人の財産からの	家事手伝い 本人の自営収入・	その他	無回答
全体		1,185	62.0%	33.1%	23.7%	5.8%	4.8%	3.4%	2.5%	1.9%
年齢別	18～39歳	192	42.2%	55.7%	49.0%	4.7%	1.0%	4.2%	1.0%	0.0%
	40～64歳	369	39.6%	40.4%	39.8%	10.0%	4.3%	3.0%	2.4%	0.5%
	65～74歳	201	79.1%	24.9%	13.4%	8.5%	4.5%	4.0%	0.5%	1.5%
	75歳以上	407	85.5%	21.1%	3.2%	1.5%	7.4%	3.2%	4.4%	0.5%
障害種別	身体障害者手帳所持者	688	71.4%	24.9%	17.9%	4.7%	6.7%	3.3%	3.1%	0.9%
	愛の手帳所持者	160	63.8%	41.9%	38.8%	5.0%	0.6%	1.9%	1.3%	0.6%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	232	50.9%	42.2%	28.0%	18.1%	2.2%	2.6%	1.7%	0.4%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	27	51.9%	37.0%	29.6%	14.8%	0.0%	0.0%	3.7%	3.7%
	発達障害の診断あり	69	52.2%	49.3%	43.5%	7.2%	0.0%	4.3%	1.4%	0.0%
	高次脳機能障害の診断あり	20	90.0%	35.0%	25.0%	10.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	228	49.6%	44.7%	26.3%	1.3%	3.9%	4.8%	2.2%	0.9%
	日常的に医療的ケアが必要	36	80.6%	27.8%	8.3%	2.8%	13.9%	0.0%	8.3%	0.0%

※網掛けは、「その他」以外で全体の割合を上回っている選択肢

年齢別にみると、18～64歳は「本人の給料・賃金」「本人以外の収入」が、65歳以上は「本人の年金・手当・恩給」が、全体の割合を上回っている。

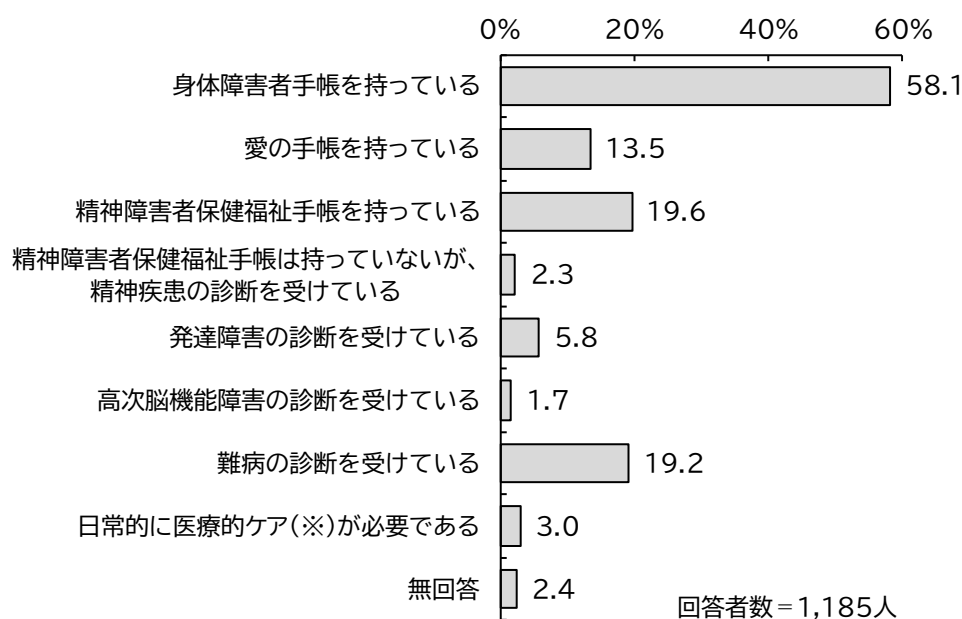
障害種別でみると、高次脳機能障害の診断ありの方と日常的に医療的ケアが必要な方は、「本人の年金・手当・恩給」が、それぞれ全体を28.0ポイント、18.6ポイント上回っている。精神障害者保健福祉手帳所持者と手帳未所持で精神疾患の診断ありの方、高次脳機能障害の診断ありの方は「生活保護費」が、発達障害の診断ありの方は「本人の給料・賃金」と「本人の自営収入・家事手伝い」「本人以外の収入」「生活保護費」が、全体を上回っている。

2. 障害の状況について

(1) 障害の状況 (種類または診断名)

問5 あなた(ご本人)がお持ちの障害者手帳または受けている診断名などについておたずねします。(あてはまるものすべてに○)

図表 2-1-1 障害の状況(種類または診断名)



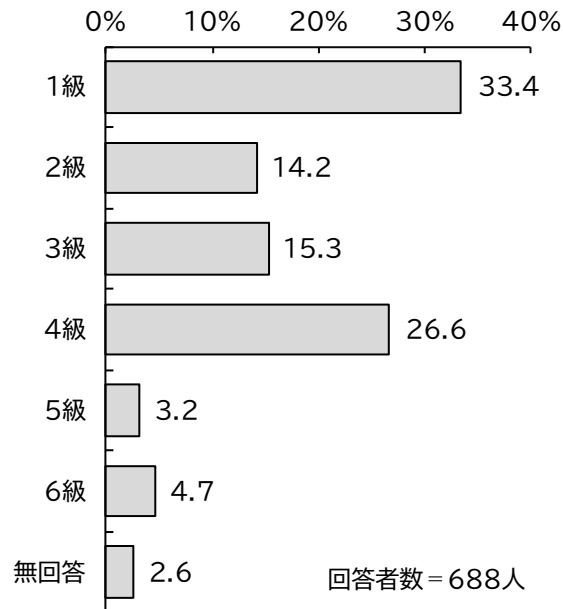
※医療ケアとは、たん吸引、経管栄養(胃ろうなど)、人工呼吸器、酸素療法、導尿など、医師の指示や管理のもと、家族や看護師等が行う医療的な生活援助行為のこと

手帳の種類または診断名について聞いたところ、「身体障害者手帳を持っている」58.1%が最も高く、6割近くなっている。次いで、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」19.6%、「難病の診断を受けている」19.2%、「愛の手帳を持っている」13.5%、「発達障害の診断を受けている」5.8%、「日常的に医療的ケアが必要である」3.0%、「精神障害者保健福祉手帳は持っていないが、精神疾患の診断を受けている」2.3%、「高次脳機能障害の診断を受けている」1.7%の順になっている。

(2) 身体障害者手帳(程度)

手帳に書いてある障害の程度(総合等級)は何級ですか。(1つに○)

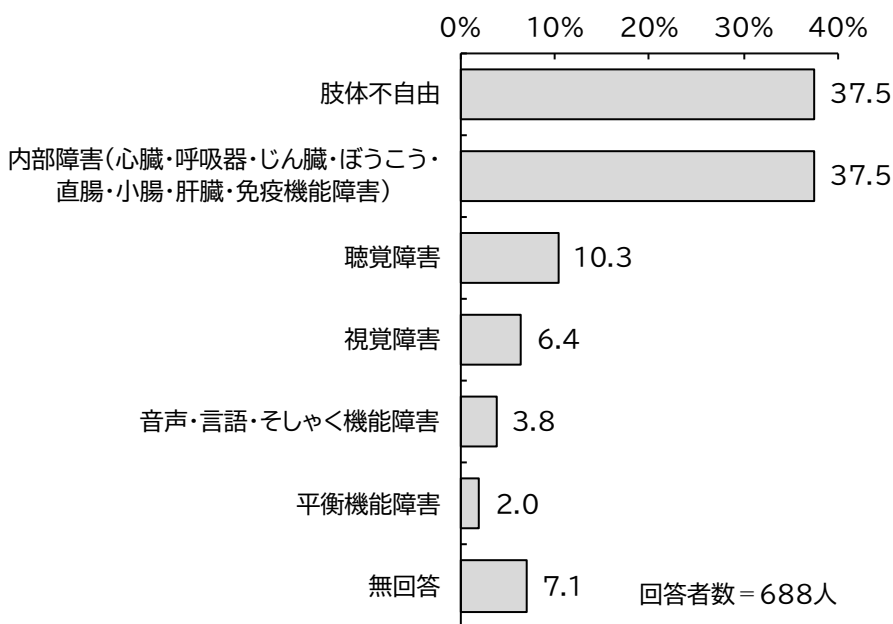
図表 2-2-1 身体障害者手帳(程度)



(3) 身体障害者手帳(障害の種類)

どのような障害ですか。(あてはまるものすべてに○)

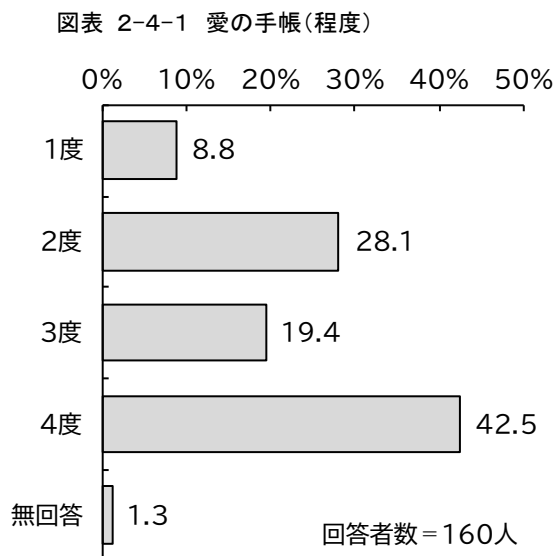
図表 2-3-1 身体障害者手帳(障害の種類)



障害の種類について聞いたところ、「肢体不自由」と「内部障害」がともに37.5%で最も高く、次いで、「聴覚障害」10.3%、「視覚障害」6.4%、「音声・言語・そしゃく機能障害」3.8%、「平衡機能障害」2.0%の順になっている。

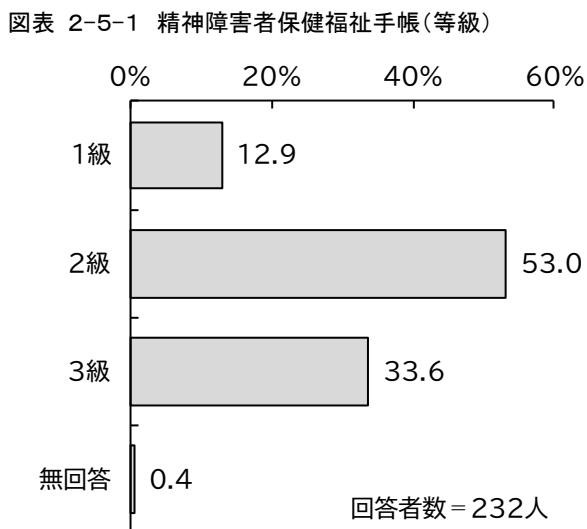
(4) 愛の手帳 (程度)

手帳に書いてある障害はどの程度ですか。(1つに○)



(5) 精神障害者保健福祉手帳 (等級)

手帳に書いてある障害は何級ですか。(1つに○)

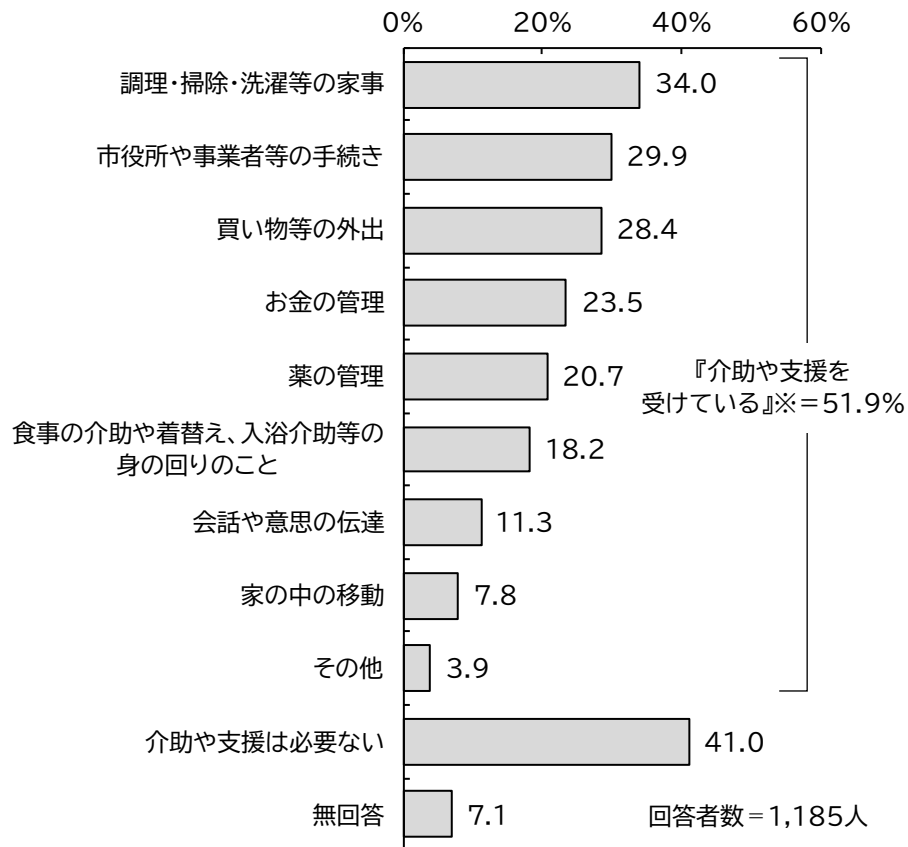


3. 介助の状況について

(1) 日常生活で受けている介助や支援

問6 あなた(ご本人)は日常生活でどのような介助や支援を受けていますか。
(あてはまるものすべてに○)

図表 3-1-1 日常生活で受けている介助や支援



※『介助や支援を受けている』=100%－「介助や支援は必要ない」－「無回答」

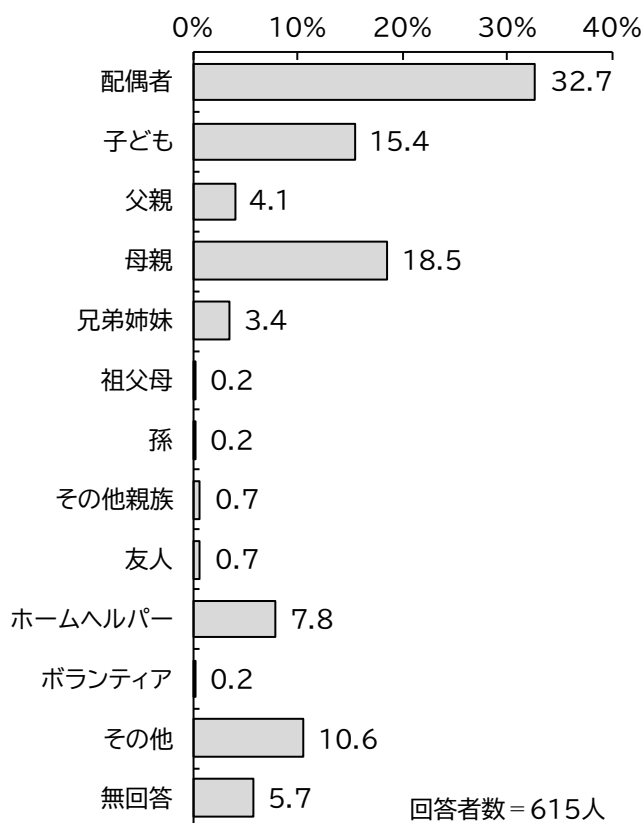
日常生活で受けている介助や支援について聞いたところ、「調理・掃除・洗濯等の家事」34.0%が最も高く、3割半ばとなっている。次いで、「市役所や事業者等の手続き」29.9%、「買い物等の外出」28.4%、「お金の管理」23.5%、「薬の管理」20.7%と続いている。

一方、「介助や支援は必要ない」は41.0%で、約4割となっている。

(2) 主な介助・支援者

◆問6で「1～9」の介助や支援を受けていると答えた方におたずねします。
問7 あなた(ご本人)を主に介助・支援している人はどなたですか。(1つに○)

図表 3-2-1 主な介助・支援者



日常生活で介助や支援を受けている方に、主な介助・支援者について聞いたところ、「配偶者」32.7%が最も高く、3割以上となっている。次いで、「母親」18.5%、「子ども」15.4%と続いている。

図表 3-2-2 主な介助・支援者〔年齢別・障害種別〕

		回答者数 (人)	配偶者	子ども	父親	母親	兄弟姉妹	祖父母	孫
全体		615	32.7%	15.4%	4.1%	18.5%	3.4%	0.2%	0.2%
年齢別	18～39歳	118	3.4%	0.8%	10.2%	61.0%	0.0%	0.8%	0.0%
	40～64歳	171	26.9%	1.8%	7.0%	24.0%	4.7%	0.0%	0.0%
	65～74歳	87	51.7%	10.3%	0.0%	1.1%	6.9%	0.0%	0.0%
	75歳以上	228	44.3%	34.6%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	0.4%
障害種別	身体障害者手帳所持者	343	40.5%	23.6%	1.2%	9.3%	2.9%	0.0%	0.3%
	愛の手帳所持者	121	0.8%	1.7%	9.1%	49.6%	4.1%	0.0%	0.0%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	131	18.3%	3.8%	6.1%	31.3%	4.6%	0.8%	0.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	15	26.7%	0.0%	6.7%	26.7%	6.7%	0.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	48	4.2%	2.1%	8.3%	47.9%	2.1%	0.0%	0.0%
	高次脳機能障害の診断あり	19	52.6%	0.0%	10.5%	15.8%	5.3%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	95	63.2%	11.6%	0.0%	10.5%	1.1%	0.0%	0.0%
	日常的に医療的ケアが必要	33	30.3%	24.2%	0.0%	6.1%	3.0%	0.0%	0.0%

		回答者数 (人)	その他親族	友人	ホームヘルパー	ボランティア	その他	無回答
全体		615	0.7%	0.7%	7.8%	0.2%	10.6%	5.7%
年齢別	18～39歳	118	0.8%	0.8%	3.4%	0.0%	11.0%	7.6%
	40～64歳	171	0.0%	1.8%	11.1%	0.0%	17.0%	5.8%
	65～74歳	87	0.0%	0.0%	13.8%	0.0%	10.3%	5.7%
	75歳以上	228	1.3%	0.0%	5.7%	0.4%	5.3%	4.8%
障害種別	身体障害者手帳所持者	343	0.6%	0.6%	8.2%	0.3%	6.4%	6.1%
	愛の手帳所持者	121	0.0%	0.8%	3.3%	0.0%	22.3%	8.3%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	131	0.8%	2.3%	13.7%	0.0%	13.0%	5.3%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	15	0.0%	6.7%	6.7%	0.0%	13.3%	6.7%
	発達障害の診断あり	48	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	22.9%	8.3%
	高次脳機能障害の診断あり	19	0.0%	0.0%	10.5%	0.0%	5.3%	0.0%
	難病の診断あり	95	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	7.4%	1.1%
	日常的に医療的ケアが必要	33	3.0%	0.0%	9.1%	0.0%	21.2%	3.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、18～39歳では、「母親」が61.0%で約6割となっている。「父親」「母親」は年齢が高くなるほど割合が低くなり、40歳以上では、「配偶者」の割合が高くなっている。

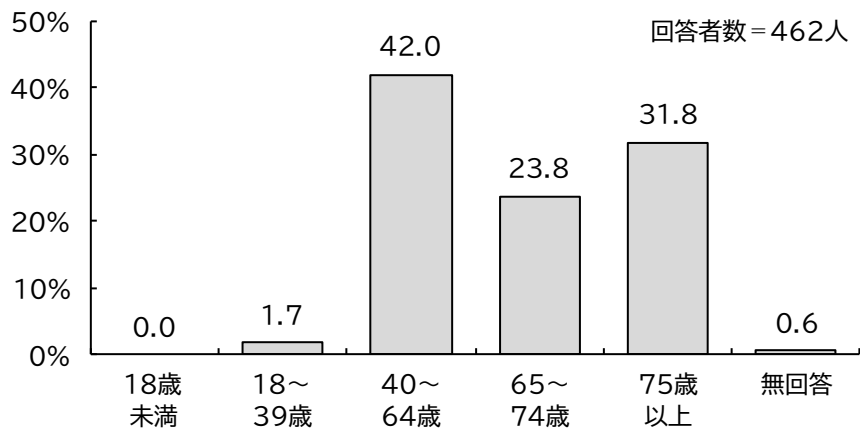
障害種別でみると、身体障害者手帳所持者、高次脳機能障害の診断ありの方、難病の診断ありの方、日常的に医療的ケアが必要な方では「配偶者」の割合が高く、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、発達障害の診断ありの方では、「母親」の割合が高くなっている。

(3) 主な介助・支援者の年齢

◆問7で「1～8」の家族や親族と答えた方におたずねします。

問8 あなた(ご本人)を主に介助・支援している人は何歳ですか。(1つに○)

図表 3-3-1 主な介助・支援者の年齢



主な介助・支援者の年齢について聞いたところ、「40～64歳」42.0%が最も高く4割以上となっている。次いで、「75歳以上」31.8%、「65～74歳」23.8%で、合わせて65歳以上が55.6%で、5割半ばとなっている。

「18～39歳」は1.7%、「18歳未満」は0.0%である。

図表 3-3-2 主な介助・支援者の年齢〔年齢別・障害種別〕

		回答者数 (人)	18 歳未 満	18 ～ 39 歳	40 ～ 64 歳	65 ～ 74 歳	75 歳 以上	無 回 答
全 体		462	0.0%	1.7%	42.0%	23.8%	31.8%	0.6%
年 齢 別	18～39 歳	91	0.0%	2.2%	68.1%	24.2%	5.5%	0.0%
	40～64 歳	110	0.0%	1.8%	43.6%	22.7%	31.8%	0.0%
	65～74 歳	61	0.0%	6.6%	18.0%	50.8%	23.0%	1.6%
	75 歳以上	191	0.0%	0.0%	36.1%	14.1%	48.7%	1.0%
障 害 種 別	身体障害者手帳所持者	269	0.0%	1.9%	42.4%	20.4%	34.6%	0.7%
	愛の手帳所持者	79	0.0%	0.0%	54.4%	30.4%	15.2%	0.0%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	86	0.0%	1.2%	44.2%	27.9%	26.7%	0.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	10	0.0%	0.0%	20.0%	30.0%	50.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	31	0.0%	0.0%	64.5%	25.8%	9.7%	0.0%
	高次脳機能障害の診断あり	16	0.0%	0.0%	43.8%	18.8%	31.3%	6.3%
	難病の診断あり	82	0.0%	2.4%	30.5%	23.2%	43.9%	0.0%
日常的に医療的ケアが必要	22	0.0%	4.5%	40.9%	18.2%	36.4%	0.0%	

※網掛けは、上位1位の選択肢

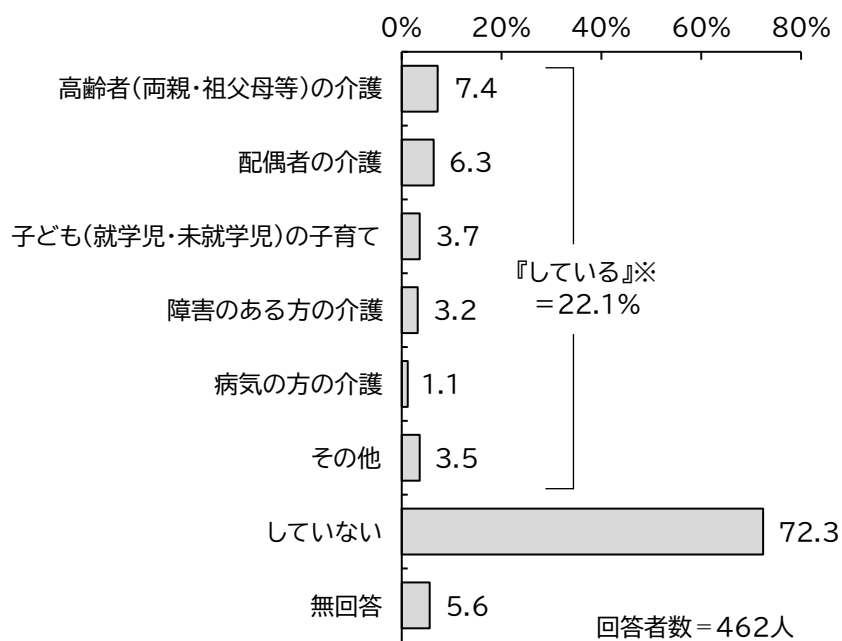
年齢別にみると、18歳～64歳では「40～64歳」の割合が高く、年齢が高くなるほど主な介助・支援者の年齢も高くなっている。75歳以上では、「40～64歳」が36.1%と4割近くとなっている。

障害種別でみると、手帳未所持で精神疾患の診断ありの方と難病の診断ありの方では「75歳以上」の割合が高く、それ以外は「40～64歳」の割合が高くなっている。

(4) 主な介助・支援者のご本人以外の世話や介護の有無

問9 あなた(ご本人)を主に介助・支援している人は、あなた(ご本人)以外の方の世話や介護をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 3-4-1 主な介助・支援者のご本人以外の世話や介護の有無



※『している』 = 100% - 「していない」 - 「無回答」

主な介助・支援者のご本人以外の世話や介護の有無について聞いたところ、「高齢者(両親・祖父母等)の介護」7.4%が最も高く、次いで、「配偶者の介護」6.3%と続いている。一方、「していない」は72.3%で、7割以上となっている。

図表 3-4-2 主な介助・支援者のご本人以外の世話や介護の有無〔年齢別・障害種別〕

		回答者数(人)	高齢者(両親・祖父母等)の介護	配偶者の介護	子ども(就学児・未就学児)の子育て	障害のある方の介護	病気の方の介護	その他	していない	無回答
全体		462	7.4%	6.3%	3.7%	3.2%	1.1%	3.5%	72.3%	5.6%
年齢別	18～39歳	91	12.1%	3.3%	7.7%	7.7%	2.2%	7.7%	62.6%	2.2%
	40～64歳	110	10.0%	7.3%	5.5%	2.7%	1.8%	2.7%	70.0%	3.6%
	65～74歳	61	3.3%	4.9%	0.0%	3.3%	0.0%	4.9%	80.3%	4.9%
	75歳以上	191	5.2%	7.3%	1.6%	1.6%	0.5%	1.6%	75.4%	8.9%
障害種別	身体障害者手帳所持者	269	7.8%	6.3%	3.0%	1.9%	0.7%	3.0%	72.1%	7.1%
	愛の手帳所持者	79	10.1%	3.8%	1.3%	6.3%	0.0%	6.3%	72.2%	2.5%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	86	8.1%	9.3%	7.0%	7.0%	3.5%	4.7%	61.6%	4.7%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	10	10.0%	10.0%	10.0%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%	30.0%
	発達障害の診断あり	31	12.9%	3.2%	9.7%	16.1%	3.2%	3.2%	58.1%	3.2%
	高次脳機能障害の診断あり	16	12.5%	0.0%	0.0%	6.3%	6.3%	0.0%	62.5%	18.8%
	難病の診断あり	82	6.1%	7.3%	2.4%	1.2%	1.2%	4.9%	74.4%	4.9%
	日常的に医療的ケアが必要	22	4.5%	4.5%	4.5%	0.0%	0.0%	4.5%	77.3%	9.1%

※網掛けは、「その他」「していない」以外で、上位1位の選択肢

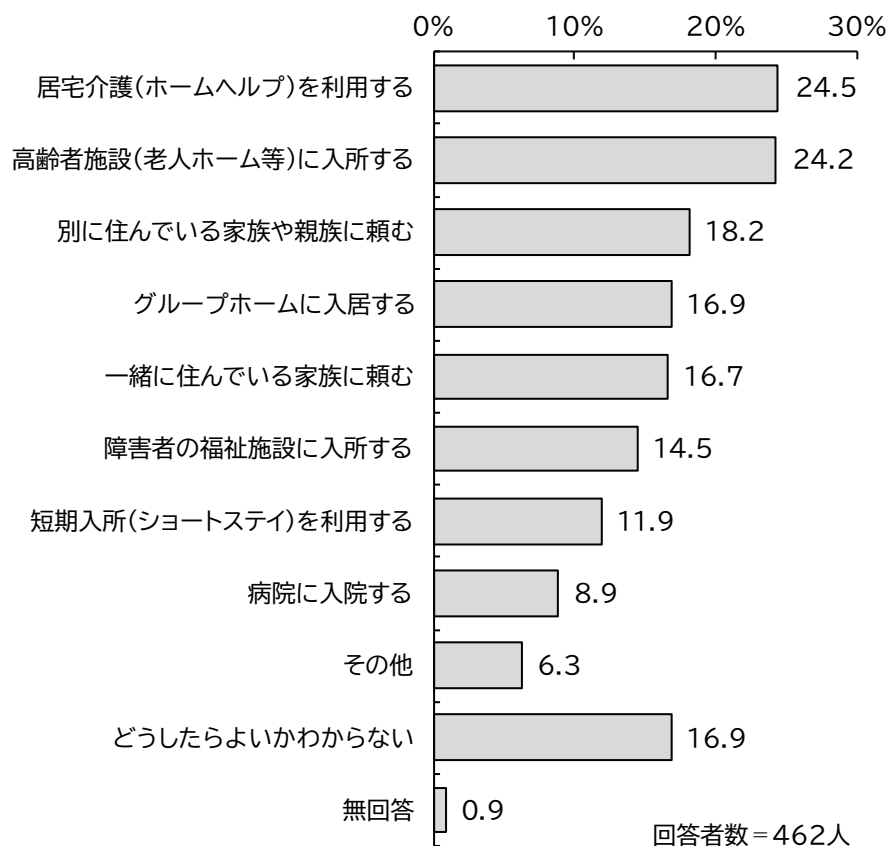
年齢別にみると、18～64歳では「高齢者(両親・祖父母等)の介護」、65歳以上では「配偶者の介護」の割合が高くなっている。

障害種別でみると、手帳未所持で精神疾患の診断ありの方と発達障害の診断ありの方は、「障害のある方の介護」の割合が高くなっている。

(5) 主な介助・支援者が介助・支援ができなくなった場合

問10 あなた（ご本人）を主に介助・支援している人が、あなた（ご本人）を介助・支援できなくなった場合は、どうしたいですか。（主なもの3つまで○）

図表 3-5-1 主な介助・支援者が介助・支援ができなくなった場合



主な介助・支援者が介助・支援ができなくなった場合について聞いたところ、「居宅介護（ホームヘルプ）を利用する」24.5%、「高齢者施設（老人ホーム等）に入所する」24.2%が2割台となっている。次いで、「別に住んでいる家族や親族に頼む」18.2%、「グループホームに入居する」16.9%、「一緒に住んでいる家族に頼む」16.7%、「障害者の福祉施設に入所する」14.5%、「短期入所（ショートステイ）を利用する」11.9%、「病院に入院する」8.9%の順になっている。

一方、「どうしたらよいかわからない」は16.9%で、2割近くになっている。

図表 3-5-2 主な介助・支援者が介助・支援ができなくなった場合〔障害種別〕

		回答者数 (人)	居宅介護 (ホームヘルプ) を利用する	高齢者施設 (老人ホーム等) に入所する	別に住んで いる家族や 親族に頼む	グループホーム に入居する	一緒に住んで いる家族に 頼む	障害者の 福祉施設 に入所する
全体		462	24.5%	24.2%	18.2%	16.9%	16.7%	14.5%
障害種別	身体障害者手帳所持者	269	30.9%	31.6%	22.3%	6.7%	14.9%	14.5%
	愛の手帳所持者	79	11.4%	2.5%	11.4%	58.2%	19.0%	26.6%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	86	11.6%	4.7%	19.8%	11.6%	23.3%	9.3%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	10	30.0%	30.0%	10.0%	10.0%	10.0%	30.0%
	発達障害の診断あり	31	12.9%	3.2%	19.4%	22.6%	12.9%	16.1%
	高次脳機能障害の診断あり	16	31.3%	25.0%	31.3%	0.0%	6.3%	6.3%
	難病の診断あり	82	39.0%	26.8%	18.3%	8.5%	11.0%	9.8%
	日常的に医療的ケアが必要	22	22.7%	22.7%	9.1%	4.5%	4.5%	9.1%

		回答者数 (人)	短期入所 (ショートステイ) を利用する	病院に 入院する	その他	どうしたら よいか わからない	無回答
全体		462	11.9%	8.9%	6.3%	16.9%	0.9%
障害種別	身体障害者手帳所持者	269	11.5%	11.2%	4.5%	15.6%	0.4%
	愛の手帳所持者	79	15.2%	1.3%	3.8%	10.1%	0.0%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	86	5.8%	5.8%	16.3%	30.2%	1.2%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	10	30.0%	0.0%	0.0%	30.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	31	12.9%	3.2%	16.1%	22.6%	0.0%
	高次脳機能障害の診断あり	16	25.0%	6.3%	0.0%	37.5%	0.0%
	難病の診断あり	82	19.5%	8.5%	4.9%	13.4%	1.2%
	日常的に医療的ケアが必要	22	18.2%	13.6%	13.6%	22.7%	4.5%

※網掛けは、上位1位の選択肢

障害種別でみると、愛の手帳所持者と発達障害の診断ありの方は「グループホームに入居する」、手帳未所持で精神疾患の診断ありの方、難病の診断ありの方、日常的に医療的ケアが必要な方は「居宅介護（ホームヘルプ）を利用する」、身体障害者手帳所持者、手帳未所持で精神疾患の診断ありの方の方、日常的に医療的ケアが必要な方は「高齢者施設（老人ホーム等）に入所する」の割合が高くなっている。

手帳未所持で精神疾患の診断ありの方では、「居宅介護（ホームヘルプ）を利用する」「高齢者施設（老人ホーム等）に入所する」「どうしたらよいかわからない」がともに30.0%で同率1位となっている。日常的に医療的ケアが必要な方では「居宅介護（ホームヘルプ）を利用する」「高齢者施設（老人ホーム等）に入所する」「どうしたらよいかわからない」がともに30.0%で同率1位となっている。

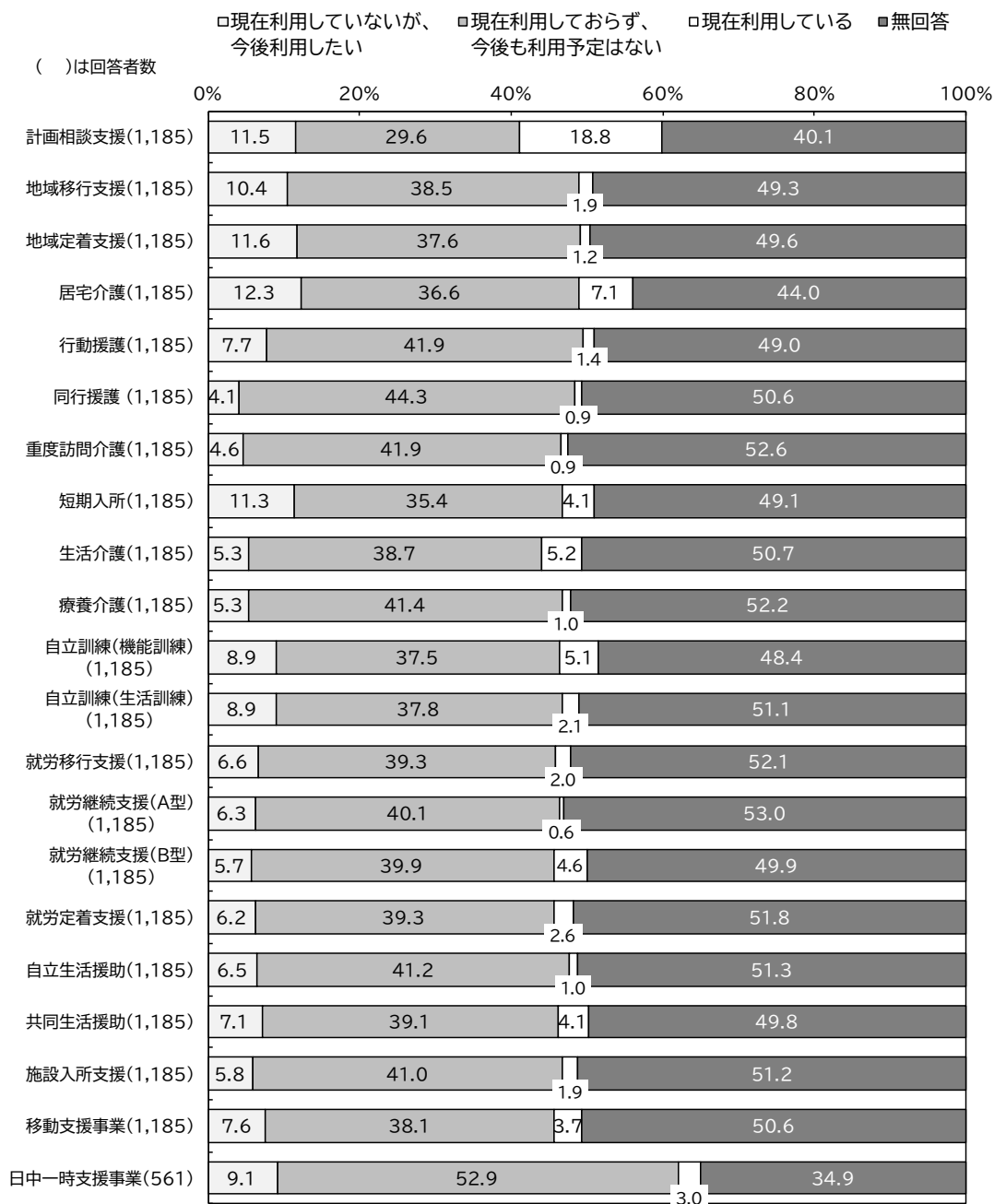
一方、精神障害者保健福祉手帳所持者、高次脳機能障害の診断ありの方は「どうしたらよいかわからない」の割合が高くなっている。

4. 福祉サービスについて

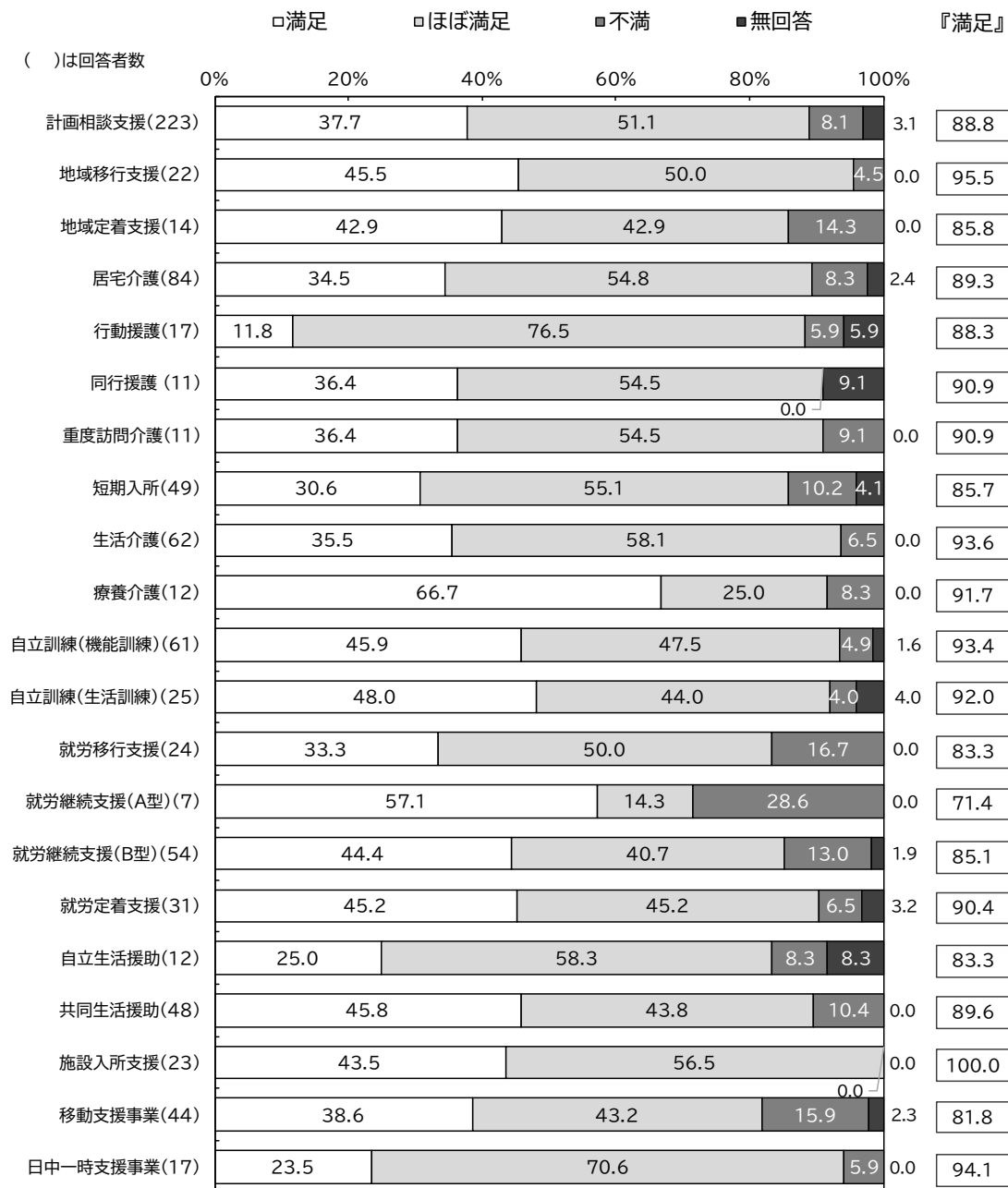
(1) 福祉サービスの利用状況・利用意向と満足度

問 11 あなた（ご本人）のサービスの利用状況と利用意向についておたずねします。
 また、現在利用しているサービスについて、満足度をおたずねします。サービスごとに、あてはまるものに○をしてください。
 A サービスごとに利用状況・利用意向を選んでください。（1つに○）
 B Aで「3 現在利用している」を選んだ方は、サービスの満足度を選んでください。（1つに○）

図表 4-1-1 福祉サービスの利用状況・利用意向



図表 4-1-2 福祉サービスの満足度



福祉サービスの利用状況・利用意向について聞いたところ、「現在利用している」と回答した割合が最も高い項目は、計画相談支援 18.8%である。次いで、居宅介護 7.1%、生活介護 5.2%、自立訓練（機能訓練） 5.1%と続いている。また、「現在利用していないが今後利用したい」と回答した割合が最も高い項目は、居宅介護 12.3%である。次いで、地域定着支援 11.6%、計画相談支援 11.5%、短期入所 11.3%と続いている。

福祉サービスの満足度について聞いたところ、「満足」と「ほぼ満足」を合わせた肯定的な回答『満足』の割合が最も高い項目は、施設入所支援 100.0%である。次いで、地域移行支援 95.5%、日中一時支援事業 94.1%、生活介護 93.6%、自立訓練（機能訓練） 93.4%と続いている。一方、「不満である」と回答した割合が最も高い項目は就労継続支援（A型） 28.6%である。次いで、就労移行支援 16.7%、移動支援事業 15.9%、地域定着支援 14.3%、就労継続支援（B型） 13.0%、共同生活援助 10.4%、短期入所 10.2%と続いている。

第2章 調査結果(一般)

①計画相談支援

図表 4-1-① 計画相談支援の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数(人)	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用しておらず、今後も利用予定はない	現在利用している	無回答						
		回答者数(人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」					
全体		1,185	11.5%	29.6%	18.8%	40.1%	223	37.7%	51.1%	8.1%	3.1%	88.8%
年齢別	18~39歳	192	12.0%	32.8%	42.2%	13.0%	81	28.4%	55.6%	13.6%	2.5%	84.0%
	40~64歳	369	12.2%	39.3%	20.6%	27.9%	76	44.7%	44.7%	7.9%	2.6%	89.4%
	65~74歳	201	11.9%	30.3%	9.0%	48.8%	18	50.0%	44.4%	5.6%	0.0%	94.4%
	75歳以上	407	10.6%	19.7%	11.1%	58.7%	45	35.6%	57.8%	0.0%	6.7%	93.4%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、18~64歳で「現在利用している」割合が全体を上回っている。18~39歳では42.2%で、4割以上となっている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、すべての年齢で1割台となっている。

満足度については、「満足」と「ほぼ満足」を合わせた肯定的な回答『満足』の割合が最も高いのは、65~74歳で94.4%となっている。

②地域移行支援

図表 4-1-② 地域移行支援の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数(人)	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用しておらず、今後も利用予定はない	現在利用している	無回答						
		回答者数(人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」					
全体		1,185	10.4%	38.5%	1.9%	49.3%	22	45.5%	50.0%	4.5%	0.0%	95.5%
年齢別	18~39歳	192	13.5%	54.7%	4.2%	27.6%	8	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	40~64歳	369	11.4%	50.1%	1.4%	37.1%	5	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	65~74歳	201	11.4%	33.8%	0.5%	54.2%	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	75歳以上	407	7.4%	23.3%	2.0%	67.3%	8	50.0%	37.5%	12.5%	0.0%	87.5%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、18~39歳と75歳以上で「現在利用している」割合が全体を上回っている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、18~74歳で1割台となっている。

③地域定着支援

図表 4-1-③ 地域定着支援の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数(人)	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用しておらず、今後利用予定はない	現在利用している	無回答	回答者数(人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」
全体		1,185	11.6%	37.6%	1.2%	49.6%	14	42.9%	42.9%	14.3%	0.0%	85.8%
年齢別	18~39歳	192	14.6%	55.2%	1.0%	29.2%	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	40~64歳	369	13.8%	47.7%	0.8%	37.7%	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	65~74歳	201	10.0%	33.3%	1.0%	55.7%	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%
	75歳以上	407	9.6%	22.4%	1.7%	66.3%	7	42.9%	42.9%	14.3%	0.0%	85.8%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、75歳以上で「現在利用している」割合が全体を上回っている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、18歳~74歳で1割台となっている。

④居宅介護

図表 4-1-④ 居宅介護の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数(人)	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用しておらず、今後利用予定はない	現在利用している	無回答	回答者数(人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」
全体		1,185	12.3%	36.6%	7.1%	44.0%	84	34.5%	54.8%	8.3%	2.4%	89.3%
年齢別	18~39歳	192	7.8%	58.9%	4.2%	29.2%	8	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	75.0%
	40~64歳	369	12.7%	48.2%	4.6%	34.4%	17	47.1%	41.2%	11.8%	0.0%	88.3%
	65~74歳	201	10.9%	32.3%	6.5%	50.2%	13	30.8%	46.2%	15.4%	7.7%	77.0%
	75歳以上	407	14.7%	18.7%	11.1%	55.5%	45	26.7%	68.9%	2.2%	2.2%	95.6%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、75歳以上で「現在利用している」割合が全体を上回っている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、40歳以上で1割台となっている。

満足度については、「満足」と「ほぼ満足」を合わせた肯定的な回答『満足』の割合が最も高いのは、75歳以上で95.6%となっている。

第2章 調査結果(一般)

⑤行動援護

図表 4-1-⑤ 行動援護の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数(人)	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用しておらず、今後利用予定はない	現在利用している	無回答						
							回答者数(人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」
全体		1,185	7.7%	41.9%	1.4%	49.0%	17	11.8%	76.5%	5.9%	5.9%	88.3%
年齢別	18~39歳	192	16.7%	54.2%	4.7%	24.5%	9	11.1%	77.8%	11.1%	0.0%	88.9%
	40~64歳	369	7.9%	55.6%	0.5%	36.0%	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	65~74歳	201	4.5%	37.8%	0.5%	57.2%	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	75歳以上	407	5.2%	26.0%	1.2%	67.6%	5	0.0%	80.0%	0.0%	20.0%	80.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、18~39歳で「現在利用している」割合が全体を上回っている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、18~39歳で1割台となっている。

⑥同行援護

図表 4-1-⑥ 同行援護の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数(人)	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用しておらず、今後利用予定はない	現在利用している	無回答						
							回答者数(人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」
全体		1,185	4.1%	44.3%	0.9%	50.6%	11	36.4%	54.5%	0.0%	9.1%	90.9%
年齢別	18~39歳	192	1.6%	68.2%	0.5%	29.7%	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	40~64歳	369	3.8%	56.9%	0.5%	38.8%	2	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%
	65~74歳	201	3.5%	38.8%	0.5%	57.2%	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	75歳以上	407	5.7%	25.3%	1.7%	67.3%	7	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	100.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、75歳以上で「現在利用している」割合が全体を上回っている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、すべての年齢で1割未満となっている。

⑦重度訪問介護

図表 4-1-⑦ 重度訪問介護の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数(人)	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用しておらず、今後も利用予定はない	現在利用している	無回答	回答者数(人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」
全体		1,185	4.6%	41.9%	0.9%	52.6%	11	36.4%	54.5%	9.1%	0.0%	90.9%
年齢別	18~39歳	192	3.6%	64.6%	1.0%	30.7%	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	40~64歳	369	3.8%	54.7%	0.5%	40.9%	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	65~74歳	201	3.5%	36.8%	1.5%	58.2%	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	66.7%
	75歳以上	407	6.1%	22.9%	1.0%	70.0%	4	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、40~64歳を除くすべての年齢で「現在利用している」割合が全体を上回っている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、すべての年齢で1割未満となっている。

⑧短期入所

図表 4-1-⑧ 短期入所の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数(人)	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用しておらず、今後も利用予定はない	現在利用している	無回答	回答者数(人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」
全体		1,185	11.3%	35.4%	4.1%	49.1%	49	30.6%	55.1%	10.2%	4.1%	85.7%
年齢別	18~39歳	192	12.5%	48.4%	13.5%	25.5%	26	38.5%	42.3%	15.4%	3.8%	80.8%
	40~64歳	369	8.1%	50.9%	2.4%	38.5%	9	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	65~74歳	201	7.5%	32.8%	0.5%	59.2%	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	75歳以上	407	15.7%	17.0%	3.2%	64.1%	13	15.4%	69.2%	7.7%	7.7%	84.6%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、18~39歳で「現在利用している」割合が全体を上回っている。その割合は13.5%で、1割以上となっている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、18~39歳と75歳以上で1割台となっている。

第2章 調査結果(一般)

⑨生活介護

図表 4-1-⑨ 生活介護の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数(人)	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用しておらず、今後利用予定はない	現在利用している	無回答						
		回答者数(人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」＋「ほぼ満足」					
全体		1,185	5.3%	38.7%	5.2%	50.7%	62	35.5%	58.1%	6.5%	0.0%	93.6%
年齢別	18～39歳	192	2.1%	57.3%	13.0%	27.6%	25	36.0%	52.0%	12.0%	0.0%	88.0%
	40～64歳	369	3.8%	51.8%	4.9%	39.6%	18	33.3%	61.1%	5.6%	0.0%	94.4%
	65～74歳	201	6.0%	36.3%	1.0%	56.7%	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	75歳以上	407	7.9%	19.9%	4.2%	68.1%	17	35.3%	64.7%	0.0%	0.0%	100.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、18～39歳で「現在利用している」割合が全体を上回っている。その割合は13.0%で、1割以上となっている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、すべての年齢で1割未満となっている。

⑩療養介護

図表 4-1-⑩ 療養介護の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数(人)	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用しておらず、今後利用予定はない	現在利用している	無回答						
		回答者数(人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」＋「ほぼ満足」					
全体		1,185	5.3%	41.4%	1.0%	52.2%	12	66.7%	25.0%	8.3%	0.0%	91.7%
年齢別	18～39歳	192	3.1%	66.7%	0.0%	30.2%	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40～64歳	369	4.1%	54.5%	0.3%	41.2%	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	65～74歳	201	5.0%	35.3%	1.5%	58.2%	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	75歳以上	407	7.4%	21.6%	2.0%	69.0%	8	50.0%	37.5%	12.5%	0.0%	87.5%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、65歳以上で「現在利用している」割合が全体を上回っている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、すべての年齢で1割未満となっている。

⑪ 自立訓練（機能訓練）

図表 4-1-⑪ 自立訓練(機能訓練)の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数 (人)	現在利用していない が、今後利用したい	現在利用して おらず、 今後利用予定はない	現在利用している	無回答	回答者数 (人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」
全体		1,185	8.9%	37.5%	5.1%	48.4%	61	45.9%	47.5%	4.9%	1.6%	93.4%
年齢別	18～39歳	192	4.2%	65.1%	1.0%	29.7%	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	40～64歳	369	8.9%	49.6%	2.2%	39.3%	8	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	65～74歳	201	11.9%	31.3%	2.5%	54.2%	5	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	80.0%
	75歳以上	407	10.1%	16.7%	10.8%	62.4%	44	40.9%	52.3%	4.5%	2.3%	93.2%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、75歳以上で「現在利用している」割合が全体を上回っている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、65歳以上で1割台となっている。

⑫ 自立訓練（生活訓練）

図表 4-1-⑫ 自立訓練(生活訓練)の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数 (人)	現在利用していない が、今後利用したい	現在利用して おらず、 今後利用予定はない	現在利用している	無回答	回答者数 (人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」
全体		1,185	8.9%	37.8%	2.1%	51.1%	25	48.0%	44.0%	4.0%	4.0%	92.0%
年齢別	18～39歳	192	12.0%	56.8%	1.6%	29.7%	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	40～64歳	369	10.8%	48.2%	1.9%	39.0%	7	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	100.0%
	65～74歳	201	6.0%	34.3%	1.0%	58.7%	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	75歳以上	407	7.6%	21.4%	3.2%	67.8%	13	53.8%	30.8%	7.7%	7.7%	84.6%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、75歳以上で「現在利用している」割合が全体を上回っている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、18～64歳で1割台となっている。

第2章 調査結果(一般)

⑬就労移行支援

図表 4-1-⑬ 就労移行支援の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数(人)	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用しておらず、今後も利用予定はない	現在利用している	無回答	回答者数(人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」
全体		1,185	6.6%	39.3%	2.0%	52.1%	24	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%	83.3%
年齢別	18~39歳	192	13.5%	52.1%	6.8%	27.6%	13	46.2%	46.2%	7.7%	0.0%	92.4%
	40~64歳	369	11.4%	46.6%	3.0%	39.0%	11	18.2%	54.5%	27.3%	0.0%	72.7%
	65~74歳	201	3.5%	37.3%	0.0%	59.2%	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	75歳以上	407	0.7%	28.0%	0.0%	71.3%	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、18~64歳で「現在利用している」割合が全体を上回っている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、18~64歳で1割台となっている。

満足度については、「満足」と「ほぼ満足」を合わせた肯定的な回答『満足』の割合が最も高いのは、18~39歳で92.4%となっている。

⑭就労継続支援(A型)

図表 4-1-⑭ 就労継続支援(A型)の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数(人)	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用しておらず、今後も利用予定はない	現在利用している	無回答	回答者数(人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」
全体		1,185	6.3%	40.1%	0.6%	53.0%	7	57.1%	14.3%	28.6%	0.0%	71.4%
年齢別	18~39歳	192	12.5%	57.8%	1.0%	28.6%	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	40~64歳	369	11.9%	46.3%	1.1%	40.7%	4	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	50.0%
	65~74歳	201	2.5%	37.3%	0.5%	59.7%	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	75歳以上	407	0.5%	27.8%	0.0%	71.7%	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、18~64歳で「現在利用している」割合が全体を上回っている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、18~64歳で1割台となっている。

⑮就労継続支援 (B型)

図表 4-1-⑮ 就労継続支援(B型)の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数(人)	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用しておらず、今後も利用予定はない	現在利用している	無回答	回答者数(人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」
全体		1,185	5.7%	39.9%	4.6%	49.9%	54	44.4%	40.7%	13.0%	1.9%	85.1%
年齢別	18~39歳	192	10.4%	55.2%	11.5%	22.9%	22	54.5%	36.4%	9.1%	0.0%	90.9%
	40~64歳	369	10.3%	46.6%	7.9%	35.2%	29	37.9%	41.4%	17.2%	3.4%	79.3%
	65~74歳	201	2.5%	37.3%	1.0%	59.2%	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	75歳以上	407	1.0%	28.5%	0.0%	70.5%	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、18~64歳で「現在利用している」割合が全体を上回っている。18~39歳では11.5%で、1割以上となっている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、18~64歳で1割台となっている。

満足度については、「満足」の割合が最も高いのは、18~39歳で54.5%となっている。

⑯就労定着支援

図表 4-1-⑯ 就労定着支援の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数(人)	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用しておらず、今後も利用予定はない	現在利用している	無回答	回答者数(人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」
全体		1,185	6.2%	39.3%	2.6%	51.8%	31	45.2%	45.2%	6.5%	3.2%	90.4%
年齢別	18~39歳	192	15.6%	45.8%	11.5%	27.1%	22	54.5%	36.4%	9.1%	0.0%	90.9%
	40~64歳	369	9.8%	49.6%	2.4%	38.2%	9	22.2%	66.7%	0.0%	11.1%	88.9%
	65~74歳	201	1.0%	38.3%	0.0%	60.7%	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	75歳以上	407	1.5%	28.0%	0.0%	70.5%	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、18~39歳で「現在利用している」割合が全体を上回っている。その割合は11.5%で、1割以上となっている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、18~39歳で1割台となっている。

満足度については、「満足」の割合が最も高いのは、18~39歳で54.5%となっている。

第2章 調査結果(一般)

⑰ 自立生活援助

図表 4-1-⑰ 自立生活援助の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数 (人)	現在利用していない が、今後利用したい	現在利用して おらず、 今後利用予定はない	現在利用している	無回答						
							回答者数 (人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」
全体		1,185	6.5%	41.2%	1.0%	51.3%	12	25.0%	58.3%	8.3%	8.3%	83.3%
年齢別	18~39歳	192	11.5%	57.8%	1.6%	29.2%	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	40~64歳	369	7.6%	52.3%	0.5%	39.6%	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%
	65~74歳	201	3.0%	37.3%	0.5%	59.2%	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	75歳以上	407	4.9%	26.0%	1.5%	67.6%	6	16.7%	66.7%	0.0%	16.7%	83.4%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、18~39歳と75歳以上で「現在利用している」割合が全体を上回っている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、18~39歳で1割台となっている。

⑱ 共同生活援助

図表 4-1-⑱ 共同生活援助の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数 (人)	現在利用していない が、今後利用したい	現在利用して おらず、 今後利用予定はない	現在利用している	無回答						
							回答者数 (人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」
全体		1,185	7.1%	39.1%	4.1%	49.8%	48	45.8%	43.8%	10.4%	0.0%	89.6%
年齢別	18~39歳	192	17.7%	46.4%	13.5%	22.4%	26	38.5%	46.2%	15.4%	0.0%	84.7%
	40~64歳	369	6.0%	51.8%	5.4%	36.9%	20	50.0%	45.0%	5.0%	0.0%	95.0%
	65~74歳	201	3.5%	37.8%	0.0%	58.7%	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	75歳以上	407	4.9%	25.6%	0.5%	69.0%	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、18~39歳で「現在利用している」割合が全体を上回っている。その割合は13.5%で、1割以上となっている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、18~39歳で2割近くとなっている。

満足度については、「満足」の割合が最も高いのは、40~64歳で50.0%となっている。

⑱施設入所支援

図表 4-1-⑱ 施設入所支援の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数(人)	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用しておらず、今後も利用予定はない	現在利用している	無回答	回答者数(人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」
全体		1,185	5.8%	41.0%	1.9%	51.2%	23	43.5%	56.5%	0.0%	0.0%	100.0%
年齢別	18~39歳	192	8.3%	62.5%	0.5%	28.6%	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	40~64歳	369	4.1%	53.9%	3.5%	38.5%	13	38.5%	61.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	65~74歳	201	2.5%	37.3%	0.5%	59.7%	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	75歳以上	407	7.6%	22.1%	2.0%	68.3%	8	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、40~64歳と75歳以上で「現在利用している」割合が全体を上回っている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、すべての年齢で1割未満となっている。

満足度については、「満足」と「ほぼ満足」を合わせた肯定的な回答『満足』の割合は、すべての年齢で100.0%となっている。

⑳移動支援事業

図表 4-1-⑳ 移動支援事業の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数(人)	現在利用していないが、今後利用したい	現在利用しておらず、今後も利用予定はない	現在利用している	無回答	回答者数(人)	満足	ほぼ満足	不満	無回答	「満足」+「ほぼ満足」
全体		1,185	7.6%	38.1%	3.7%	50.6%	44	38.6%	43.2%	15.9%	2.3%	81.8%
年齢別	18~39歳	192	12.0%	49.0%	14.6%	24.5%	28	28.6%	46.4%	21.4%	3.6%	75.0%
	40~64歳	369	6.0%	53.1%	2.4%	38.5%	9	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	65~74歳	201	6.5%	34.3%	0.0%	59.2%	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	75歳以上	407	7.4%	22.1%	1.7%	68.8%	7	57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	85.7%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、18~39歳で「現在利用している」割合が全体を上回っている。その割合は14.6%で、1割半ばとなっている。「現在利用していないが、今後利用したい」については、18~39歳で1割以上となっている。

第2章 調査結果(一般)

②1 日中一時支援事業

図表 4-1-②1 日中一時支援事業の利用状況・利用意向と満足度〔年齢別〕

		回答者数 (人)	現在利用して いないが、 今後利用 したい	現在利用して おらず、 今後も 利用予定 はない	現在利用 している	無 回 答	回答者数 (人)	満 足	ほ ぼ 満 足	不 満	無 回 答	「満足」 +「ほ ぼ満足」
全 体		561	9.1%	52.9%	3.0%	34.9%	17	23.5%	70.6%	5.9%	0.0%	94.1%
年 齢 別	18～39 歳	192	10.4%	53.6%	7.8%	28.1%	15	20.0%	73.3%	6.7%	0.0%	93.3%
	40～64 歳	369	8.4%	52.6%	0.5%	38.5%	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	65～74 歳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	75 歳以上	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

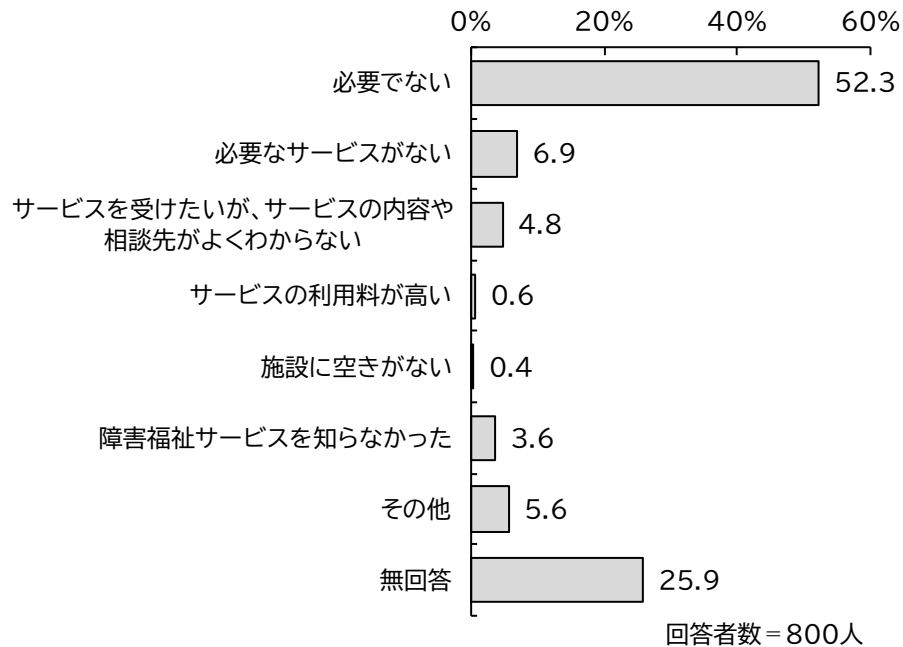
※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、18～39歳で「現在利用している」割合が全体を上回っている。「現在利用して
いないが、今後利用したい」については、18～39歳で1割台となっている。

(2) 障害福祉サービスを利用していない理由

◆問 11 Aで「3 現在利用している」に1つも○がない方におたずねします。
 問 12 あなた(ご本人)が障害福祉サービスを利用していない理由は何ですか。
 (1つに○)

図表 4-2-1 障害福祉サービスを利用していない理由

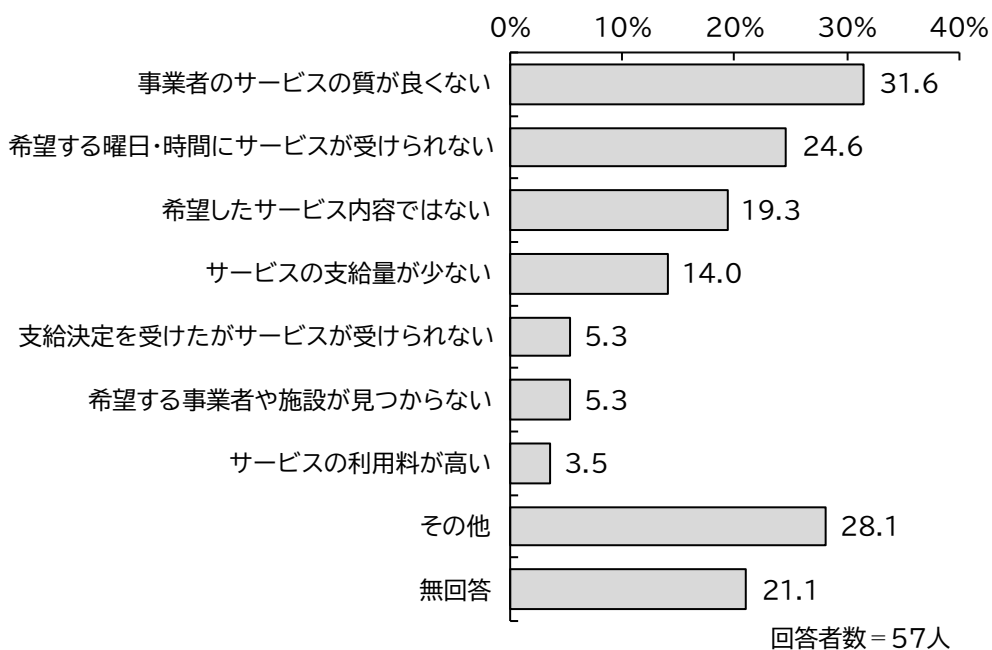


障害福祉サービスを利用していない理由について聞いたところ、「必要でない」52.3%が最も高く、5割以上となっている。次いで、「必要なサービスがない」6.9%、「サービスを受けたいが、サービスの内容や相談先がよくわからない」4.8%、「障害福祉サービスを知らなかった」3.6%、「サービスの利用料が高い」0.6%、「施設に空きがない」0.4%の順になっている。

(3) 障害福祉サービスに不満を感じている理由

◆問 11 Bで「3 不満」に○が1つ以上ある方におたずねします。
問 13 あなた(ご本人)が障害福祉サービスに不満を感じている理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

図表 4-3-1 障害福祉サービスに不満を感じている理由



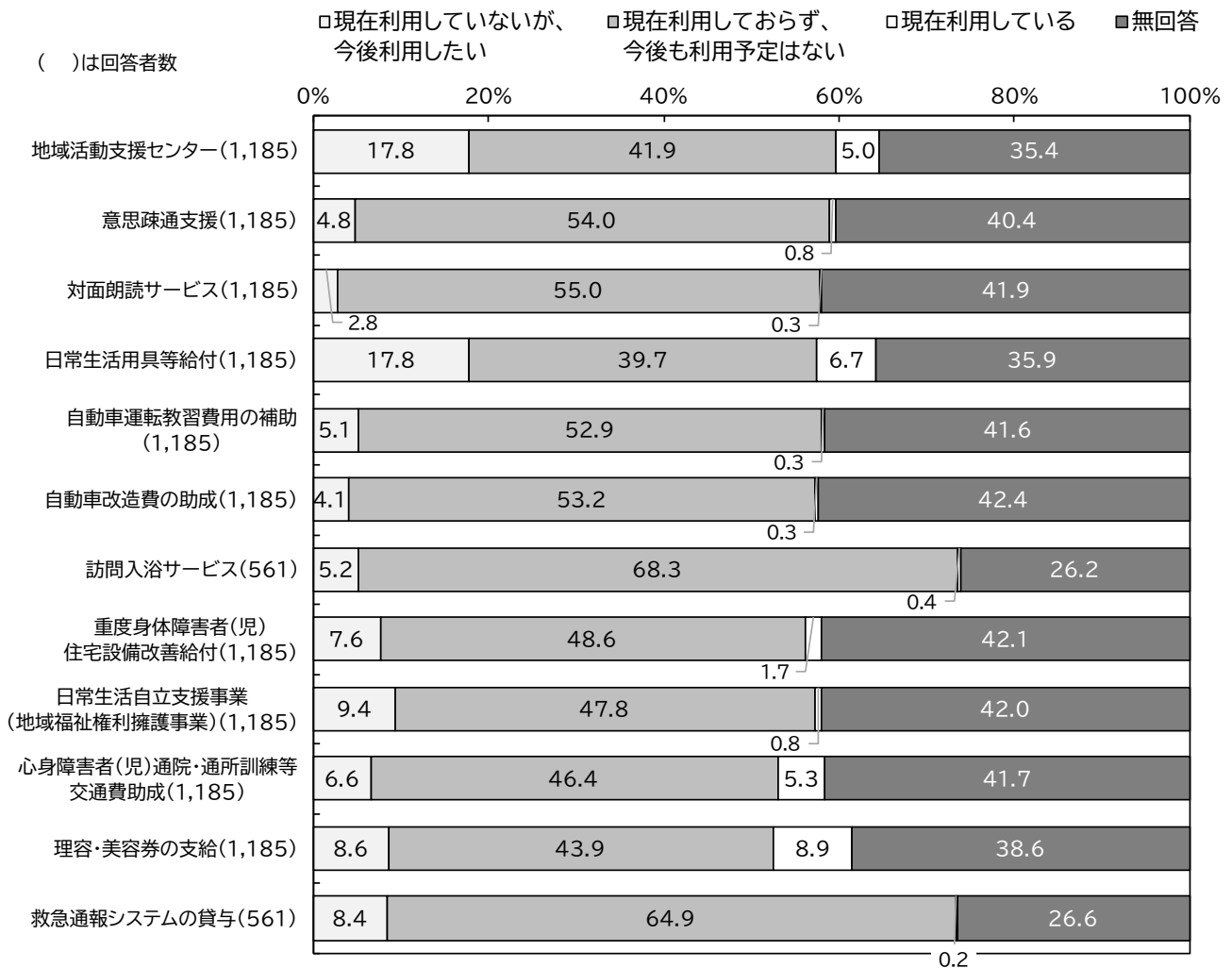
障害福祉サービスに不満を感じている理由について聞いたところ、「事業者のサービスの質が良くない」31.6%が最も高く、3割以上となっている。次いで、「希望する曜日・時間にサービスが受けられない」24.6%、「希望したサービス内容ではない」19.3%、「サービスの支給量が少ない」14.0%、「支給決定を受けたがサービスが受けられない」5.3%、「希望する事業者や施設が見つからない」5.3%、「サービスの利用料が高い」3.5%の順になっている。

5. その他のサービスについて

(1) その他のサービスの利用状況・利用意向

問 14 あなた（ご本人）は、次のようなサービスを利用していますか。また、現在はサービスを利用していないが、今後利用したいと思うサービスはありますか。サービスごとに、あてはまるもの1つに○をしてください。

図表 5-1-1 その他のサービスの利用状況・利用意向



その他のサービスの利用状況・利用意向について聞いたところ、「現在利用している」と回答した割合が最も高い項目は、「理容・美容券の支給」8.9%である。次いで、「日常生活用具等支給」6.7%、「心身障害者（児）通院・通所訓練等交通費助成」5.3%、「地域活動支援センター」5.0%と続いている。

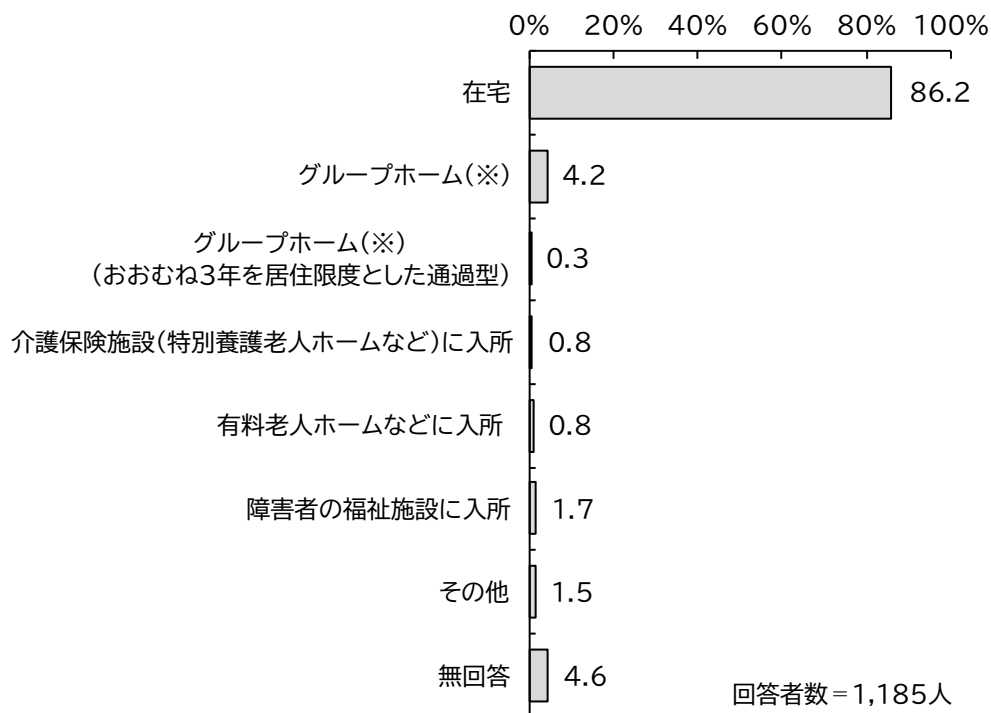
また、「現在利用していないが、今後利用したい」と回答した割合が最も高い項目は、「地域活動支援センター」「日常生活用具等給付」でともに17.8%である。次いで、「日常生活自立支援事業」9.4%、「理容・美容券の支給」8.6%、「救急通報システムの貸与」8.4%と続いている。

6. 住まいの場について

(1) 現在の住まい

問 15 あなた（ご本人）は今どこで暮らしていますか。（1つに○）

図表 6-1-1 現在の住まい



※グループホームとは、世話人による介護や支援、見守りがある少人数の共同生活の場のこと

現在の住まいについて聞いたところ、「在宅」86.2%が最も高く9割近くになっている。次いで、「グループホーム（グループホームとは、世話人による介護や支援、見守りがある少人数の共同生活の場）」4.2%、「障害者の福祉施設に入所」1.7%、「有料老人ホームなどに入所」「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入所」がともに0.8%、「グループホーム（おおむね3年を居住限度とした通過型）」0.3%の順になっている。

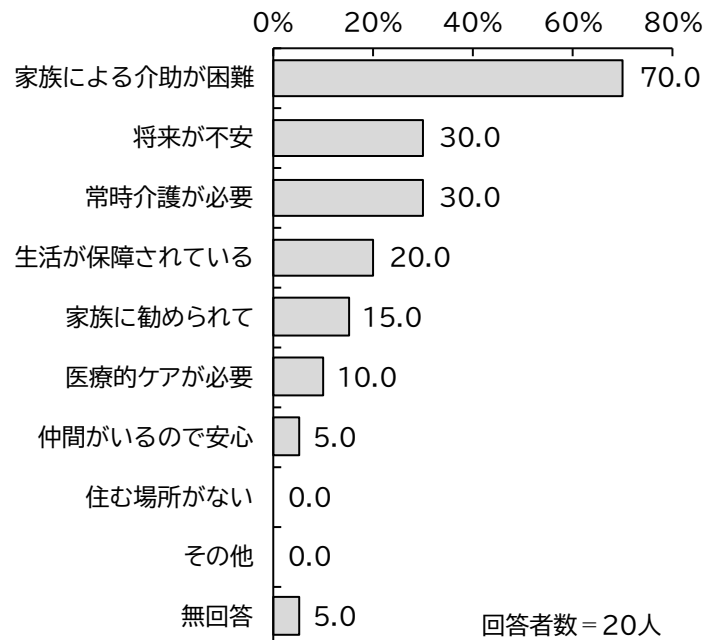
(2) 福祉施設入所の理由

◆問 15 で「6. 障害者の福祉施設に入所」と答えた方におたずねします。

問 16 あなた（ご本人）が施設入所を決めた理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

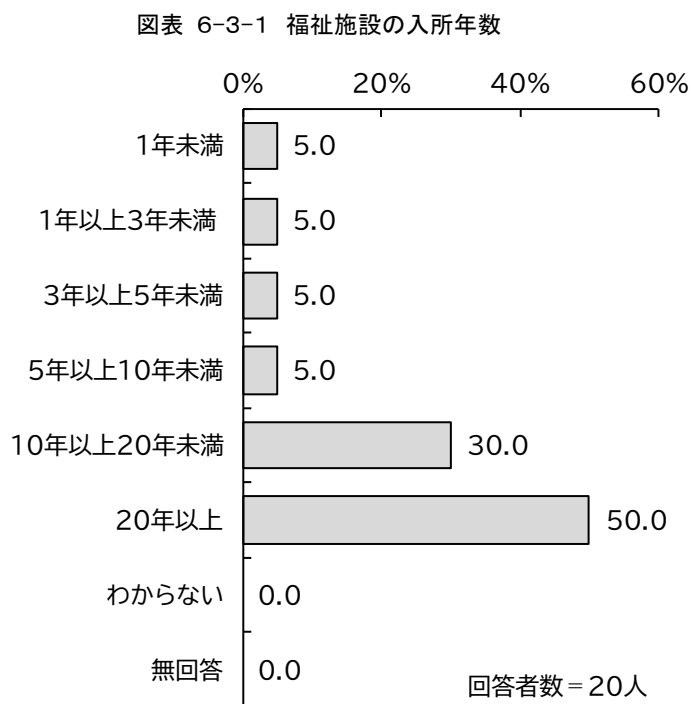
図表 6-2-1 福祉施設入所の理由



福祉施設入所の理由について聞いたところ、「家族による介助が困難」70.0%が最も高く、7割となっている。次いで、「将来が不安」30.0%、「常時介護が必要」30.0%、「生活が保障されている」20.0%、「家族に勧められて」15.0%、「医療的ケアが必要」10.0%、「仲間がいるので安心」5.0%の順になっている。

(3) 福祉施設の入所年数

問 17 あなた(ご本人)は、今の施設に入ってからどれくらい(何年)になりますか。
(1つに○)

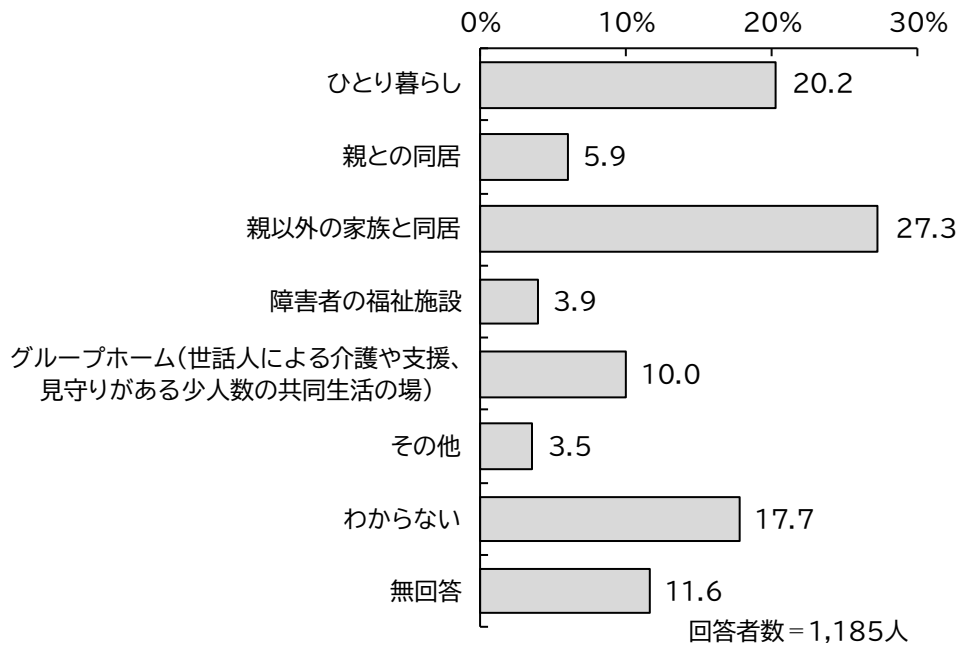


福祉施設の入所年数について聞いたところ、「20年以上」50.0%が最も高く、5割となっている。次いで、「10年以上20年未満」30.0%、それ以外は5.0%となっている。

(4) 将来希望する暮らし

問18 あなた(ご本人)は、今後(将来)どのような暮らしを希望していますか。
(1つに○)

図表 6-4-1 将来希望する暮らし



将来希望する暮らしについて聞いたところ、「親以外の家族と同居」27.3%が最も高く、次いで、「ひとり暮らし」20.2%、「グループホーム(世話人による介護や支援、見守りがある少人数で共同生活を行う場)」10.0%、「親との同居」5.9%、「障害者の福祉施設」3.9%の順になっている。一方、「わからない」と「無回答」を合わせると29.3%で、約3割となっている。

第2章 調査結果(一般)

図表 6-4-2 将来希望する暮らし〔年齢別・障害種別〕

		回答者数(人)	ひとり暮らし	親との同居	親以外の家族と同居	障害者の福祉施設	グループホーム	その他	わからない	無回答
全体		1,185	20.2%	5.9%	27.3%	3.9%	10.0%	3.5%	17.7%	11.6%
年齢別	18～39歳	192	24.5%	16.1%	16.7%	3.1%	27.1%	2.1%	6.8%	3.6%
	40～64歳	369	20.3%	8.4%	30.4%	4.6%	8.7%	2.4%	20.3%	4.9%
	65～74歳	201	26.9%	2.5%	26.4%	3.0%	3.5%	4.0%	16.9%	16.9%
	75歳以上	407	15.5%	0.5%	29.5%	3.9%	6.1%	4.7%	21.6%	18.2%
障害種別	身体障害者手帳所持者	688	19.8%	2.8%	30.1%	4.2%	6.1%	3.9%	19.5%	13.7%
	愛の手帳所持者	160	11.3%	13.1%	2.5%	11.9%	41.9%	2.5%	8.1%	8.8%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	232	33.6%	13.8%	18.1%	0.9%	7.3%	2.2%	15.1%	9.1%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	27	29.6%	11.1%	7.4%	3.7%	18.5%	0.0%	18.5%	11.1%
	発達障害の診断あり	69	31.9%	17.4%	11.6%	4.3%	24.6%	1.4%	4.3%	4.3%
	高次脳機能障害の診断あり	20	30.0%	5.0%	25.0%	5.0%	10.0%	5.0%	15.0%	5.0%
	難病の診断あり	228	15.4%	1.8%	41.2%	2.2%	3.5%	4.4%	18.9%	12.7%
	日常的に医療的ケアが必要	36	11.1%	5.6%	36.1%	5.6%	5.6%	11.1%	16.7%	8.3%

※網掛けは、上位1位の選択肢

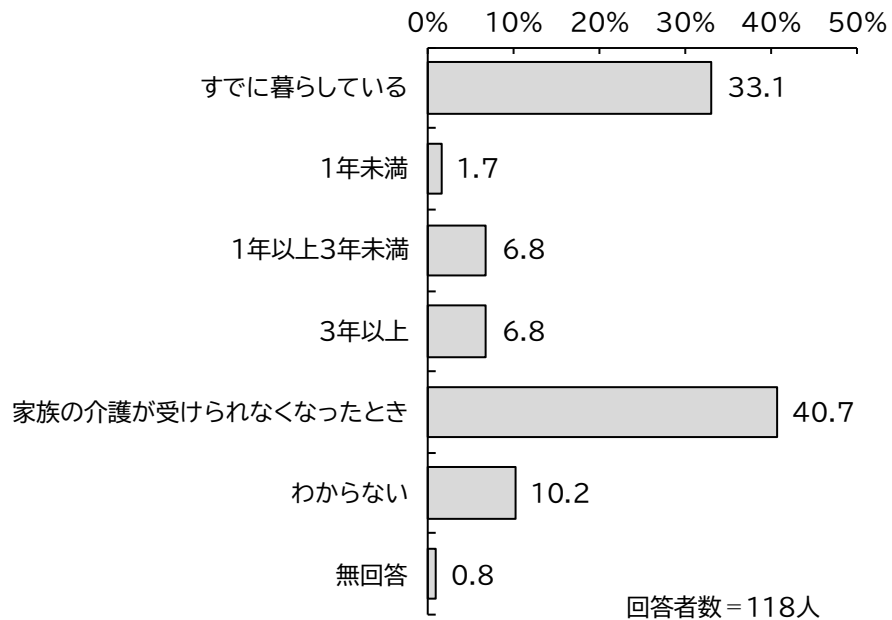
年齢別にみると、18～39歳では「グループホーム」、40～64歳と75歳以上では「親以外の家族と同居」、65～74歳では「ひとり暮らし」の割合が、それぞれ第1位となっている。

障害種別でみると、身体障害者手帳所持者と難病の診断ありの方、日常的に医療的ケアが必要の方では「親以外の家族と同居」、愛の手帳所持者では「グループホーム」、精神障害者保健福祉手帳所持者と手帳未所持で精神疾患の診断ありの方、発達障害の診断ありの方、高次脳機能障害の診断ありの方では「ひとり暮らし」の割合が、それぞれ第1位となっている。

(5) グループホームの利用を希望する時期

◆問 18 で「5. グループホーム」と答えた方におたずねします。
 問 19 いつ頃からグループホームで暮らしたいと思っていますか。(1つに○)

図表 6-5-1 グループホームの利用を希望する時期



グループホームの利用を希望する時期について聞いたところ、「家族の介護が受けられなくなったとき」40.7%が最も高く、約4割となっている。「すでに暮らしている」は33.1%、「わからない」は10.2%となっている。

第2章 調査結果(一般)

図表 6-5-2 グループホームの利用を希望する時期〔年齢別〕

		回答者数 (人)	すでに暮らしている	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上	家族の介護が受けられ なくなったとき	わからない	無回答
全体		118	33.1%	1.7%	6.8%	6.8%	40.7%	10.2%	0.8%
年齢別	18～39歳	52	38.5%	3.8%	11.5%	13.5%	26.9%	3.8%	1.9%
	40～64歳	32	50.0%	0.0%	6.3%	0.0%	31.3%	12.5%	0.0%
	65～74歳	7	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	42.9%	42.9%	0.0%
	75歳以上	25	8.0%	0.0%	0.0%	4.0%	76.0%	12.0%	0.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

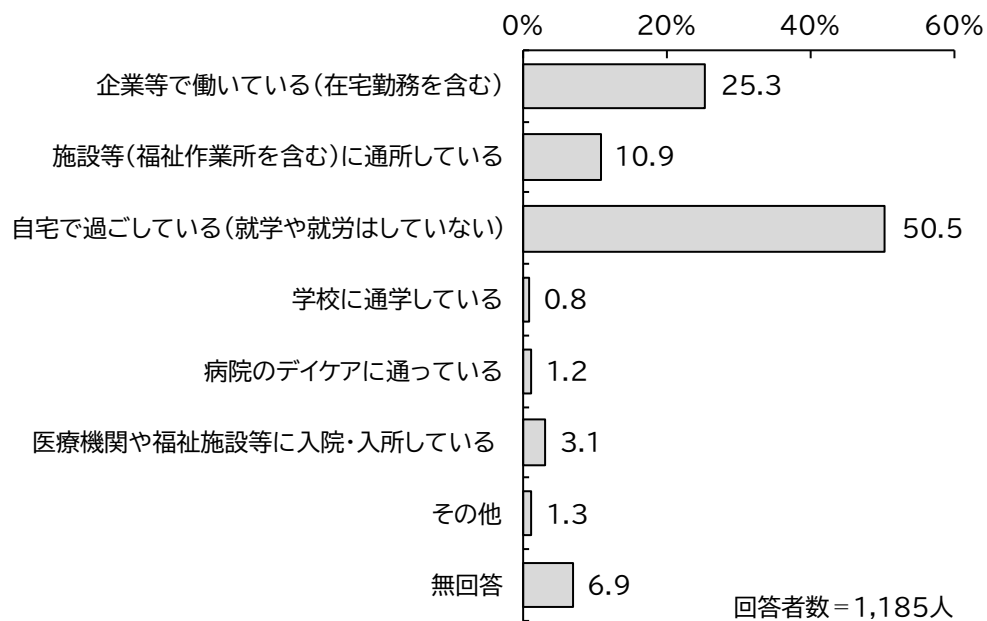
年齢別にみると、40～64歳では「すでに暮らしている」が5割となっている。年齢が高くなるほど「家族の介護が受けられなくなったとき」の割合が増加している。

7. 日中活動の場・就労について

(1) 平日昼間の過ごし方

問 20 あなた（ご本人）は、平日の昼間、どのように過ごしていますか。
 （主なもの1つに○）

図表 7-1-1 平日昼間の過ごし方



平日昼間の過ごし方について聞いたところ、「自宅で過ごしている（就学や就労はしていない）」50.5%が最も高く、約5割となっている。次いで、「企業等で働いている（在宅勤務を含む）」25.3%、「施設等（福祉作業所を含む）に通所している」10.9%と続いている。

第2章 調査結果(一般)

図表 7-1-2 平日昼間の過ごし方〔年齢別・障害種別〕

		回答者数(人)	企業等で働いている(在宅勤務を含む)	施設等(福祉作業所を含む)に通所している	自宅で過ごしている(就学や就労はしていない)	学校に通学している	病院のデイケアに通っている	医療機関や福祉施設等に入院・入所している	その他	無回答
全体		1,185	25.3%	10.9%	50.5%	0.8%	1.2%	3.1%	1.3%	6.9%
年齢別	18～39歳	192	47.9%	31.8%	12.0%	4.7%	1.0%	0.5%	0.5%	1.6%
	40～64歳	369	41.2%	14.4%	35.5%	0.3%	1.6%	3.8%	0.8%	2.4%
	65～74歳	201	19.4%	3.0%	66.2%	0.0%	1.0%	2.0%	1.5%	7.0%
	75歳以上	407	3.7%	1.5%	74.7%	0.0%	1.0%	3.7%	2.0%	13.5%
障害種別	身体障害者手帳所持者	688	19.9%	4.9%	60.8%	0.3%	0.7%	2.8%	1.3%	9.3%
	愛の手帳所持者	160	27.5%	48.8%	9.4%	1.9%	0.6%	6.9%	1.3%	3.8%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	232	28.4%	12.1%	47.0%	2.6%	3.4%	1.7%	0.4%	4.3%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	27	18.5%	25.9%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%	7.4%	3.7%
	発達障害の診断あり	69	40.6%	18.8%	21.7%	7.2%	1.4%	4.3%	1.4%	4.3%
	高次脳機能障害の診断あり	20	25.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	10.0%
	難病の診断あり	228	32.9%	2.6%	54.4%	0.4%	0.4%	3.1%	0.4%	5.7%
	日常的に医療的ケアが必要	36	5.6%	8.3%	58.3%	0.0%	0.0%	19.4%	0.0%	8.3%

※網掛けは、上位1位の選択肢

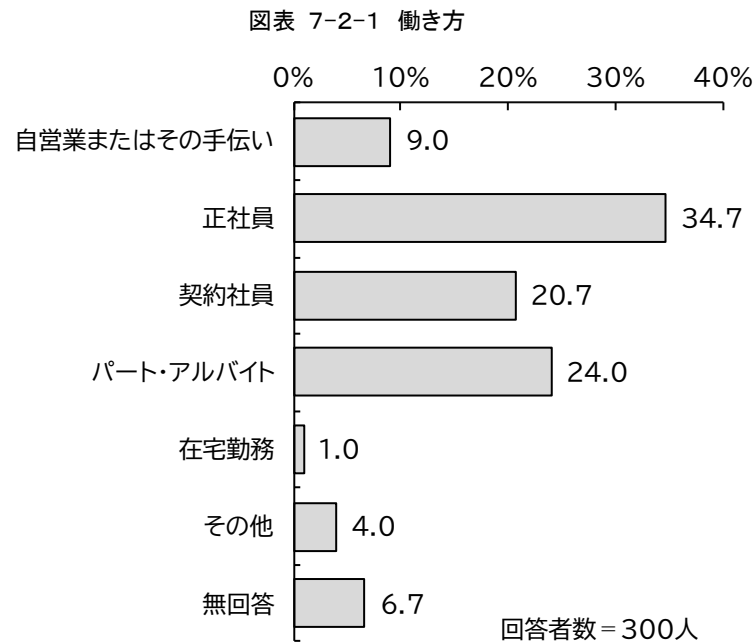
年齢別にみると、64歳以下は「企業等で働いている(在宅勤務を含む)」割合が高く、65歳以上は「自宅で過ごしている(就学や就労はしていない)」割合が高くなっている。

障害種別でみると、身体障害者手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者、手帳未所持で精神疾患の診断ありの方、高次脳機能障害の診断ありの方、難病の診断ありの方、日常的に医療的ケアが必要な方は「自宅で過ごしている(就学や就労はしていない)」割合が、愛の手帳所持者は「施設等(福祉作業所を含む)に通所している」割合が、発達障害の診断ありの方は「企業等で働いている(在宅勤務を含む)」割合が、それぞれ高くなっている。

(2) 働き方

◆問 20 で「1. 企業等で働いている（在宅勤務を含む）」と答えた方に問 21～問 24 をおたずねします。

問 21 あなた（ご本人）は、どのような働き方をしていますか。（1つに○）



働き方について聞いたところ、「正社員」34.7%が最も高く、3割半ばとなっている。次いで、「パート・アルバイト」24.0%、「契約社員」20.7%、「自営業またはその手伝い」9.0%と続いている。

第2章 調査結果(一般)

図表 7-2-2 働き方〔年齢別・障害種別〕

		回答者数 (人)	自営業またはその 手伝い	正社員	契約社員	パート・アルバイト	在宅勤務	その他	無回答
全体		300	9.0%	34.7%	20.7%	24.0%	1.0%	4.0%	6.7%
年齢別	18～39歳	92	2.2%	32.6%	27.2%	25.0%	1.1%	4.3%	7.6%
	40～64歳	152	6.6%	41.4%	18.4%	23.0%	1.3%	2.6%	6.6%
	65～74歳	39	17.9%	20.5%	12.8%	33.3%	0.0%	7.7%	7.7%
	75歳以上	15	53.3%	20.0%	13.3%	6.7%	0.0%	6.7%	0.0%
障害種別	身体障害者手帳所持者	137	12.4%	42.3%	14.6%	16.1%	0.7%	5.8%	8.0%
	愛の手帳所持者	44	0.0%	29.5%	45.5%	18.2%	0.0%	2.3%	4.5%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	66	1.5%	16.7%	28.8%	40.9%	3.0%	1.5%	7.6%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	5	0.0%	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	28	0.0%	17.9%	46.4%	25.0%	0.0%	3.6%	7.1%
	高次脳機能障害の診断あり	5	0.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	難病の診断あり	75	14.7%	38.7%	8.0%	28.0%	0.0%	5.3%	5.3%
	日常的に医療的ケアが必要	2	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

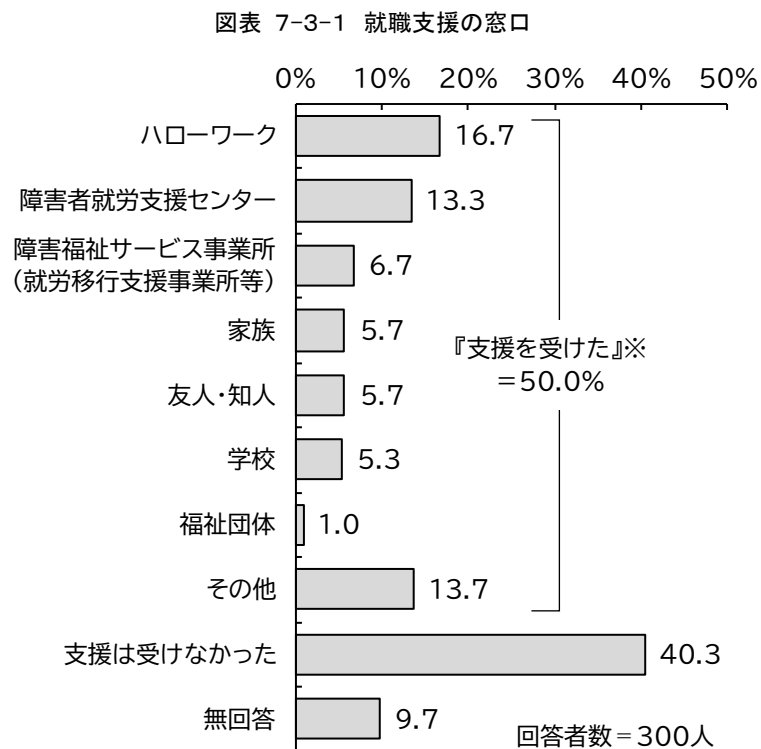
※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、64歳以下は「正社員」の割合が高く、65～74歳は「パート・アルバイト」、75歳以上は「自営業またはその手伝い」の割合が高くなっている。

障害種別でみると、「正社員」割合が高いのは、身体障害者手帳所持者と手帳未所持で精神疾患の診断ありの方、難病の診断ありの方、「契約社員」の割合が高いのは、愛の手帳所持者と発達障害の診断ありの方、「パート・アルバイト」の割合が高いのは、精神障害者保健福祉手帳所持者と日常的に医療的ケアが必要な方となっている。

(3) 就職支援の窓口

問 22 どこ(だれ)の支援を受けて仕事に就きましたか。(あてはまるものすべてに○)



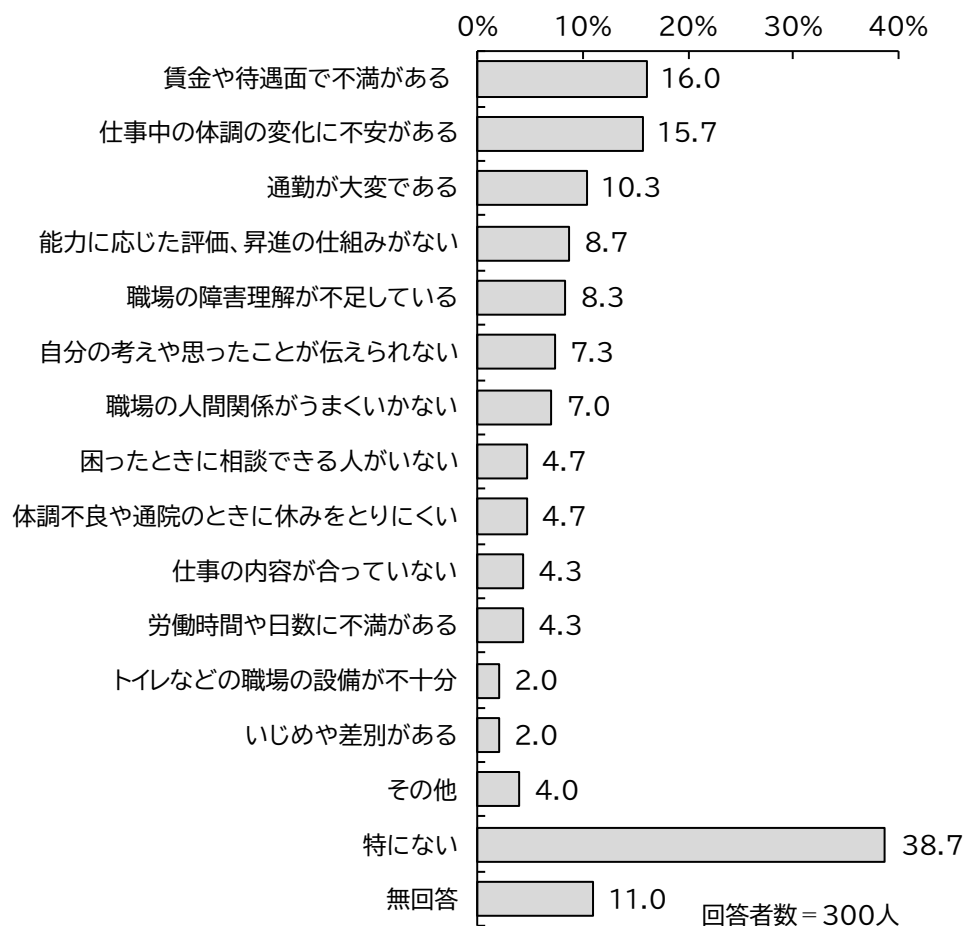
※『支援を受けた』=100% - 「支援は受けなかった」 - 「無回答」

就職支援の窓口について聞いたところ、「ハローワーク」16.7%が最も高く、次いで、「障害者就労支援センター」13.3%、「障害福祉サービス事業所(就労移行支援事業所等)」6.7%と続いている。一方、「支援は受けなかった」は40.3%で、約4割となっている。

(4) 現在の仕事への悩みや不満

問 23 現在の仕事について、どのような悩みや不満がありますか。(主なもの3つまで○)

図表 7-4-1 現在の仕事への悩みや不満



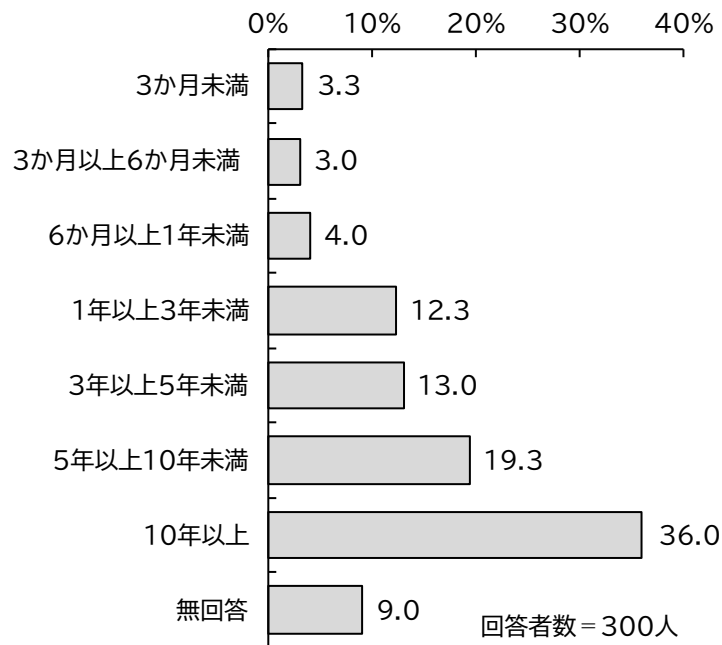
現在の仕事への悩みや不満について聞いたところ、「賃金や待遇面で不満がある」16.0%が最も高く、次いで、「工作中的の体調の変化に不安がある」15.7%、「通勤が大変である」10.3%、「能力に応じた評価、昇進の仕組みがない」8.7%、「職場の障害理解が不足している」8.3%、「自分の考えや思ったことが伝えられない」7.3%、「職場の人間関係がうまくいかない」7.0%と続いている。

一方、「特にない」は38.7%で、4割近くになっている。

(5) 現在の仕事の就労年数

問 24 現在の仕事に就いてからの期間はどれくらいですか。(1つに○)

図表 7-5-1 現在の仕事の就労年数

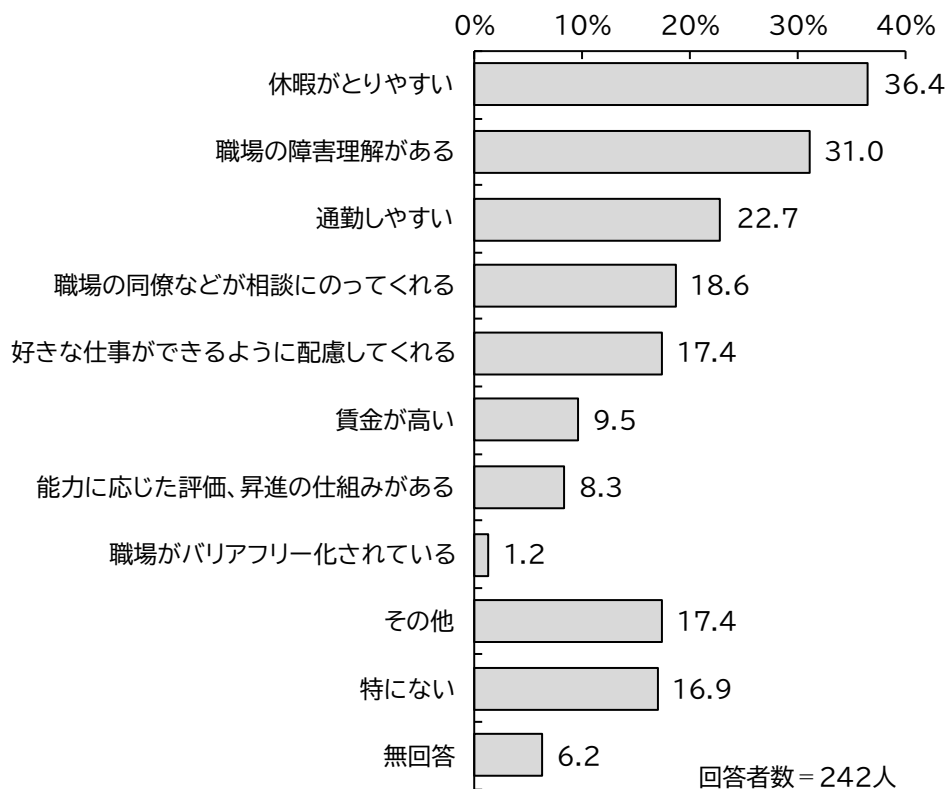


現在の仕事の就労年数について聞いたところ、「10年以上」36.0%が最も高く、3割半ばとなっている。次いで、「5年以上10年未満」19.3%、「3年以上5年未満」13.0%、「1年以上3年未満」12.3%と続いている。

(6) 現在の仕事を継続している理由

◆問 24 で「4. 1年以上3年未満」「5. 3年以上5年未満」「6. 5年以上10年未満」「7. 10年以上」と答えた方におたずねします。
問 25 現在の仕事を継続できている理由は何ですか。(主なもの3つまで○)

図表 7-6-1 現在の仕事を継続している理由



現在の仕事を継続している理由について聞いたところ、「休暇がとしやすい」36.4%が最も高く、4割近くになっている。次いで、「職場の障害理解がある」31.0%、「通勤しやすい」22.7%、「職場の同僚などが相談にのってくれる」18.6%、「好きな仕事ができるように配慮してくれる」17.4%と続いている。

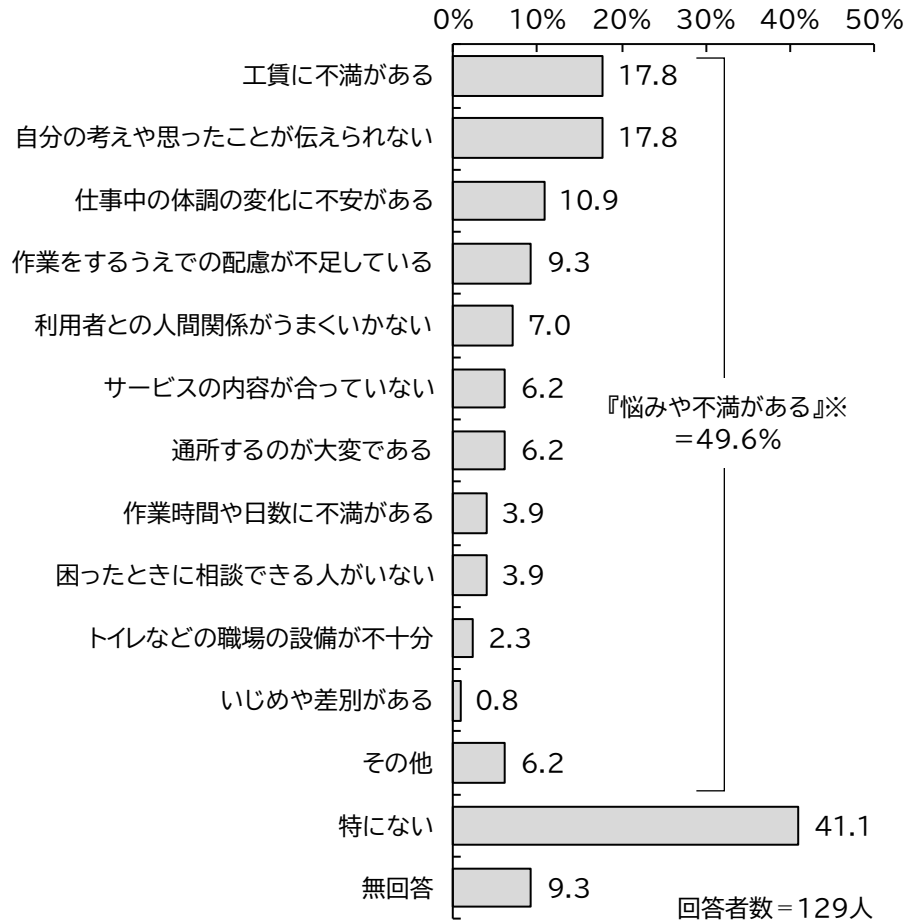
一方、「特にない」が16.9%で、2割近くになっている。

(7) 施設等に通所するうえでの悩みや不満

◆問 20 で「2. 施設等（福祉作業所を含む）に通所している」と答えた方に問 26 と問 27 をおたずねします。

問 26 通所するうえでのどのような悩みや不満がありますか。（主なもの3つまで○）

図表 7-7-1 施設等に通所するうえでの悩みや不満

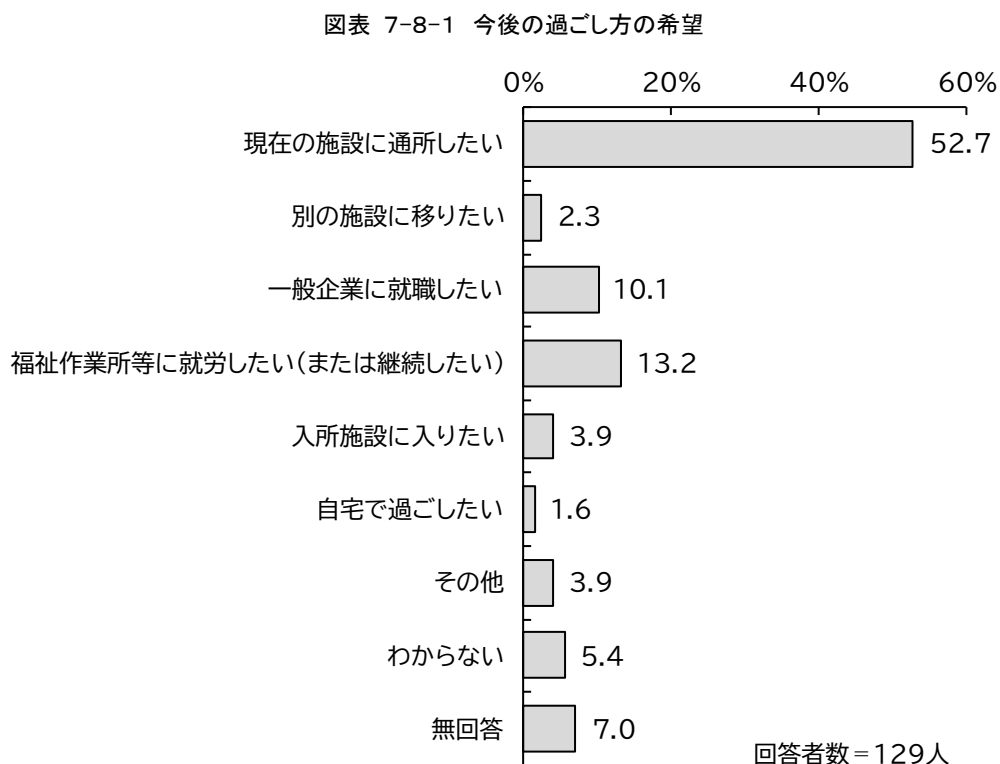


※『悩みや不安がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

施設等に通所するうえでの悩みや不満について聞いたところ、「工賃に不満がある」と「自分の考えや思ったことが伝えられない」がともに 17.8%で、最も高くなっている。次いで、「仕事中の体調の変化に不安がある」10.9%、「作業をするうえでの配慮が不足している」9.3%と続いている。一方、「特にない」が 41.1%で、4割以上になっている。

(8) 今後の過ごし方の希望

問 27 あなた(ご本人)は、今後どのような過ごし方を希望していますか。(1つに○)

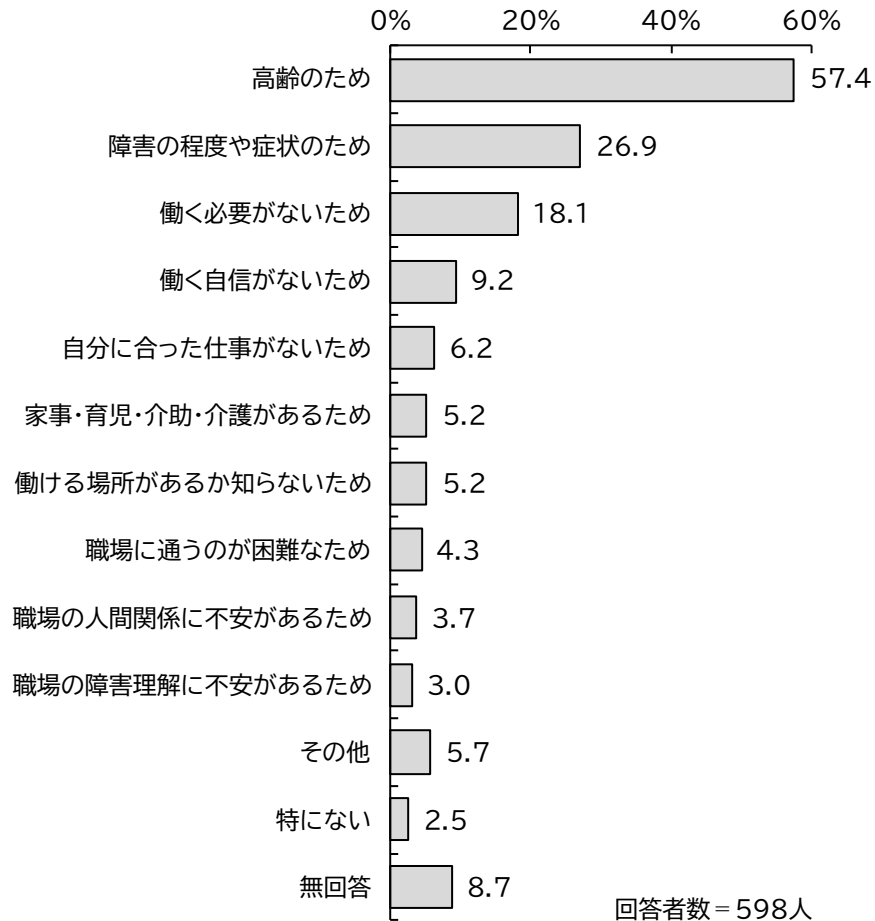


今後の過ごし方の希望について聞いたところ、「現在の施設に通所したい」52.7%が最も高く、5割以上となっている。次いで、「福祉作業所等に就労したい(または継続したい)」13.2%、「一般企業に就職したい」10.1%と続いている。

(9) 就学や就労をしていない理由

◆問 20 で「3. 自宅で過ごしている（就学や就労はしていない）」と答えた方に問 28 と問 29 をおたずねします。
 問 28 就学や就労をしていない理由は何ですか。（主なもの3つまで○）

図表 7-9-1 就学や就労をしていない理由

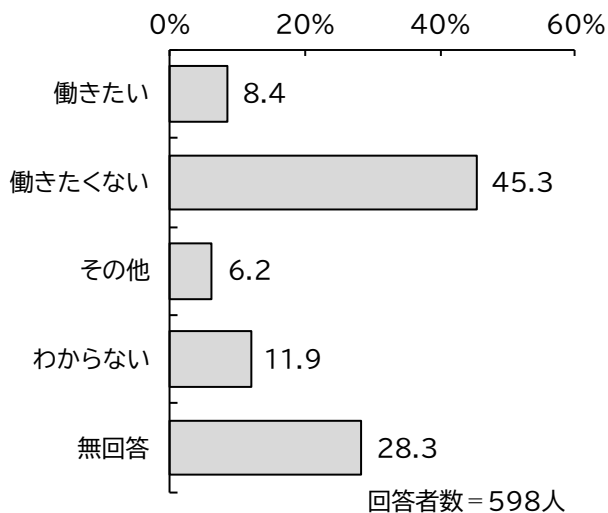


就学や就労をしていない理由について聞いたところ、「高齢のため」57.4%が最も高く、6割近くになっている。次いで、「障害の程度や症状のため」26.9%、「働く必要がないため」18.1%、「働く自信がないため」9.2%と続いている。

(10) 将来における一般企業への就職希望の有無

問 29 あなた(ご本人)は将来、一般企業で働きたいですか。(1つに○)

図表 7-10-1 将来における一般企業への就職希望の有無



将来における一般企業への就職希望の有無について聞いたところ、「働きたくない」45.3%が最も高く、4割半ばとなっている。次いで、「働きたい」8.4%、「その他」6.2%の順になっている。一方、「わからない」は11.9%で、1割以上となっている。

図表 7-10-2 将来における一般企業への就職希望の有無〔年齢別・障害種別〕

		回答者数 (人)	働きたい	働きたくない	その他	わからない	無回答
全体		598	8.4%	45.3%	6.2%	11.9%	28.3%
年齢別	18～39歳	23	69.6%	4.3%	4.3%	17.4%	4.3%
	40～64歳	131	18.3%	34.4%	6.1%	32.1%	9.2%
	65～74歳	133	4.5%	58.6%	4.5%	9.8%	22.6%
	75歳以上	304	1.3%	47.4%	7.2%	3.3%	40.8%
障害種別	身体障害者手帳所持者	418	4.5%	46.2%	6.2%	9.1%	34.0%
	愛の手帳所持者	15	6.7%	40.0%	6.7%	26.7%	20.0%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	109	24.8%	31.2%	6.4%	25.7%	11.9%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	12	16.7%	33.3%	0.0%	16.7%	33.3%
	発達障害の診断あり	15	40.0%	13.3%	0.0%	46.7%	0.0%
	高次脳機能障害の診断あり	8	0.0%	37.5%	12.5%	25.0%	25.0%
	難病の診断あり	124	5.6%	51.6%	5.6%	14.5%	22.6%
	日常的に医療的ケアが必要	21	4.8%	57.1%	0.0%	4.8%	33.3%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、18～39歳は「働きたい」割合が高く69.6%で、約7割となっている。一方、40歳以上では、「働きたくない」割合が高くなっている。

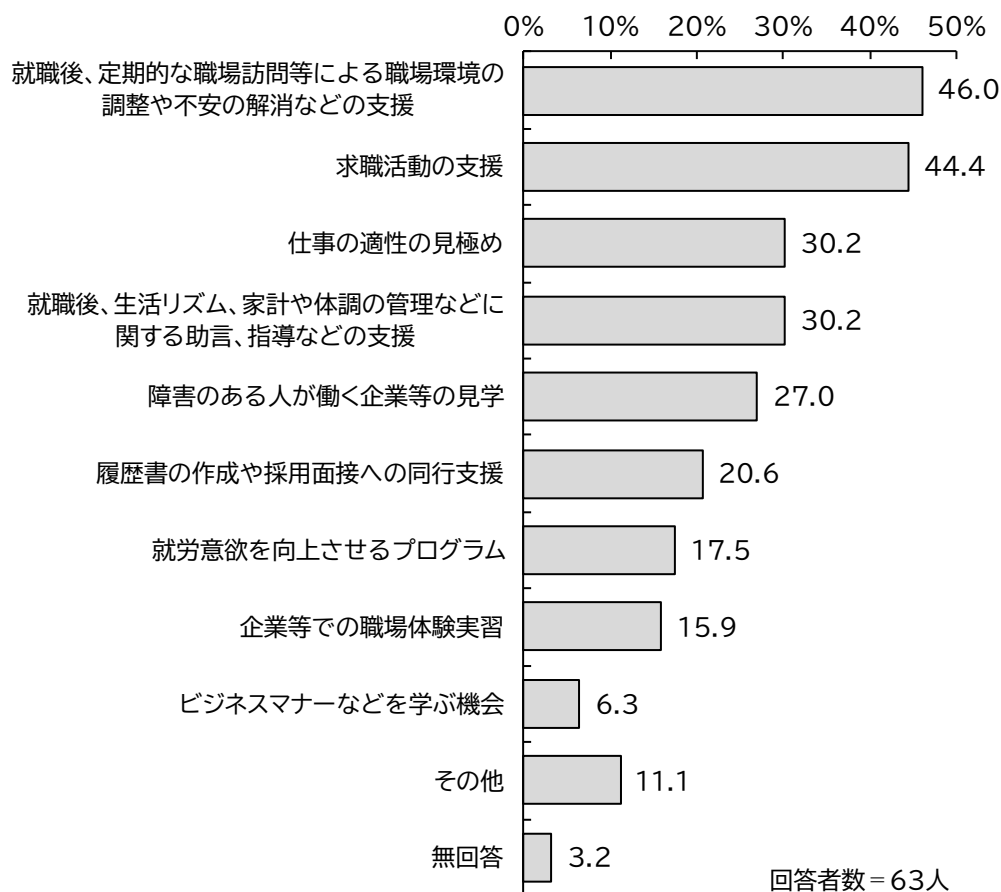
障害種別でみると、発達障害の診断ありの方以外で「働きたくない」割合が第1位となっている。一方、「働きたい」割合が高い項目をみると、発達障害の診断ありの方40.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者24.8%、手帳未所持で精神疾患の診断ありの方16.7%となっている。

(11) 一般企業への就職・就労を継続するために必要だと思うこと

◆問 27 で「3. 一般企業に就職したい」または問 29 で「1. 働きたい」と答えた方におたずねします。

問 30 あなた(ご本人)が、一般企業に就職し、働き続けるために必要だと思うことは何ですか。(主なもの3つまで○)

図表 7-11-1 一般企業への就職・就労を継続するために必要だと思うこと

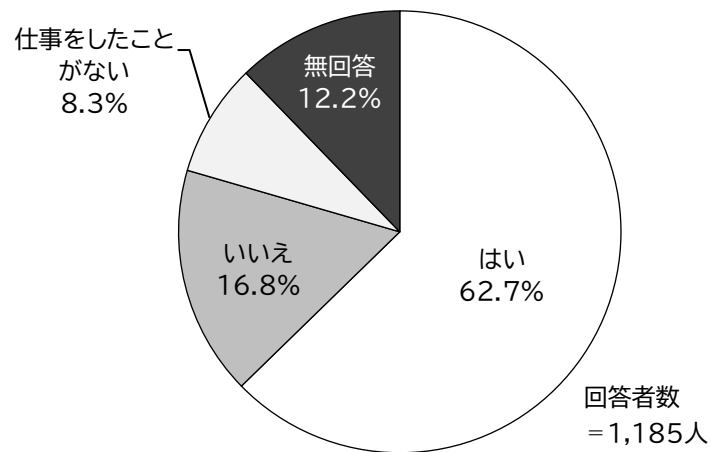


一般企業への就職・就労を継続するために必要だと思うことについて聞いたところ、「就職後、定期的な職場訪問等による職場環境の調整や不安の解消などの支援」46.0%、「求職活動の支援」44.4%で4割台となっている。次いで、「仕事の適性を見極め」と「就職後、生活リズム、家計や体調の管理などに関する助言、指導などの支援」がともに30.2%、「障害のある人が働く企業等の見学」27.0%、「履歴書の作成や採用面接への同行支援」20.6%、「就労意欲を向上させるプログラム」17.5%、「企業等での職場体験実習」15.9%、「ビジネスマナーなどを学ぶ機会」6.3%の順になっている。

(12) 退職経験の有無

問31 あなた(ご本人)は仕事を退職したことがありますか。

図表 7-12-1 退職経験の有無

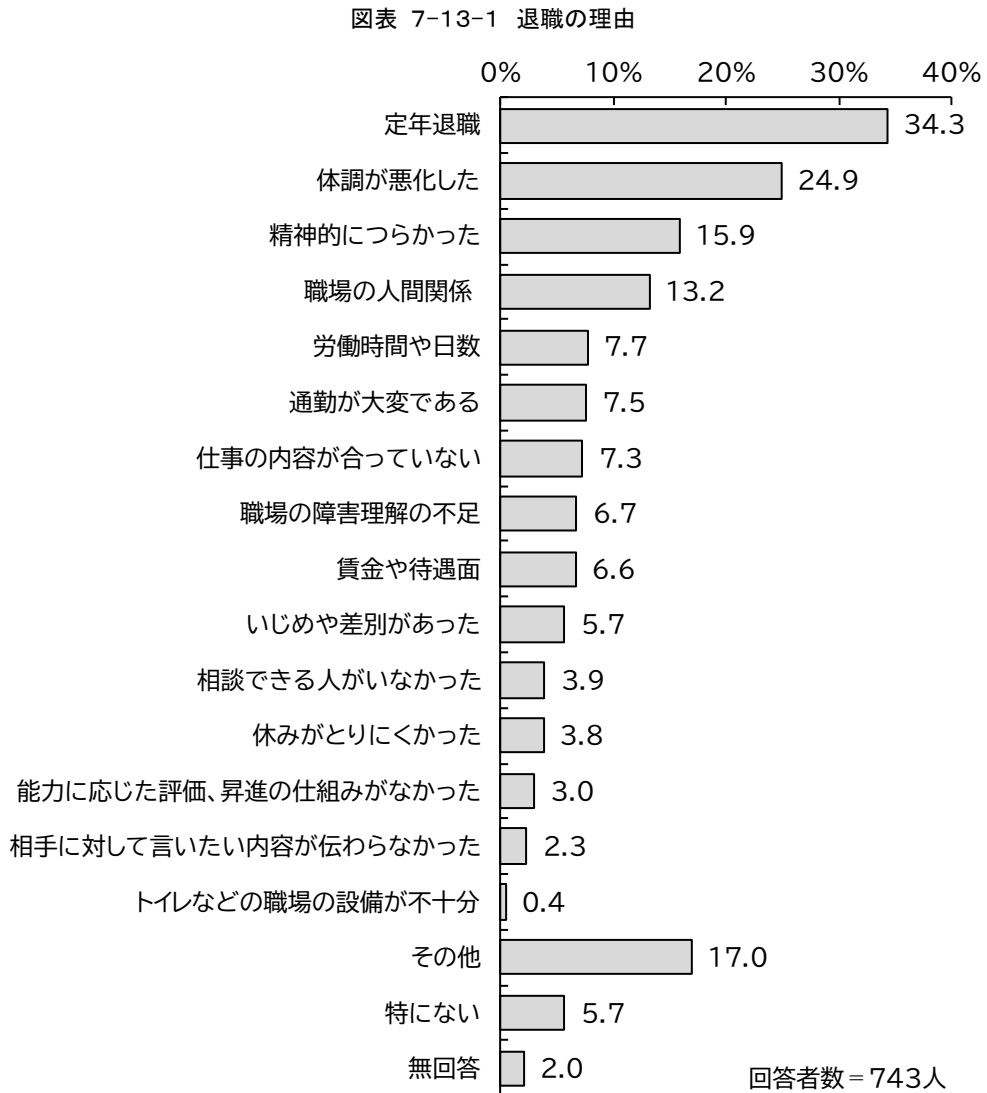


退職経験の有無について聞いたところ、「はい」は62.7%で6割以上、「いいえ」は16.8%で2割近くになっている。

一方、「仕事をしたことがない」は8.3%で、1割近くになっている。

(13) 退職の理由

◆問31で「1. はい」と答えた方におたずねします。
問32 退職した理由は何ですか。(主なもの3つまで○)



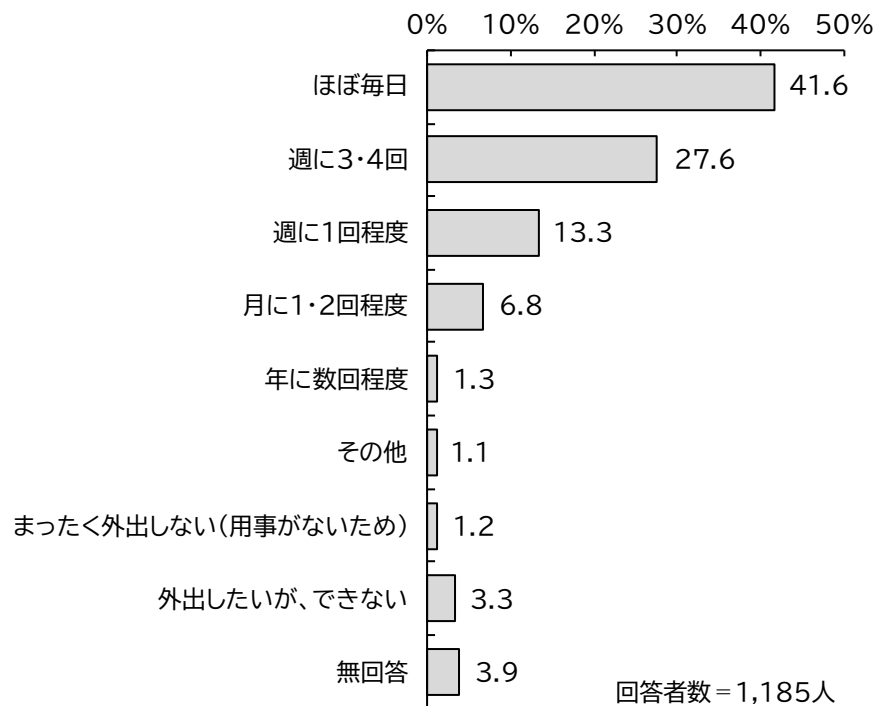
退職の理由について聞いたところ、「定年退職」34.3%が最も高く、3割半ばとなっている。次いで、「体調が悪化した」24.9%、「精神的につらかった」15.9%、「職場の人間関係」13.2%と続いている。

8. 外出について

(1) 外出頻度

問 33 あなた（ご本人）はどれくらい外出しますか。通学，通勤，通院等の外出も含めてお答えください。（1つに○）

図表 8-1-1 外出頻度



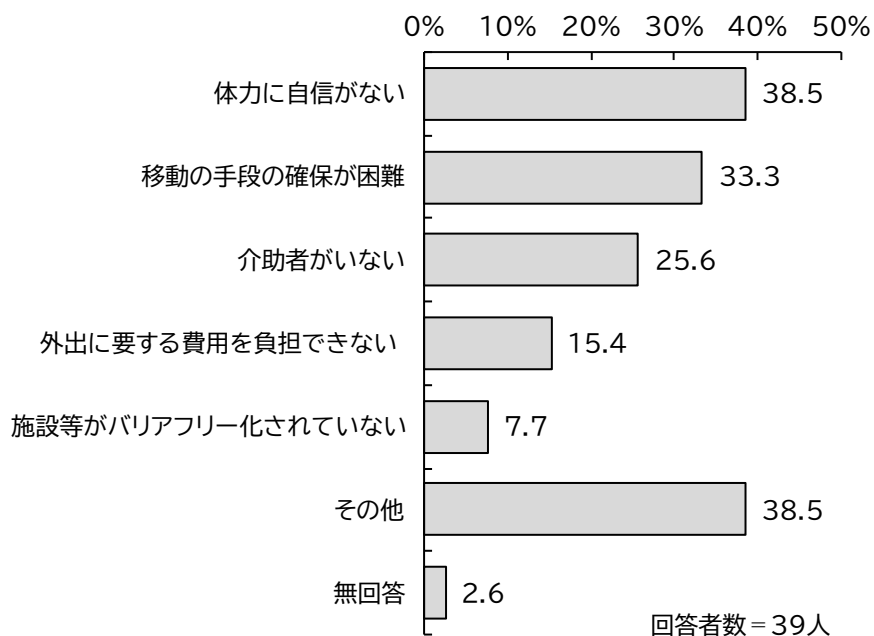
外出頻度について聞いたところ、「ほぼ毎日」41.6%が最も高く、4割以上となっている。次いで、「週に3・4回」27.6%、「週に1回程度」13.3%と続いている。

一方、「まったく外出しない(用事がないため)」は1.2%、「外出したいが、できない」は3.3%となっている。

(2) 外出をしたくてもできない理由

◆問 33 で「8. 外出したいが、できない」と答えた方におたずねします。
問 34 外出できない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 8-2-1 外出をしたくてもできない理由



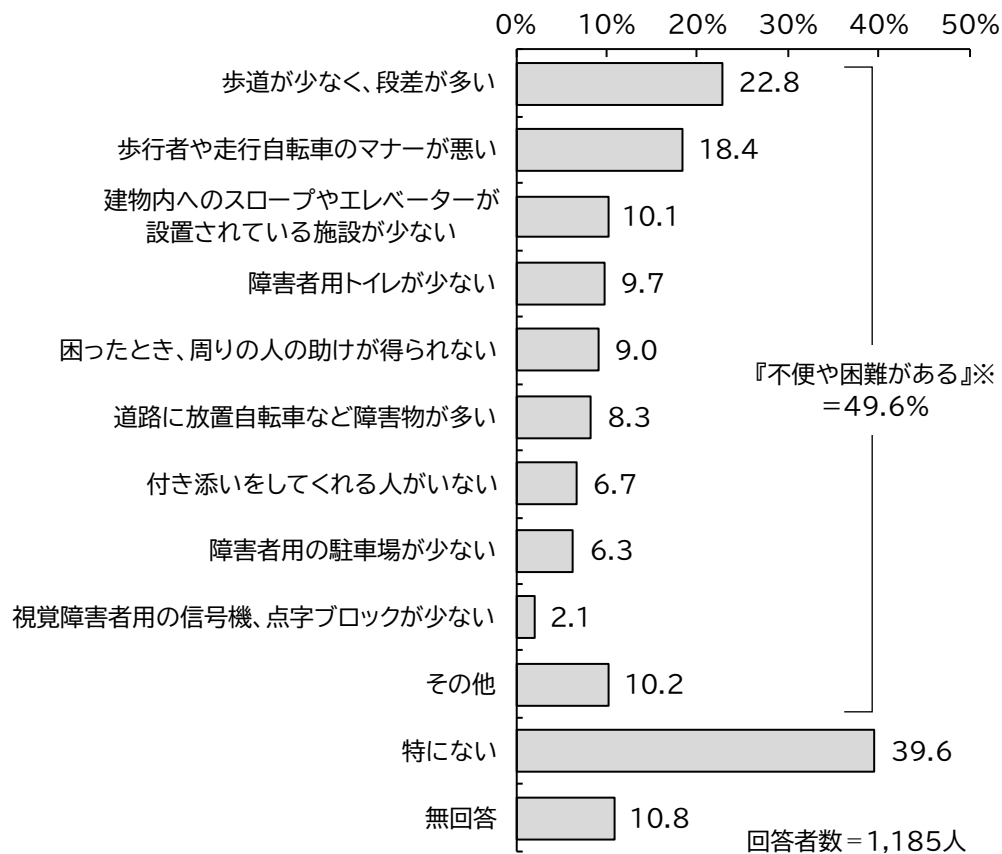
外出をしたくてもできない理由について聞いたところ、「体力に自信がない」38.5%、「移動の手段の確保が困難」33.3%が3割台となっている。次いで、「介助者がいない」25.6%、「外出に要する費用を負担できない」15.4%、「施設等がバリアフリー化されていない」7.7%の順になっている。

「その他」38.5%では、具体的に「コロナ禍のため」などが多く記載されている。

(3) 外出時に感じる困難や不便

問 35 あなた（ご本人）は、外出するとき、どのようなことに不便や困難を感じていますか。（あてはまるものすべてに○）

図表 8-3-1 外出時に感じる困難や不便



※『不便や困難がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

外出時に感じる困難や不便について聞いたところ、「歩道が少なく、段差が多い」22.8%が最も高く、次いで、「歩行者や走行自転車のマナーが悪い」18.4%、「建物内へのスロープやエレベーターが設置されている施設が少ない」10.1%、「障害者用トイレが少ない」9.7%、「困ったとき、周りの人の助けが得られない」9.0%、「道路に放置自転車など障害物が多い」8.3%と続いている。

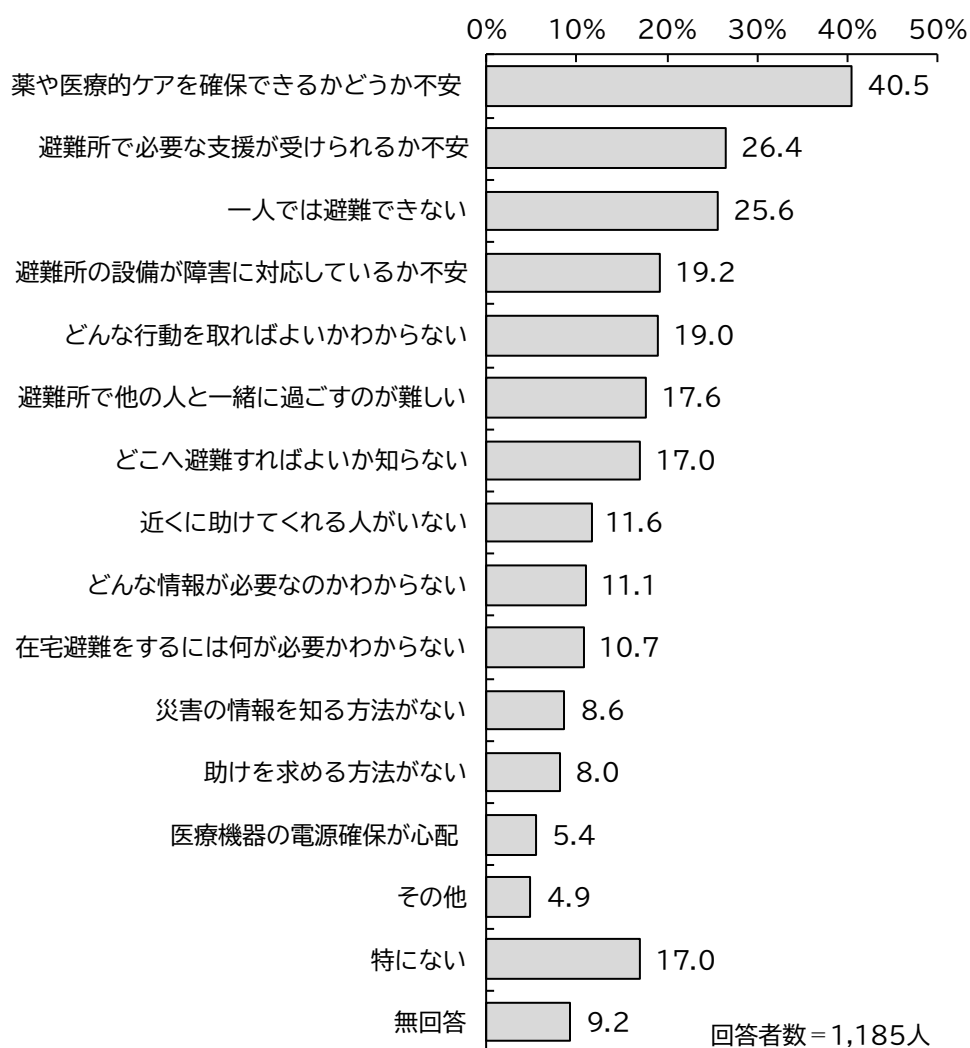
一方、「特にない」は39.6%で、約4割となっている。

9. 災害への備えについて

(1) 災害発生時に困ることや不安に感じること

問 36 あなた（ご本人）が、地震などの災害が発生したときに、困ることや不安なことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図表 9-1-1 災害発生時に困ることや不安に感じること



災害発生時に困ることや不安に感じることについて聞いたところ、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」40.5%が最も高く、約4割となっている。次いで、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」26.4%、「一人では避難できない」25.6%、「避難所の設備が障害に対応しているか不安」19.2%、「どんな行動を取ればよいかわからない」19.0%、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」17.6%、「どこへ避難すればよいか知らない」17.0%と続いている。

一方、「特になし」は17.0%で、2割近くになっている。

図表 9-1-2 災害発生時に困ることや不安に感じる事〔障害種別〕

		回答者数(人)	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安	避難所で必要な支援が受けられるか不安	一人では避難できない	避難所の設備が障害に対応しているか不安	どんな行動を取ればよいかわからない	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	どこへ避難すればよいか知らない	近くに助けてくれる人がいない
全体		1,185	40.5%	26.4%	25.6%	19.2%	19.0%	17.6%	17.0%	11.6%
障害種別	身体障害者手帳所持者	688	37.2%	24.9%	25.9%	21.7%	14.8%	12.8%	15.8%	10.3%
	愛の手帳所持者	160	32.5%	40.6%	51.9%	30.6%	38.1%	36.9%	33.1%	11.3%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	232	51.7%	25.4%	12.9%	14.7%	22.4%	25.9%	15.9%	18.5%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	27	55.6%	11.1%	22.2%	18.5%	25.9%	22.2%	14.8%	14.8%
	発達障害の診断あり	69	29.0%	24.6%	26.1%	18.8%	31.9%	37.7%	23.2%	14.5%
	高次脳機能障害の診断あり	20	50.0%	35.0%	55.0%	35.0%	25.0%	25.0%	15.0%	20.0%
	難病の診断あり	228	49.6%	25.0%	23.2%	16.7%	15.4%	11.8%	11.4%	8.8%
	日常的に医療的ケアが必要	36	47.2%	36.1%	47.2%	27.8%	11.1%	22.2%	8.3%	11.1%

		回答者数(人)	どんな情報が必要なのかわからない	在宅避難するには何が必要かわからない	災害の情報を知る方法がない	助けを求める方法がない	医療機器の電源確保が心配	その他	特になし	無回答
全体		1,185	11.1%	10.7%	8.6%	8.0%	5.4%	4.9%	17.0%	9.2%
障害種別	身体障害者手帳所持者	688	8.3%	9.2%	8.3%	6.5%	6.3%	5.5%	16.9%	11.0%
	愛の手帳所持者	160	26.9%	21.3%	20.0%	17.5%	6.3%	6.3%	13.8%	5.0%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	232	13.4%	12.9%	6.5%	9.1%	5.2%	5.2%	16.4%	6.5%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	27	14.8%	11.1%	7.4%	7.4%	14.8%	0.0%	7.4%	14.8%
	発達障害の診断あり	69	20.3%	15.9%	10.1%	7.2%	2.9%	4.3%	18.8%	8.7%
	高次脳機能障害の診断あり	20	15.0%	25.0%	10.0%	15.0%	0.0%	5.0%	5.0%	5.0%
	難病の診断あり	228	5.3%	8.3%	4.4%	4.4%	7.5%	2.6%	16.7%	7.5%
	日常的に医療的ケアが必要	36	5.6%	5.6%	8.3%	11.1%	25.0%	8.3%	8.3%	13.9%

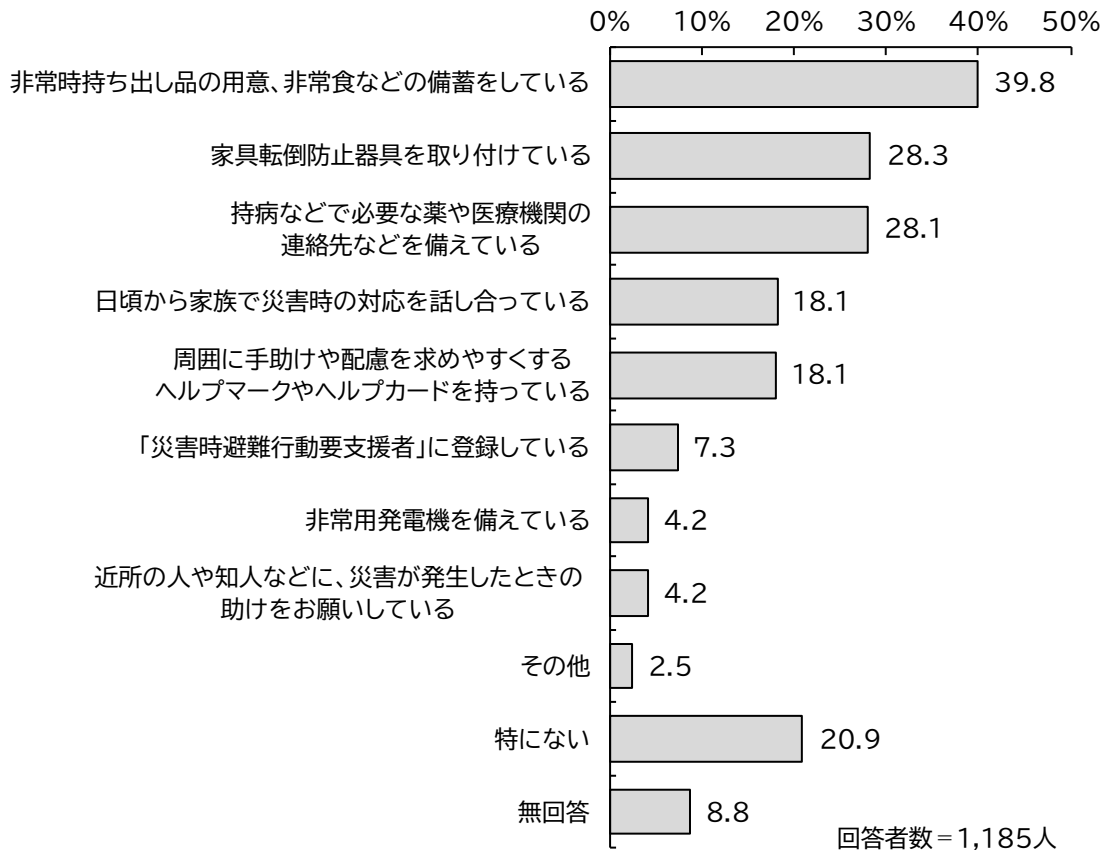
※網掛けは、上位3位の選択肢

障害種別でみると、「どんな行動を取ればよいかわからない」と「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」は、愛の手帳所持者、発達障害の診断ありの方で3割台となっている。「避難所の設備が障害に対応しているか不安」は、愛の手帳所持者、高次脳機能障害の診断ありの方で3割台となっている。

(2) 災害に対する備え

問 37 あなた（ご本人）は、災害に対してどのような備えをしていますか。
 （あてはまるものすべてに○）

図表 9-2-1 災害に対する備え



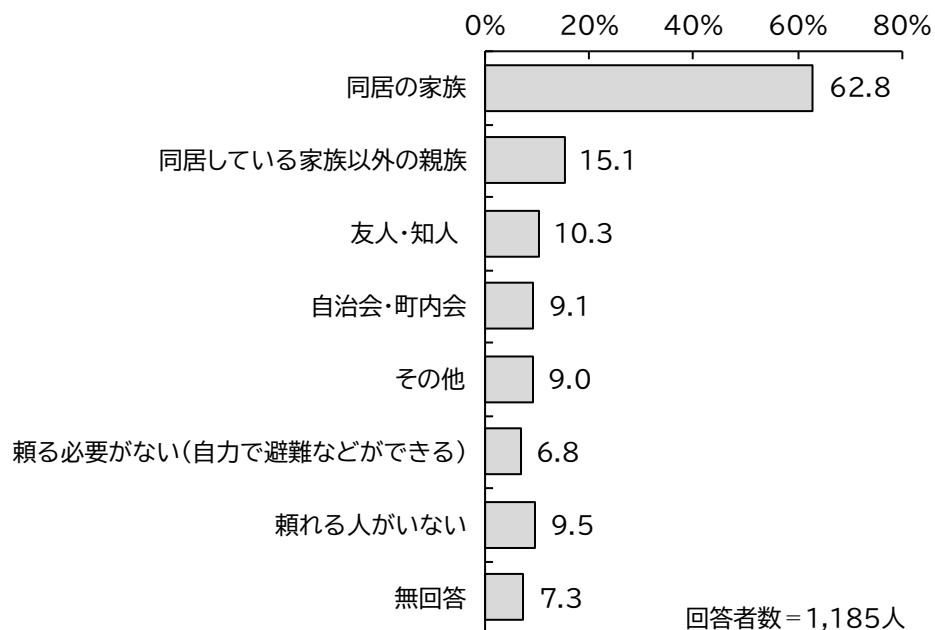
災害に対する備えについて聞いたところ、「非常時持ち出し品の用意、非常食などの備蓄をしている」39.8%が最も高く、約4割となっている。次いで、「家具転倒防止器具を取り付けている」28.3%、「持病などで必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」28.1%、「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」「周囲に手助けや配慮を求めやすくするヘルプマークやヘルプカードを持っている」がともに18.1%と続いている。

一方、「特にない」は20.9%で、約2割となっている。

(3) 災害発生時に頼れる人

問 38 あなた（ご本人）が、地震や水害などが発生したときに、安全の確保などで頼れる人はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

図表 9-3-1 災害発生時に頼れる人



災害発生時に頼れる人について聞いたところ、「同居の家族」62.8%が最も高く、6割以上となっている。次いで、「同居している家族以外の親族」15.1%、「友人・知人」10.3%、「自治会・町内会」9.1%の順となっている。

一方、「頼る必要がない（自力で避難などができる）」は6.8%、「頼れる人がいない」は9.5%となっている。

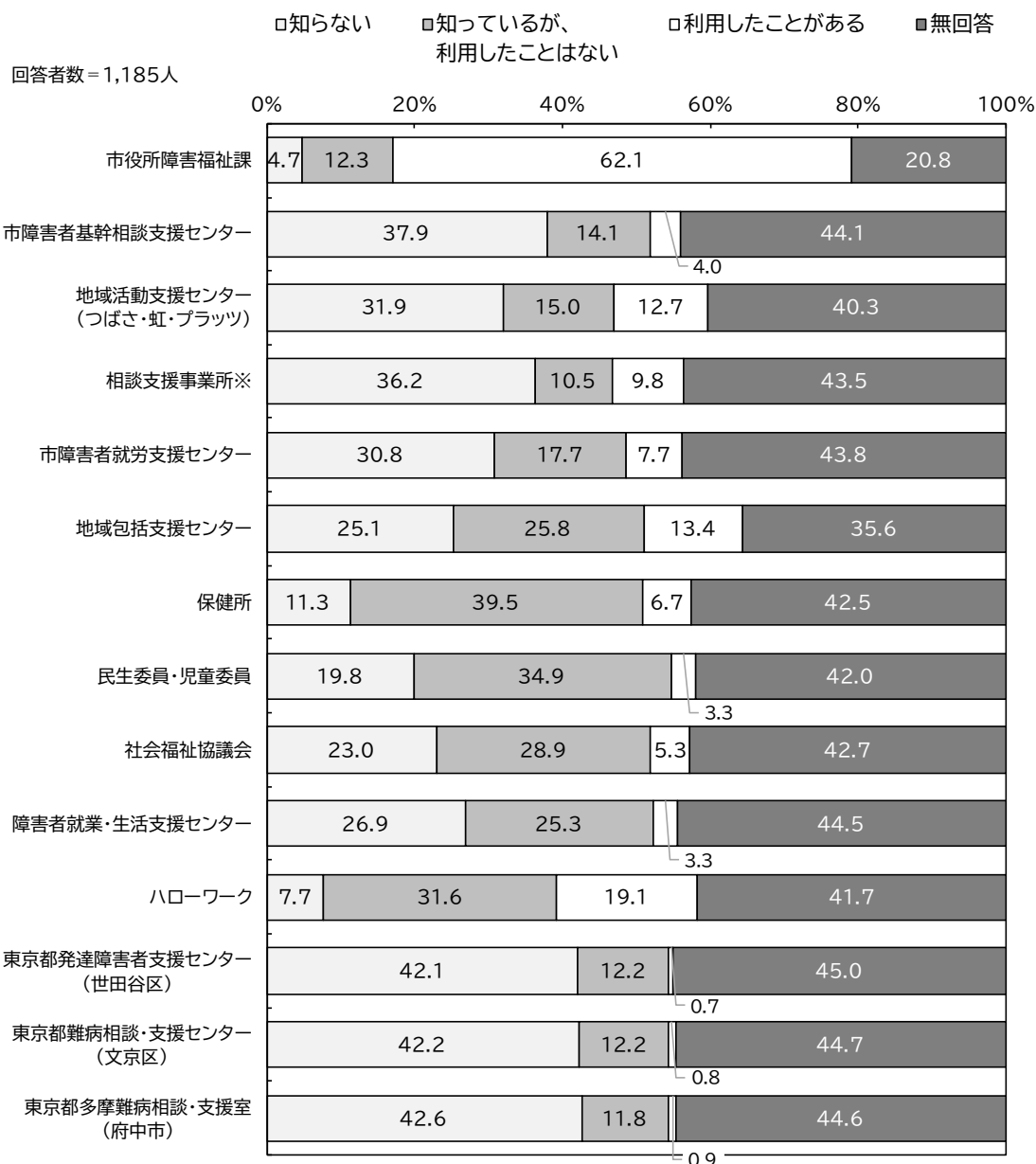
10. 相談や福祉の情報について

(1) 相談窓口・機関の認知度・利用状況

問 39 あなた（ご本人）が知っている、または利用したことがある相談窓口・機関はどこですか。それぞれあてはまるものに○をしてください。

A 認知度・利用状況

図表 10-1-1 相談窓口・機関の認知度・利用状況



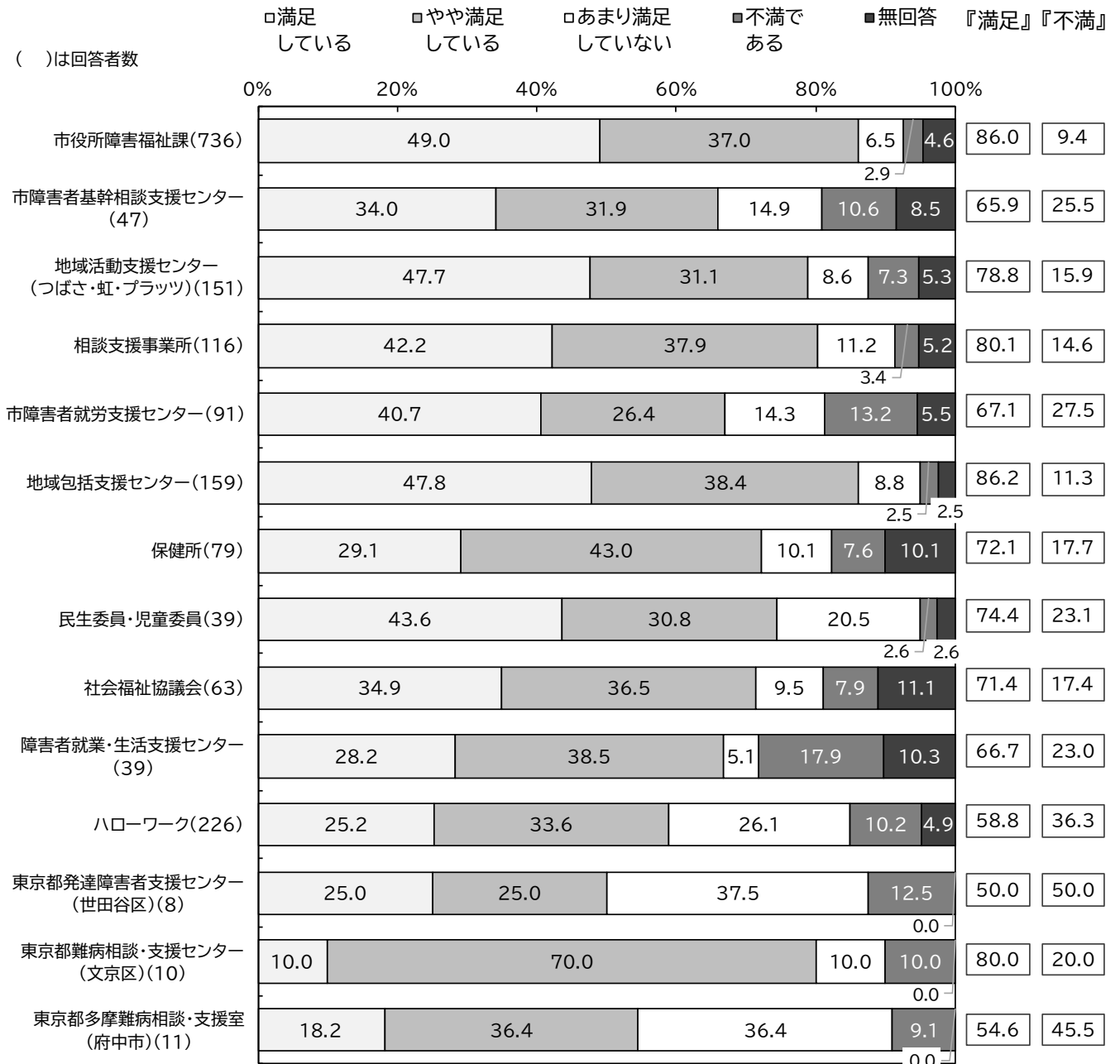
※市内の相談支援事業所は、つばさ、虹、プラッツ、あいうい・生活サポートセンター、ヘルパーステーションびいと、コトリナ、つくしんぼ、すこやか、ゼフィール国分寺、空にたね、ラミュール、チェンジアップの計12事業所あります。

相談窓口・機関の認知度・利用状況について聞いたところ、「利用したことがある」割合が最も高い窓口・機関は、市役所障害福祉課で62.1%となっている。次いで、ハローワーク19.1%、地域包括支援センター13.4%、地域活動支援センター（つばさ・虹・プラッツ）12.7%と続いている。

(2) 相談窓口・機関の満足度

B 満足度
A で、「3 利用したことがある」と答えた方におたずねします。(1つに○)

図表 10-2-1 相談窓口・機関の満足度



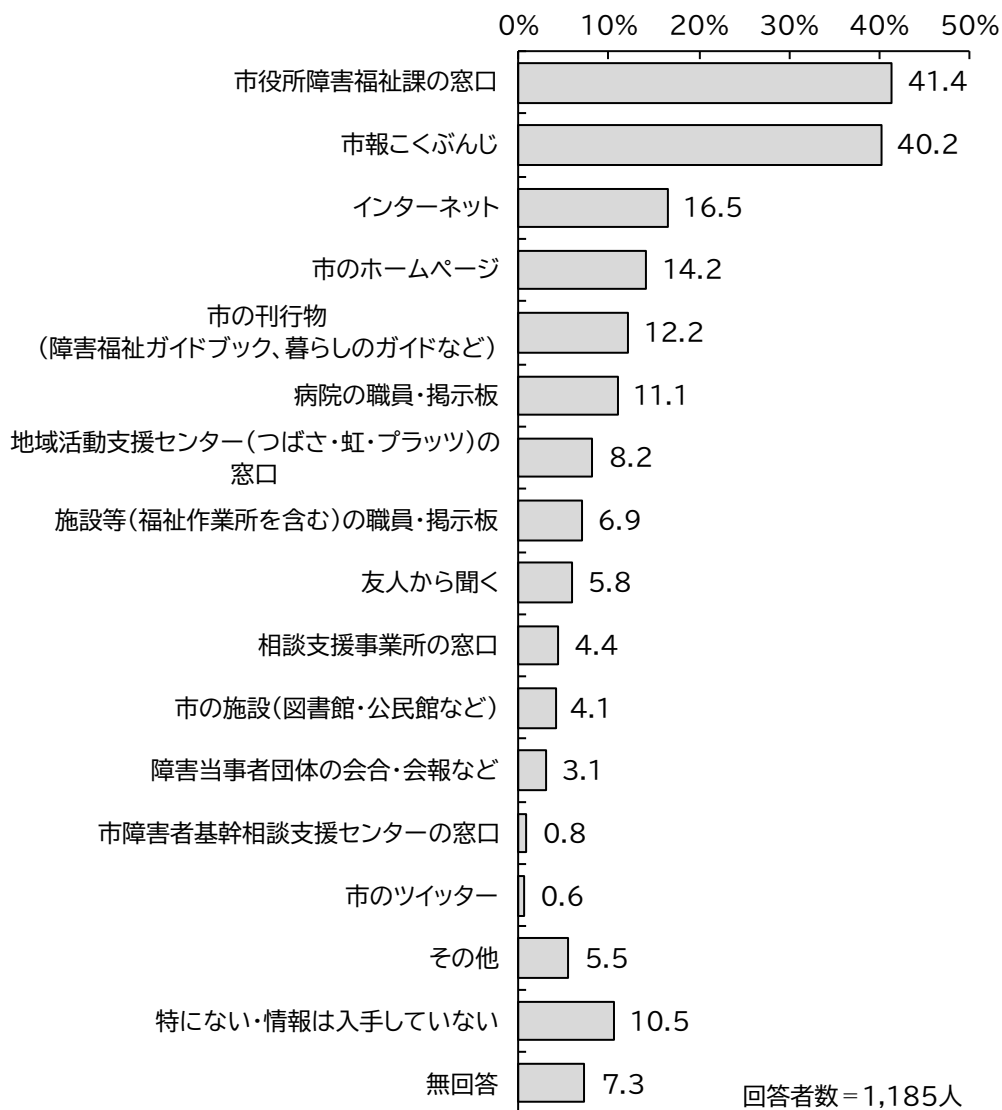
相談窓口・機関の満足度について聞いたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた肯定的な回答『満足』の割合が高い項目については、地域包括支援センター 86.2%、市役所障害福祉課 86.0%、相談支援事業所 80.1%、となっている。

一方、「あまり満足していない」と「不満である」を合わせた回答『不満』の割合が高い項目については、東京都発達障害者支援センター（世田谷区） 50.0%、東京都多摩難病相談・支援室（府中市） 45.5%、ハローワーク 36.3%となっている。

(3) 福祉サービス等の情報の入手経路

問 40 あなた(ご本人)は、福祉サービス等に関する情報をどこから入手していますか。
(あてはまるものすべてに○)

図表 10-3-1 福祉サービス等の情報の入手経路



福祉サービス等の情報の入手経路について聞いたところ、「市役所障害福祉課の窓口」41.4%、「市報こくぶんじ」40.2%が4割台となっている。次いで、「インターネット」16.5%、「市のホームページ」14.2%、「市の刊行物(障害福祉ガイドブック、暮らしのガイドなど)」12.2%、「病院の職員・掲示板」11.1%と続いている。

一方、「特にない・情報は入手していない」は10.5%で、約1割になっている。

図表 10-3-2 福祉サービス等の情報の入手経路〔年齢別・障害種別〕

		回答者数(人)	市役所障害福祉課の窓口	市報こくぶんじ	インターネット	市のホームページ	市の刊行物	病院の職員・掲示板	地域活動支援センターの窓口	施設等(福祉作業所を含む)の職員・掲示板	友人から聞く
全体		1,185	41.4%	40.2%	16.5%	14.2%	12.2%	11.1%	8.2%	6.9%	5.8%
年齢別	18～39歳	192	46.9%	28.1%	29.2%	23.4%	14.6%	11.5%	12.0%	13.5%	10.9%
	40～64歳	369	42.3%	39.6%	26.6%	22.0%	12.7%	11.7%	13.0%	11.1%	4.1%
	65～74歳	201	45.8%	48.8%	11.4%	11.4%	13.9%	11.9%	6.0%	2.5%	3.0%
	75歳以上	407	35.6%	42.0%	3.7%	3.9%	9.1%	9.8%	3.4%	2.2%	6.4%
障害種別	身体障害者手帳所持者	688	42.4%	42.4%	14.5%	11.9%	13.2%	10.2%	4.5%	3.6%	6.1%
	愛の手帳所持者	160	34.4%	28.1%	9.4%	5.6%	14.4%	3.8%	20.6%	26.3%	10.0%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	232	47.8%	37.1%	24.1%	18.5%	10.3%	17.2%	16.4%	9.9%	6.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	27	22.2%	14.8%	29.6%	14.8%	11.1%	7.4%	11.1%	7.4%	11.1%
	発達障害の診断あり	69	42.0%	31.9%	27.5%	21.7%	15.9%	8.7%	15.9%	10.1%	4.3%
	高次脳機能障害の診断あり	20	40.0%	45.0%	20.0%	15.0%	30.0%	0.0%	10.0%	5.0%	0.0%
	難病の診断あり	228	42.1%	41.7%	21.9%	21.1%	11.8%	14.9%	3.1%	1.8%	5.3%
	日常的に医療的ケアが必要	36	36.1%	33.3%	19.4%	8.3%	8.3%	19.4%	2.8%	11.1%	2.8%

		回答者数(人)	相談支援事業所の窓口	市の施設(図書館・公民館など)	障害当事者団体の会合・会報など	市障害者基幹相談支援センターの窓口	市のツイッター	その他	特になし・情報は入手していない	無回答
全体		1,185	4.4%	4.1%	3.1%	0.8%	0.6%	5.5%	10.5%	7.3%
年齢別	18～39歳	192	15.1%	5.2%	6.3%	1.0%	2.1%	11.5%	8.3%	2.6%
	40～64歳	369	3.8%	4.3%	3.0%	0.5%	0.5%	4.1%	12.2%	3.5%
	65～74歳	201	1.5%	2.5%	2.5%	0.5%	0.0%	5.0%	8.0%	9.0%
	75歳以上	407	1.2%	3.9%	2.2%	1.2%	0.2%	4.4%	11.3%	11.5%
障害種別	身体障害者手帳所持者	688	2.8%	4.5%	2.8%	0.9%	0.3%	5.1%	10.8%	8.1%
	愛の手帳所持者	160	17.5%	2.5%	8.1%	0.0%	1.3%	10.0%	11.9%	8.1%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	232	5.6%	5.6%	2.6%	1.7%	1.3%	7.8%	7.8%	6.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	27	3.7%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.8%	14.8%
	発達障害の診断あり	69	15.9%	11.6%	5.8%	2.9%	2.9%	11.6%	10.1%	4.3%
	高次脳機能障害の診断あり	20	10.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	5.0%	10.0%	20.0%
	難病の診断あり	228	2.6%	2.2%	2.2%	1.3%	0.0%	3.1%	11.4%	6.6%
	日常的に医療的ケアが必要	36	2.8%	5.6%	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	5.6%	11.1%

※網掛けは、全体の上位4位の選択肢

年齢別にみると、「市役所障害福祉課の窓口」は74歳以下で、「市報こくぶんじ」は65歳以上で4割台と他に比べて割合が高くなっている。「市のホームページ」「インターネット」は年齢が低いほど割合が高くなっている。

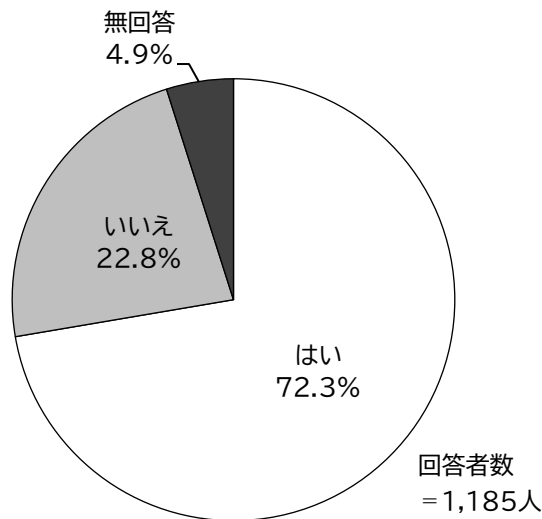
障害種別でみると、「市役所障害福祉課の窓口」は身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、発達障害の診断ありの方、高次脳機能障害の診断ありの方、難病の診断ありの方で、「市報こくぶんじ」は身体障害者手帳所持者、高次脳機能障害の診断ありの方と難病の診断ありの方で、4割台と他に比べて割合が高くなっている。

1 1. ヘルプマークとヘルプカードについて

(1) ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度

問 41 あなた（ご本人）はヘルプマークまたはヘルプカードを知っていますか。
(1つに○)

図表 11-1-1 ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度

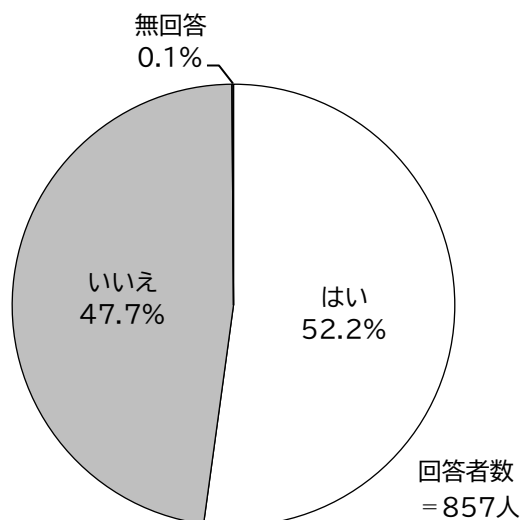


ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度について聞いたところ、「はい」は72.3%で7割以上となっている。「いいえ」は22.8%となっている。

(2) ヘルプマーク・ヘルプカード所持の有無

◆問 41 で「1. はい」と答えた方におたずねします。
問 42 あなた（ご本人）はヘルプマークまたはヘルプカードを持っていますか。
(1つに○)

図表 11-2-1 ヘルプマーク・ヘルプカード所持の有無

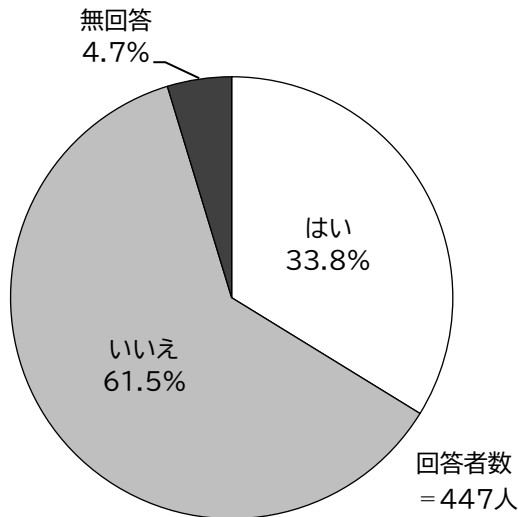


ヘルプマーク・ヘルプカード所持の有無について聞いたところ、「はい」は52.2%で5割以上となっている。「いいえ」は47.7%となっている。

(3) ヘルプマーク・ヘルプカードによる援助を受けた経験の有無

◆問 42 で「1. はい」と答えた方におたずねします。
 問 43 あなた（ご本人）はヘルプマークまたはヘルプカードを使用することで、周囲の手助けが受けられたことはありますか。（電車、バスで優先席に座りやすくなったなど）（1つに○）

図表 11-3-1 ヘルプマーク・ヘルプカードによる援助を受けた経験の有無

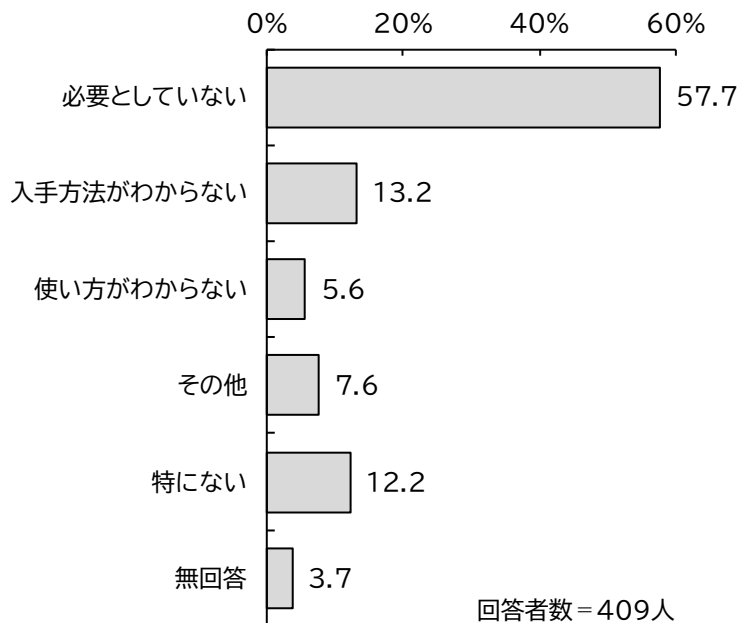


ヘルプマーク・ヘルプカードによる援助を受けた経験の有無について聞いたところ、「いいえ」は61.5%で6割以上となっている。「はい」は33.8%となっている。

(4) ヘルプマーク・ヘルプカードを持っていない理由

◆問 42 で「2. いいえ」と答えた方におたずねします。
 問 44 ヘルプマークまたはヘルプカードを持っていない理由は何ですか。（1つに○）

図表 11-4-1 ヘルプマーク・ヘルプカードを持っていない理由



ヘルプマーク・ヘルプカードを持っていない理由について聞いたところ、「必要としていない」57.7%が最も高く6割近くになっている。次いで、「入手方法がわからない」13.2%、「使い方がわからない」5.6%の順になっている。

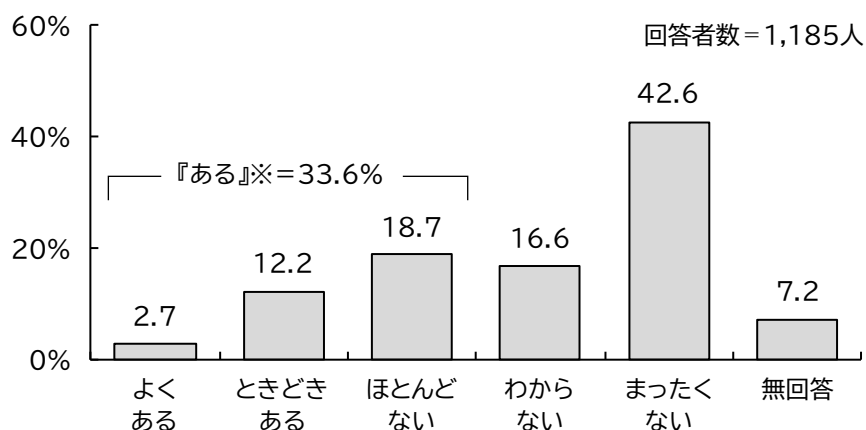
一方、「特にない」は12.2%となっている。

12. 障害を理由とする差別について

(1) 障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無

問 45 あなた（ご本人）は過去3年の間に障害があるために差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。（1つに○）

図表 12-1-1 障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無



※『ある』 = 「よくある」 + 「ときどきある」 + 「ほとんどない」

障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無について聞いたところ、「まったくない」42.6%で最も高く、4割以上となっている。次いで「ほとんどない」18.7%、「わからない」16.6%、「ときどきある」12.2%、「よくある」2.7%の順になっている。

「よくある」「ときどきある」「ほとんどない」を合わせた『ある』は33.6%となっている。

図表 12-1-2 障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無〔年齢別・障害種別〕

		回答者数 (人)	よくある	ときどきある	ほとんどない	わからない	まったくない	無回答	『ある』
全体		1,185	2.7%	12.2%	18.7%	16.6%	42.6%	7.2%	33.6%
年齢別	18～39歳	192	4.7%	25.0%	13.0%	25.0%	28.1%	4.2%	42.7%
	40～64歳	369	4.3%	14.6%	18.4%	20.9%	37.7%	4.1%	37.3%
	65～74歳	201	2.0%	10.4%	16.4%	14.9%	47.3%	9.0%	28.8%
	75歳以上	407	0.7%	4.4%	22.6%	9.8%	52.1%	10.3%	27.7%
障害種別	身体障害者手帳所持者	688	1.7%	8.0%	21.4%	12.5%	48.5%	7.8%	31.1%
	愛の手帳所持者	160	2.5%	18.8%	17.5%	34.4%	21.3%	5.6%	38.8%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	232	6.5%	23.7%	18.5%	19.8%	24.1%	7.3%	48.7%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	27	11.1%	18.5%	25.9%	18.5%	22.2%	3.7%	55.5%
	発達障害の診断あり	69	4.3%	26.1%	11.6%	31.9%	18.8%	7.2%	42.0%
	高次脳機能障害の診断あり	20	10.0%	20.0%	15.0%	30.0%	25.0%	0.0%	45.0%
	難病の診断あり	228	2.2%	7.0%	17.5%	11.8%	54.8%	6.6%	26.7%
日常的に医療的ケアが必要	36	0.0%	13.9%	8.3%	30.6%	38.9%	8.3%	22.2%	

※網掛けは、上位1位の選択肢

※『ある』＝「よくある」＋「ときどきある」＋「ほとんどない」

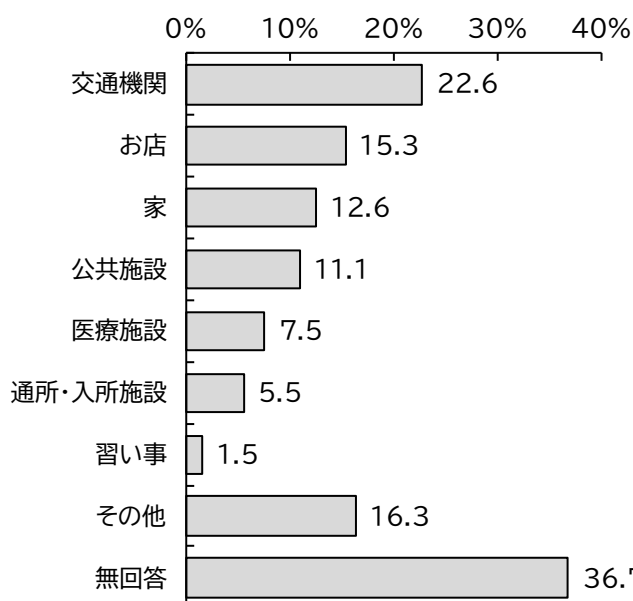
障害種別にみると、「よくある」「ときどきある」「ほとんどない」を合わせた『ある』は、手帳未所持で精神疾患の診断ありの方の55.5%が最も高かった。次いで、精神障害者保健福祉手帳所持者48.7%、高次脳機能障害の診断ありの方45.0%と続いている。

(2) 差別やいやな思いを受けた場所

◆問 45 で「1. よくある」「2. ときどきある」「3. ほとんどない」と答えた方におたずねします。

問 46 あなた(ご本人)はどこで、だれから、どのようなことで差別を受けたり、いやな思いをしましたか。また、どこに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

図表 12-2-1 差別やいやな思いを受けた場所



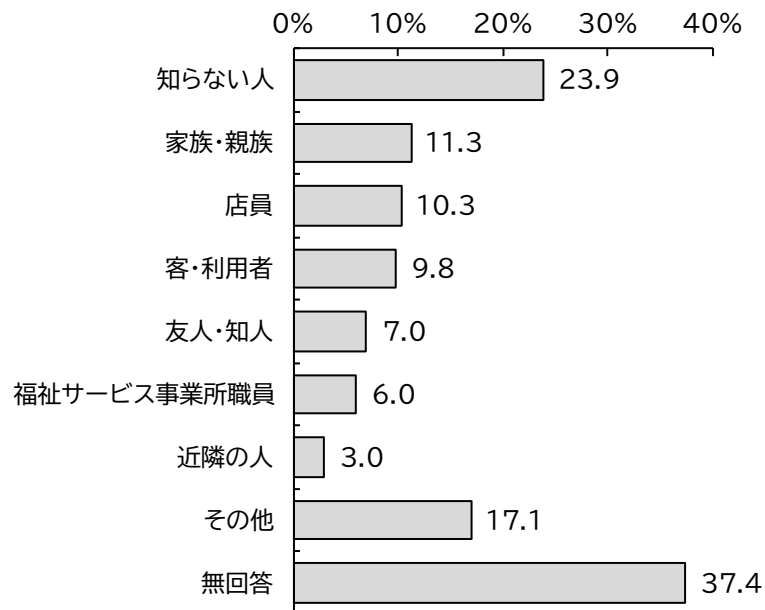
回答者数 = 398人

差別やいやな思いを受けた場所について聞いたところ、「交通機関」22.6%が最も高く、次いで、「お店」15.3%、「家」12.6%、「公共施設」11.1%、「医療施設」7.5%、「通所・入所施設」5.5%、「習い事」1.5%の順になっている。

「その他」16.3%では、具体的に「職場」「仕事場」「就労先」などが多く記載されている。

(3) 差別やいやな思いを受けた相手

図表 12-3-1 差別やいやな思いを受けた相手



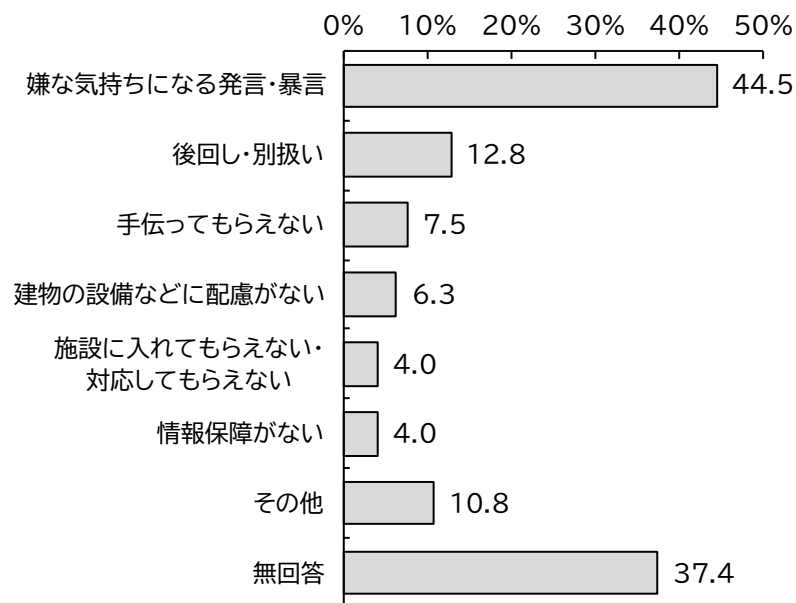
回答者数 = 398人

差別やいやな思いを受けた相手について聞いたところ、「知らない人」23.9%が最も高く、次いで、「家族・親族」11.3%、「店員」10.3%、「客・利用者」9.8%と続いている。

「その他」17.1%では、具体的に「職場の人（同僚、上司等）」「医師」「バスの運転手等」などが多く記載されている。

(4) 差別やいやな思いを受けた内容

図表 12-4-1 差別やいやな思いを受けた内容



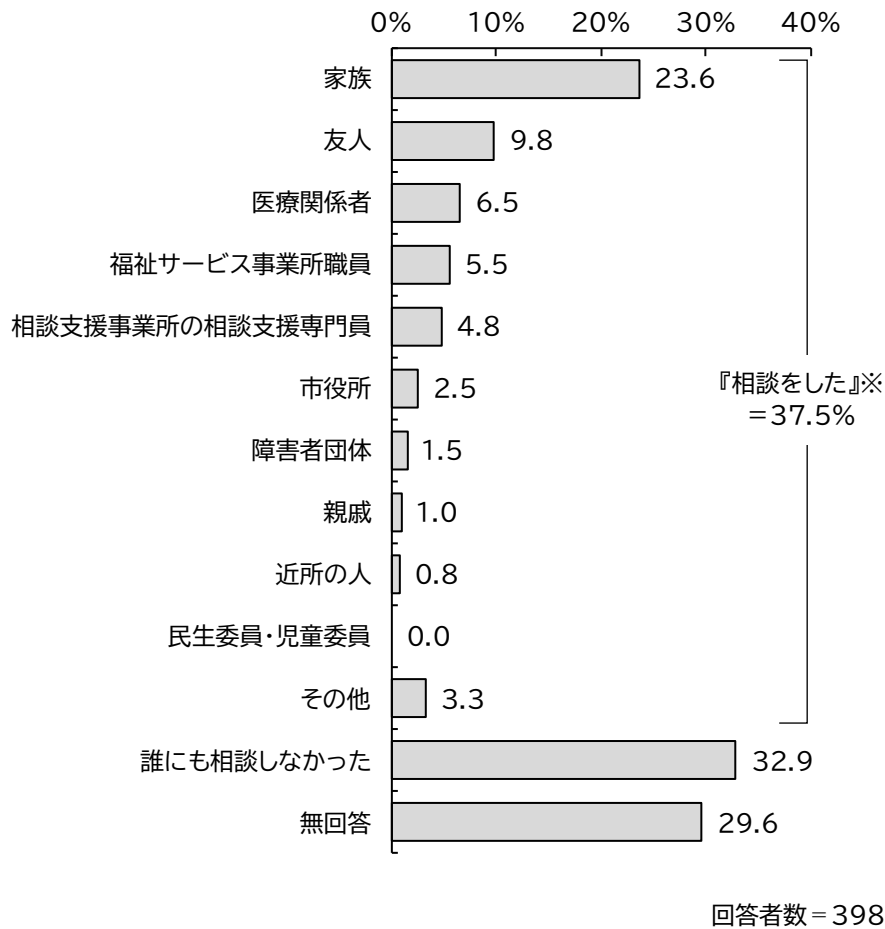
回答者数 = 398人

差別やいやな思いを受けた内容について聞いたところ、「嫌な気持ちになる発言・暴言」44.5%が最も高く、4割半ばになっている。次いで、「後回し・別扱い」12.8%、「手伝ってもらえない」7.5%と続いている。

「その他」10.8%では、具体的に「見下した表情、態度、視線」などが多く記載されている。

(5) 差別やいやな思いを受けた時の相談先

図表 12-5-1 差別やいやな思いを受けた時の相談先



※『相談をした』 = 100% - 「誰にも相談しなかった」 - 「無回答」

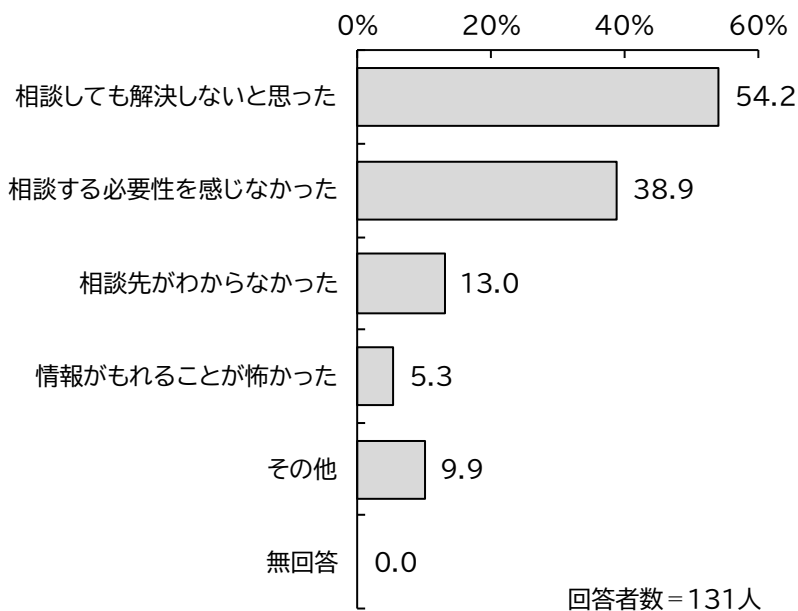
差別やいやな思いを受けた時の相談先について聞いたところ、「誰にも相談しなかった」32.9%が最も高く、3割以上となっている。

一方、具体的な選択肢の中では、「家族」23.6%が最も高く、2割以上となっている。次いで、「友人」9.8%、「医療関係者」6.5%、「福祉サービス事業所職員」5.5%と続いている。

(6) 差別やいやな思いを受けたが相談しなかった理由

◆問 46 の相談先で「12. 誰にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。
問 47 相談しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 12-6-1 差別やいやな思いを受けたが相談しなかった理由



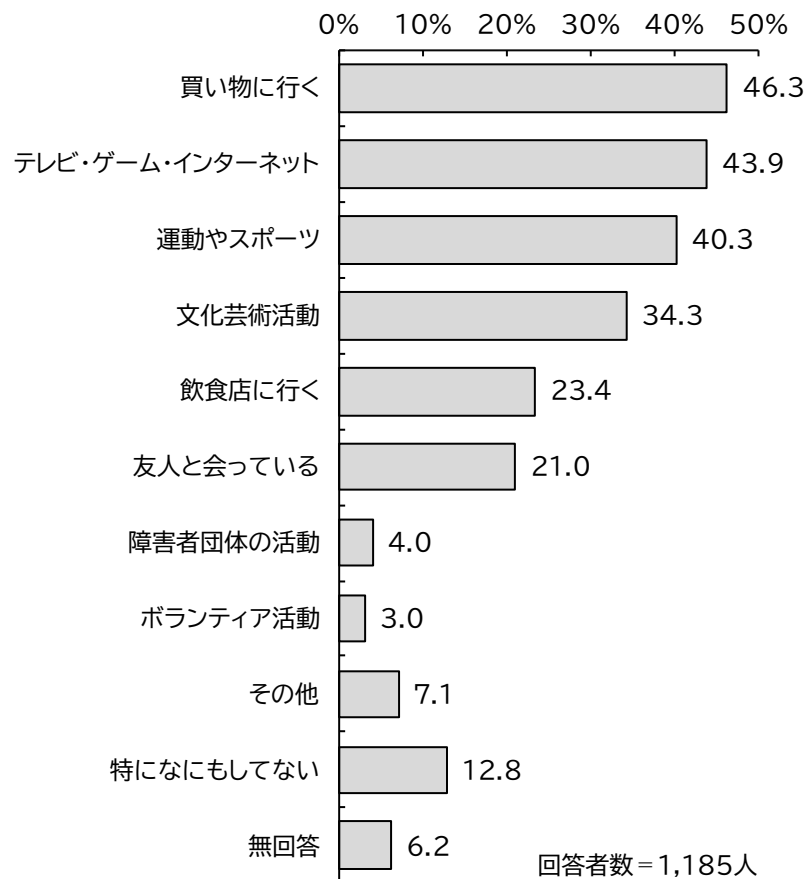
差別やいやな思いを受けたが相談しなかった理由について聞いたところ、「相談しても解決しなかった」54.2%が最も高く、5割半ばとなっている。次いで、「相談する必要性を感じなかった」38.9%、「相談先がわからなかった」13.0%、「情報がもれることが怖かった」5.3%の順になっている。

13. 余暇活動について

(1) 余暇の過ごし方

問 48 あなた（ご本人）は、就労・通所・学校以外の時間でどのようなことをして過ごしていることが多いですか。（あてはまるものすべてに○）

図表 13-1-1 余暇の過ごし方



余暇の過ごし方について聞いたところ、「買い物に行く」46.3%が最も高く、5割近くになっている。次いで、「テレビ・ゲーム・インターネット」43.9%、「運動やスポーツ」40.3%、「文化芸術活動」34.3%、「飲食店に行く」23.4%、「友人と会っている」21.0%と続いている。

一方、「特になにもしてない」は12.8%となっている。

図表 13-1-2 余暇の過ごし方〔障害種別〕

		回答者数(人)	買い物に行く	テレビ・ゲーム・インターネット	運動やスポーツ	文化芸術活動	飲食店に行く	友人と会っている
全体		1,185	46.3%	43.9%	40.3%	34.3%	23.4%	21.0%
障害種別	身体障害者手帳所持者	688	44.2%	37.4%	38.4%	33.4%	20.9%	21.5%
	愛の手帳所持者	160	41.3%	58.1%	43.8%	28.8%	21.9%	11.3%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	232	50.0%	54.7%	47.0%	39.2%	25.0%	22.8%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	27	33.3%	44.4%	37.0%	18.5%	18.5%	25.9%
	発達障害の診断あり	69	52.2%	72.5%	46.4%	34.8%	29.0%	14.5%
	高次脳機能障害の診断あり	20	25.0%	55.0%	45.0%	20.0%	15.0%	15.0%
	難病の診断あり	228	48.7%	43.4%	34.2%	37.7%	26.3%	24.1%
	日常的に医療的ケアが必要	36	8.3%	25.0%	22.2%	25.0%	8.3%	11.1%

		回答者数(人)	障害者団体の活動	ボランティア活動	その他	特になにもしてない	無回答
全体		1,185	4.0%	3.0%	7.1%	12.8%	6.2%
障害種別	身体障害者手帳所持者	688	3.2%	3.2%	6.1%	14.8%	7.7%
	愛の手帳所持者	160	16.9%	0.6%	9.4%	8.8%	4.4%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	232	2.6%	3.9%	8.2%	9.1%	3.9%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	27	3.7%	3.7%	7.4%	22.2%	7.4%
	発達障害の診断あり	69	8.7%	5.8%	11.6%	5.8%	1.4%
	高次脳機能障害の診断あり	20	0.0%	5.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	難病の診断あり	228	2.2%	3.1%	7.0%	13.2%	6.1%
	日常的に医療的ケアが必要	36	0.0%	0.0%	11.1%	38.9%	8.3%

※網掛けは、上位1位の選択肢

障害種別でみると、「テレビ・ゲーム・インターネット」は、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、手帳未所持で精神疾患の診断ありの方、発達障害の診断ありの方、高次脳機能障害の診断ありの方でそれぞれ第1位となっている。その中で、発達障害の診断ありの方は72.5%で7割以上と他に比べて割合が高くなっている。

身体障害者手帳所持者と難病の診断ありの方の第1位は「買い物に行く」で、それぞれ44.2%、48.7%となっている。

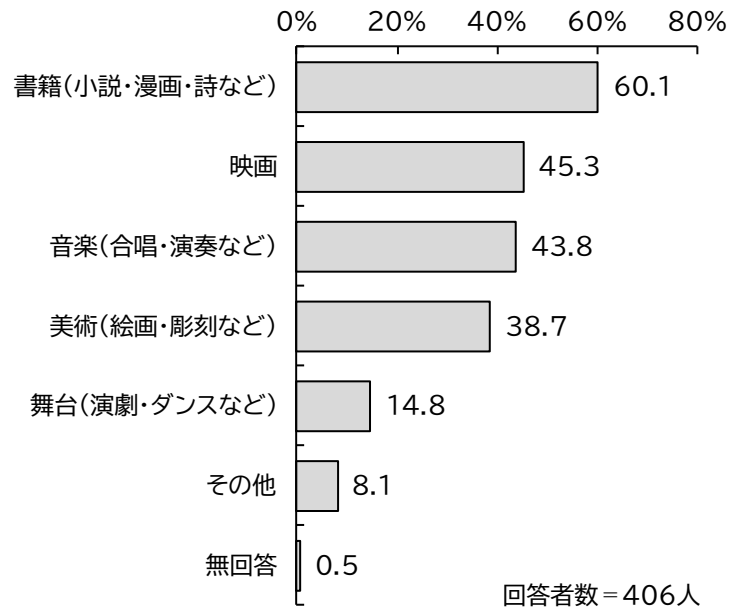
日常的に医療的ケアが必要な方の第1位は「特になにもしてない」で38.9%と、4割近くになっている。

(2) 過去1年間の文化芸術活動の種類

◆問48で「6. 文化芸術活動」と答えた方におたずねします。

問49 あなた(ご本人)は、過去1年間にどの文化芸術を見たり、作ったり、楽しんだりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 13-2-1 過去1年間の文化芸術活動の種類



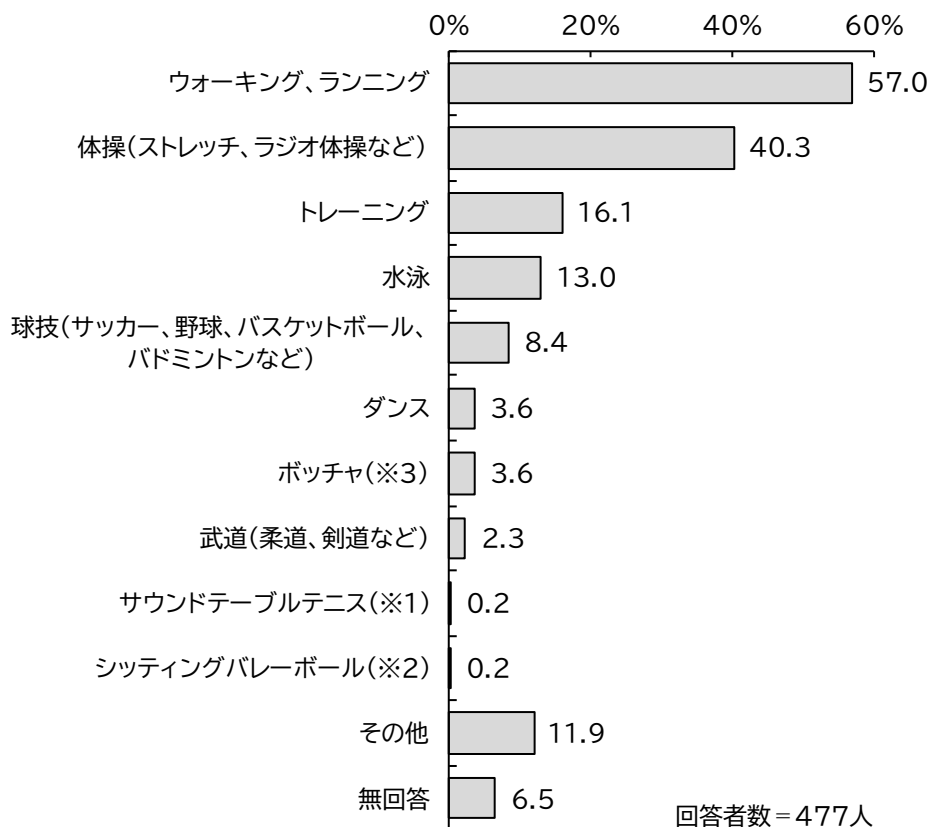
過去1年間の文化芸術活動の種類について聞いたところ、「書籍(小説・漫画・詩など)」60.1%が最も高く、約6割となっている。次いで、「映画」45.3%、「音楽(合唱・演奏など)」43.8%、「美術(絵画・彫刻など)」38.7%、「舞台(演劇・ダンスなど)」14.8%の順になっている。

(3) 過去1年間の運動やスポーツ経験の有無

◆問48で「7. 運動やスポーツ」と答えた方におたずねします。

問50 あなた(ご本人)は、過去1年の間にどの運動やスポーツを行ったことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 13-3-1 過去1年間の運動やスポーツ経験の有無



※1 視覚障害の方が行う卓球です。卓球台のネットの下があいており、ネットの下にボールを転がして競技を行います。目隠しを着用し、転がると音が出るボールを使用します。

※2 座った姿勢のままで行うバレーボールです。

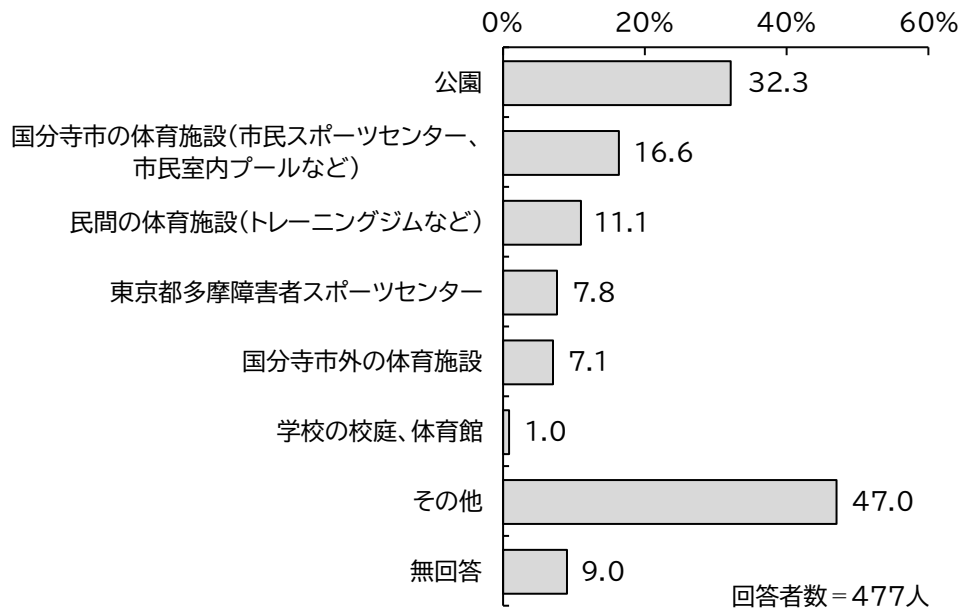
※3 最初にジャックボールと呼ばれる白いボールを投げ、続いて赤と青の各6個のボールを投げて、どれだけジャックボールに近いところにボールを置くことができるかを競います。

過去1年間の運動やスポーツ経験の有無について聞いたところ、「ウォーキング、ランニング」57.0%が最も高く、6割近くになっている。次いで、「体操(ストレッチ、ラジオ体操など)」40.3%、「トレーニング」16.1%、「水泳」13.0%と続いている。

(4) 運動やスポーツをする場所

問 51 あなた（ご本人）が運動をする場所はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

図表 13-4-1 運動やスポーツをする場所



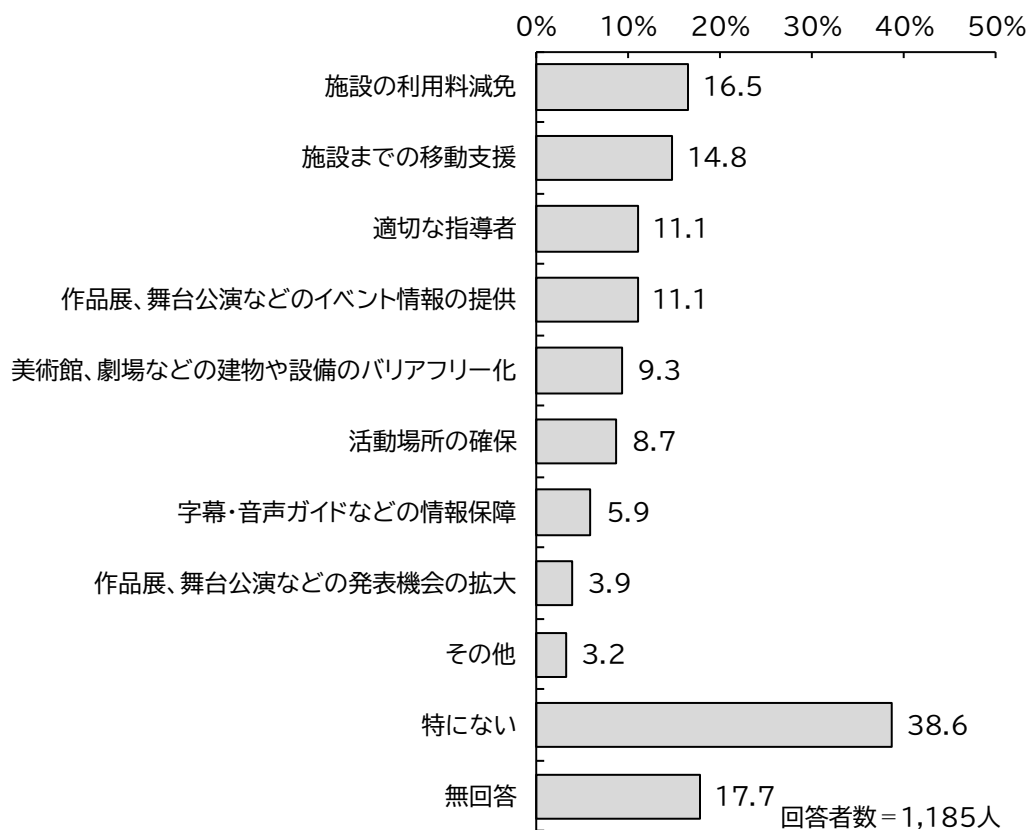
運動やスポーツをする場所について聞いたところ、「公園」32.3%が最も高く、次いで、「国分寺市の体育施設（市民スポーツセンター、市民室内プールなど）」16.6%、「民間の体育施設（トレーニングジムなど）」11.1%と続いている。

「その他」47.0%では、具体的に「家・自宅」「近所」「歩道、緑道」などが多く記載されている。

(5) 文化芸術活動に関わるために必要な支援

問 52 あなた（ご本人）が、文化芸術活動に関わるために必要な支援は何（なん）ですか。
（あてはまるものすべてに○）

図表 13-5-1 文化芸術活動に関わるために必要な支援



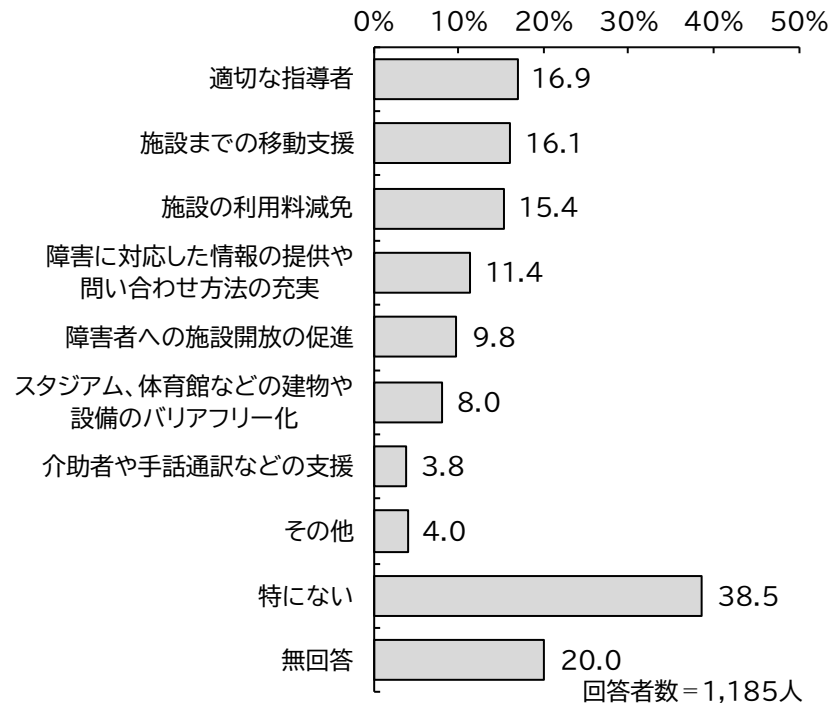
文化芸術活動に関わるために必要な支援について聞いたところ、「施設の利用料減免」16.5%が最も高く、次いで、「施設までの移動支援」14.8%、「適切な指導者」と「作品展、舞台公演などのイベント情報の提供」が11.1%と続いている。

一方、「特にない」が38.6%で、4割近くになっている。

(6) 運動やスポーツを行うために必要な支援

問 53 あなた（ご本人）が、運動やスポーツを行うために必要な支援は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

図表 13-6-1 運動やスポーツを行うために必要な支援



運動やスポーツを行うために必要な支援について聞いたところ、「適切な指導者」16.9%が最も高く、次いで、「施設までの移動支援」16.1%、「施設の利用料減免」15.4%、「障害に対応した情報の提供や問い合わせ方法の充実」11.4%と続いている。

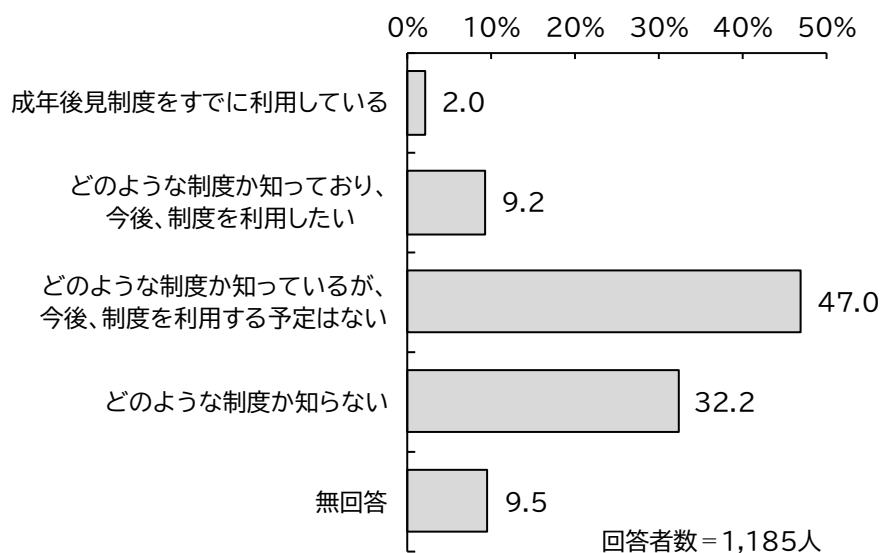
一方、「特にない」が38.5%で、4割近くになっている。

14. 成年後見人制度について

(1) 成年後見人制度の認知度と利用意向

問 54 あなた（ご本人）は、成年後見制度を知っていますか。また、利用したいですか。
(1つに○)

図表 14-1-1 成年後見人制度の認知度と利用意向



成年後見人制度の認知度と利用意向について聞いたところ、「どのような制度か知っているが、今後、制度を利用する予定はない」47.0%が最も高く、5割近くになっている。次いで、「どのような制度か知らない」32.2%、「どのような制度か知っており、今後、制度を利用したい」9.2%、「成年後見制度をすでに利用している」2.0%の順になっている。

図表 14-1-2 成年後見人制度の認知度と利用意向〔年齢別・障害種別〕

		回答者数(人)	成年後見制度をすでに利用している	今後、制度を利用したい	どのような制度か知っており、 今後、制度を利用する予定はない	どのような制度か知らない	無回答
全体		1,185	2.0%	9.2%	47.0%	32.2%	9.5%
年齢別	18～39歳	192	3.1%	15.6%	34.4%	45.3%	1.6%
	40～64歳	369	2.7%	11.9%	44.7%	36.6%	4.1%
	65～74歳	201	2.0%	5.0%	50.2%	30.8%	11.9%
	75歳以上	407	1.0%	5.9%	53.3%	23.1%	16.7%
障害種別	身体障害者手帳所持者	688	1.0%	6.1%	52.0%	28.3%	12.5%
	愛の手帳所持者	160	6.9%	25.0%	23.1%	39.4%	5.6%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	232	2.2%	9.9%	39.7%	43.1%	5.2%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	27	3.7%	11.1%	29.6%	48.1%	7.4%
	発達障害の診断あり	69	4.3%	14.5%	26.1%	50.7%	4.3%
	高次脳機能障害の診断あり	20	0.0%	10.0%	50.0%	40.0%	0.0%
	難病の診断あり	228	0.9%	6.6%	55.3%	28.9%	8.3%
	日常的に医療的ケアが必要	36	2.8%	11.1%	47.2%	30.6%	8.3%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、18～39歳は「どのような制度か知らない」の割合が最も高く、40歳以上では「どのような制度か知っているが、今後、制度を利用する予定はない」が最も高く、年齢が高くなるほど割合が高くなっている。

障害種別でみると、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、手帳未所持で精神疾患の診断ありの方、発達障害の診断ありの方は「どのような制度か知らない」の割合が最も高く、身体障害者手帳所持者、高次脳機能障害の診断ありの方、難病の診断ありの方、日常的に医療的ケアが必要な方は、「どのような制度か知っているが、今後、制度を利用する予定はない」が最も高くなっている。

愛の手帳所持者は「どのような制度か知っており、今後、制度を利用したい」が25.0%で、他に比べて割合が高くなっている。

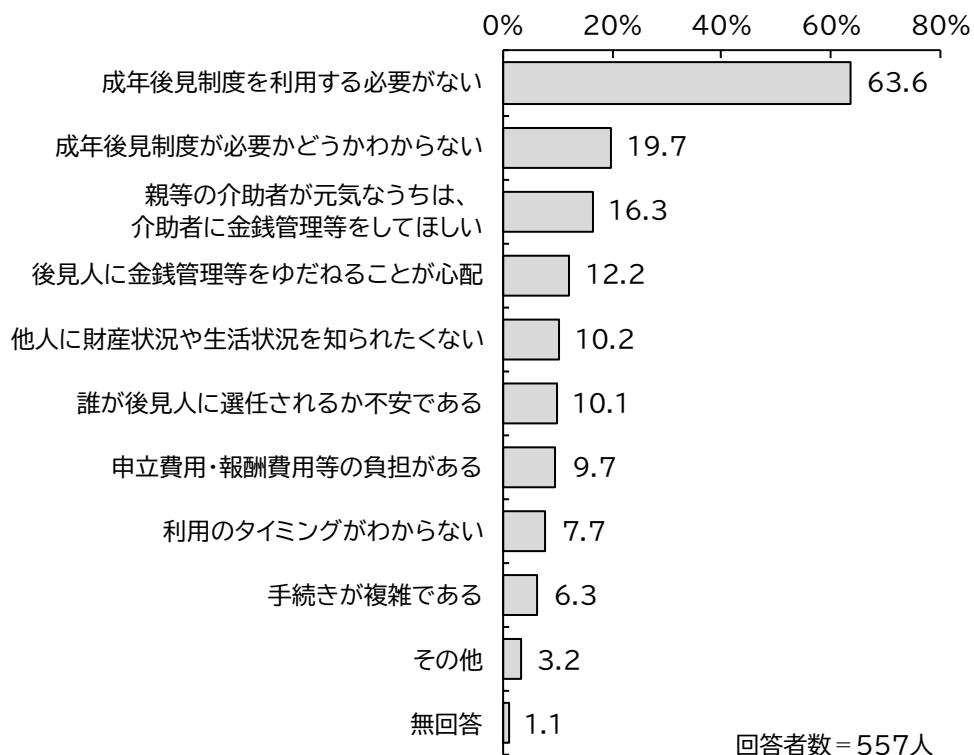
(2) 成年後見人制度を利用しない理由

◆問 54 で「3. どのような制度か知っているが、今後、制度を利用する予定はない」と答えた方におたずねします。

問 55 あなた（ご本人）が、成年後見制度を利用しない理由は何ですか。

(主なもの3つまで○)

図表 14-2-1 成年後見人制度を利用しない理由



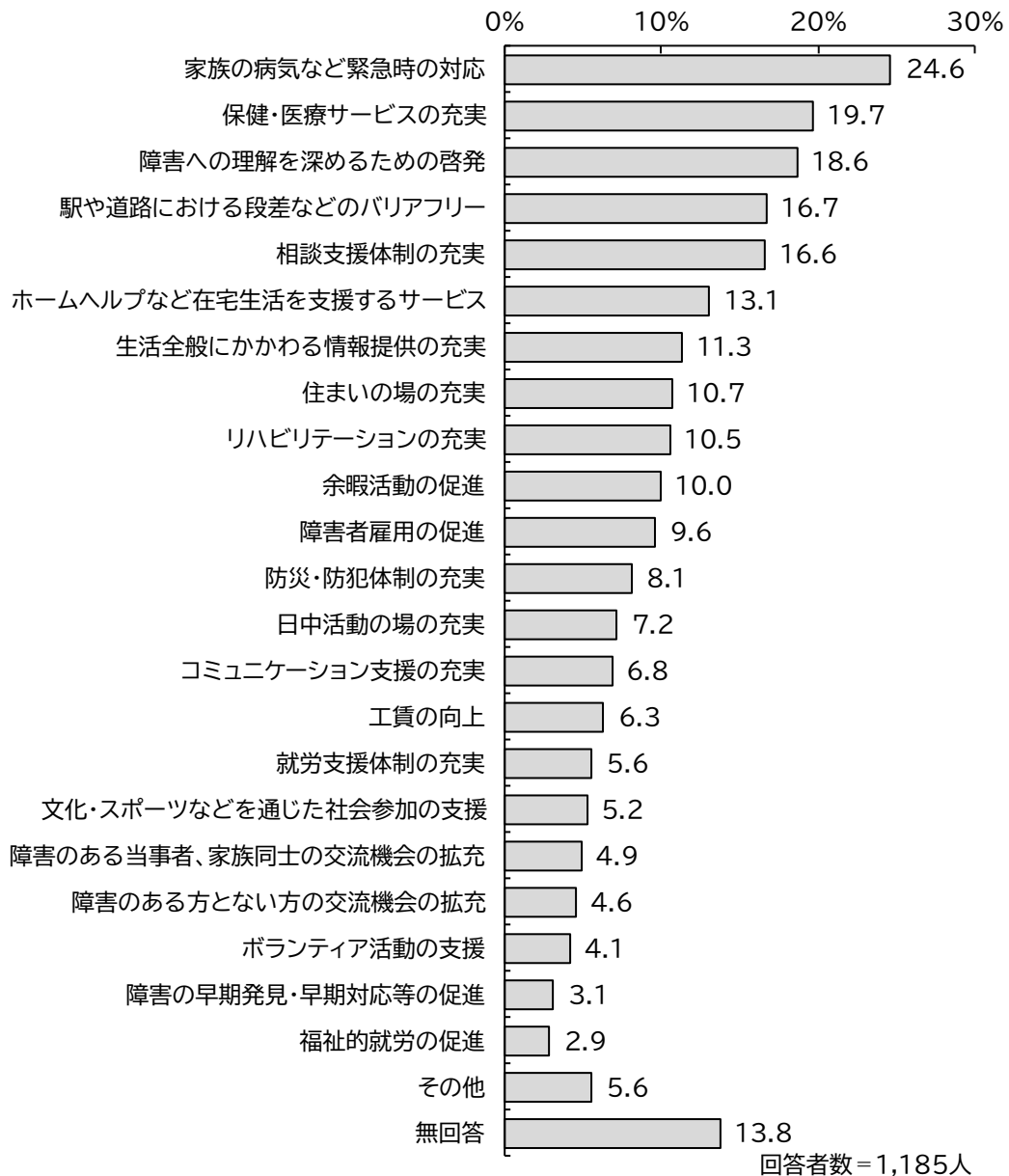
成年後見人制度を利用しない理由について聞いたところ、「成年後見制度を利用する必要がない」63.6%が最も高く、6割以上となっている。次いで、「成年後見制度が必要かどうかわからない」19.7%、「親等の介助者が元気なうちは、介助者に金銭管理等をしてほしい」16.3%、「後見人に金銭管理等をゆだねることが心配」12.2%、「他人に財産状況や生活状況を知られたくない」10.2%、「誰が後見人に選任されるか不安である」10.1%と続いている。

15. 全体的な施策について

(1) 暮らしのために充実してほしいこと

問56 あなた（ご本人）が暮らしやすくなるために、充実してほしいことは何ですか。
（主なもの3つまで○）

図表 15-1-1 暮らしのために充実してほしいこと



暮らしのために充実してほしいことについて聞いたところ、「家族の病気など緊急時の対応」24.6%が最も高く、次いで、「保健・医療サービスの充実」19.7%、「障害への理解を深めるための啓発」18.6%、「駅や道路における段差などのバリアフリー」16.7%、「相談支援体制の充実」16.6%、

「ホームヘルプなど在宅生活を支援するサービス」13.1%、「生活全般にかかわる情報提供の充実」11.3%、「住まいの場の充実」10.7%、「リハビリテーションの充実」10.5%、「余暇活動の促進」10.0%と続いている。

第2章 調査結果(一般)

図表 15-1-2 暮らしのために充実してほしいこと〔年齢別・障害種別〕

		回答者数(人)	家族の病気など緊急時の対応	保健・医療サービスの充実	障害への理解を深めるための啓発	駅や道路における段差などのバリアフリー	相談支援体制の充実	ホームヘルプなど在宅生活を支援するサービス	生活全般にかかわる情報提供の充実	住まいの場の充実	リハビリテーションの充実
全体		1,185	24.6%	19.7%	18.6%	16.7%	16.6%	13.1%	11.3%	10.7%	10.5%
年齢別	18～39歳	192	25.0%	18.2%	31.8%	7.8%	22.4%	6.3%	10.4%	17.2%	3.1%
	40～64歳	369	22.5%	21.7%	24.9%	14.6%	20.3%	8.1%	13.3%	11.1%	8.4%
	65～74歳	201	18.4%	16.4%	13.9%	20.9%	12.9%	12.4%	12.9%	13.9%	8.5%
	75歳以上	407	29.2%	19.7%	9.6%	20.6%	12.8%	20.9%	8.8%	5.4%	16.7%
障害種別	身体障害者手帳所持者	688	23.0%	19.5%	15.7%	21.8%	14.5%	14.7%	11.9%	9.4%	13.8%
	愛の手帳所持者	160	35.0%	9.4%	28.8%	7.5%	17.5%	6.3%	4.4%	20.6%	4.4%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	232	20.7%	15.1%	28.0%	8.6%	24.6%	9.9%	10.8%	10.8%	3.9%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	27	29.6%	3.7%	14.8%	7.4%	22.2%	7.4%	18.5%	11.1%	3.7%
	発達障害の診断あり	69	17.4%	11.6%	39.1%	0.0%	15.9%	8.7%	7.2%	21.7%	0.0%
	高次脳機能障害の診断あり	20	30.0%	5.0%	35.0%	35.0%	20.0%	10.0%	20.0%	10.0%	45.0%
	難病の診断あり	228	27.6%	28.5%	14.5%	21.5%	16.2%	17.1%	13.6%	9.2%	12.7%
	日常的に医療的ケアが必要	36	22.2%	30.6%	8.3%	22.2%	30.6%	27.8%	11.1%	11.1%	22.2%

		回答者数(人)	余暇活動の促進	障害者雇用の促進	防災・防犯体制の充実	日中活動の場の充実	コミュニケーション支援の充実	工賃の向上	就労支援体制の充実	文化・スポーツなどを通じた社会参加の支援	障害のある当事者、家族同士の交流機会の拡充
全体		1,185	10.0%	9.6%	8.1%	7.2%	6.8%	6.3%	5.6%	5.2%	4.9%
年齢別	18～39歳	192	15.1%	20.8%	5.7%	11.5%	8.3%	19.3%	13.0%	5.7%	8.3%
	40～64歳	369	10.6%	15.7%	8.4%	8.1%	10.3%	8.4%	8.7%	5.1%	6.8%
	65～74歳	201	9.0%	3.5%	7.5%	5.0%	4.0%	2.5%	2.5%	4.0%	3.0%
	75歳以上	407	6.6%	2.2%	9.6%	4.9%	4.4%	0.0%	0.7%	5.4%	2.5%
障害種別	身体障害者手帳所持者	688	8.0%	7.0%	8.6%	5.2%	7.1%	1.9%	2.8%	5.8%	3.6%
	愛の手帳所持者	160	20.6%	10.0%	8.8%	16.9%	8.8%	19.4%	10.6%	6.3%	5.0%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	232	10.8%	24.1%	4.7%	9.1%	8.6%	12.1%	11.6%	5.2%	11.2%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	27	7.4%	7.4%	3.7%	14.8%	18.5%	7.4%	14.8%	11.1%	3.7%
	発達障害の診断あり	69	14.5%	17.4%	7.2%	11.6%	8.7%	15.9%	15.9%	7.2%	7.2%
	高次脳機能障害の診断あり	20	0.0%	25.0%	5.0%	5.0%	10.0%	5.0%	5.0%	20.0%	15.0%
	難病の診断あり	228	4.8%	6.1%	8.3%	2.2%	4.4%	3.5%	3.5%	1.8%	2.2%
	日常的に医療的ケアが必要	36	5.6%	5.6%	13.9%	2.8%	2.8%	0.0%	0.0%	2.8%	2.8%

※網掛けは、上位3位の選択肢

		回答者数 (人)	障害のある方とない方 の交流機会の拡充	援 ボランティア活動の支 援	障害の早期発見・早期 対応等の促進	福祉的就労の促進	その他	無回答
全体		1,185	4.6%	4.1%	3.1%	2.9%	5.6%	13.8%
年齢別	18～39歳	192	9.4%	2.6%	5.7%	6.3%	7.3%	5.7%
	40～64歳	369	6.2%	5.7%	3.3%	5.1%	5.4%	6.5%
	65～74歳	201	2.5%	4.0%	3.0%	1.0%	7.5%	17.9%
	75歳以上	407	1.7%	3.2%	1.7%	0.2%	3.9%	21.9%
障害種別	身体障害者手帳所持者	688	3.5%	3.8%	2.5%	1.3%	5.5%	16.4%
	愛の手帳所持者	160	5.6%	5.0%	3.1%	6.9%	6.3%	10.0%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	232	8.2%	3.9%	4.3%	6.5%	7.8%	9.5%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	27	18.5%	7.4%	3.7%	7.4%	3.7%	14.8%
	発達障害の診断あり	69	11.6%	2.9%	5.8%	7.2%	11.6%	5.8%
	高次脳機能障害の診断あり	20	15.0%	5.0%	0.0%	10.0%	5.0%	0.0%
	難病の診断あり	228	2.6%	6.1%	4.8%	1.8%	3.9%	11.4%
	日常的に医療的ケアが必要	36	0.0%	0.0%	8.3%	2.8%	5.6%	13.9%

※網掛けは、上位3位の選択肢

年齢別にみると、18～39歳で「相談支援体制の充実」が22.4%、75歳以上で「ホームヘルプなど在宅生活を支援するサービス」20.9%、65歳以上で「駅や道路における段差などのバリアフリー」が2割台で、他に比べて割合が高くなっている。

障害種別でみると、愛の手帳所持者で「余暇活動の促進」が20.6%、愛の手帳所持者と発達障害の診断ありの方で「住まいの場の充実」が20.6%と21.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者で「障害者雇用の促進」が24.1%、高次脳機能障害の診断ありの方で「リハビリテーションの充実」が45.0%で、他に比べて割合が高くなっている。

16. 自由意見

問57 アンケート調査全体を通して、ご意見・ご要望（困っていること、改善してほしいこと等）がありましたら、ご記入ください。

アンケート調査全体を通してご意見やご要望を自由に記述していただいたところ、373件の様々な意見が寄せられた。その中から、内容を一定の分野ごとに整理し、その概要を示したものである。

(1) 相談支援体制及び関係機関のネットワーク

- 困った時に相談できる場所があること自体が私の日々の生活に安心感をあたえてくれています。
- 難病認定を受けており、病気のため少し疲れますが、難病申請に行くたびに、親切に対応していただき感謝しています。やさしさは、幸せになります。
- 困りごとのご意見箱・サイトがほしい。
- 障害年金の申請をしようと思っているが、専門的に相談できる場がなく困った。社労士に頼む方法は知っているが、お金がかかってしまうため、利用できない。
- 医療と福祉の連携、高齢期に入ってくると双方の支援が必要になってくる。うまく融合してその方に使いやすいものになってほしいです。
- 市役所が国分寺公園隣に移転後も、現在の市役所跡には、障害福祉課の分室を設けて、書類の提出や相談などが容易になるようにご配慮いただきたい。
- ネットで申請できるようになれば、わざわざ来庁しなくてもよくなる。コロナ禍で感染を気にすることがなくなる。
- 自立支援と障害者手帳の有効期限を前もってお知らせしてください。お願いします。
- 高齢者の福祉サービスへ移行することについて、障害の専門の知識が足りないと考えられるため、制度が整うよう、早く取り組んで確立させてほしい。
- 障害福祉はそれこそ一人ひとりのその時々状況にあわせ、オーダーメイドで作られていくべきものだと思います。ぜひ、一人ひとりに目が向いたきめ細やかな対応をしていただければと思います。
- 特定医療費（指定難病）受給者証の申請・延長手続きが複雑で面倒である。また、有効期間が短すぎる。
- 平日勤務しているので、17時以降や土日祝にも対応してほしい。
- 障害のある人間が障害のある人間を介助している場合の想定をしていただきたい。
- 精神障害者であるが、現在両親の介護で困っている。

(2) サービスの利用

- 支援を受けるまでの規定が厳しすぎる。
- 移動支援もヘルパーは希望した日にまわってこないことも多い。人手不足とのこともあるが、プールと一緒にいけたり、一緒に泳いだり、見守ったりできるようにしてください。
- 聴覚障害者で補聴器を使用していますが補聴器を買い替えたいが高額で手が出ない。分割払いができるようにするか、何か援助策はないか。
- 障害者でも一人暮らしがしたいです。一番の問題は収入と住宅の確保です。体調が悪くなったりすることがあるため、フルタイムでの就労が難しい現実があります。

(3) サービス提供体制の整備

- 8050 問題と共に、親亡き後の心配等、悩みはつきません。障害者施策の充実をよろしく願っています。
- 介護する私達も高齢になり、亡き後に多くの不安が残ります。残された障がい者の受け皿となる場所が充実することを願うばかりです。
- 居宅介護の支援は、同居家族がいる場合、共用部分が対象外になるが、我が家には共用部分しかないため、困っている。家族の背景や生きづらさを考慮してほしい。
- 市が中心となって重度知的障害者のグループホームを作してほしい。グループホームを作る時に、近隣の許可がおりないと作れないという制度はやめてほしい。市役所が積極的に近隣に理解を得る行動をしてほしい。
- 入所施設にいる方は、そこしか知らない方が多い。グループホームの体験ができるなど、“選択”ができる環境を作ってあげるなど、対策が必要かと思います。
- 障害者の利用施設を増設してほしい。
- 親亡き後も住み慣れた町でサポートを受けながら今の生活パターンで暮らしていきたい。そのために重度の知的障害が入れるグループホームを建設してほしい。

(4) 経済的支援

- 1人で生きていけるように金銭的な補助を充実してほしい（例えばグループホームの費用等）。
- 介護費用の一定額超の金額を税の控除対象としてほしい。
- 交通費の助成もタクシー券を交付してほしい。ショートステイ先の交通費も助成の対象にしてください。
- 私自身は今まで主に医療費補助（1割負担）で経済的に大変助かりました。
- 正社員で働いて収入はありますが、医療費が3割のため、働いていてもお金が残りません。手帳を持っている人に対して一律で1割になる事を希望します。
- 特殊疾病者福祉手当によって、生活の幅が広がった。対象者の所得制限額を拡大していただきたい。
- 難病の疑いがあるため、経過観察の医療費の負担補助があったらよい。

(5) 生涯学習・文化芸術・スポーツ・余暇活動

- 企業に就労している障害者のコミュニティーがない。あれば意見交換などしてみたい
- 健常者と一緒ではついていくのが難しいので、そんな人達の参加できるエクササイズプログラムなどを開催していただけると嬉しいです。
- 同じ障害を持つ経験者の知見を教え合う勉強会を開いてほしい。
- 余暇活動として芸術活動させるお金があるなら、芸術活動で食べていける障害者を支援すべき。

(6) 雇用・就業

- 就労移行支援など、より個人の特性に合わせた支援をしてほしい。就労するまでの間も生活できるようにしてほしい。
- 就労移行支援施設の利用期間を使い切った後が不安。利用期間を延ばすか、失業するごとにまたサービスが受けられるようにするなどしてほしい。
- 就労継続支援 B 型を利用しています。工賃が安いので、東京都の最低賃金に工賃が近づけるようにしてほしいです。1,000円（時給）位になると良いと思います。

第2章 調査結果(一般)

- 障害者がもっと気軽に働ける企業、公共団体、施設などがあればと思います。
- 体調に波があり、就労しても長く続けられず、就いたり、やめたりの繰り返し。ここから抜け出すためにどうしたら良いか分からず、毎日過ごしている。
- 私は発達障害を抱えながら、一般企業で働いています。苦手なことは配慮事項とし、得意なことを活かして、家庭環境も理解していただき、急なお休みを取りやすいおかげで長年勤務することができています。得意なことを活かして、自身の環境を理解してもらえ、相談できる方がいるなど、働きやすい企業がもっと増えることを望んでいます。

(7) 情報アクセシビリティ

- マイナンバーカードの読み取りで情報とか色々見れたら便利だろうと思った。
- 障害者支援や福祉サービス等の情報を配信するメールサービスの整備を希望します。各障害者施設に通っておらず、どういったサービスがあるか知らないことが多い。情報に触れられる場、ツールがあると便利である。
- 色々サービスがあるようですが、内容と費用を明確にして市のホームページで公開してほしい。イメージが湧くように。
- 新庁舎では館内放送などを文字情報で伝える設備をつけてほしい。特に災害時に必要だが、平時でもあると安心感がとてもある。

(8) 安全・安心

- 狭い道が多いので、もっと人が通れるように、自転車の人が歩道を通らないようにしてほしいです。とても危ないです。
- 現在、独居で自立生活ができているが、日ごとに老化が進むことに不安感をもっており、コロナ禍で特に人間関係が希薄になって孤独感がある。
- 最近、車椅子を使って散歩をしているが、坂が多く、途中でどうしようかと途方にくれることがしばしば。道路の細かな問題点等を見つけ改善してほしい。
- 災害が発生した時の対処の方法がわからないので不安です。
- 災害時等、有事の際の行動に関する指針、補助が受けられると嬉しい。
- 集合して避難が難しい人への在宅避難マニュアルを作ってほしいです(イラスト入りで)。在宅を希望する等、市役所に知ってもらいたいです。ぜひよろしくをお願いします。
- 信号機全てに音が出るようにしてほしい。また、駅のホームに扉をつけてほしいです。ホームの端にある点字ブロックを歩行するだけでも身体がフラフラしてしまいます。
- 点字ブロックの敷設が不十分。音声信号機の設置を増やしてほしい。建物の入り口やトイレ、会議室の入口に音声案内を設置してほしい。狭い歩道、人がすれ違うことができない所を拡げてほしい。
- 同居する家族が急病、コロナに感染(陽性)になり、入院等した時、障害者本人の生活を通常通り行えるよう支援していただけるか不安です。そのような時に、速やかに対応していただける仕組み・体制を整え、市民に周知してほしいです。
- 道がデコボコしすぎている。
- 緊急時(体調悪化などで)必要なサービスがすぐ利用できるよう、サービス利用の整備を見直してほしい。
- 入院時などに、身元保証人や緊急連絡先がなくて困る。
- 万が一の時の避難所に、トイレの数が少ないので、トイレの増設をお願いしたいです。

(9) 心のバリアフリー及び権利擁護

- ヘルプマーク・ヘルプカードの配布方法を見直してほしいです。周囲に驚くほどカードをつけている人を見かけます。自己申告のものですが、「言えばもらえる」という声も聞こえ、本来のカードの意味も周囲に届きにくくなっていると思います。
- マスクを着用し続ける事が困難です。どうしてもつけられない人(障害がある人や呼吸機能に問題があるなど)がいる事を、周知してほしい。
- 障害のある人とない人が集うことにより、理解が生まれ、障害が障害でなくなる。社会的弱者が住みやすい街づくりをすれば、すべての人にとって住みやすい街になると思う。
- 障害のある人の集まりに参加すると、一見、障害があるように見られないため疎外感を感じる。健常者の集まりに参加すると変わった人と捉えられて、やはり疎外感を感じる。
- 精神障害や神経症に対する社会の理解がもっと広まってほしい。外見でわからないので、いつも苦しい思いをする。
- 多種多様の障害を広報し、理解促進を進めてほしい。
- 聴力障害は見た目だと障害者だとすぐにわかってもらえない。電子音が世の中多すぎて余計に聞こえない。
- 難病に対する支援が少ない気がします。また、社会全体において難病に対する理解や認識が低く、家族ですら、働けないのに、働かないと言われ、身の置き場がありません。学校などでまずは理解の場を作ってほしいと考えています。
- 外に出ると、はずかしい思い、いやな思いをすることが多いため、なるべく人の集まる場には行かないようにしています。将来、私と同じ苦しみをもっている子供さんのために何か力になればいいなと考えています。
- 差別の問題は当事者だけでなく、普通に生きている(と思っている)人たちとの間のことでもあるので、本音で話したりできる場所も必要ではないかと思います。
- 市役所職員、全体として成年後見制度の理解が浅い。
- 障害理解が深まり、生き活きと活躍できる場が増えてほしい。障害を抱えながらも子育てを頑張っている方達のお話などを聞く機会があれば良いと思っています。
- 親なき後の成年後見制度について、障害者の特性に精通した法人による成年後見人の充実を望みます。
- 幼児や小学生のうちからこういう子達もいて、生活していることを教えてほしい。歩いているだけなのに、笑われたり、ジロジロ見られたりしている。

(10) 人材の育成と確保

- ボランティア活動に自分自身も役員(職員)として参加したい。そういう情報をもっとわかる形で知りたい。
- グループホーム、施設の職員の質の向上。
- 成年後見制度を利用したいと思っているが本人の年金だけで長期間費用を支払うことは難しい。相談支援員を増やしてください。
- 福祉が、それを受ける者にとっての満足感は、対応される方との人間関係が大きいと思います。福祉を背負われる方々への経済的報酬を少しずつでも引き上げ、行政内や社会的地位を向上させていく事を切に望みます。

(11) 障害当事者・家族への支援

- ショートステイ等、一時預りもよくて月に一度。学生の頃はデイがあったが、卒業後はほとんど

第2章 調査結果(一般)

無い。大人になっても幼稚園の時間よりも早く帰り、親は行動に限りがある。

- 現在、グループホームで生活をしているが、今後親がもっと高齢になった時、どうしたらよいか行動にうつせていない。まず家族で意見が合わず、先に進めないが、これまで親が介護できなくなった時のモデルケースなどを知れるようにしてほしい
- 知的障害者(児)に対しての支援やサービスが非常に乏しい。条件の多さに閉口する。親の方も年数経てば高齢になり、今まで子どもにできた生活介助、支援が無理な労働になってきている。親子での将来を悲観している。
- ただ話したり、聞いたりしてくれる、そういう人や団体があってほしいです。

(12) アンケート

- webでの回答が可能だと、iphoneの読み上げ機能(ボイスオーバー)により自身で回答することができると思います。ご検討をお願いいたします。
- アンケート点字版は91ページにも及ぶ点字にしては膨大な量。これを読むには、両手読みができない点字使用者には大変なこと。音声版や活字音声なども作り、誰もが回答しやすくすべきです。
- アンケート内容が難しく、理解するのに時間がかかりました。
- このアンケートは重い知的障害者には無理だと思います。会話もできない、ことばの理解力もなく、本人の意思をくみとる事はほとんど不可能です。
- このアンケート調査ですが、皆様不自由でしたり、体調悪くても出していると思います。どうか少しでも役に立てただけですと、幸いです。
- もう少し、アンケートの回答量を減らしてほしい。
- 今現在は、特に不満も不安ありませんが、将来的な事になると、やっぱり不安です。このように定期的に意見を言える環境はありがたいです。
- 支援、サービスも種類は有限で、障害は様々で、人それぞれ必要としているものが違います。アンケートで状況を把握されるのは良いことだと思います。
- 障害の種類によって必要とするサービスが異なり、調査の内容に問題を感じます。利用状況、意向には「障害と無関係のため必要ない」「わからない」という項目があってもいいと感じました。
- 不安や問題点については質問事項でほぼ満たされていると感じる。
- 本人は長期入院中のため、(コロナで面会もできず)意向を確かめることができません。

(13) その他

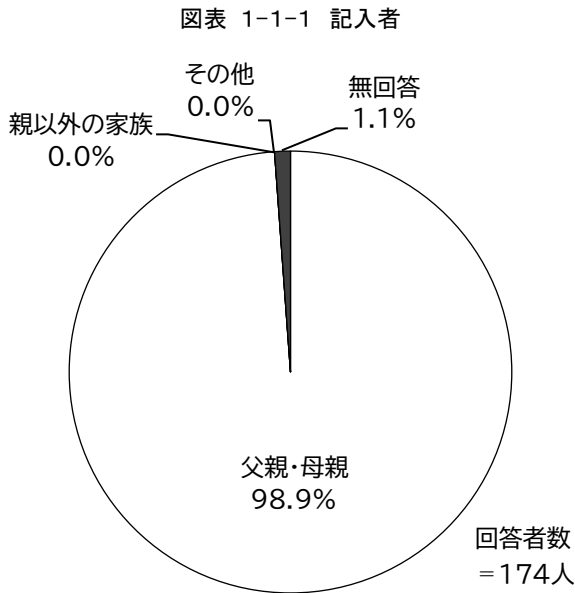
- 障害啓発も必要であるが、障害者、家族も要求だけでなく、マナーを持ち、必要な制度等を築けたらよいと思う。
- ケアしてくださる方々に深く感謝しております。
- 選挙にも行けないので、ネット投票できるようになると良い。
- 選挙の郵便投票を認めてほしい。
- 日々の暮らしを支えてくださいますと、感謝を申し上げます。
- 市内で活躍する障害者の広報があってもよいと思う。
- 筋力低下による歩行、移動、日常動作を補う支援ロボット、装着器械の普段使いのできる(簡単なもので)ものの開発をお願いしたい。現在の段差の昇降、立ち上がりなどで苦勞している。
- 週3日人工透析のため、通院しておりますが、コロナ感染した場合、透析治療を行えるコロナ病棟の確保ができていないのか不安です。

第 3 章 調査結果（児童）

1. 基本情報

(1) 記入者

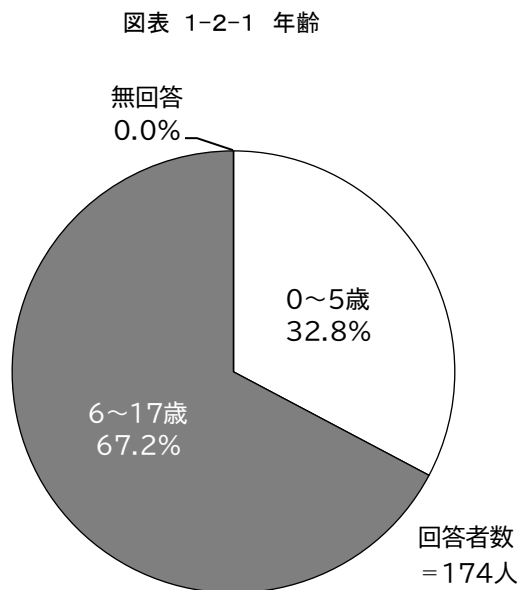
問1 この調査票を記入する方はどなたですか。(1つに〇)



記入者について聞いたところ、「父親・母親」98.9%が最も高く、約10割となっている。「親以外の家族」と「その他」は0.0%という結果である。

(2) 年齢

問2 お子さまの年齢を教えてください。(令和4年(2022年)8月1日現在)



年齢について聞いたところ、「6~17歳」は67.2%、「0~5歳」は32.8%となっている。

第3章 調査結果(児童)

図表 1-2-2 年齢〔障害種別〕

		回答者数 (人)	0 ～ 5 歳	6 ～ 17 歳	無 回 答
全 体		174	32.8%	67.2%	0.0%
障 害 種 別	身体障害者手帳所持者	25	36.0%	64.0%	0.0%
	愛の手帳所持者	88	25.0%	75.0%	0.0%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	0.0%	100.0%	0.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	2	50.0%	50.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	96	24.0%	76.0%	0.0%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	12	33.3%	66.7%	0.0%
	日常的に医療的ケアが必要	6	66.7%	33.3%	0.0%

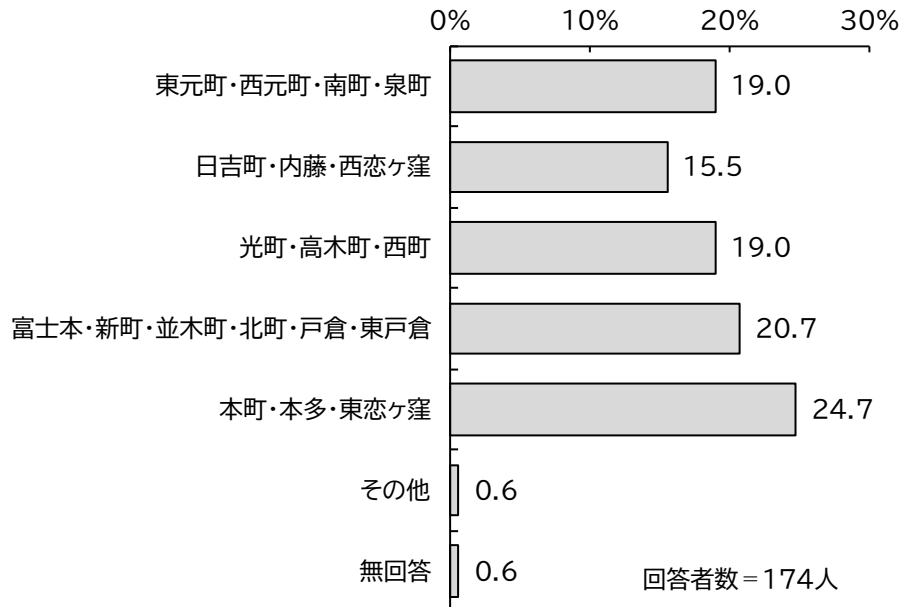
※網掛けは、上位1位の選択肢

障害種別で「6～17歳」の割合をみると、発達障害の診断ありの方76.0%と愛の手帳所持者75.0%は7割台、難病の診断ありの方66.7%と身体障害者手帳所持者64.0%は6割台となっている。

(3) 居住地域

問3 お子さまのお住まいの地域はどこですか。(1つに○)

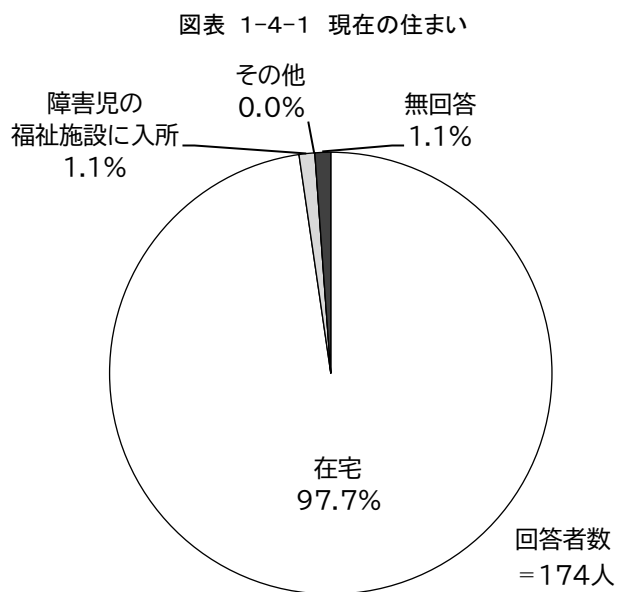
図表 1-3-1 居住地域



居住地域について聞いたところ、「本町・本多・東恋ヶ窪」24.7%が最も高く、次いで、「富士本・新町・並木町・北町・戸倉・東戸倉」20.7%、「東元町・西元町・南町・泉町」19.0%、「光町・高木町・西町」19.0%、「日吉町・内藤・西恋ヶ窪」15.5%、「その他」0.6%の順になっている。

(4) 現在の住まい

問4 お子さまは今どこで暮らしていますか。(1つに○)



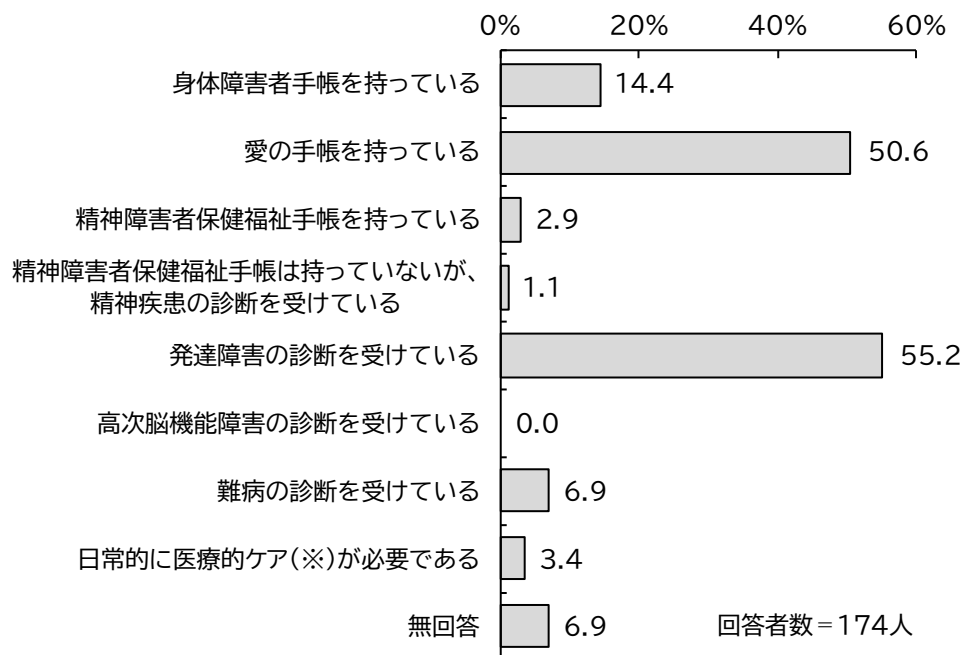
現在の住まいについて聞いたところ、「在宅」97.7%、「障害児の福祉施設に入所」1.1%となっている。

2. 障害の状況について

(1) 障害の状況(種類または診断名)

問5 お子さまがお持ちの障害者手帳または受けている診断名などについておたずねします。(あてはまるものすべてに○)

図表 2-1-1 障害の状況(種類または診断名)



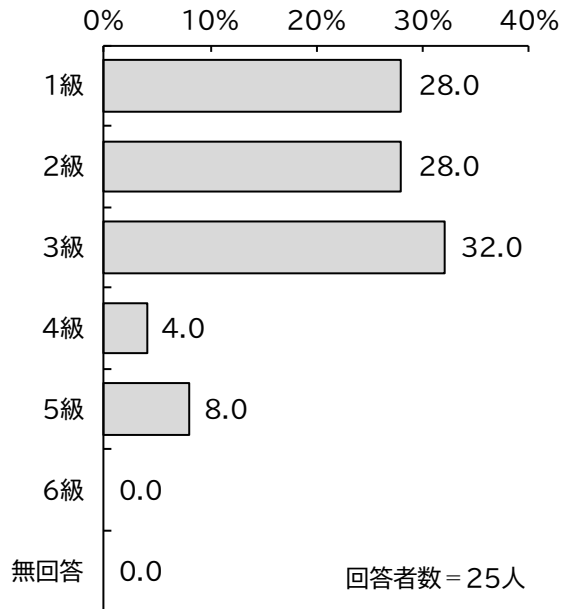
※医療的ケアとは、たん吸引、経管栄養(胃ろうなど)、人工呼吸器、酸素療法、導尿など、医師の指示や管理のもと、家族や看護師等が行う医療的な生活援助行為のこと

手帳の種類または診断名について聞いたところ、「発達障害の診断を受けている」55.2%が最も高く5割半ばとなっている。次いで、「愛の手帳を持っている」50.6%、「身体障害者手帳を持っている」14.4%、「難病の診断を受けている」6.9%、「日常的に医療的ケアが必要である」3.4%、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」2.9%、「精神障害者保健福祉手帳は持っていないが、精神疾患の診断を受けている」1.1%の順になっている。

(2) 身体障害者手帳(程度)

手帳に書いてある障害の程度(総合等級)は何級ですか。(1つに○)

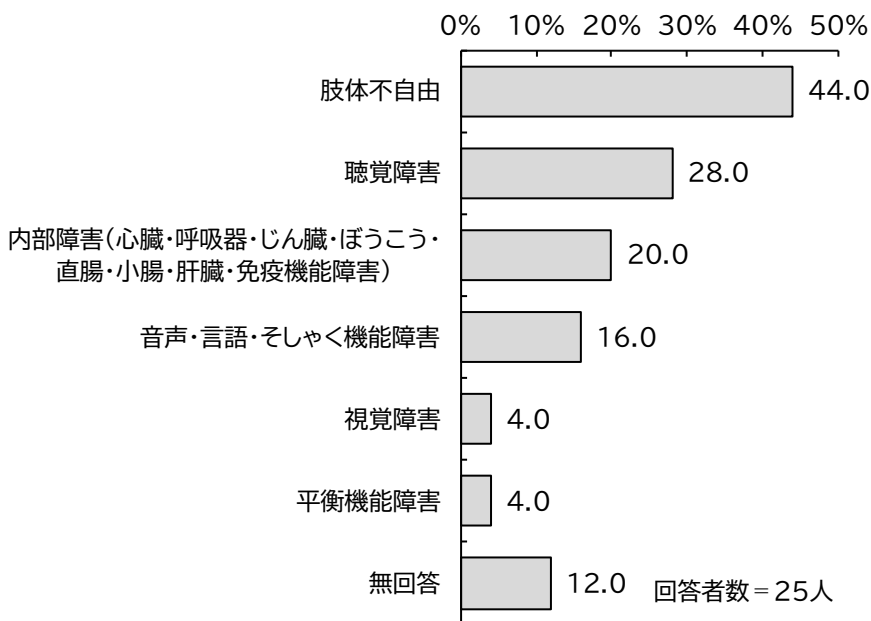
図表 2-2-1 身体障害者手帳(程度)



(3) 身体障害者手帳(障害の種類)

どのような障害ですか。(あてはまるものすべてに○)

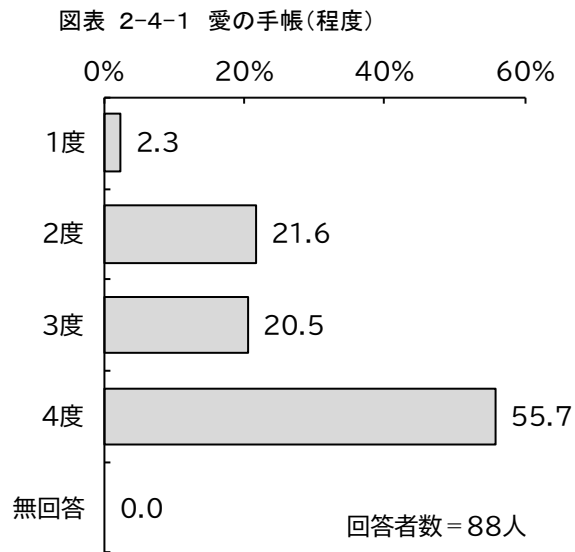
図表 2-3-1 身体障害者手帳(障害の種類)



障害の種類について聞いたところ、「肢体不自由」44.0%が最も高く、4割半ばとなっている。次いで、「聴覚障害」28.0%、「内部障害」20.0%、「音声・言語・そしゃく機能障害」16.0%、「視覚障害」と「平衡機能障害」がともに4.0%の順になっている。

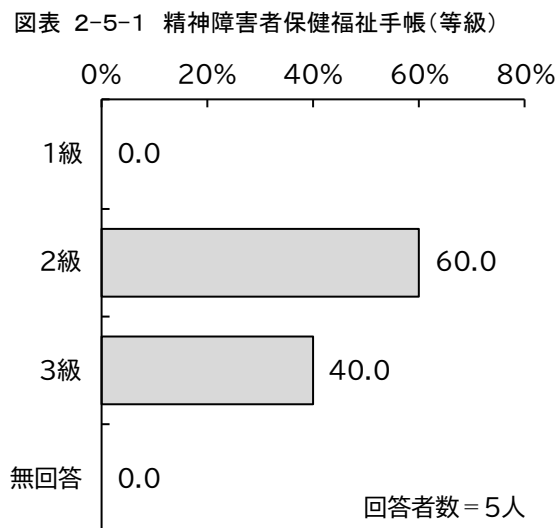
(4) 愛の手帳(程度)

手帳に書いてある障害はどの程度ですか。(1つに○)



(5) 精神障害者保健福祉手帳(等級)

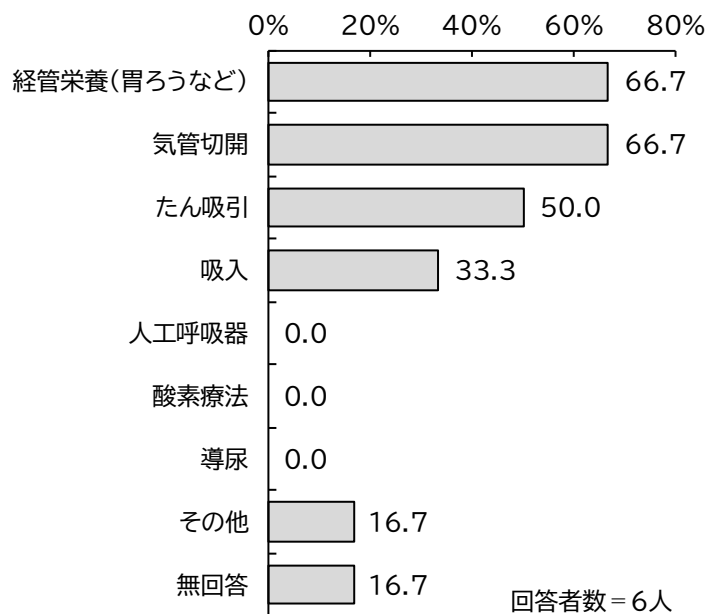
手帳に書いてある障害は何級ですか。(1つに○)



(6) 日常的に必要な医療的ケア(種類)

受けている医療的ケアは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 2-6-1 日常的に必要な医療的ケア(種類)

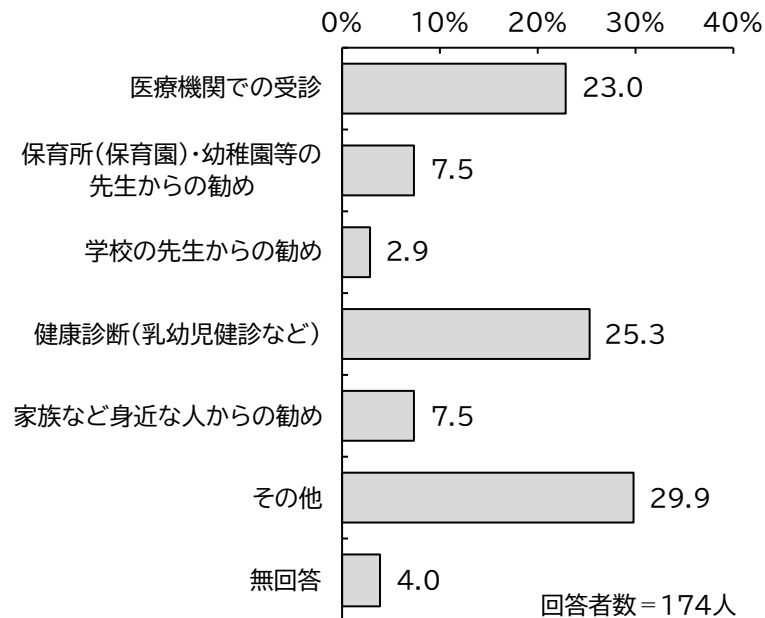


日常的に必要な医療的ケア(種類)について聞いたところ、「経管栄養(胃ろうなど)」と「気管切開」が最も高く、ともに66.7%となっている。次いで、「たん吸引」50.0%、「吸入」33.3%の順になっている。

(7) お子さまの障害や心身の不調に気付いたきっかけ

問6 お子さまの障害や心身の不調に気付いたきっかけは何ですか。(1つに○)

図表 2-7-1 お子さまの障害や心身の不調に気付いたきっかけ



お子さまの障害や心身の不調に気付いたきっかけについて聞いたところ、「健康診断（乳幼児健診など）」25.3%が最も高く、次いで、「医療機関での受診」23.0%、「保育所（保育園）・幼稚園等の先生からの勧め」と「家族など身近な人からの勧め」がともに7.5%、「学校(先生)からの勧め」2.9%の順になっている。

「その他」29.9%では、具体的に「自分で気付いた」「親が気付いた」「妊娠中・出産時」などが多く記載されている。

第3章 調査結果(児童)

図表 2-7-2 お子さまの障害や心身の不調に気付いたきっかけ〔障害種別〕

		回答者数 (人)	医療 機関 での 受診	先生 から の 勧め 保育所 (保育園) ・ 幼稚園 等の	学校 の 先生 から の 勧め	健康 診断 (乳幼児 健診 など)	家族 など 身近 な 人 から の 勧め	その他	無 回 答
全 体		174	23.0%	7.5%	2.9%	25.3%	7.5%	29.9%	4.0%
障 害 種 別	身体障害者手帳所持者	25	48.0%	0.0%	4.0%	8.0%	4.0%	28.0%	8.0%
	愛の手帳所持者	88	31.8%	4.5%	0.0%	23.9%	6.8%	28.4%	4.5%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	96	12.5%	10.4%	5.2%	30.2%	9.4%	30.2%	2.1%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	12	83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%
	日常的に医療的ケアが必要	6	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	50.0%

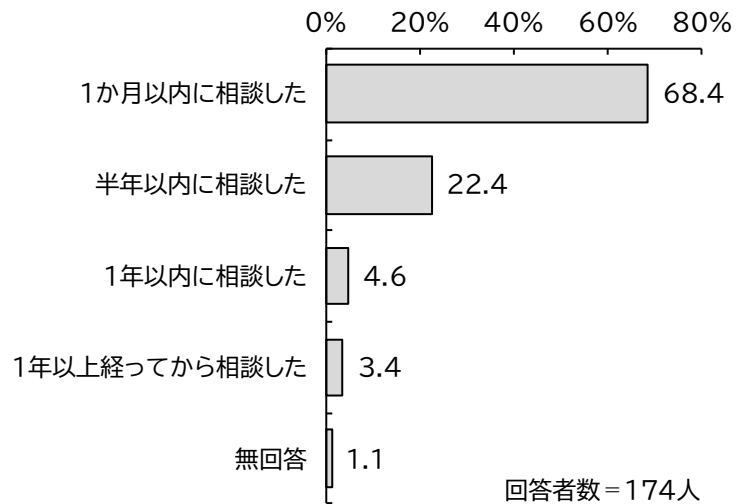
※網掛けは、上位1位の選択肢

障害種別でみると、身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者、手帳未所持で精神疾患の診断ありの方、難病の診断ありの方は「医療機関での受診」が、精神障害者保健福祉手帳所持者と発達障害の診断ありの方は「健康診断（乳幼児健診など）」が、それぞれ第1位となっている。

(8) お子さまの不調に気付いてから相談するまでの期間

問7 お子さまの障害や心身の不調に気付いてから、すぐに専門機関へ相談しましたか。
(1つに○)

図表 2-8-1 お子さまの不調に気付いてから相談するまでの期間



お子さまの不調に気付いてから相談するまでの期間について聞いたところ、「1か月以内に相談した」68.4%が最も高く、7割近くになっている。次いで、「半年以内に相談した」22.4%、「1年以内に相談した」4.6%、「1年以上経ってから相談した」3.4%の順になっている。

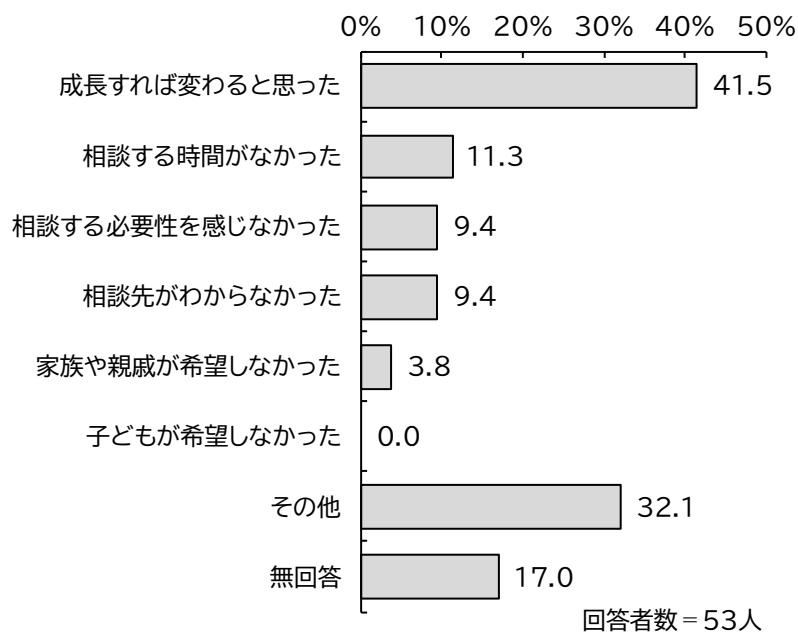
約9割の90.8%が半年以内に相談している。

(9) お子さまの不調に気付いたが相談しなかった理由

◆問7で「2. 半年以内に相談した」「3. 1年以内に相談した」「4. 1年以上経ってから相談した」と答えた方におたずねします。

問8 すぐに相談しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 2-9-1 お子さまの不調に気付いたが相談しなかった理由

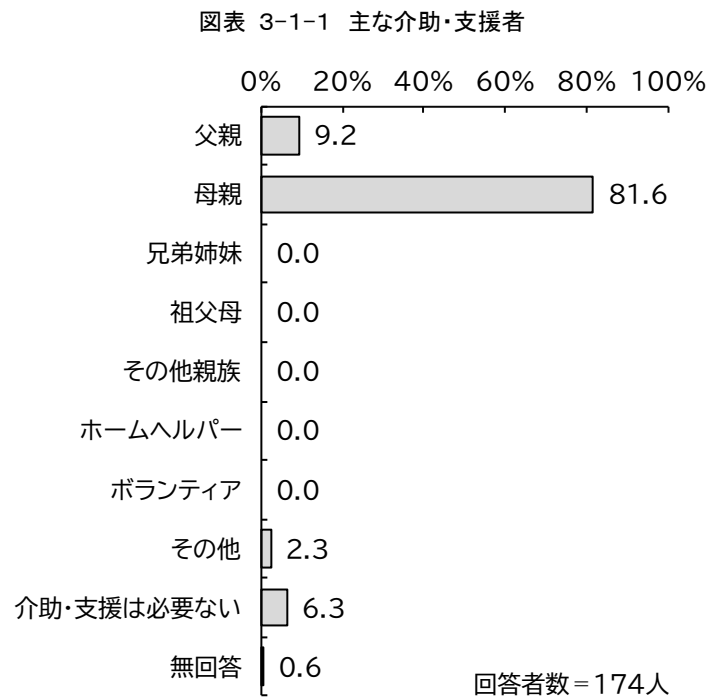


お子さまの不調に気付いたが相談しなかった理由について聞いたところ、「成長すれば変わると思った」41.5%が最も高く、4割以上となっている。次いで、「相談する時間がなかった」11.3%、「相談する必要性を感じなかった」と「相談先がわからなかった」がともに9.4%、「家族や親戚が希望しなかった」3.8%の順になっている。

3. 介助の状況について

(1) 主な介助・支援者

問9 お子さまを主に介助・支援している人はどなたですか。(1つに○)



主な介助・支援者について聞いたところ、「母親」81.6%が最も高く、8割以上となっている。次いで、「父親」は9.2%となっている。

一方、「介助・支援は必要ない」は6.3%となっている。

第3章 調査結果(児童)

図表 3-1-2 主な介助・支援者〔年齢別・障害種別〕

		回答者数 (人)	父親	母親	兄弟姉妹	祖父母	その他親族
全体		174	9.2%	81.6%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢別	0～5歳	57	7.0%	78.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	6～17歳	117	10.3%	82.9%	0.0%	0.0%	0.0%
障害種別	身体障害者手帳所持者	25	8.0%	84.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	愛の手帳所持者	88	8.0%	88.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	96	11.5%	78.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	12	0.0%	83.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	日常的に医療的ケアが必要	6	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

		回答者数 (人)	ホームヘルパー	ボランティア	その他	介助・支援は必要 ない	無回答
全体		174	0.0%	0.0%	2.3%	6.3%	0.6%
年齢別	0～5歳	57	0.0%	0.0%	3.5%	10.5%	0.0%
	6～17歳	117	0.0%	0.0%	1.7%	4.3%	0.9%
障害種別	身体障害者手帳所持者	25	0.0%	0.0%	0.0%	8.0%	0.0%
	愛の手帳所持者	88	0.0%	0.0%	2.3%	1.1%	0.0%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	96	0.0%	0.0%	1.0%	8.3%	1.0%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	12	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%
	日常的に医療的ケアが必要	6	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

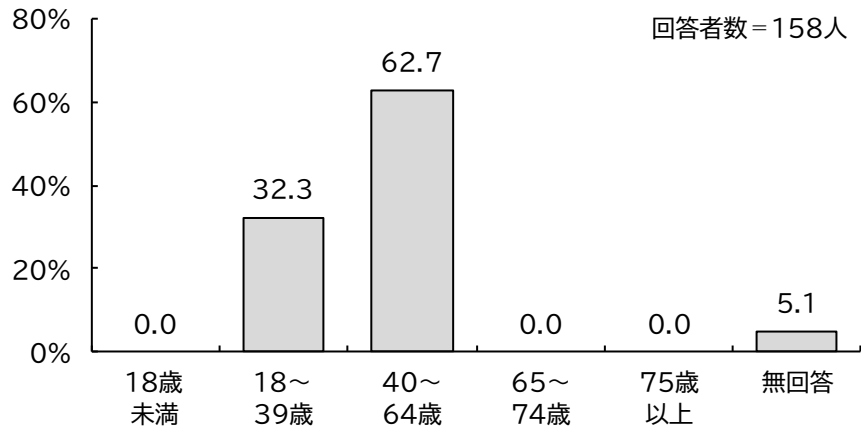
年齢別にみると、0～5歳では「介助・支援は必要ない」が10.5%で約1割となっている。6～17歳では「母親」が82.9%で8割以上となっている。

障害種別でみると、発達障害の診断ありの方で「父親」が11.5%と、他に比べて割合が高くなっている。

(2) 主な介助・支援者の年齢

◆問9で「1～5」の家族や親族と答えた方におたずねします。
 問10 お子さまを主に介助・支援している人は何歳ですか。(1つに○)

図表 3-2-1 主な介助・支援者の年齢



主な介助・支援者の年齢について聞いたところ、「40～64歳」62.7%が最も高く、6割以上となっている。次いで、「18～39歳」32.3%の順になっている。

第3章 調査結果(児童)

図表 3-2-2 主な介助・支援者の年齢〔年齢別・障害種別〕

		回答者数 (人)	18 歳未 満	18 ～ 39 歳	40 ～ 64 歳	65 ～ 74 歳	75 歳 以上	無 回 答
全 体		158	0.0%	32.3%	62.7%	0.0%	0.0%	5.1%
年 齢 別	0～5歳	49	0.0%	65.3%	30.6%	0.0%	0.0%	4.1%
	6～17歳	109	0.0%	17.4%	77.1%	0.0%	0.0%	5.5%
障 害 種 別	身体障害者手帳所持者	23	0.0%	34.8%	65.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	愛の手帳所持者	85	0.0%	31.8%	64.7%	0.0%	0.0%	3.5%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	86	0.0%	31.4%	64.0%	0.0%	0.0%	4.7%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	10	0.0%	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	日常的に医療的ケアが必要	6	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

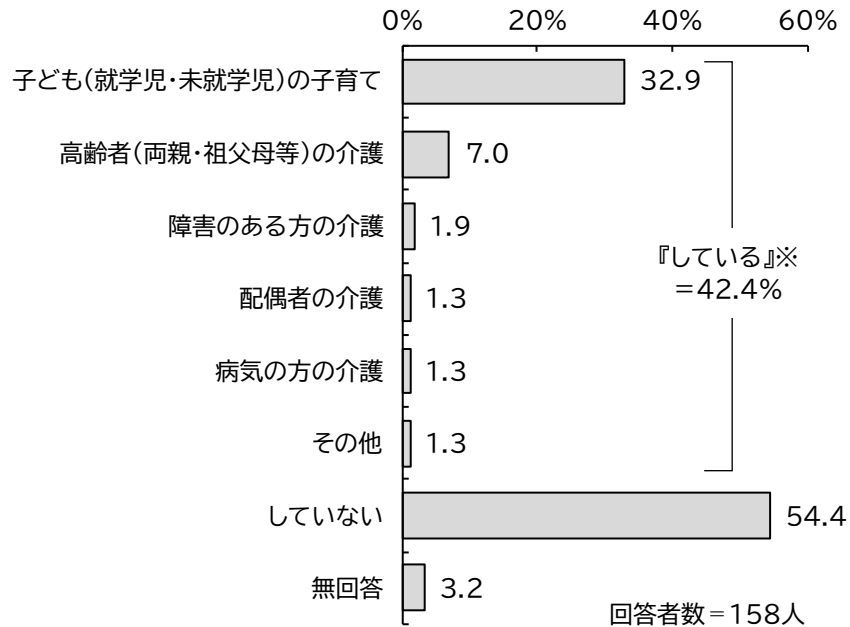
年齢別にみると、0～5歳では「18～39歳」が65.3%、6～17歳では「40～64歳」が77.1%で、他に比べて割合が高くなっている。

障害種別でみると、精神障害者保健福祉手帳所持者で「40～64歳」が80.0%と、他に比べて割合が高くなっている。

(3) 主な介助・支援者のお子さま以外の世話や介護の有無

問 11 お子さまを主に介助・支援している人は、お子さま以外の方の世話や介護をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 3-3-1 主な介助・支援者のお子さま以外の世話や介護の有無



※『している』 = 100% - 「していない」 - 「無回答」

主な介助・支援者のお子さま以外の世話や介護の有無について聞いたところ、『している』人の中では「子ども(就学児・未就学児)の子育て」32.9%が最も高く、3割以上となっている。次いで、「高齢者(両親・祖父母等)の介護」7.0%、「障害のある方の介護」1.9%、「配偶者の介護」1.3%、「病気の方の介護」1.3%の順になっている。

一方、「していない」は54.4%で最も高く、5割半ばとなっている。

第3章 調査結果(児童)

図表 3-3-2 主な介助・支援者のお子さま以外の世話や介護の有無〔年齢別・障害種別〕

		回答者数(人)	子ども(就学児・未就学児)の子育て	高齢者(両親・祖父母等)の介護	障害のある方の介護	配偶者の介護	病気の方の介護	その他	していない	無回答
全体		158	32.9%	7.0%	1.9%	1.3%	1.3%	1.3%	54.4%	3.2%
年齢別	0～5歳	49	42.9%	0.0%	6.1%	2.0%	4.1%	0.0%	49.0%	2.0%
	6～17歳	109	28.4%	10.1%	0.0%	0.9%	0.0%	1.8%	56.9%	3.7%
障害種別	身体障害者手帳所持者	23	21.7%	13.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	65.2%	4.3%
	愛の手帳所持者	85	28.2%	7.1%	3.5%	2.4%	1.2%	2.4%	55.3%	4.7%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	86	36.0%	7.0%	3.5%	1.2%	1.2%	1.2%	51.2%	2.3%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	10	20.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	70.0%	0.0%
	日常的に医療的ケアが必要	6	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%

※網掛けは、「していない」を除く、上位1位の選択肢

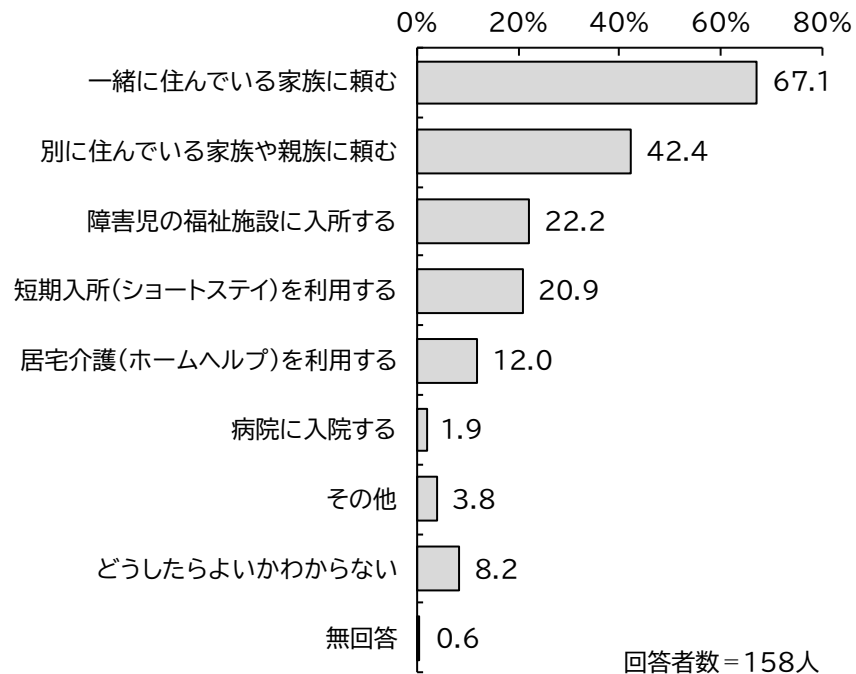
年齢別にみると、0～5歳では「子ども(就学児・未就学児)の子育て」が42.9%で4割以上、6～17歳では「高齢者(両親・祖父母等)の介護」が10.1%で約1割となっている。

障害種別で「子ども(就学児・未就学児)の子育て」をみると、発達障害の診断ありの方では36.0%で3割半ば、愛の手帳所持者では28.1%で3割近くとなっている。

(4) 主な介助・支援者が介助・支援ができなくなった場合

問 12 お子さまを主に介助・支援している人が、お子さまを介助・支援できなくなった場合は、どうしたいですか。(主なもの3つまで○)

図表 3-4-1 主な介助・支援者が介助・支援ができなくなった場合



主な介助・支援者が介助・支援ができなくなった場合について聞いたところ、「一緒に住んでいる家族に頼む」67.1%が最も高く、7割近くになっている。ついで、「別に住んでいる家族や親族に頼む」42.4%、「障害児の福祉施設に入所する」22.2%、「短期入所(ショートステイ)を利用する」20.9%、「居宅介護(ホームヘルプ)を利用する」12.0%、「病院に入院する」1.9%の順になっている。

一方、「どうしたらよいかわからない」は8.2%となっている。

第3章 調査結果(児童)

図表 3-4-2 主な介助・支援者が介助・支援ができなくなった場合〔障害種別〕

		回答者数(人)	頼む 一緒に住んでいる家族に	別に住んでいる家族や親 族に頼む	障害児の福祉施設に入所 する	短期入所(ショートステ イ)を利用する	居宅介護(ホームヘルプ) を利用する	病院に入院する	その他	どうしたらよいかかわら ない	無回 答
全体		158	67.1%	42.4%	22.2%	20.9%	12.0%	1.9%	3.8%	8.2%	0.6%
障害種別	身体障害者手帳所持者	23	60.9%	21.7%	39.1%	26.1%	21.7%	4.3%	4.3%	8.7%	0.0%
	愛の手帳所持者	85	61.2%	35.3%	36.5%	31.8%	17.6%	2.4%	3.5%	9.4%	1.2%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	80.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	2	100.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	86	69.8%	46.5%	19.8%	18.6%	9.3%	2.3%	3.5%	8.1%	0.0%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	10	70.0%	20.0%	20.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	日常的に医療的ケアが必要	6	33.3%	50.0%	33.3%	50.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※網掛けは、全体の割合を上回っている選択肢

障害種別でみると、身体障害者手帳所持者と愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、日常的に医療的ケアが必要な方で、「居宅介護(ホームヘルプ)を利用する」割合が全体を上回っている。また、身体障害者手帳所持者と愛の手帳所持者、日常的に医療的ケアが必要な方で、「短期入所(ショートステイ)を利用する」割合が全体を上回っている。

4. 福祉サービスについて

(1) 福祉サービスの利用状況・利用意向

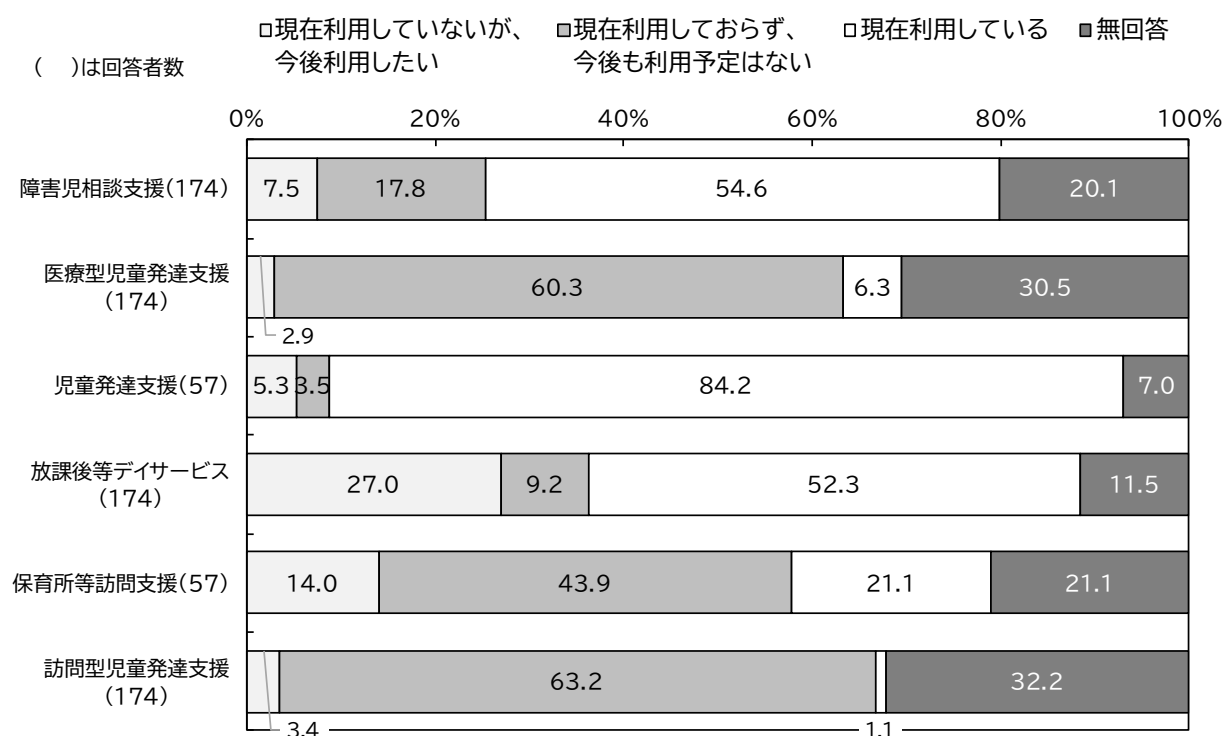
問 13 お子さまのサービスの利用状況と利用意向についておたずねします。また、現在利用しているサービスについて、満足度をおたずねします。サービスごとに、あてはまるものに○をしてください。

A サービスごとに利用状況・利用意向を選んでください。(1つに○)

(1) 主に18歳未満の方が利用するサービス(児童福祉法に基づく支援)

(2) 児童期から利用できるサービス(障害者総合支援法に基づく支援)

図表 4-1-1 主に18歳未満の方が利用するサービス(児童福祉法に基づく支援)の利用状況・利用意向

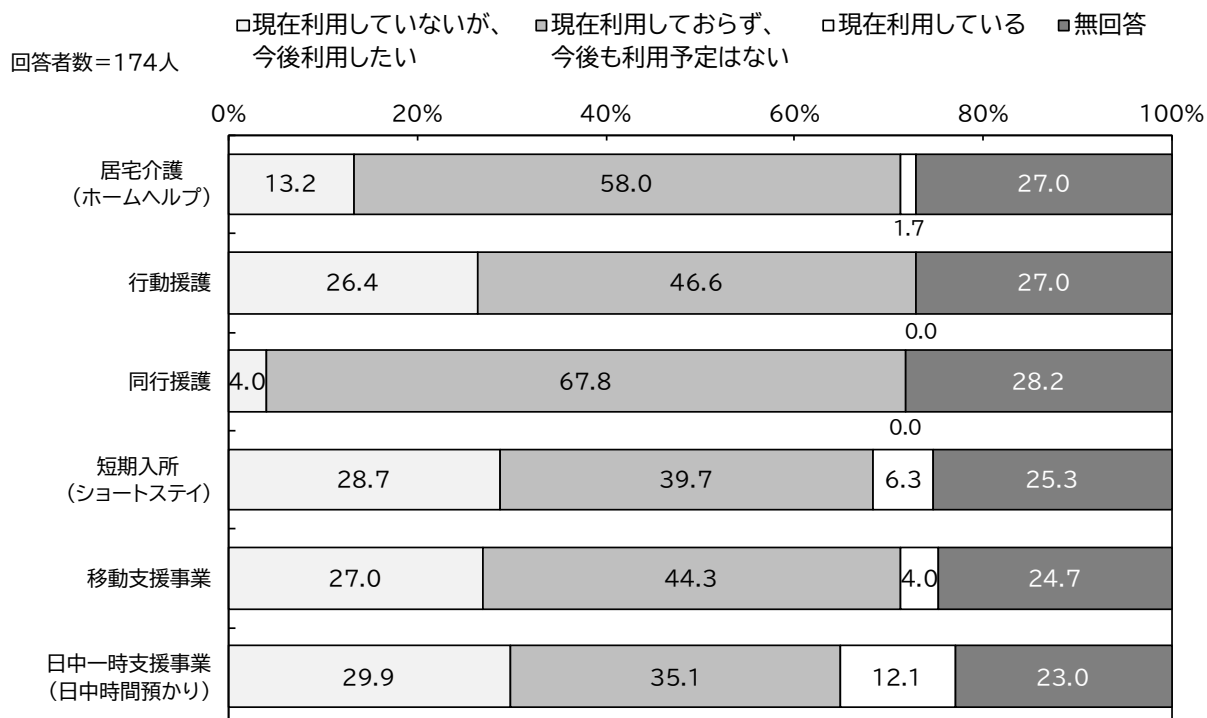


※児童発達支援と保育所等訪問支援の利用者は未就学のため、回答者数は他と異なっている。

主に18歳未満の方が利用するサービス(児童福祉法に基づく支援)の利用状況・利用意向について聞いたところ、「現在利用している」と回答した割合が最も高い項目は児童発達支援 84.2%である。次いで、障害児相談支援 54.6%、放課後等デイサービス 52.3%と続いている。また、「現在利用していないが今後利用したい」と回答した割合が最も高い項目は、放課後等デイサービス 27.0%である。次いで、保育所等訪問支援 14.0%、障害児相談支援 7.5%と続いている。

第3章 調査結果(児童)

図表 4-1-2 児童期から利用できるサービス(障害者総合支援法に基づく支援)の利用状況・利用意向



児童期から利用できるサービス(障害者総合支援法に基づく支援)の利用状況・利用意向について聞いたところ、

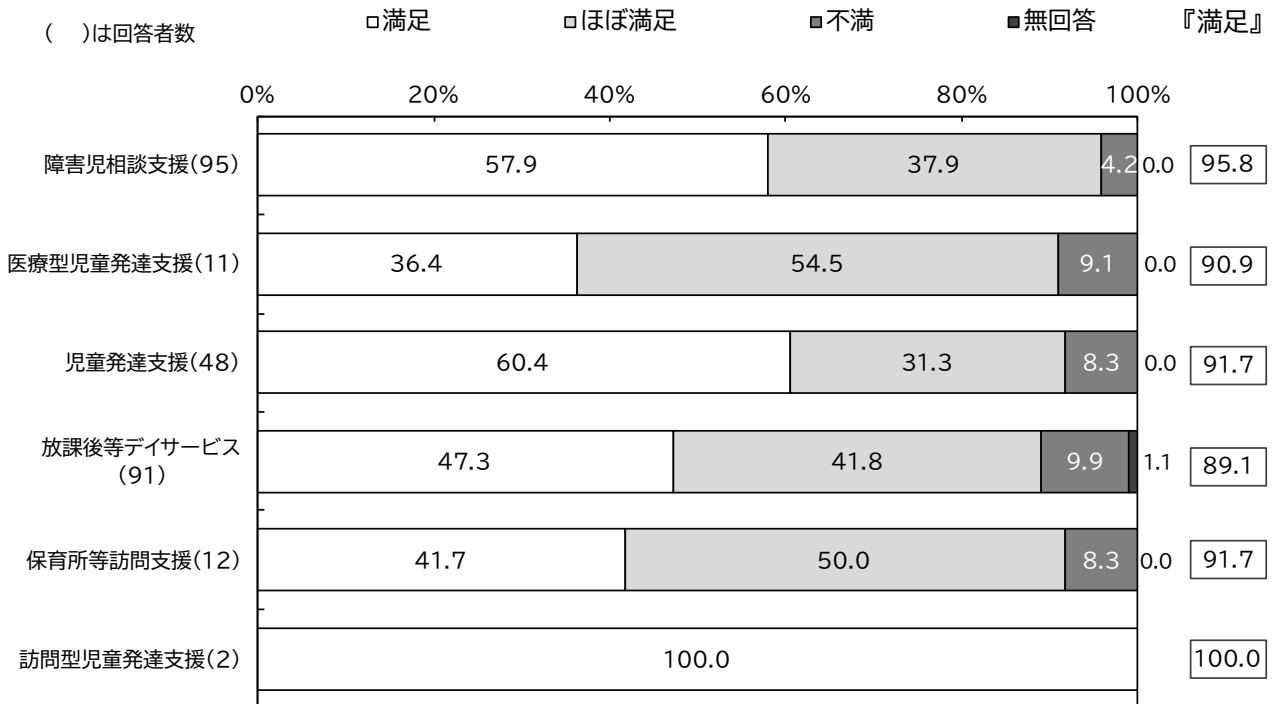
「現在利用している」と回答した割合が最も高い項目は日中一時支援事業(日中時間預かり)12.1%である。次いで、短期入所(ショートステイ)6.3%、移動支援事業4.0%と続いている。

また、「現在利用していないが今後利用したい」と回答した割合が最も高い項目は、日中一時支援事業(日中時間預かり)29.9%である。次いで、短期入所(ショートステイ)28.7%、移動支援事業27.0%、行動援護26.4%、居宅介護(ホームヘルプ)13.2%、同行援護4.0%の順になっている。

(2) 福祉サービスの満足度

B Aで「3 現在利用している」を選んだ方は、サービスの満足度を選んでください。
(1つに○)

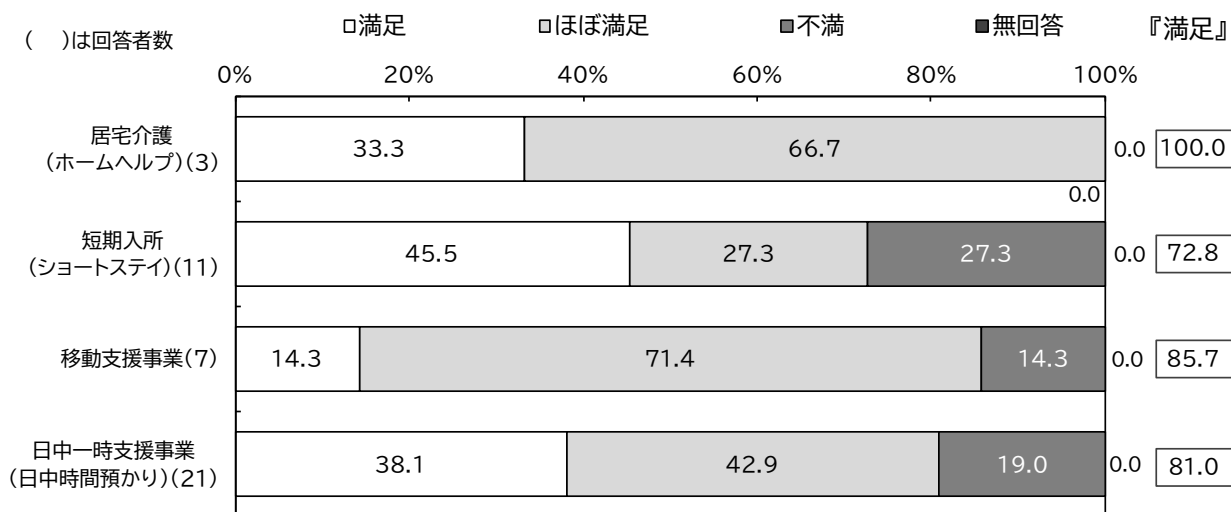
図表 4-2-1 主に18歳未満の方が利用するサービス(児童福祉法に基づく支援)の満足度



主に18歳未満の方が利用するサービス(児童福祉法に基づく支援)の満足度について聞いたところ、「満足」と「ほぼ満足」を合わせた肯定的な回答『満足』の割合が最も高い項目は、訪問型自動発達支援100.0%である。次いで、障害児相談支援95.8%、児童発達支援、保育所等訪問支援がともに91.7%と続いている。一方、「不満」と回答した割合が最も高い項目は、放課後等デイサービス9.9%である。次いで、医療型児童発達支援9.1%、児童発達支援と保育所等訪問支援がともに8.3%の順になっている。

第3章 調査結果(児童)

図表 4-2-2 児童期から利用できるサービス(障害者総合支援法に基づく支援)の満足度



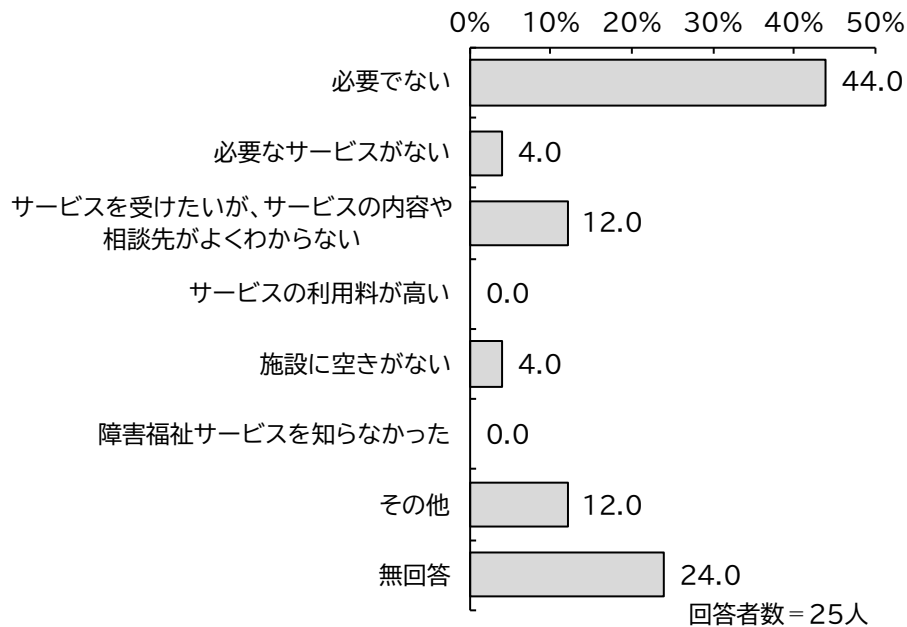
※行動援護, 同行援護は「現在利用している」が0.0%のため, 満足度の掲載は省略している。

児童期から利用できるサービス(障害者総合支援法に基づく支援)の満足度について聞いたところ、「満足」と「ほぼ満足」を合わせた肯定的な回答『満足』の割合が最も高い項目は、居宅介護(ホームヘルプ)100.0%である。次いで、移動支援事業85.7%、日中一時支援事業(日中時間預かり)81.0%と続いている。一方、「不満」と回答した割合が最も高い項目は、短期入所(ショートステイ)27.3%である。次いで、日中一時支援事業(日中時間預かり)19.0%、移動支援事業14.3%の順になっている。

(3) 障害福祉サービスを利用していない理由

◆問 13 Aで「3 現在利用している」に1つも○がない方におたずねします。
問 14 お子さまが障害福祉サービスを利用していない理由は何ですか。(1つに○)

図表 4-3-1 障害福祉サービスを利用していない理由



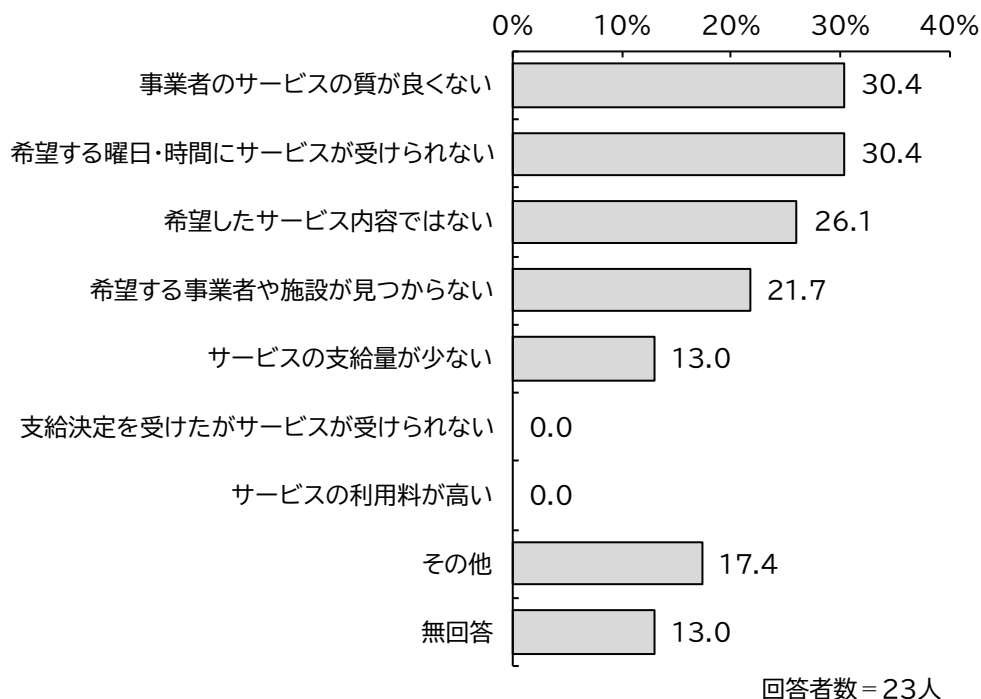
障害福祉サービスを利用していない理由について聞いたところ、「必要でない」44.0%が最も高く、4割半ばとなっている。次いで、「サービスを受けたいが、サービスの内容や相談先がよくわからない。」12.0%、「必要なサービスがない」「施設に空きがない」がともに4.0%の順になっている。

「サービスの利用料が高い」と「障害福祉サービスを知らなかった」はともに0.0%となっている。

(4) 障害福祉サービスに不満を感じている理由

◆問 13 Bで「3 不満」に○が1つ以上ある方におたずねします。
 問 15 お子さまが障害福祉サービスに不満を感じている理由は何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

図表 4-4-1 障害福祉サービスに不満を感じている理由



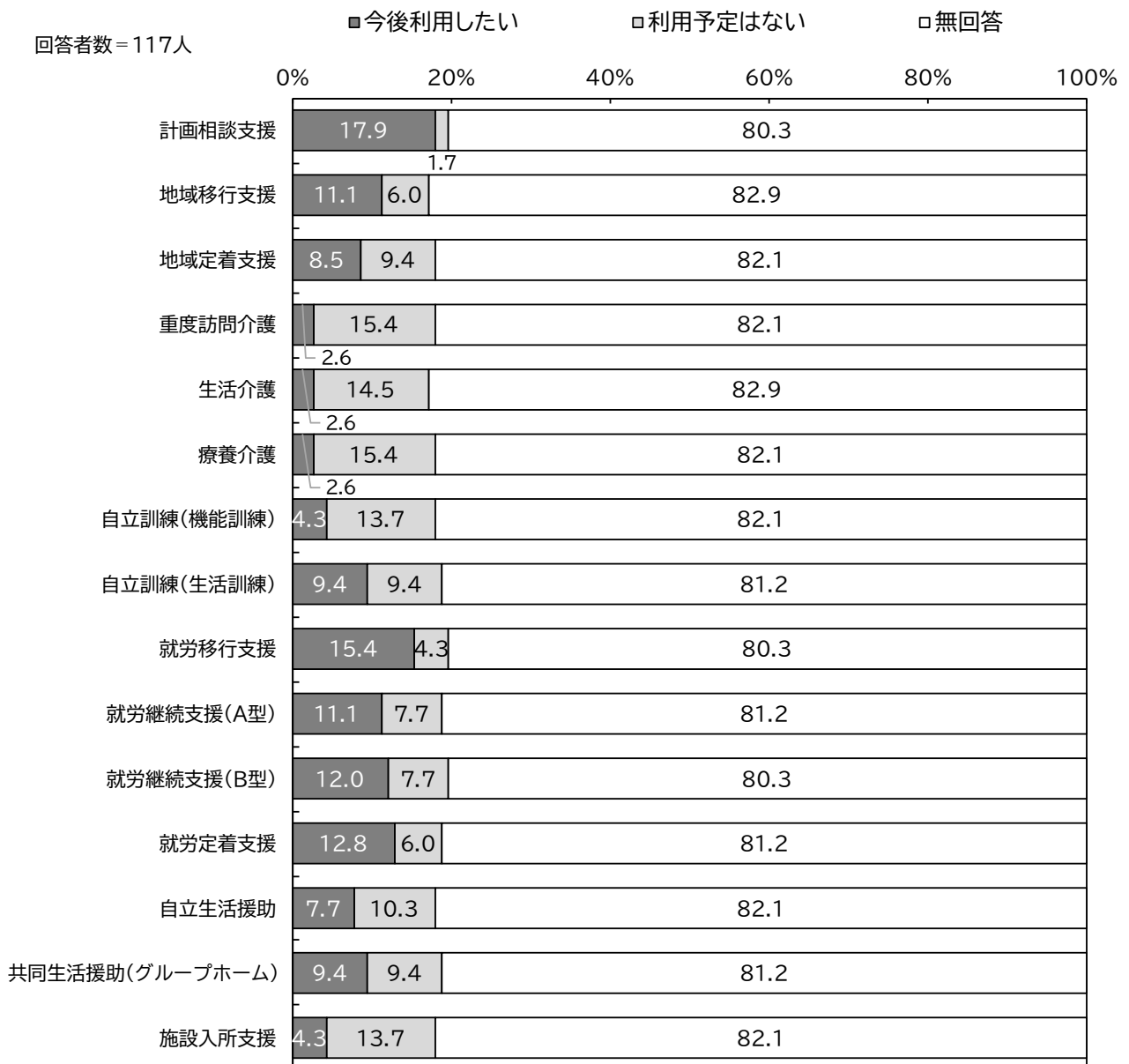
障害福祉サービスに不満を感じている理由について聞いたところ、「事業者のサービスの質が良くない」と「希望する曜日・時間にサービスが受けられない」がともに30.4%で、最も高くなっている。次いで、「希望したサービス内容ではない」26.1%、「希望する事業者や施設が見つからない」21.7%、「サービスの支給量が少ない」13.0%と続いている。

「支給決定を受けたがサービスが受けられない」と「サービスの利用料が高い」はともに0.0%となっている。

(5) 主に18歳以上の方が利用するサービスの利用意向（お子さまが15歳以上）

◆お子さまが15歳以上（令和4年8月1日現在）の方におたずねします。
 問16 お子さまのサービスの利用意向についておたずねします。サービスごとにあてはまるもの1つに○をしてください。
 [主に18歳以上の方が利用するサービス（障害者総合支援法に基づく支援）]

図表 4-5-1 主に18歳以上の方が利用するサービスの利用意向



※お子さまの年齢が6歳以上で集計している。

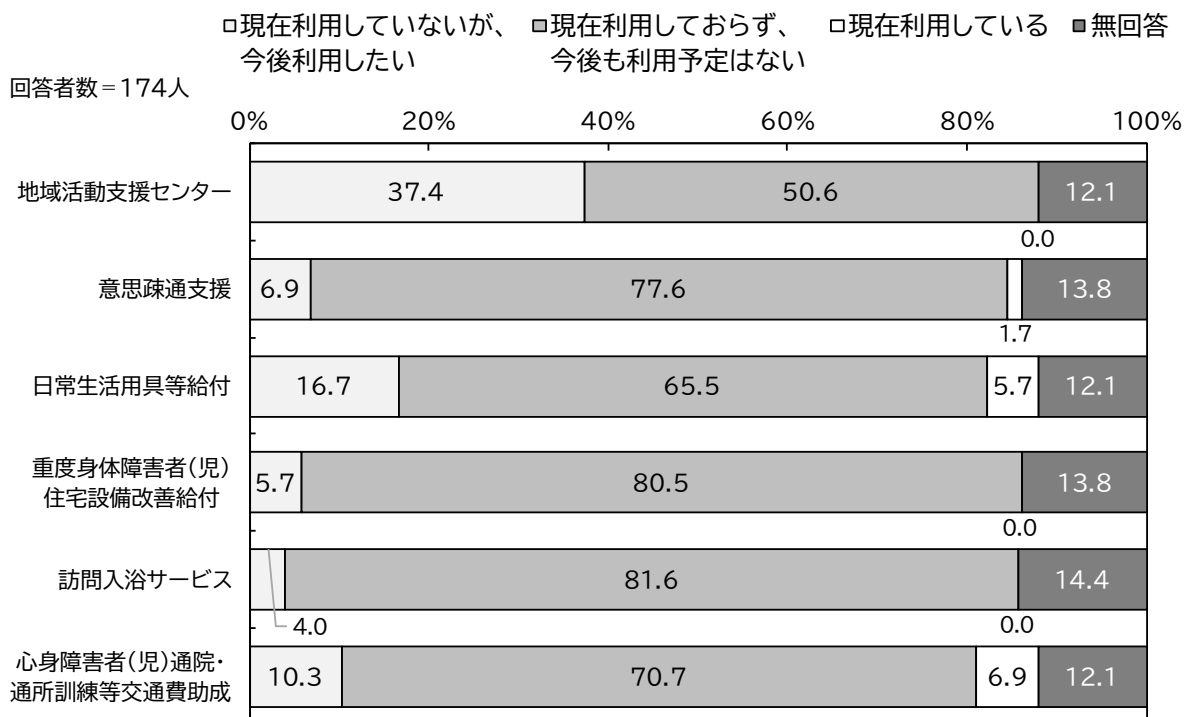
主に18歳以上の方が利用するサービスの利用意向について聞いたところ、「今後利用したい」と回答した割合が最も高い項目は、計画相談支援17.9%である。次いで、就労移行支援15.4%、就労定着支援12.8%、就労継続支援（B型）12.0%、地域移行支援と就労継続支援（A型）がともに11.1%と続いている。

5. その他のサービスについて

(1) その他サービスの利用状況・利用意向

問 17 お子さまは、次のようなサービスを利用していますか。また、現在はサービスを利用していないが、今後利用したいと思うサービスはありますか。サービスごとに、あてはまるもの1つに○をしてください。

図表 5-1-1 その他サービスの利用状況・利用意向



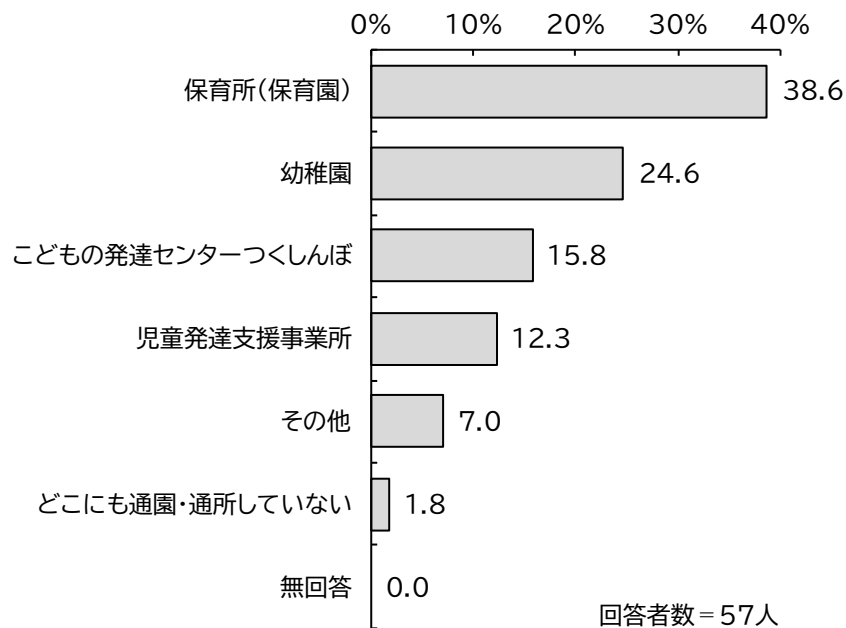
その他サービスの利用状況・利用意向について聞いたところ、「現在利用している」と回答した割合が最も高い項目は、心身障害者(児)通院・通所訓練等交通費助成 6.9%である。次いで、日常生活用具等給付 5.7%、意思疎通支援 1.7%の順になっている。また、「現在利用していないが今後利用したい」と回答した割合が最も高い項目は、地域活動支援センター37.4%で、4割近くになっている。次いで、日常生活用具等給付 16.7%、心身障害者(児)通院・通所訓練等交通費助成 10.3%、意思疎通支援 6.9%と続いている。

6. 教育・保育について

(1) 通園・通所場所

◆お子さまが小学校就学前の方に問 18 と問 19 をおたずねします。
 問 18 お子さまは、どこに通園・通所していますか。(1つに○)

図表 6-1-1 通園・通所場所



通園・通所場所について聞いたところ、「保育所(保育園)」38.6%が最も高く、4割近くになっている。次いで、「幼稚園」24.6%、「こどもの発達センターつくしんぼ」15.8%、「児童発達支援事業所」12.3%の順になっている。

一方、「どこにも通園・通所していない」は1.8%となっている。

第3章 調査結果(児童)

図表 6-1-2 通園・通所場所〔障害種別〕

		回答者数 (人)	保育所 (保育園)	幼稚園	こどもの発達センター つくしんぼ	児童発達支援事業所	その他	どこにも通園・通所 していない	無回答
全体		57	38.6%	24.6%	15.8%	12.3%	7.0%	1.8%	0.0%
障害種別	身体障害者手帳所持者	9	11.1%	11.1%	11.1%	22.2%	44.4%	0.0%	0.0%
	愛の手帳所持者	22	54.5%	9.1%	27.3%	4.5%	0.0%	4.5%	0.0%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	23	39.1%	34.8%	17.4%	8.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	4	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	日常的に医療的ケアが必要	4	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%

※網掛けは、全体の割合を上回っている選択肢

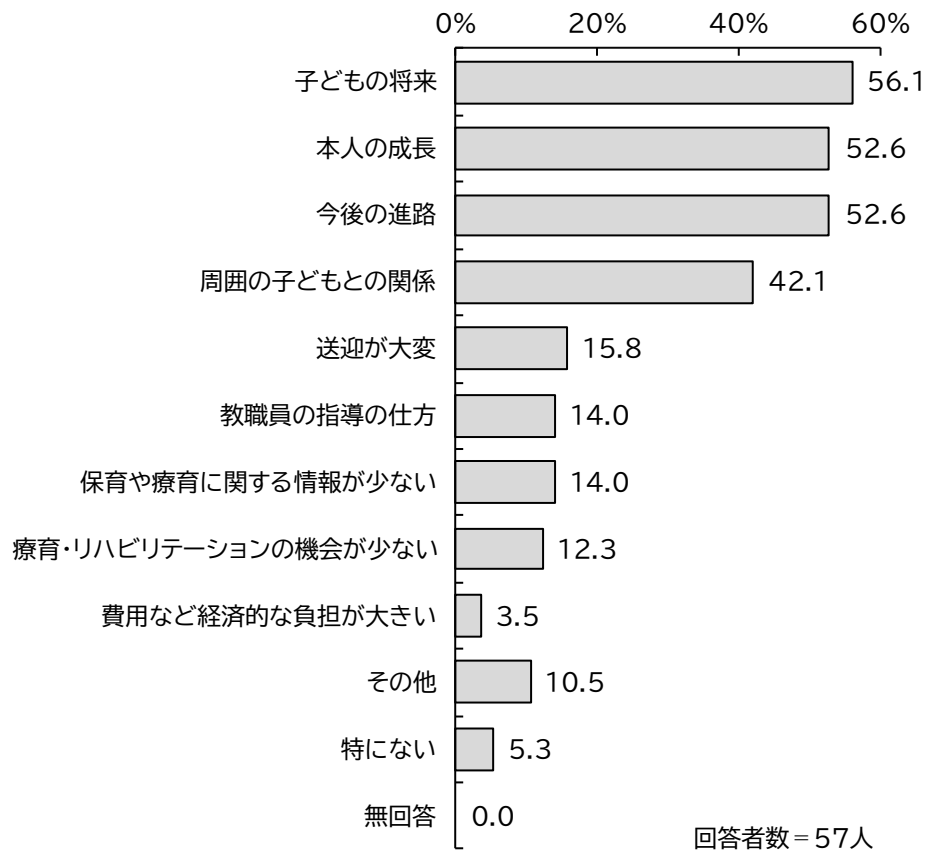
障害種別でみると、愛の手帳所持者と発達障害の診断ありの方、日常的に医療的ケアが必要な方で、「こどもの発達センターつくしんぼ」の割合が、身体障害者手帳所持者と日常的に医療的ケアが必要な方で、「児童発達支援事業所」の割合が、全体を上回っている。

「どこにも通園・通所していない」は愛の手帳所持者と難病の診断ありの方で、全体を上回っている。

(2) 通園・通所に関する困りごとや心配ごと

問 19 お子さまの通園・通所で困っていることや心配していることはありますか。
(主なもの3つまで○)

図表 6-2-1 通園・通所に関する困りごとや心配ごと



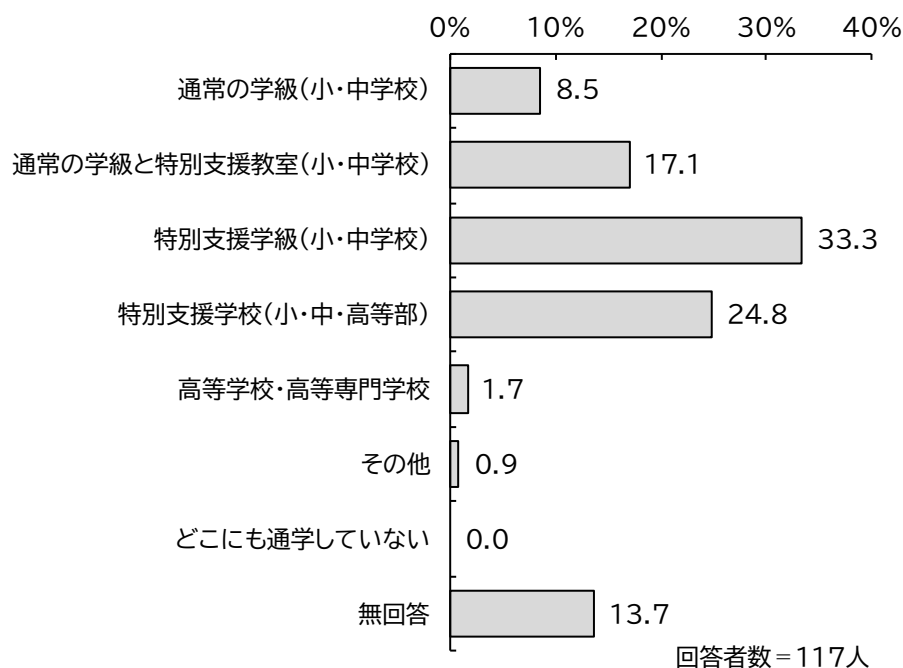
通園・通所に関する困りごとや心配ごとについて聞いたところ、「子どもの将来」が56.1%、「本人の成長」と「今後の進路」がともに52.6%で5割台、次いで、「周囲の子どもとの関係」42.1%と続いている。

(3) 通学場所

◆お子さまが小学校就学後の方におたずねします。

問 20 お子さまは、どこに通学していますか。(1つに○)

図表 6-3-1 通学場所



通学場所について聞いたところ、「特別支援学級(小・中学校)」33.3%が最も高く、次いで、「特別支援学校(小・中・高等部)」24.8%、「通常の学級と特別支援教室(小・中学校)」17.1%、「通常の学級(小・中学校)」8.5%、「高等学校・高等専門学校」1.7%の順になっている。

「どこにも通学していない」は0.0%となっている。

図表 6-3-2 通学場所〔障害種別〕

		回答者数(人)	通常の学級(小・中学校)	通常の学級と特別支援教室(小・中学校)	特別支援学級(小・中学校)	特別支援学校(小・中・高等部)	高等学校・高等専門学校	その他	いどこにも通学していない	無回答
全体		117	8.5%	17.1%	33.3%	24.8%	1.7%	0.9%	0.0%	13.7%
障害種別	身体障害者手帳所持者	16	12.5%	6.3%	18.8%	43.8%	0.0%	0.0%	0.0%	18.8%
	愛の手帳所持者	66	1.5%	1.5%	39.4%	40.9%	0.0%	1.5%	0.0%	15.2%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	0.0%	40.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	73	12.3%	26.0%	39.7%	9.6%	1.4%	1.4%	0.0%	9.6%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	8	12.5%	0.0%	37.5%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%
	日常的に医療的ケアが必要	2	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%

※網掛けは、全体の割合を上回っている選択肢

障害種別でみると、身体障害者手帳所持者は「特別支援学校(小・中・高等部)」が43.8%で4割以上となっている。愛の手帳所持者は「特別支援学校(小・中・高等部)」が40.9%、「特別支援学級(小・中学校)」が39.4%となっている。発達障害の診断ありの方は、「特別支援学級(小・中学校)」39.7%、「通常の学級と特別支援教室(小・中学校)」26.0%、「通常の学級(小・中学校)」12.3%となっている。

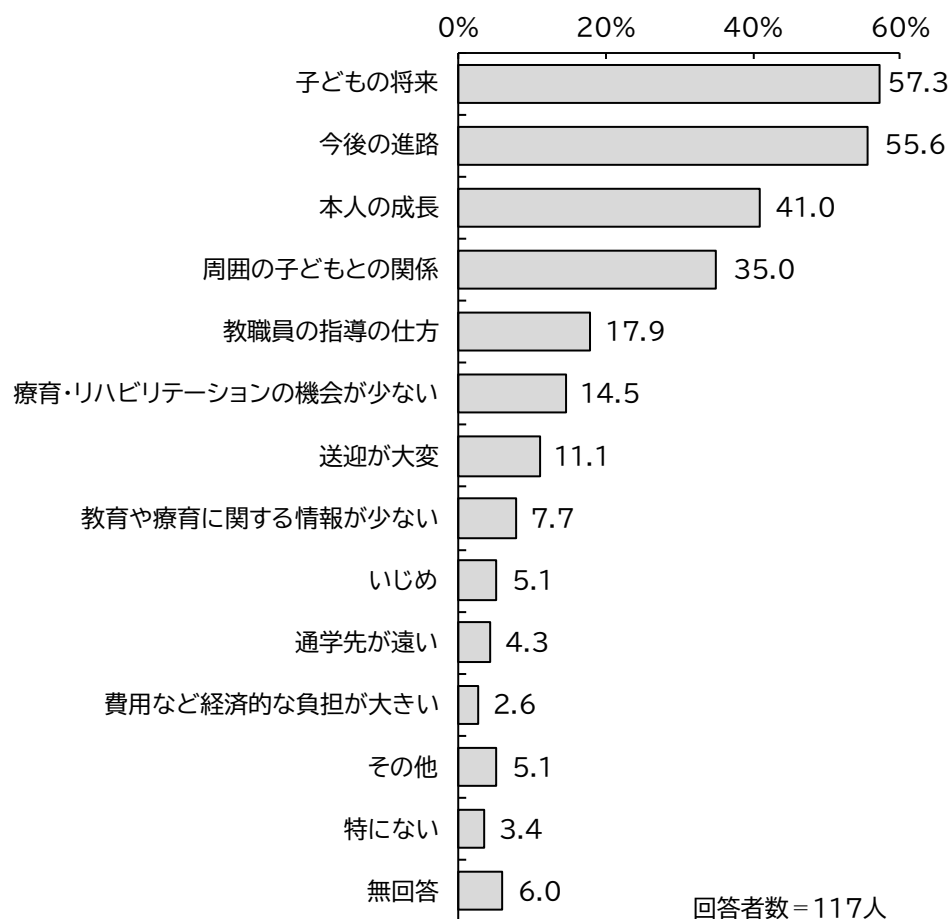
(4) 通学に関する困りごとや心配ごと

◆お子さまが小学校就学後の方におたずねします。

問 21 お子さまの通学で困っていることや心配していることはありますか。

(主なもの3つまで○)

図表 6-4-1 通学に関する困りごとや心配ごと



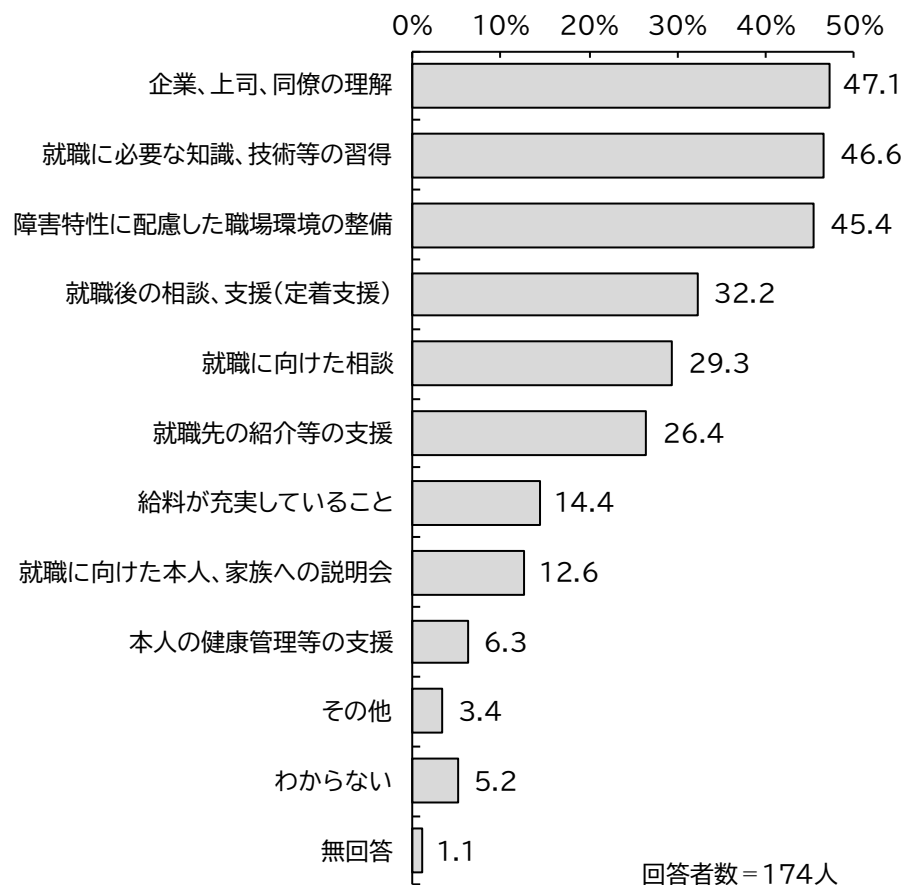
通学に関する困りごとや心配ごとについて聞いたところ、「子どもの将来」が 57.3%、「今後の進路」が 55.6%で5割台となっている。次いで、「本人の成長」41.0%、「周囲の子どもとの関係」35.0%と続いている。

7. 将来について

(1) 将来就職するために必要だと思うこと

問 22 お子さまが、今後（将来）仕事に就くために必要だと思うことは何ですか。
（主なもの3つまで○）

図表 7-1-1 将来就職するために必要だと思うこと

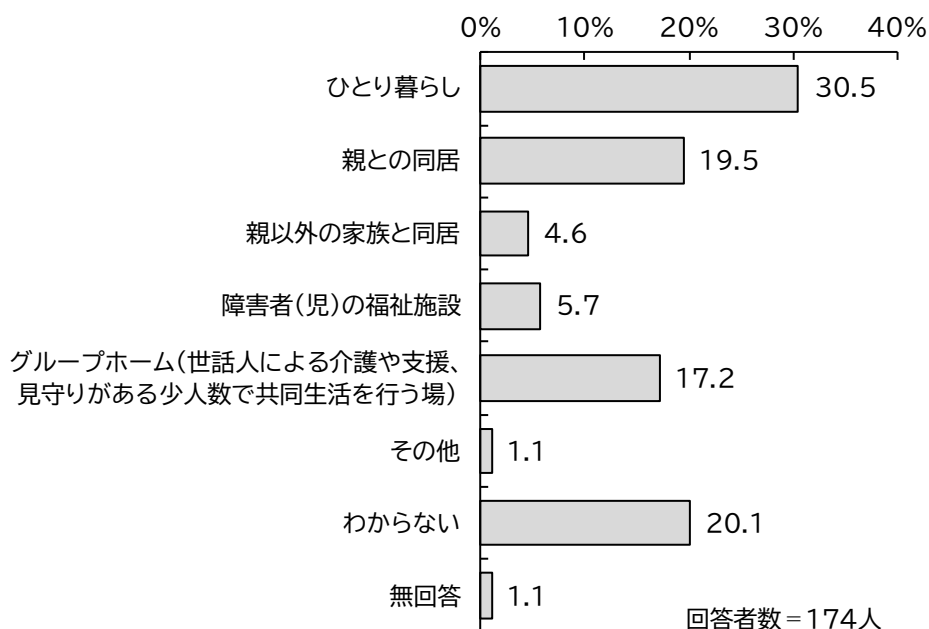


将来就職するために必要だと思うことについて聞いたところ、「企業、上司、同僚の理解」が47.1%、「就職に必要な知識、技術等の習得」が46.6%、「障害特性に配慮した職場環境の整備」が45.4%で、4割台となっている。次いで、「就職後の相談、支援（定着支援）」32.2%、「就職に向けた相談」29.3%、「就職先の紹介等の支援」26.4%と続いている。

(2) 将来希望する暮らし

問 23 お子さまが、今後（将来）どのような住まいで生活することを希望していますか。
(1つに○)

図表 7-2-1 将来希望する暮らし



将来希望する暮らしについて聞いたところ、「ひとり暮らし」30.5%が最も高く、約3割となっている。次いで、「親との同居」19.5%、「グループホーム（世話人による介護や支援、見守りがある少人数で共同生活を行う場）」17.2%、「障害者（児）の福祉施設」5.7%、「親以外の家族と同居」4.6%の順になっている。

一方、「わからない」は20.1%で、約2割となっている。

図表 7-2-2 将来希望する暮らし〔障害種別〕

		回答者数 (人)	ひとり暮らし	親との同居	親以外の家族と同居	障害者(児)の福祉施設	グループホーム	その他	わからない	無回答
全体		174	30.5%	19.5%	4.6%	5.7%	17.2%	1.1%	20.1%	1.1%
障害種別	身体障害者手帳所持者	25	20.0%	12.0%	4.0%	24.0%	8.0%	0.0%	32.0%	0.0%
	愛の手帳所持者	88	14.8%	21.6%	0.0%	10.2%	31.8%	1.1%	19.3%	1.1%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	60.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	2	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	96	36.5%	19.8%	4.2%	3.1%	15.6%	2.1%	18.8%	0.0%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	12	8.3%	33.3%	0.0%	8.3%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	日常的に医療的ケアが必要	6	33.3%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

障害種別でみると、精神障害者保健福祉手帳所持者、手帳未所持で精神疾患の診断ありの方、発達障害の診断ありの方、日常的に医療的ケアが必要な方では「ひとり暮らし」、愛の手帳所持者、難病の診断ありの方では「親との同居」の割合が、それぞれ第1位となっている。

身体障害者手帳所持者は、「障害者(児)の福祉施設」が24.0%と全体の割合を上回っているが、「わからない」が32.0%と最も高くなっている。

8. 外出について

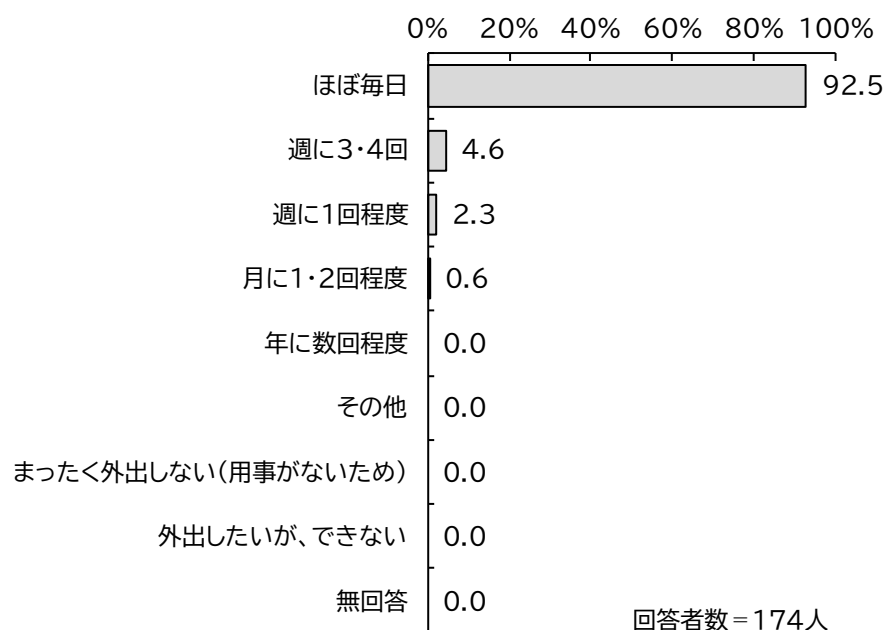
(1) 外出頻度・外出したくてもできない理由

問 24 お子さまはどれくらい外出しますか。通学、通院等の外出も含めてお答えください。(1つに○)

◆問 24 で「8. 外出したいが、できない」と答えた方におたずねします。

問 25 外出できない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 8-1-1 外出頻度



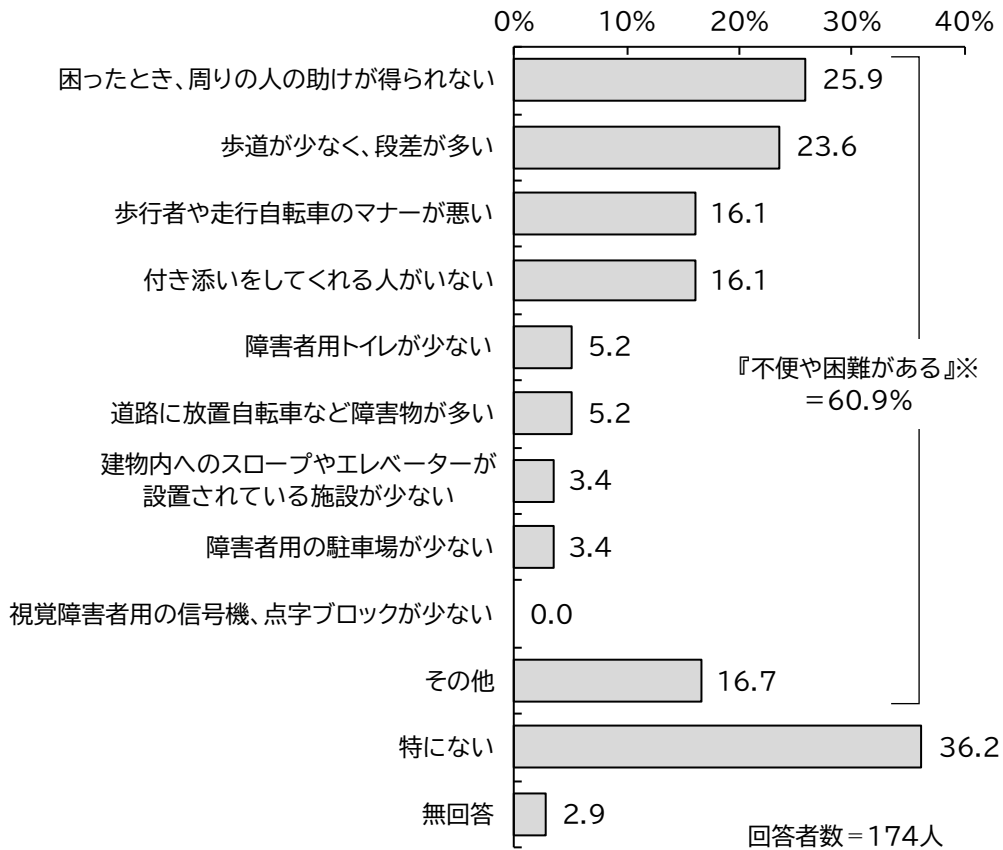
外出頻度について聞いたところ、「ほぼ毎日」92.5%が最も高く、9割以上となっている。次いで、「週に3・4回」4.6%、「週に1回程度」2.3%、「月に1・2回程度」0.6%の順になっている。

「まったく外出しない(用事がないため)」と「外出したいが、できない」は、ともに0.0%となっている。そのため、問25の外出をしたくてもできない理由は集計していない。

(2) 外出時に感じる不便や困難

問 26 お子さまが外出するとき、どのようなことに不便や困難を感じていますか。
(あてはまるものすべてに○)

図表 8-2-1 外出時に感じる不便や困難



※『不便や困難がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

外出時に感じる不便や困難について聞いたところ、「困ったとき、周りの人の助けが得られない」25.9%、「歩道が少なく、段差が多い」23.6%が2割台となっている。次いで、「歩行者や走行自転車のマナーが悪い」と「付き添いをしてくれる人がいない」がともに16.1%と続いている。

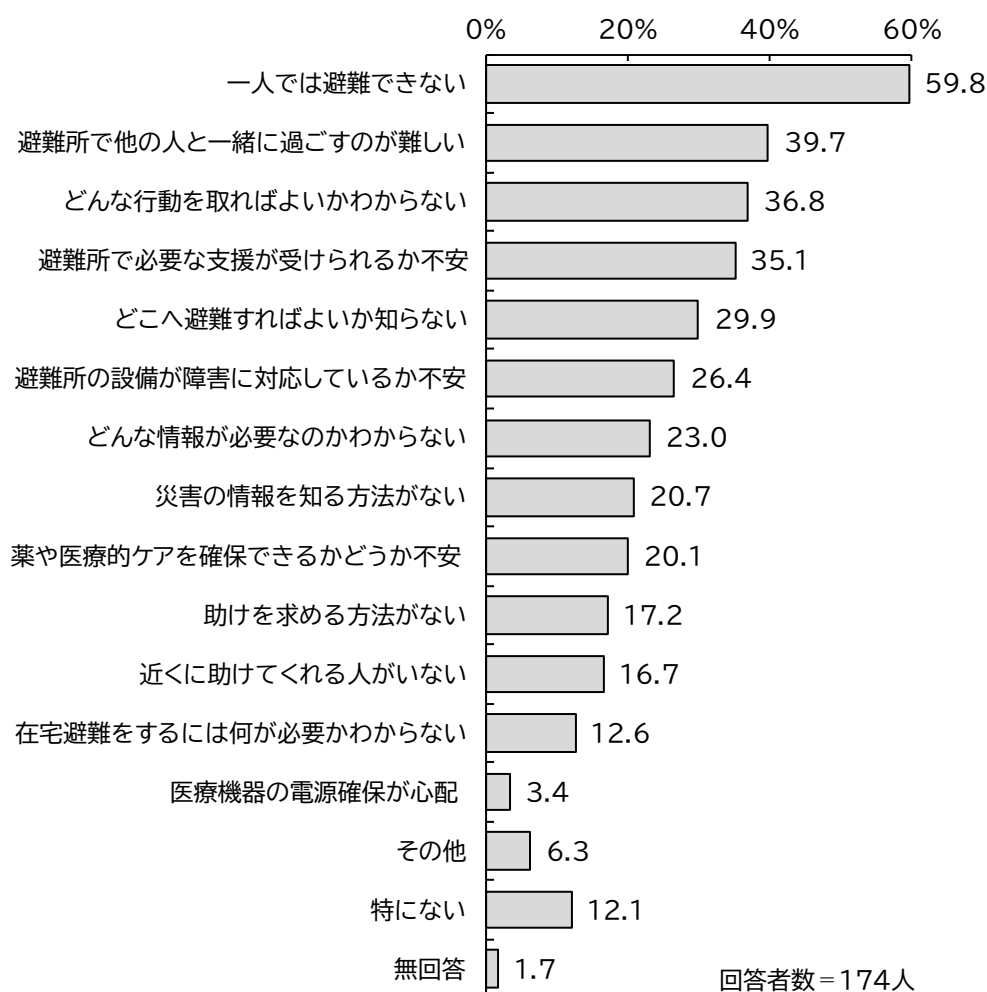
一方、「特にない」は36.2%で、4割近くになっている。

9. 災害への備えについて

(1) 災害発生時に困ることや不安に感じること

問 27 お子さまにとって、地震などの災害が発生したときに、困ることや不安なことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 9-1-1 災害発生時に困ることや不安に感じること



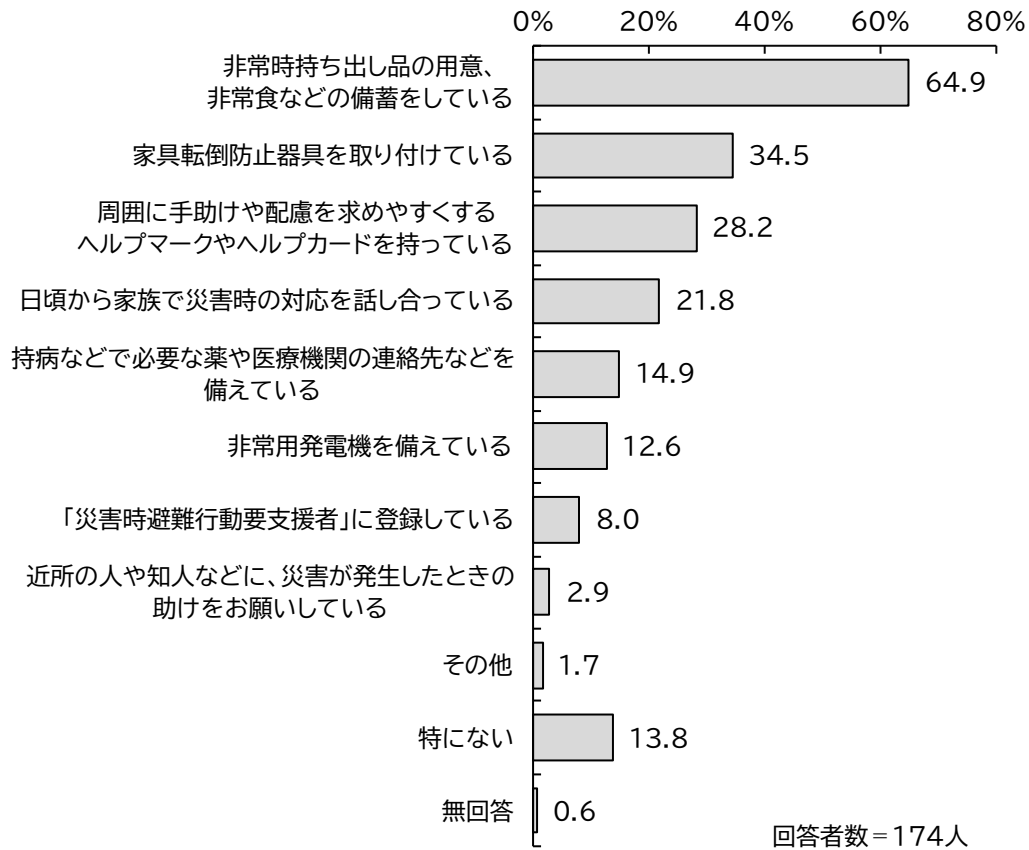
災害発生時に困ることや不安に感じることについて聞いたところ、「一人では避難できない」59.8%が最も高く、約6割となっている。次いで、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」39.7%、「どんな行動を取ればよいかわからない」36.8%、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」35.1%が3割台、「どこへ避難すればよいか知らない」29.9%、「避難所の設備が障害に対応しているか不安」26.4%、「どんな情報が必要なのかわからない」23.0%、「災害の情報を知る方法がない」20.7%、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」20.1%が2割台と続いている。

一方、「特になし」は12.1%となっている。

(2) 災害に対する備え

問 28 お子さまやあなた（保護者の方）は、災害に対してどのような備えをしていますか。（あてはまるものすべてに○）

図表 9-2-1 災害に対する備え



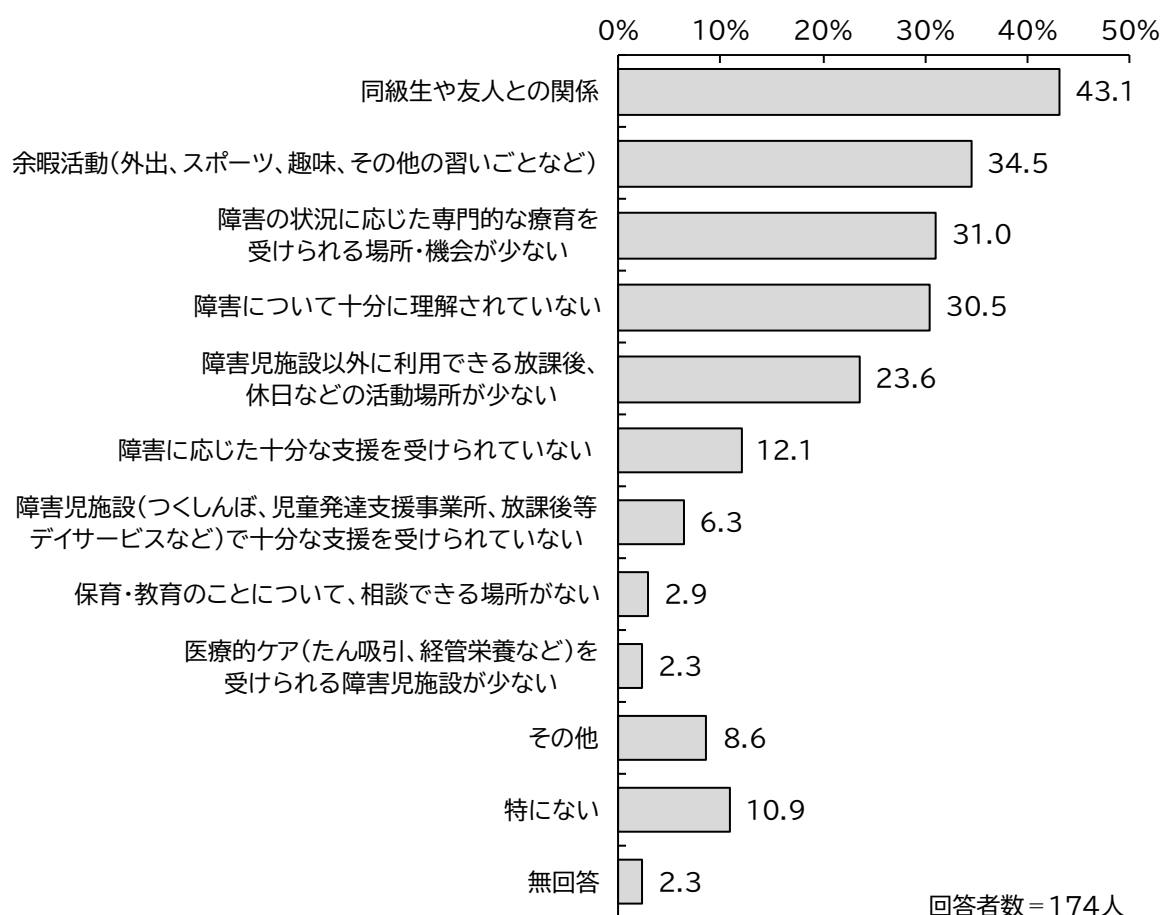
災害に対する備えについて聞いたところ、「非常時持ち出し品の用意、非常食などの備蓄をしている」64.9%が最も高く、6割半ばとなっている。次いで、「家具転倒防止器具を取り付けている」34.5%、「周囲に手助けや配慮を求めやすくするヘルプマークやヘルプカードを持っている」28.2%、「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」21.8%と続いている。「特にない」は13.8%となっている。

10. 相談や福祉の情報について

(1) お子さまの日常生活に関する不安や課題

問 29 お子さまについて、日常生活に関して、不安や課題を感じていることはありますか。(主なものを3つまで〇)

図表 10-1-1 お子さまの日常生活に関する不安や課題



お子さまの日常生活に関する不安や課題について聞いたところ、「同級生や友人との関係」43.1%が最も高く、4割以上となっている。次いで、「余暇活動(外出、スポーツ、趣味、その他の習いごとなど)」34.5%、「障害の状況に応じた専門的な療育を受けられる場所・機会が少ない」31.0%、「障害について十分に理解されていない」30.5%が3割台と続いている。

「特にない」は10.9%となっている。

図表 10-1-2 お子さまの日常生活に関する不安や課題〔年齢別・障害種別〕

		回答者数(人)	同級生や友人との関係	余暇活動(外出、スポーツ、趣味、その他の習いごとなど)	障害の状況に応じた専門的な療育を受けられる場所・機会が少ない	障害について十分に理解されていない	障害児施設以外に利用できる放課後、休日などの活動場所が少ない	障害に応じた十分な支援を受けられていない
全体		174	43.1%	34.5%	31.0%	30.5%	23.6%	12.1%
年齢別	0～5歳	57	43.9%	28.1%	29.8%	29.8%	17.5%	19.3%
	6～17歳	117	42.7%	37.6%	31.6%	30.8%	26.5%	8.5%
障害種別	身体障害者手帳所持者	25	24.0%	48.0%	24.0%	40.0%	28.0%	12.0%
	愛の手帳所持者	88	30.7%	42.0%	36.4%	31.8%	38.6%	12.5%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	60.0%	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	20.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	2	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	96	56.3%	33.3%	29.2%	33.3%	25.0%	9.4%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	12	41.7%	41.7%	25.0%	58.3%	41.7%	8.3%
	日常的に医療的ケアが必要	6	16.7%	16.7%	50.0%	33.3%	16.7%	16.7%

		回答者数(人)	障害児施設で十分な支援を受けられていない	保育・教育のことについて、相談できる場所がない	医療的ケアを受けられる障害児施設が少ない	その他	特にない	無回答
全体		174	6.3%	2.9%	2.3%	8.6%	10.9%	2.3%
年齢別	0～5歳	57	5.3%	5.3%	5.3%	8.8%	8.8%	1.8%
	6～17歳	117	6.8%	1.7%	0.9%	8.5%	12.0%	2.6%
障害種別	身体障害者手帳所持者	25	4.0%	4.0%	8.0%	4.0%	16.0%	0.0%
	愛の手帳所持者	88	8.0%	0.0%	2.3%	6.8%	9.1%	3.4%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	96	6.3%	3.1%	2.1%	10.4%	8.3%	1.0%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	12	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%
	日常的に医療的ケアが必要	6	0.0%	16.7%	66.7%	0.0%	16.7%	0.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

第3章 調査結果(児童)

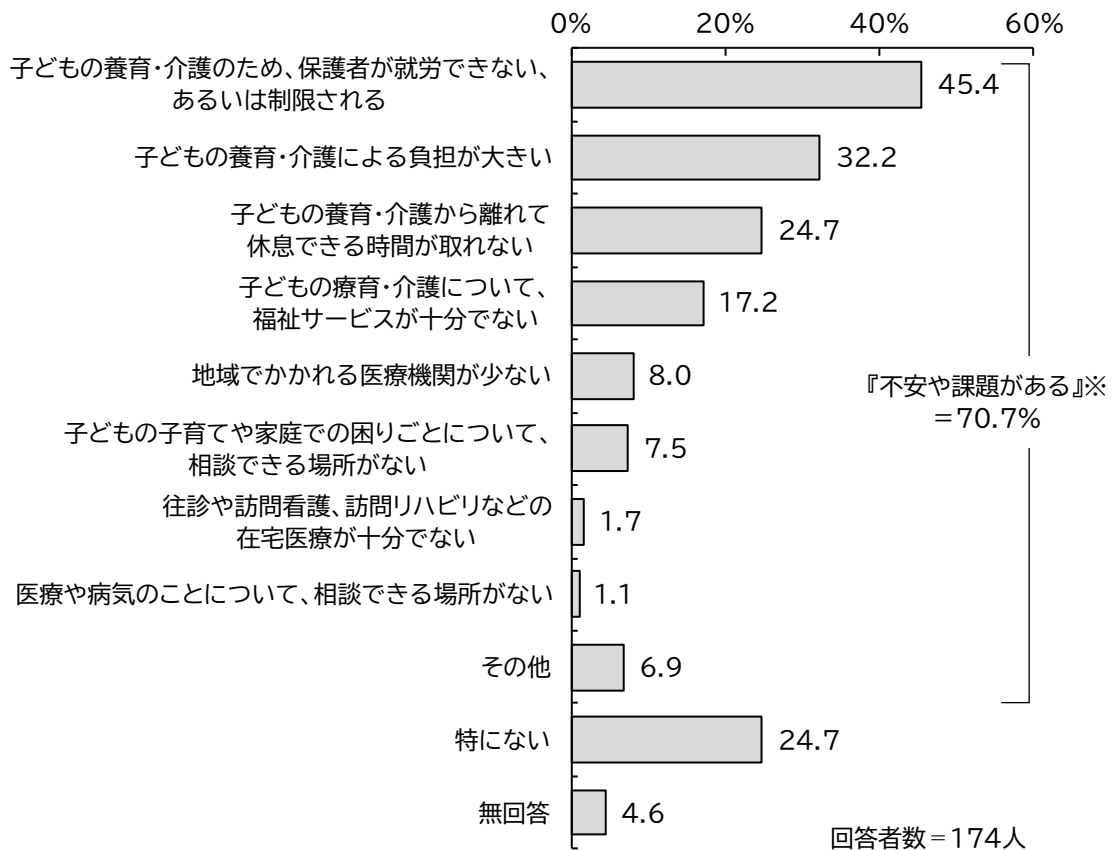
年齢別にみると、0～5歳と6～17歳ともに「同級生や友人との関係」の割合が、それぞれ第1位となっているが、6～17歳では「余暇活動（外出，スポーツ，趣味，その他の習いごとなど）」が37.6%と割合が高くなっている。

障害種別でみると、身体障害者手帳所持者と愛の手帳所持者では、「余暇活動（外出，スポーツ，趣味，その他の習いごとなど）」が、日常的に医療的ケアが必要な方では、「医療的ケアを受けられる障害児施設が少ない」が、それぞれ第1位となっている。

(2) 保護者の日常生活に関する不安や課題

問 30 あなた（保護者の方）は、日常生活に関して、不安や課題を感じていることはありますか。（主なもの3つまで○）

図表 10-2-1 保護者の日常生活に関する不安や課題



※『不安や課題がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

保護者の日常生活に関する不安や課題について聞いたところ、「子どもの養育・介護のため、保護者が就労できない、あるいは制限される」45.4%が最も高く、4割半ばとなっている。次いで、「子どもの養育・介護による負担が大きい」32.2%、「子どもの養育・介護から離れて休息できる時間が取れない」24.7%、「子どもの療育・介護について、福祉サービスが十分でない」17.2%と続いている。

一方、「特にない」は24.7%で、2割半ばとなっている。

第3章 調査結果(児童)

図表 10-2-2 保護者の日常生活に関する不安や課題 [年齢別・障害種別]

		回答者数(人)	子どもの養育・介護のため、保護者が就労できない、あるいは制限される	子どもの養育・介護による負担が大きい	子どもの養育・介護から離れて休息できる時間が取れない	子どもの療育・介護について、福祉サービスが十分でない	地域でかけられる医療機関が少ない	子どもの子育てや家庭での困りごとについて、相談できる場所がない	往診や訪問看護、訪問リハビリなどの在宅医療が十分でない	医療や病気のことで、相談できる場所がない
全体		174	45.4%	32.2%	24.7%	17.2%	8.0%	7.5%	1.7%	1.1%
年齢別	0～5歳	57	50.9%	38.6%	28.1%	17.5%	5.3%	1.8%	0.0%	0.0%
	6～17歳	117	42.7%	29.1%	23.1%	17.1%	9.4%	10.3%	2.6%	1.7%
障害種別	身体障害者手帳所持者	25	64.0%	56.0%	20.0%	4.0%	16.0%	16.0%	0.0%	8.0%
	愛の手帳所持者	88	50.0%	45.5%	27.3%	21.6%	9.1%	5.7%	2.3%	2.3%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	60.0%	40.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	2	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	96	42.7%	25.0%	28.1%	14.6%	7.3%	10.4%	1.0%	1.0%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	12	58.3%	50.0%	33.3%	16.7%	8.3%	16.7%	8.3%	8.3%
	日常的に医療的ケアが必要	6	66.7%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%

		回答者数(人)	その他	特にない	無回答
全体		174	6.9%	24.7%	4.6%
年齢別	0～5歳	57	8.8%	21.1%	7.0%
	6～17歳	117	6.0%	26.5%	3.4%
障害種別	身体障害者手帳所持者	25	0.0%	16.0%	4.0%
	愛の手帳所持者	88	5.7%	15.9%	5.7%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	20.0%	20.0%	0.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	2	0.0%	0.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	96	6.3%	31.3%	3.1%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	12	0.0%	0.0%	8.3%
	日常的に医療的ケアが必要	6	0.0%	16.7%	16.7%

※網掛けは、上位1位の選択肢

年齢別にみると、「子どもの子育てや家庭での困りごとについて、相談できる場所がない」について、6～17歳が0～5歳を8.5ポイント上回っている。

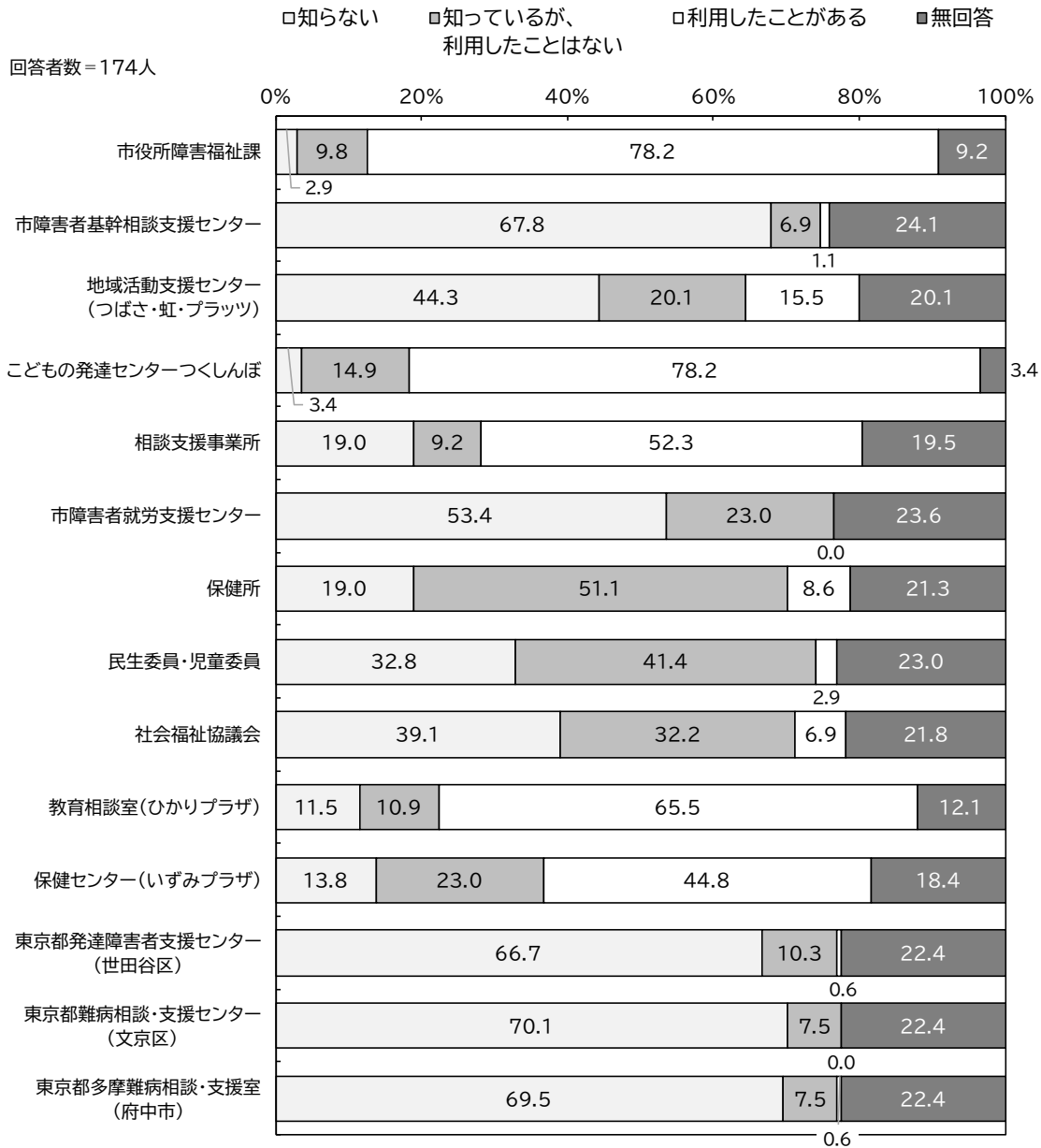
障害種別でみると、すべての障害種別において、第1位から第3位の選択肢は全体と変わらない。

第3章 調査結果(児童)

(3) 福祉の相談窓口・機関の認知度・利用状況

問 31 あなた（保護者の方）が知っている、または利用したことがある相談窓口・機関はどこですか。（あてはまるものすべてに○）
 A 認知度・利用状況

図表 10-3-1 福祉の相談窓口・機関の認知度・利用状況

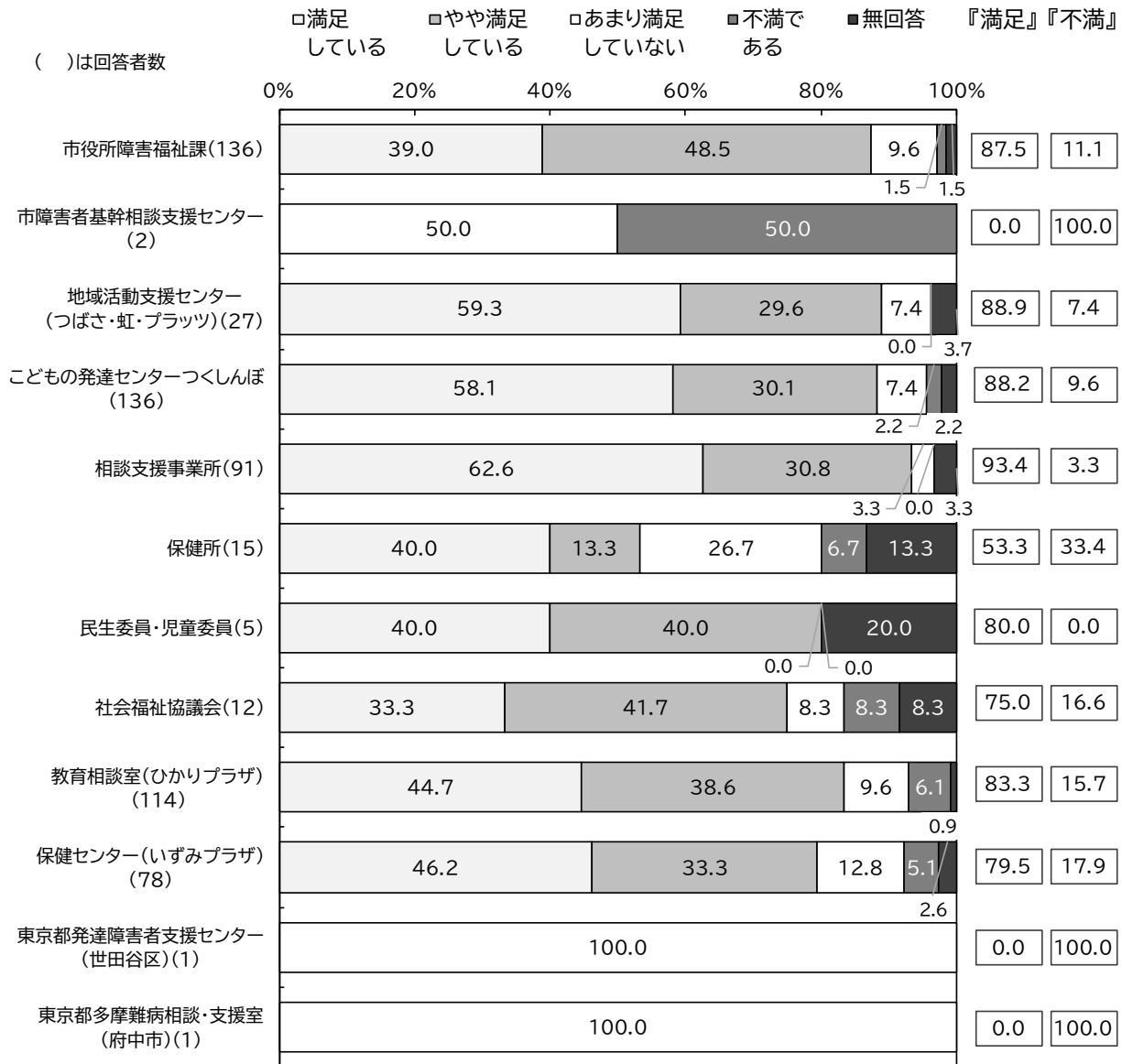


相談窓口・機関の認知度・利用状況について聞いたところ、「利用したことがある」割合が最も高い窓口・機関は、市役所障害福祉課と子ども発達センターつくしんぼでともに78.2%となっている。次いで、教育相談室（ひかりプラザ）65.5%、相談支援事業所52.3%、保健センター（いずみプラザ）44.8%と続いている。

(4) 福祉の相談窓口・機関の満足度

B 満足度
 Aで、「3 利用したことがある」と答えた方におたずねします。(1つに○)

図表 10-4-1 福祉の相談窓口・機関の満足度



※市障害者就労支援センター，東京都難病相談・支援センター（文京区）は「利用したことがある」が0.0%のため、満足度の掲載は省略している。

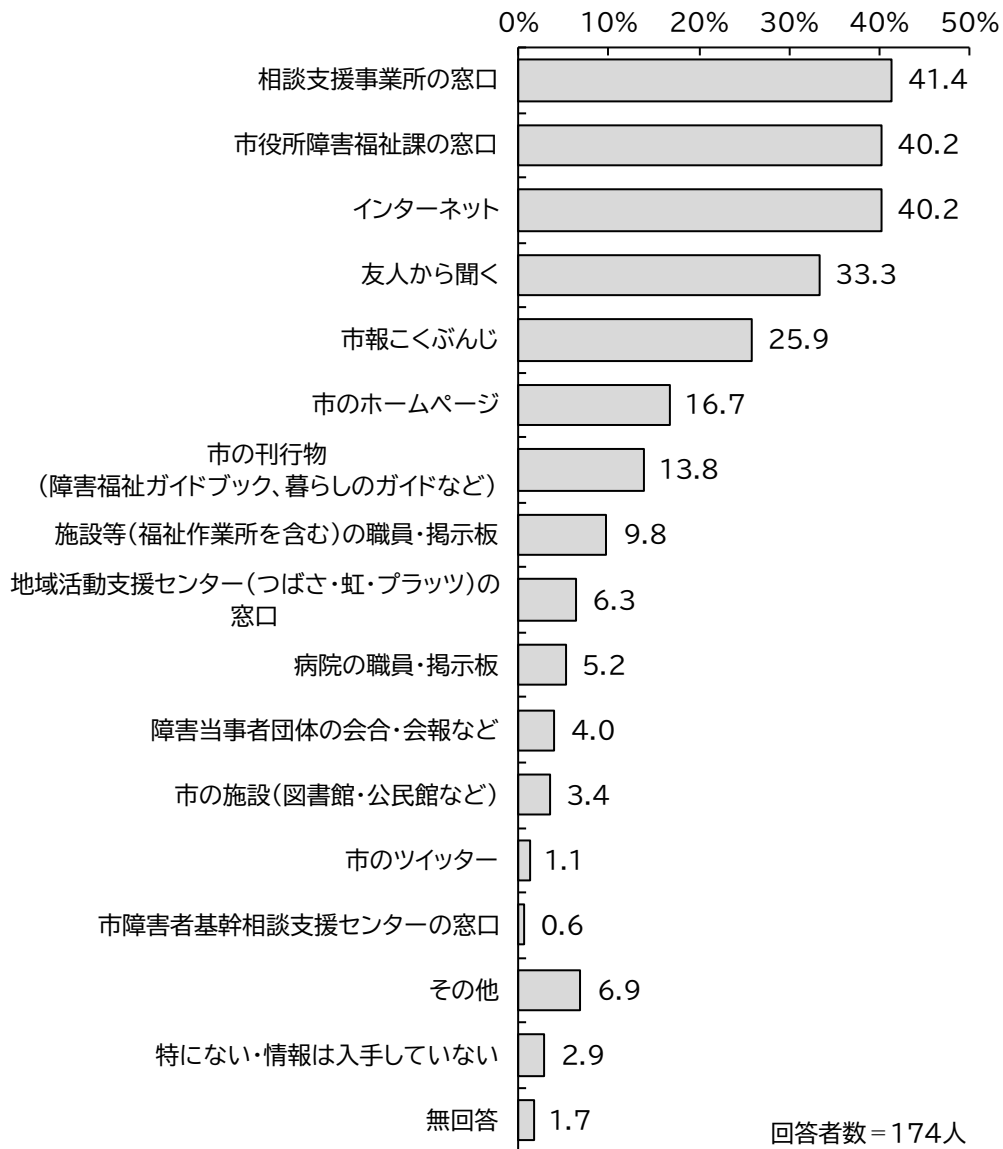
福祉の相談窓口・機関の満足度について聞いたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた肯定的な回答『満足』の割合が高い項目は、相談支援事業所 93.4%、地域活動支援センター（つばさ・虹・プラッツ）88.9%、こどもの発達センターつくしんぼ 88.2%となっている。

一方、「あまり満足していない」と「不満である」を合わせた回答『不満』の割合が高い項目について回答者数が2桁以上の項目でみると、保健所 33.4%、保健センター（いずみプラザ）17.9%、社会福祉協議会 16.6%となっている。

(5) 福祉サービス等に関する情報の入手経路

問 32 お子さまのことであなた（保護者の方）は、福祉サービス等に関する情報をどこから入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

図表 10-5-1 福祉サービス等に関する情報の入手経路



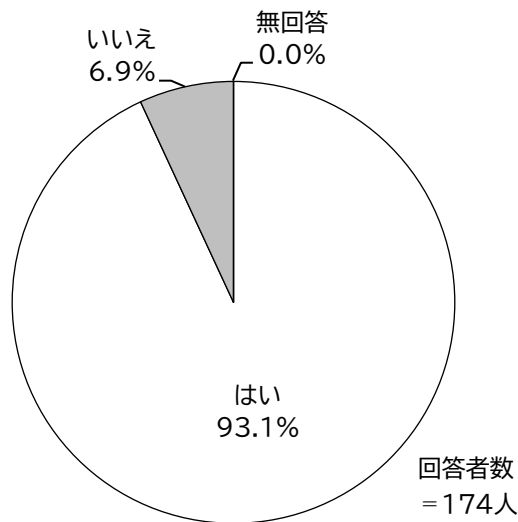
福祉サービス等に関する情報の入手経路について聞いたところ、「相談支援事業所の窓口」41.4%が最も高く、次いで、「市役所障害福祉課の窓口」「インターネット」がともに40.2%、「友人から聞く」33.3%、「市報こくぶんじ」25.9%、「市のホームページ」16.7%、「市の刊行物（障害福祉ガイドブック、暮らしのガイドなど）」13.8%と続いている

1 1. ヘルプマークとヘルプカードについて

(1) ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度

問 33 あなた（保護者の方）はヘルプマークまたはヘルプカードを知っていますか。
（1つに○）

図表 11-1-1 ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度

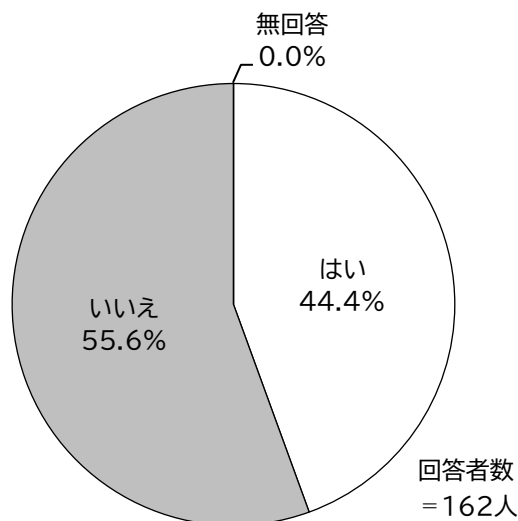


ヘルプマーク・ヘルプカードの認知度について聞いたところ、「はい」は 93.1%で9割以上、「いいえ」は 6.9%となっている。

(2) ヘルプマーク・ヘルプカード所持の有無

◆問 33 で「1. はい」と答えた方におたずねします。
問 34 お子さまはヘルプマークまたはヘルプカードを持っていますか。（1つに○）

図表 11-2-1 ヘルプマーク・ヘルプカード所持の有無



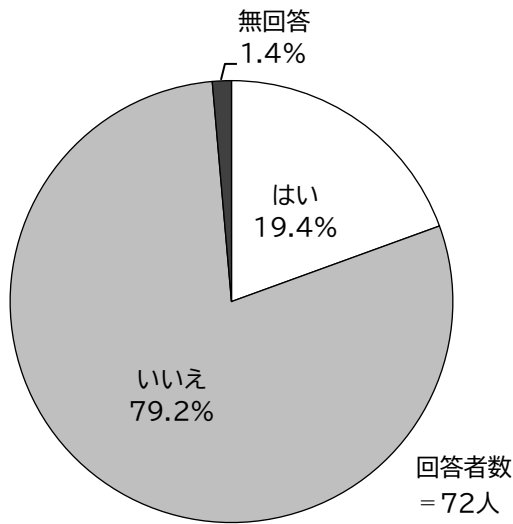
ヘルプマーク・ヘルプカード所持の有無について聞いたところ、「はい」は 44.4%、「いいえ」は 55.6%となっている。

「いいえ」が「はい」を 11.2 ポイント上回っている。

(3) ヘルプマーク・ヘルプカードによる援助を受けた経験の有無

◆問 34 で「1. はい」と答えた方におたずねします。
 問 35 お子さまはヘルプマークまたはヘルプカードを使用することで、周囲の手助けが受けられたことはありますか。(電車、バスで優先席に座りやすくなったなど)
 (1つに○)

図表 11-3-1 ヘルプマーク・ヘルプカードによる援助を受けた経験の有無

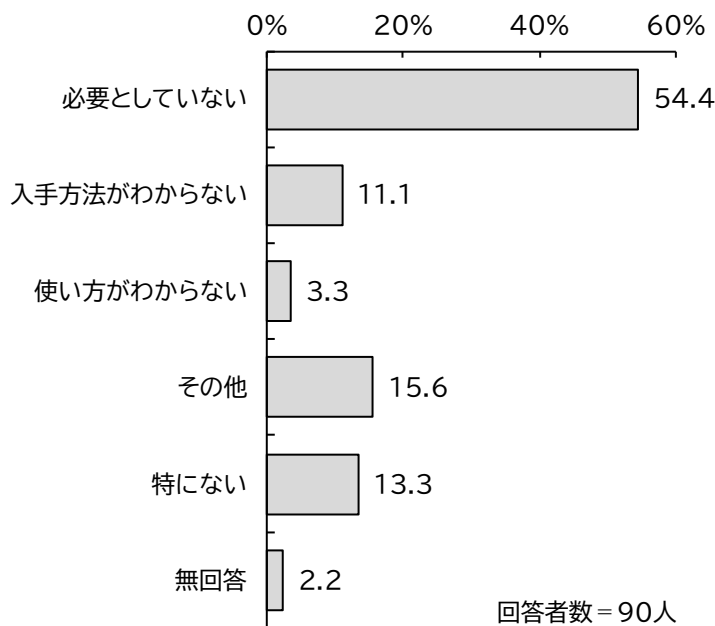


ヘルプマーク・ヘルプカードによる援助を受けた経験の有無について聞いたところ、「はい」が19.4%、「いいえ」が79.2%で約8割となっている。

(4) ヘルプマーク・ヘルプカードを持っていない理由

◆問 34 で「2. いいえ」と答えた方におたずねします。
 問 36 ヘルプマークまたはヘルプカードを持っていない理由は何ですか。(1つに○)

図表 11-4-1 ヘルプマーク・ヘルプカードを持っていない理由



ヘルプマーク・ヘルプカードを持っていない理由について聞いたところ、「必要としていない」54.4%が最も高く、5割半ばとなっている。次いで、「入手方法がわからない」11.1%、「使い方がわからない」3.3%の順になっている。

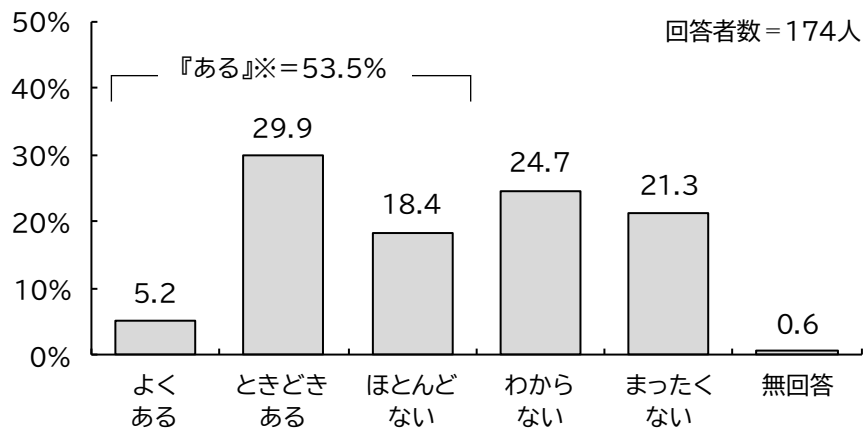
「特にない」は13.3%となっている。

12. 障害を理由とする差別について

(1) 障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無

問37 お子さまは過去3年の間に障害があるために差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。(1つに○)

図表 12-1-1 障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無



※『ある』 = 「よくある」 + 「ときどきある」 + 「ほとんどない」

障害による差別やいやな思いを受けた経験の有無について聞いたところ、「ときどきある」29.9%が最も高く、「よくある」5.2%と「ほとんどない」18.4%を合わせると53.5%で、5割以上が『ある』となっている。

一方、「まったくない」は21.3%となっている。

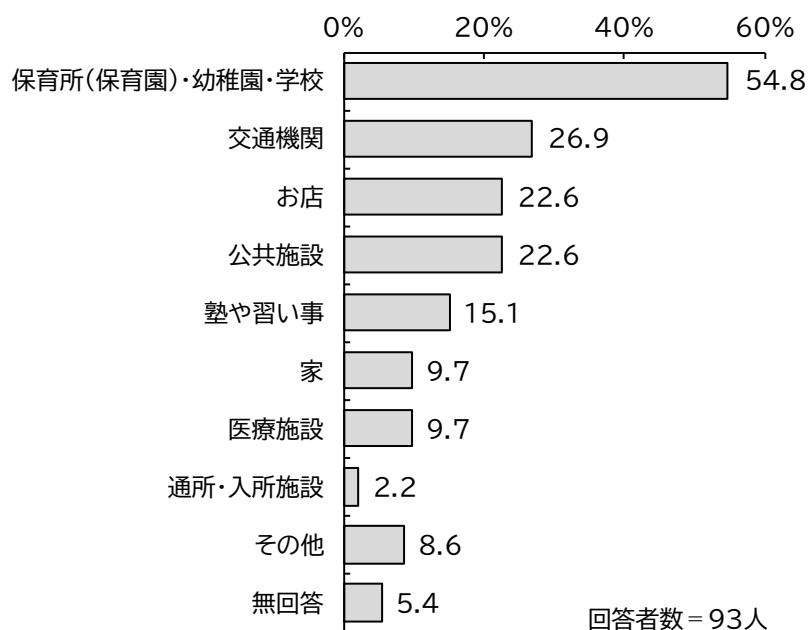
(2) 差別やいやな思いを受けた場所

◆問 37 で「1. よくある」「2. ときどきある」「3. ほとんどない」と答えた方におたずねします。

問 38 お子さまはどこで、だれから、どのようなことで差別を受けたり、いやな思いをしましたか。また、あなた（保護者の方）はどこに相談しましたか。

(あてはまるものすべてに○)

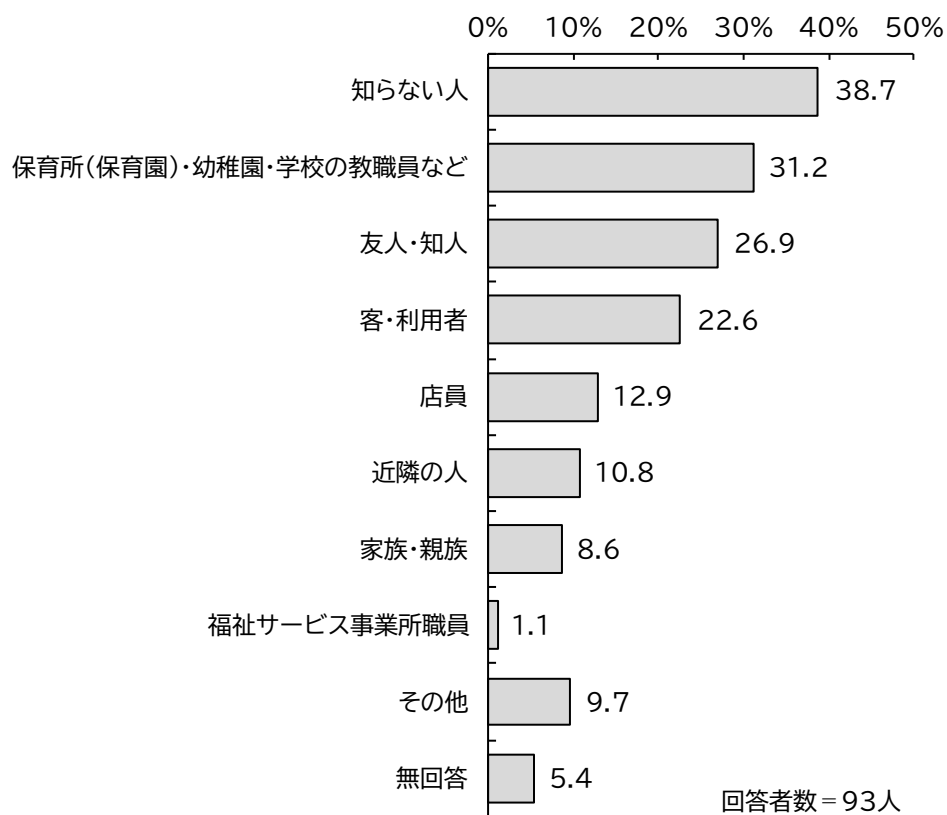
図表 12-2-1 差別やいやな思いを受けた場所



差別やいやな思いを受けた場所について聞いたところ、「保育所（保育園）・幼稚園・学校」54.8%が最も高く、5割半ばとなっている。次いで、「交通機関」26.9%、「お店」22.6%、「公共施設」22.6%が2割台と続いている。

(3) 差別やいやな思いを受けた相手

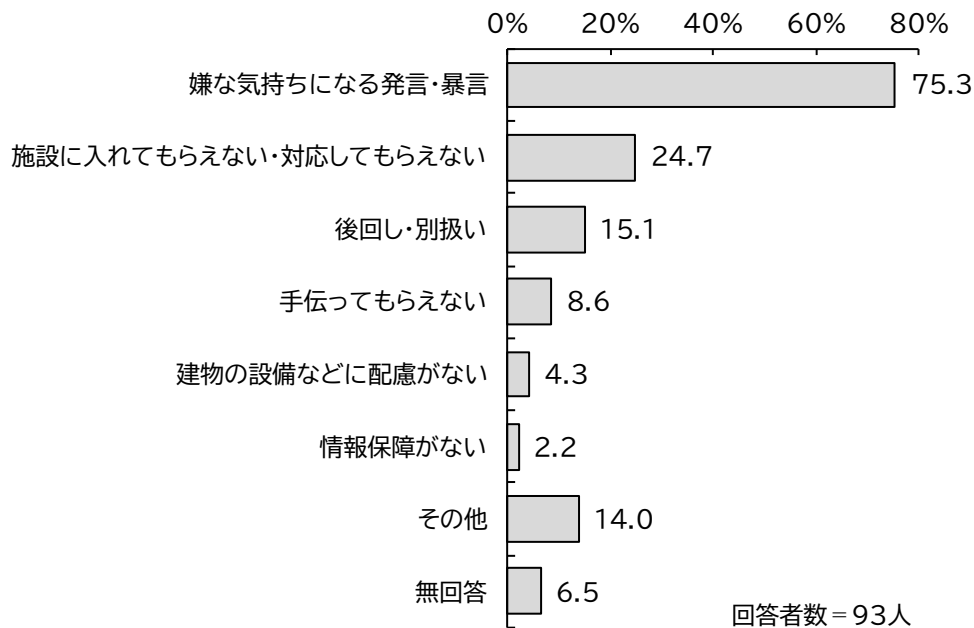
図表 12-3-1 差別やいやな思いを受けた相手



差別やいやな思いを受けた相手について聞いたところ、「知らない人」38.7%、「保育所(保育園)・幼稚園・学校の教職員など」31.2%が3割台となっている。次いで、「友人・知人」26.9%、「客・利用者」22.6%が2割台と続いている。

(4) 差別やいやな思いを受けた内容

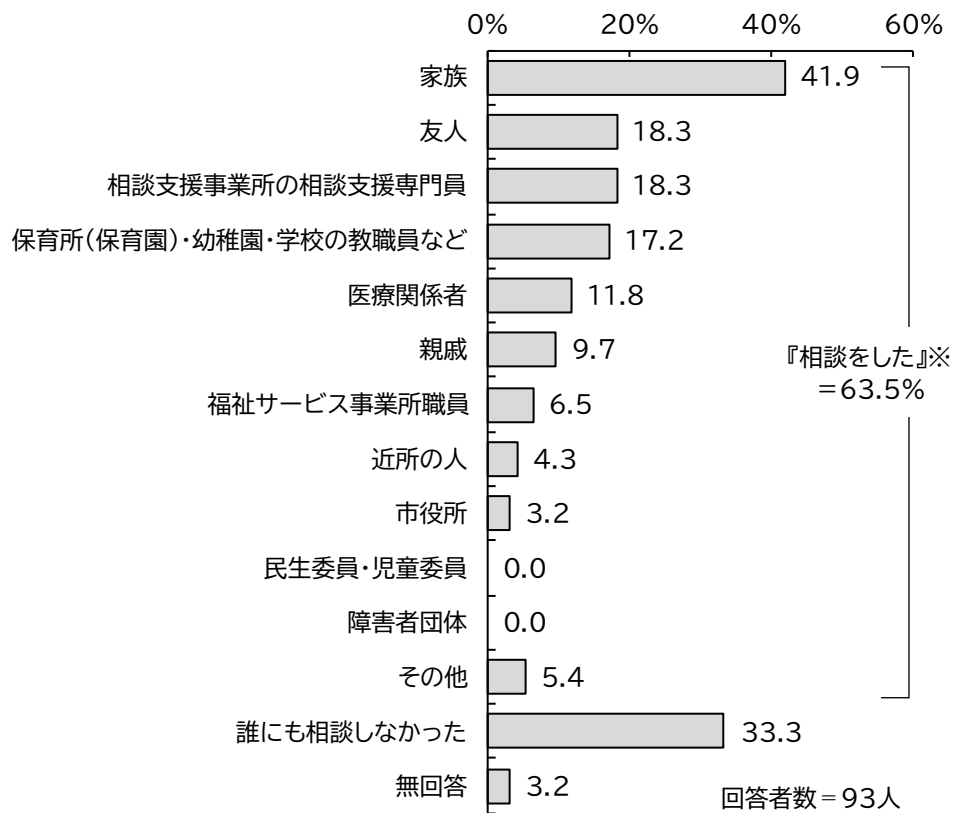
図表 12-4-1 差別やいやな思いを受けた内容



差別やいやな思いを受けた内容について聞いたところ、「嫌な気持ちになる発言・暴言」75.3%が最も高く、7割半ばとなっている。次いで、「施設に入れてもらえない・対応してもらえない」24.7%、「後回し・別扱い」15.1%、「手伝ってもらえない」8.6%、「建物の設備などに配慮がない」4.3%、「情報保障がない」2.2%の順になっている。

(5) 差別やいやな思いを受けた時の相談先

図表 12-5-1 差別やいやな思いを受けた時の相談先



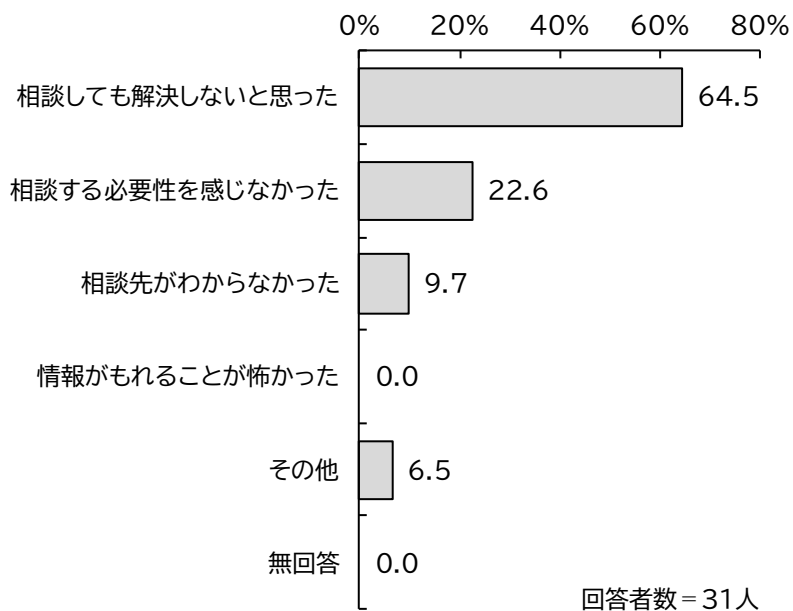
※『相談をした』=100% - 「誰にも相談しなかった」 - 「無回答」

差別やいやな思いを受けた時の相談先について聞いたところ、「家族」41.9%が最も高く、4割以上となっている。次いで、「友人」「相談支援事業所の相談支援専門員」がともに18.3%、「保育所(保育園)・幼稚園・学校の教職員など」17.2%、「医療関係者」11.8%が1割台と続いている。一方、「誰にも相談しなかった」は33.3%で、3割以上となっている。

(6) 差別やいやな思いを受けたが相談しなかった理由

◆問 38 の相談先で「13. 誰にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。
問 39 相談しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 12-6-1 差別やいやな思いを受けたが相談しなかった理由



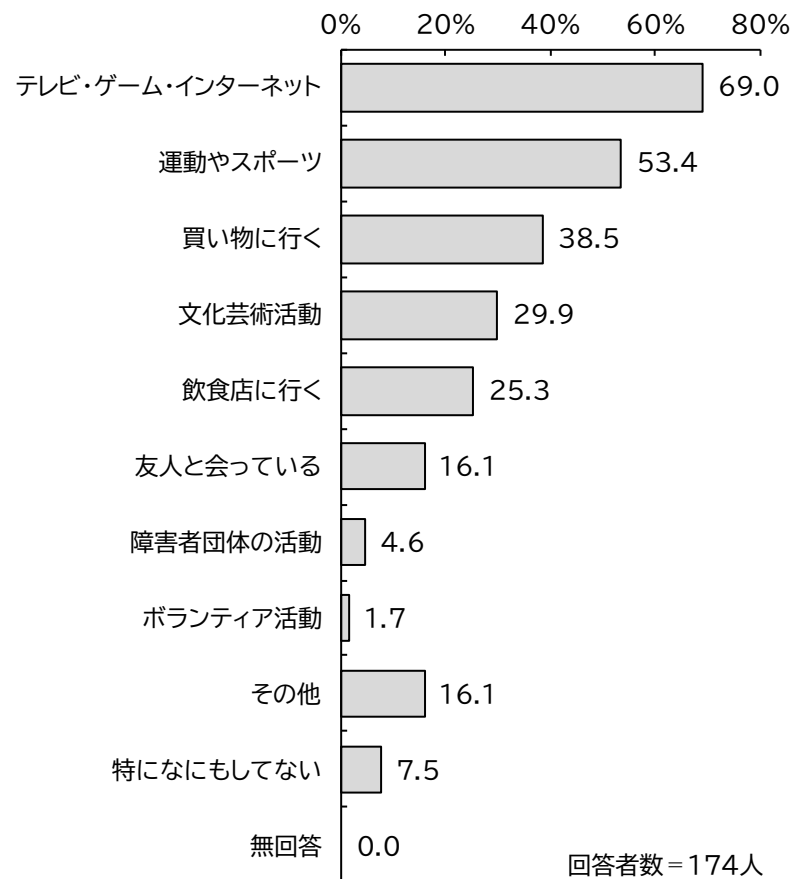
差別やいやな思いを受けたが相談しなかった理由について聞いたところ、「相談しても解決しないと思った」64.5%が最も高く、6割半ばとなっている。次いで、「相談する必要性を感じなかった」22.6%、「相談先がわからなかった」9.7%の順になっている。

13. 余暇活動について

(1) 余暇の過ごし方

問 40 お子さまは、通所・学校以外の時間でどのようなことをして過ごしていることが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 13-1-1 余暇の過ごし方



余暇の過ごし方について聞いたところ、「テレビ・ゲーム・インターネット」69.0%が最も高く、約7割となっている。次いで、「運動やスポーツ」53.4%、「買い物に行く」38.5%、「文化芸術活動」29.9%、「飲食店に行く」25.3%の順になっている。

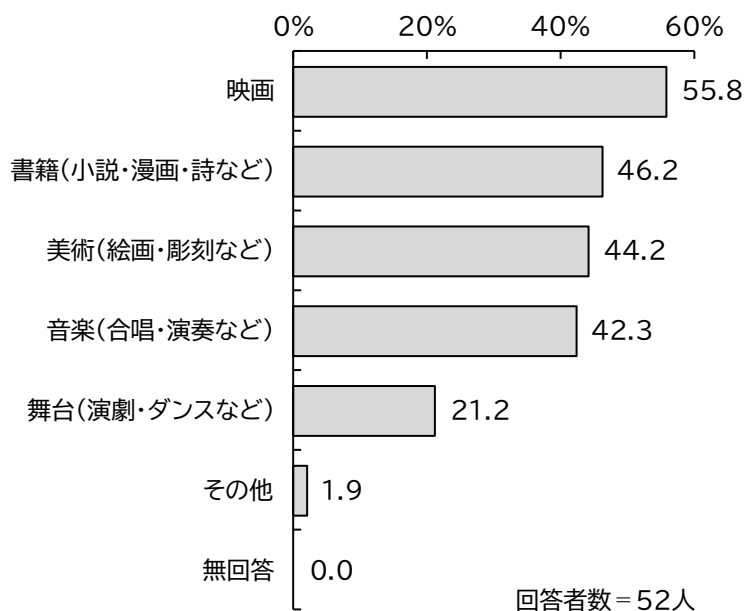
一方、「特になにもしてない」は7.5%となっている。

(2) 文化芸術への関わり方

◆問 40 で「6. 文化芸術活動」と答えた方におたずねします。

問 41 お子さまは、過去1年の間にどの文化芸術を見たり、作ったり、楽しんだりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 13-2-1 文化芸術への関わり方



文化芸術への関わり方について聞いたところ、「映画」55.8%が最も高く、次いで、「書籍(小説・漫画・詩など)」46.2%、「美術(絵画・彫刻など)」44.2%、「音楽(合唱・演奏など)」42.3%が4割台と続いている。

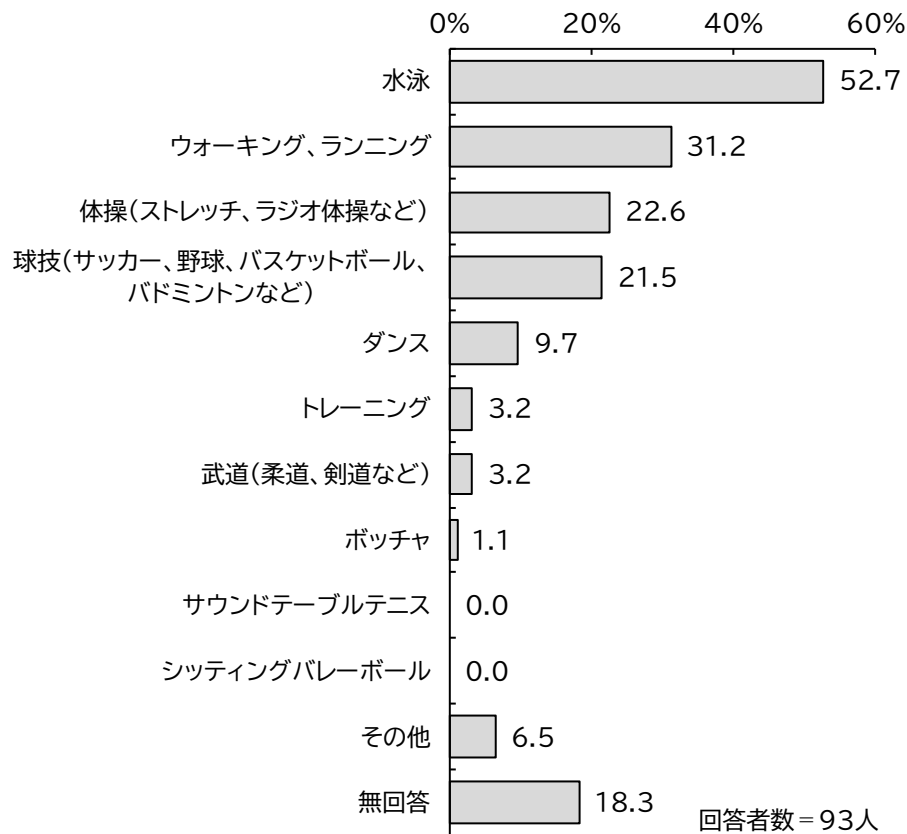
(3) 過去1年間の運動やスポーツ経験の有無

◆問40で「7. 運動やスポーツ」と答えた方におたずねします。

問42 お子さまは、過去1年間にどの運動やスポーツを行ったことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

図表 13-3-1 過去1年間の運動やスポーツ経験の有無

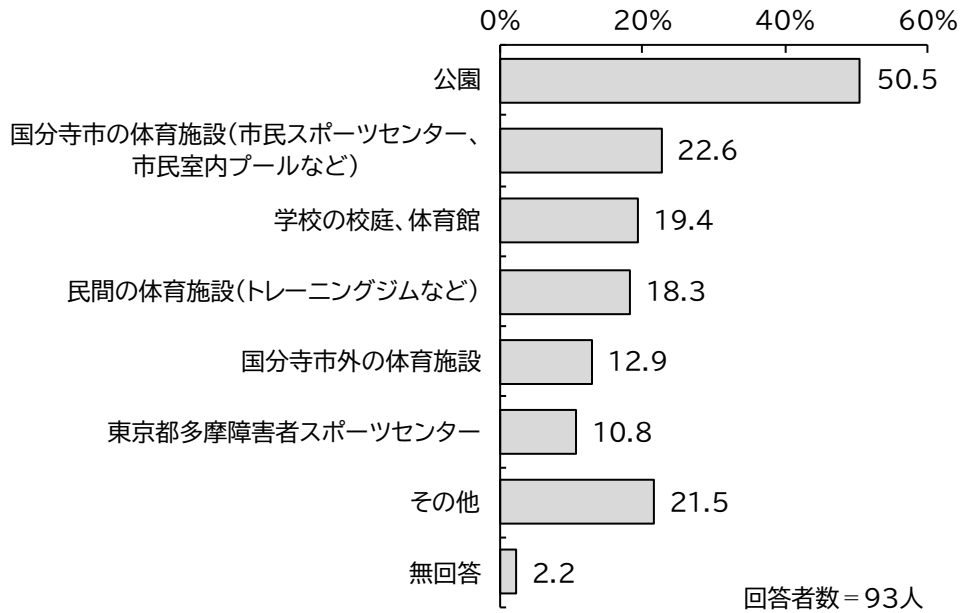


過去1年間の運動やスポーツ経験の有無について聞いたところ、「水泳」52.7%が最も高く、5割以上となっている。次いで、「ウォーキング、ランニング」31.2%、「体操(ストレッチ、ラジオ体操など)」22.6%、「球技(サッカー、野球、バスケットボール、バドミントンなど)」21.5%と続いている。

(4) 運動やスポーツをする場所

問 43 お子さまが運動をする場所はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 13-4-1 運動やスポーツをする場所



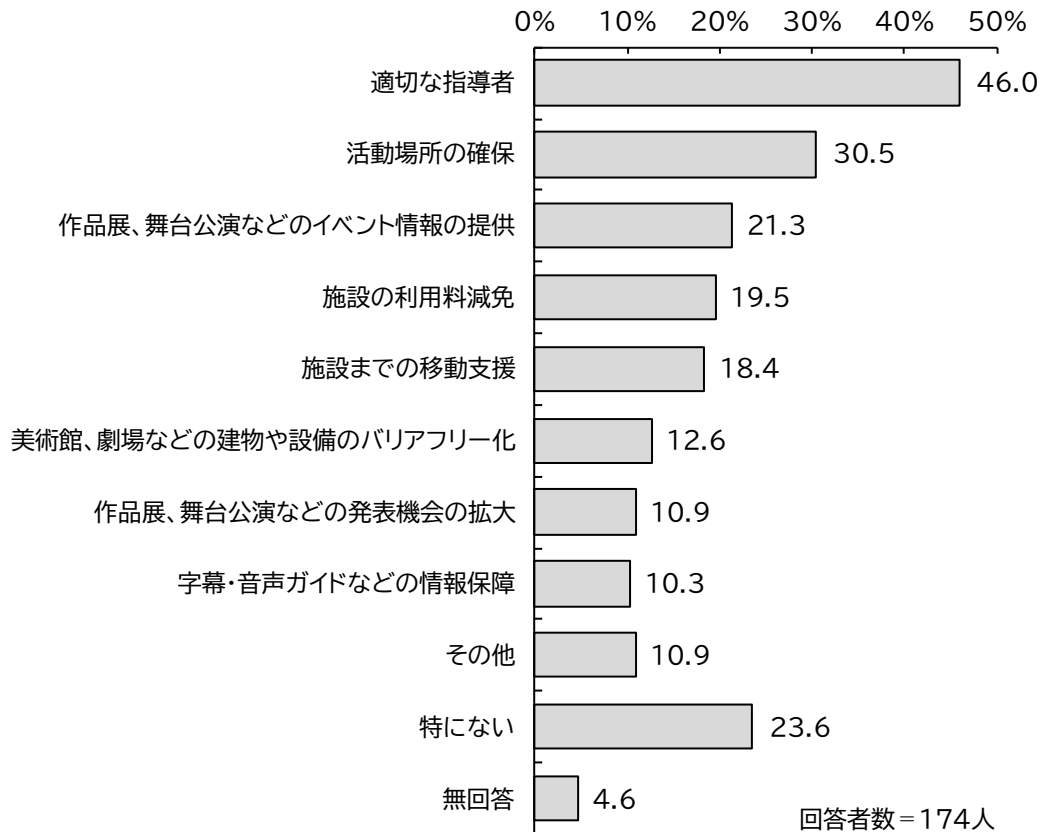
運動やスポーツをする場所について聞いたところ、「公園」50.5%が最も高く、約5割となっている。次いで、「国分寺市の体育施設（市民スポーツセンター，市民室内プールなど）」22.6%，「学校の校庭，体育館」19.4%，「民間の体育施設（トレーニングジムなど）」18.3%と続いている。

「その他」21.5%，では，具体的に「習い事先」などが多く記載されている。

(5) 文化芸術活動に関わるために必要な支援

問 44 お子さまが、文化芸術活動に関わるために必要な支援は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

図表 13-5-1 文化芸術活動に関わるために必要な支援



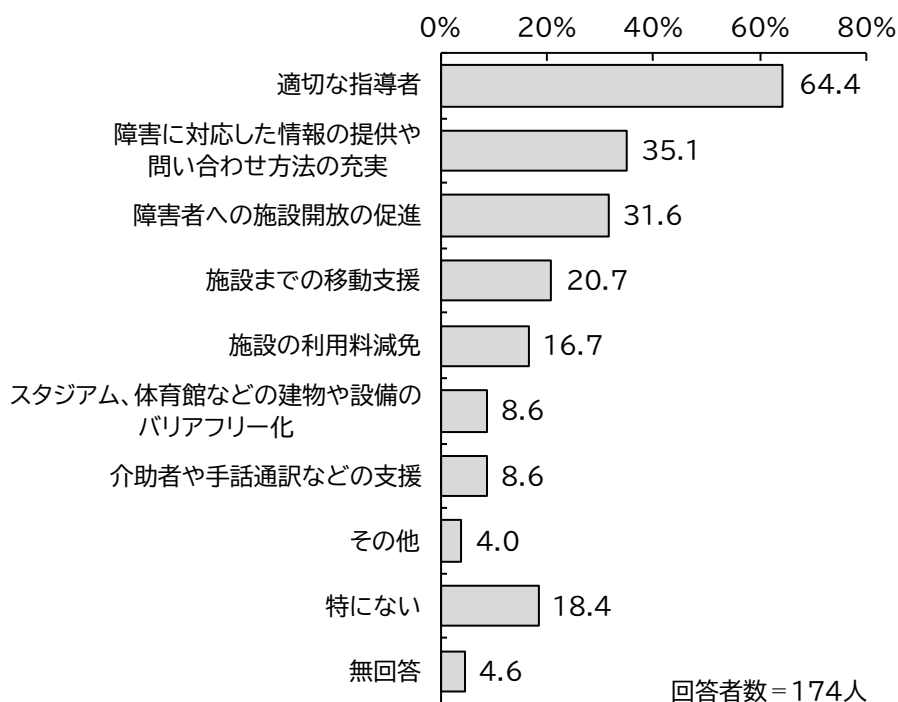
文化芸術活動に関わるために必要な支援について聞いたところ、「適切な指導者」46.0%が最も高く、次いで、「活動場所の確保」30.5%、「作品展、舞台公演などのイベント情報の提供」21.3%、「施設の利用料減免」19.5%、「施設までの移動支援」18.4%、「美術館、劇場などの建物や設備のバリアフリー化」12.6%、「作品展、舞台公演などの発表機会の拡大」10.9%、「字幕・音声ガイドなどの情報保障」10.3%の順になっている。

一方、「特にない」は23.6%となっている。

(6) 運動やスポーツを行うために必要な支援

問 45 お子さまが、運動やスポーツを行うために必要な支援は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

図表 13-6-1 運動やスポーツを行うために必要な支援



運動やスポーツを行うために必要な支援について聞いたところ、「適切な指導者」64.4%が最も高く、6割半ばとなっている。次いで、「障害に対応した情報の提供や問い合わせ方法の充実」35.1%、「障害者への施設開放の促進」31.6%、「施設までの移動支援」20.7%、「施設の利用料減免」16.7%、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」8.6%、「介助者や手話通訳などの支援」8.6%の順になっている。

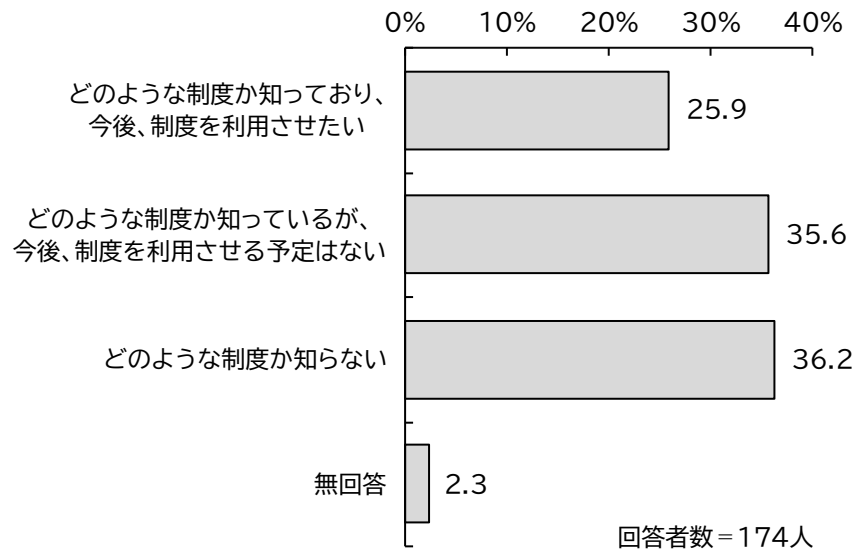
一方、「特にない」は18.4%となっている。

14. 成年後見制度について

(1) 成年後見人制度の認知度と利用傾向

問 46 あなた（保護者の方）は、成年後見制度を知っていますか。また、今後、お子さまに制度を利用させたいですか。（1つに○）

図表 14-1-1 成年後見人制度の認知度と利用傾向



成年後見人制度の認知度と利用傾向について聞いたところ、「どのような制度か知らない」36.2%が最も高く、次いで、「どのような制度か知っているが、今後、制度を利用させる予定はない」35.6%、「どのような制度か知っており、今後、制度を利用させたい」25.9%の順になっている。

第3章 調査結果(児童)

図表 14-1-2 成年後見人制度の認知度と利用傾向〔障害種別〕

		回答者数(人)	どのよう な制度か 知っており、 今後、制 度を利用 させたい	どのよう な制度か 知っている が、今後、 制度を利用 させる予 定はない	どのよう な制度か 知らない	無 回 答
全体		174	25.9%	35.6%	36.2%	2.3%
障害種別	身体障害者手帳所持者	25	20.0%	52.0%	28.0%	0.0%
	愛の手帳所持者	88	39.8%	31.8%	25.0%	3.4%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	96	20.8%	36.5%	40.6%	2.1%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	12	25.0%	58.3%	8.3%	8.3%
	日常的に医療的ケアが必要	6	33.3%	16.7%	50.0%	0.0%

※網掛けは、上位1位の選択肢

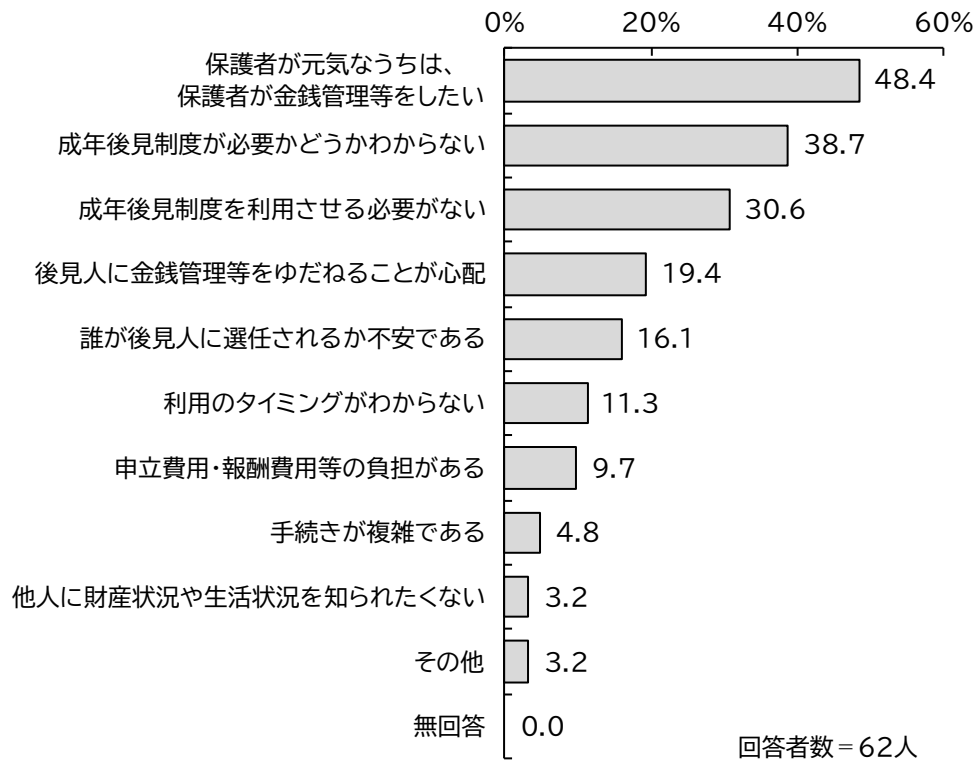
障害種別でみると、愛の手帳所持者では「どのような制度か知っており、今後、制度を利用させたい」が39.8%、身体障害者手帳所持者と難病の診断ありの方では、「どのような制度か知っているが、今後、制度を利用させる予定はない」が5割台で、それぞれ割合が第1位となっている。

(2) 成年後見人制度を利用させる予定がない理由

◆問 46 で「2. どのような制度か知っているが、今後、制度を利用させる予定はない」と答えた方におたずねします。

問 47 お子さまに制度を利用させる予定がない理由は何ですか。(主なもの3つまで○)

図表 14-2-1 成年後見人制度を利用させる予定がない理由



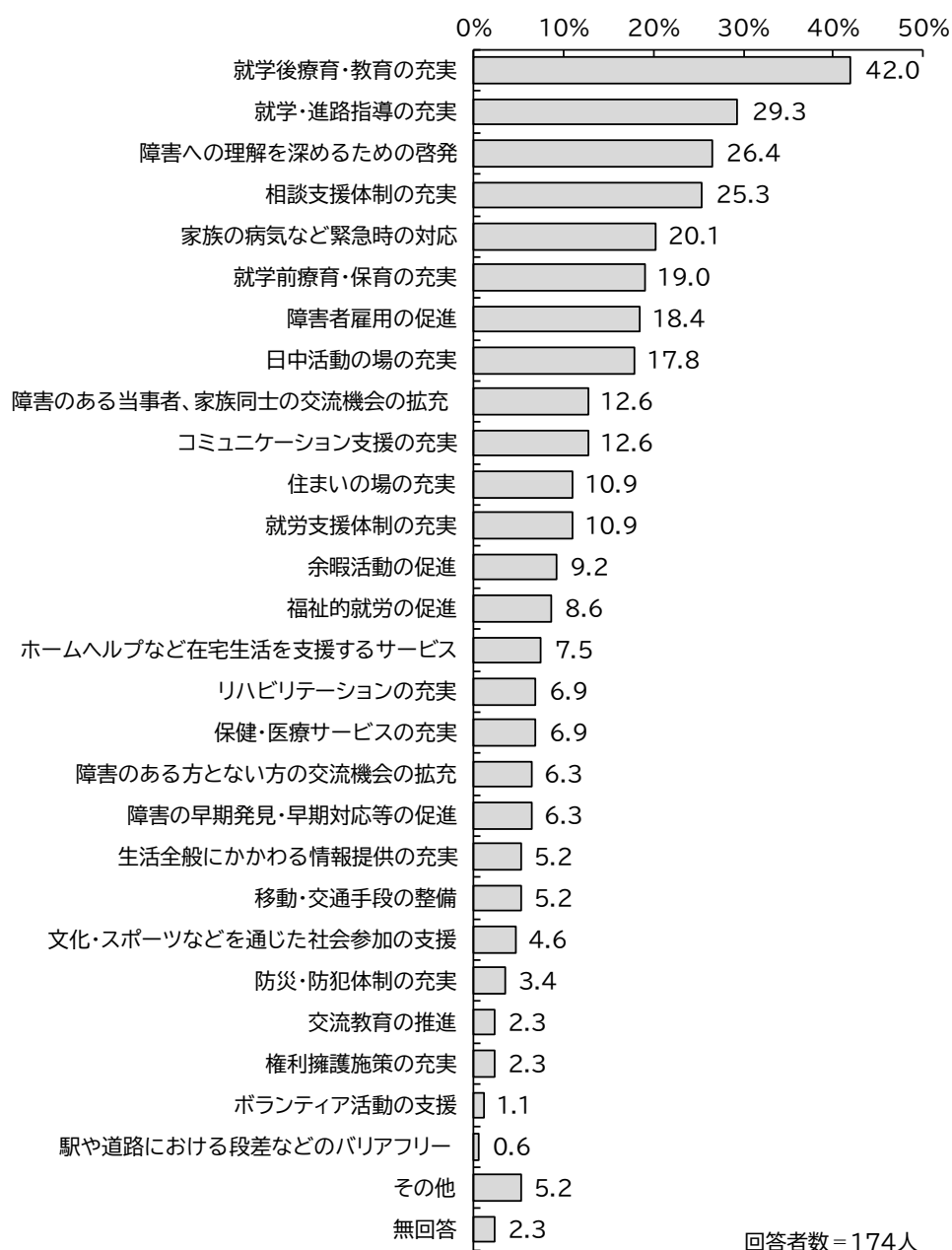
成年後見人制度を利用させる予定がない理由について聞いたところ、「保護者が元気なうちは、保護者が金銭管理等をしたい」48.4%が最も高く、5割近くになっている。次いで、「成年後見制度が必要かどうかわからない」38.7%、「成年後見制度を利用させる必要がない」30.6%が3割台と続いている。

15. 全体的な施策について

(1) 暮らしのために充実してほしいこと

問 48 お子さまが暮らしやすくなるために、充実してほしいことは何ですか。
(主なもの3つまで○)

図表 15-1-1 暮らしのために充実してほしいこと



暮らしのために充実してほしいことについて聞いたところ、「就学後療育・教育の充実」42.0%が最も高く、4割以上となっている。次いで、「就学・進路指導の充実」29.3%、「障害への理解を深めるための啓発」26.4%、「相談支援体制の充実」25.3%、「家族の病気など緊急時の対応」20.1%が2割台と続いている。

図表 15-1-2 暮らしのために充実してほしいこと〔年齢別・障害種別〕

		回答者数(人)	就学後療育・教育の充実	就学・進路指導の充実	障害への理解を深めるための啓発	相談支援体制の充実	家族の病気など緊急時の対応	就学前療育・保育の充実	障害者雇用の促進	日中活動の場の充実	障害のある当事者、家族同士の交流機会の拡充
全体		174	42.0%	29.3%	26.4%	25.3%	20.1%	19.0%	18.4%	17.8%	12.6%
年齢別	0～5歳	57	36.8%	26.3%	19.3%	19.3%	10.5%	42.1%	12.3%	19.3%	19.3%
	6～17歳	117	44.4%	30.8%	29.9%	28.2%	24.8%	7.7%	21.4%	17.1%	9.4%
障害種別	身体障害者手帳所持者	25	32.0%	8.0%	32.0%	12.0%	20.0%	16.0%	16.0%	36.0%	16.0%
	愛の手帳所持者	88	36.4%	23.9%	23.9%	18.2%	27.3%	15.9%	23.9%	22.7%	12.5%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	20.0%	20.0%	40.0%	40.0%	60.0%	0.0%	60.0%	20.0%	20.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	2	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	96	42.7%	33.3%	32.3%	29.2%	16.7%	14.6%	18.8%	13.5%	10.4%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	12	33.3%	33.3%	33.3%	8.3%	33.3%	16.7%	33.3%	33.3%	16.7%
	日常的に医療的ケアが必要	6	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	50.0%	0.0%	33.3%	0.0%

		回答者数(人)	コミュニケーション支援の充実	住まいの場の充実	就労支援体制の充実	余暇活動の促進	福祉的就労の促進	ホームヘルプなど在宅生活を支援するサービス	リハビリテーションの充実	保健・医療サービスの充実	障害のある方とない方の交流機会の拡充
全体		174	12.6%	10.9%	10.9%	9.2%	8.6%	7.5%	6.9%	6.9%	6.3%
年齢別	0～5歳	57	5.3%	1.8%	10.5%	1.8%	3.5%	7.0%	8.8%	3.5%	7.0%
	6～17歳	117	16.2%	15.4%	11.1%	12.8%	11.1%	7.7%	6.0%	8.5%	6.0%
障害種別	身体障害者手帳所持者	25	12.0%	16.0%	4.0%	12.0%	4.0%	8.0%	28.0%	20.0%	16.0%
	愛の手帳所持者	88	6.8%	18.2%	11.4%	9.1%	13.6%	10.2%	6.8%	8.0%	8.0%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	60.0%	20.0%	40.0%	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	96	14.6%	7.3%	9.4%	8.3%	6.3%	8.3%	4.2%	4.2%	7.3%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	12	8.3%	33.3%	8.3%	25.0%	8.3%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%
	日常的に医療的ケアが必要	6	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	33.3%	0.0%

※網掛けは、上位3位の選択肢

第3章 調査結果(児童)

		回答者数(人)	障害の早期発見・早期対応等の促進	生活全般にかかわる情報提供の充実	移動・交通手段の整備	文化・スポーツなどを通じた社会参加の支援	防災・防犯体制の充実	交流教育の推進	権利擁護施策の充実	ボランティア活動の支援	駅や道路における段差などのバリアフリー
全体		174	6.3%	5.2%	5.2%	4.6%	3.4%	2.3%	2.3%	1.1%	0.6%
年齢別	0～5歳	57	8.8%	5.3%	7.0%	3.5%	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	6～17歳	117	5.1%	5.1%	4.3%	5.1%	3.4%	3.4%	3.4%	1.7%	0.9%
障害種別	身体障害者手帳所持者	25	8.0%	4.0%	8.0%	0.0%	8.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	愛の手帳所持者	88	1.1%	5.7%	4.5%	5.7%	3.4%	1.1%	2.3%	0.0%	1.1%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	96	7.3%	5.2%	6.3%	3.1%	3.1%	3.1%	2.1%	2.1%	0.0%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	12	8.3%	16.7%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	日常的に医療的ケアが必要	6	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

		回答者数(人)	その他	無回答
全体		174	5.2%	2.3%
年齢別	0～5歳	57	5.3%	3.5%
	6～17歳	117	5.1%	1.7%
障害種別	身体障害者手帳所持者	25	8.0%	4.0%
	愛の手帳所持者	88	2.3%	3.4%
	精神障害者保健福祉手帳所持者	5	0.0%	0.0%
	手帳未所持で精神疾患の診断あり	2	0.0%	0.0%
	発達障害の診断あり	96	6.3%	1.0%
	高次脳機能障害の診断あり	0	0.0%	0.0%
	難病の診断あり	12	0.0%	8.3%
	日常的に医療的ケアが必要	6	16.7%	0.0%

※網掛けは、上位3位の選択肢

年齢別にみると、0～5歳では「就学前療育・保育の充実」が42.1%と、割合が高くなっている。6～17歳では、第3位が「障害への理解を深めるための啓発」29.9%となっている。

障害種別でみると、身体障害者手帳所持者の方で「日中活動の場の充実」36.0%、愛の手帳所持者では「家族の病気など緊急時の対応」が27.3%で、割合が高くなっている。

16. 自由意見

問 49 アンケート調査全体を通して、ご意見・ご要望（困っていること、改善してほしいこと等）がありましたら、ご記入ください。

アンケート調査全体を通してご意見やご要望を自由に記述していただいたところ、133件の様々な意見が寄せられた。その中から、内容を一定の分野ごとに整理し、その概要を示したものである。

(1) 相談支援体制及び関係機関のネットワーク

- 共働きで時間を確保することが困難なので、電話や面談形式で子どもの教育等に関し、気軽に相談できるような制度があると助かります。
- 昨年生まれた子どもなのですが、市や保健師からは生まれた時のヒアリングの電話しかなくコロナなので、訪問はなしでと話し合ってから連絡がありません。病院を通じて市外の相談支援、療育や発達支援とつながることができました。
- 子どもの発達相談出来る場所があり、有難いのですが予約が取りにくく回数も少ないのもう少し気軽に相談出来るとういなどと思いました。
- 来年度小学校入学予定なのですが、その準備として、就学相談、学童の利用相談、放デイの利用等それぞれの役所の担当の課がバラバラなため、親の負担が多い。障がい児の就学相談で相談、申請がひとつですむようになってほしいです。
- 児童発達支援施設の利用にあたり、施設・つくしんぼ・障害福祉課の3ヶ所とやりとりをしたのですが、それぞれの言うことが少しずつ異なっており、利用できるようになるまでに時間がかかってしまいました。どこかの事業所で統括してその他の事業所とやりとりするなどして下さると、もう少し利用しやすいのではないかと思います。
- 保育園と療育施設の連携がほとんどない。全ての事業者で保育所等訪問支援の制度を使えるようにしてほしい。保育所の中で療育を受けられるようにしてほしい。日中の保育だけでは、圧倒的に療育の時間が少ない。
- 子どもが小さい事もあり、将来どのような暮らしが出来て、どのような選択があるのかの見通しがたてられておらず不安です。小さいうちに何をしたら良いかなどの情報がほしい。
- 1日通所できる場所が少なく、入れても週2で保育園、その他は児童発達支援など選択ができるようにしてほしい。
- 障害の傾向と程度によって必要なものが異なる。もっと支援を必要とする方々の被援助志向性を聴きとらねばだめです。本気でやろうと思ってほしいです。

(2) 経済的支援

- 交通費助成が1ヶ月5000円は少ないです。障害児をみてくれる病院が遠く、定期的を受診する必要があるので足りません。
- 子どもの医療費無償化を強く希望します。自治体によって異なる現状に対して、不公平感があります。
- 手当の所得制限をなくす、日中の預け先を充実させるなどで、親が就労しやすい環境になるといいと思います。
- 福祉制度において整備されている手当について所得制限により受給できないものが多く困っています。“世帯”の収入を基準にする等してもらえないでしょうか。

第3章 調査結果(児童)

(3) 保健・医療

- 小児慢性関係の申請のため、大量の書類を毎年提出させられる。治る見込みのない（そもそも治るものではない）障がいについて、毎年記入、提出することに疑問を感じている。
- 子どもの発達を診てくださるクリニックが市内に複数あるとよいです。現状は予約をとるのが大変だったり、遠方に通わないとならないことがあるので。

(4) 療育

- つくしんぼの預かり時間がとても短いと感じる。夏休みや冬休みも3週間ほどあり前後に午前保育などもあり、とても不満を感じる。
- 放課後等デイサービスを利用したくて何ヶ所か見学に行ったのですが、就学時には空きがなく入れませんでした。利用希望者に対し受け入れ可能な人数が足りていないのかなと思います。
- つくしんぼに通所しているが療育の内容が古く感じる。定期的な講習受講を促して ABA 療育なども取り入れてほしい。
- つくしんぼの職員の方々は、私たちの家族の気持ちに寄り添い、共に子どもの成長を喜んでくれ、一人ひとりの子どもをよく見て、その子に合った療育をしてくれています。つくしんぼのような相談支援事業所が増えたら、私も他の障害がある子どもを持つ親も、希望をもって育児ができると思います。
- 就学後も同じ療育が受けられるようにしてほしい。本人も慣れてきており、成長も見られるため。
- 小学校に入学すると療育が受けられないのに困っている。親ができる事には限界があるので、専門の先生の療育が受けられる場所がほしい。支援学級に通っているがサポートに入ってくれる先生？がもう少しいてほしい（人数を増やしてほしい）。
- 働く親が利用できる療育施設が少なく感じます。土日やせめて夕方の利用ができるところを増やしていただきたいです。

(5) 教育

- 小学校の通級を利用させていただいています。通級の先生方は大変理解がありますが、担任の先生によってはまだまだ理解が低く、二次障害的な事に発展していくパターンも多いように感じます。
- 学習面での難しさがあり専門の方に相談したいのですが、どこに行けばよいのかわかりません。継続して小学校での勉強のことを具体的に見てくださるところがほしいです。
- 慣れ親しんだ土地で安心して住み続けられるよう、教育機会を均等に受けられるよう、障害者児、医療的ケア児への理解、受け入れ体制の促進を進めていただきたいです。
- 現在小学3年生で発達障害があります。知的障害は今のところなしとなっていますが苦手なところを補える場所がほしいです。
- 国分寺市の特別支援教室を4月から利用しています。支援教室は家族にとって有難く心強い存在でしたが、支援教室の利用年数など制度が変わっていく事を知り、非常に困惑しております。必要としている人がしっかりと利用できるようお願いしたいです。
- 次男が知的障害です。来年小学校に入学予定ですが、学区内の学校には支援学級がなく、少し離れた学校に通学しなければならないため、兄弟で同じ学校に通うことすらできません。早急に支援学級を増やしてください。
- 情緒障害特別支援級の増設と、学校行事への支援級、一くくりでの扱いを減らしてもらいたいです。少人数ならば、通常級の授業が受けられる、というような児童、生徒への対応が中途半端に

感じます。

- 特別支援教室に通っているのですが、通常授業の時間を抜けて参加しているので、勉強の遅れが心配。時間外に勉強のフォローをしてもらえると嬉しいです。
- 普通学級の中に特別支援学級に通所しています。国の方針で1年で退所を目標にすることになったようですが、障害は一生です。成長期だと週に1度くらい相談できる場所が必要だと思います。

(6) 保育

- 障がいに関わる法律、制度は定められているものの、実際利用できることは少なく、保育園は障がいを聞いただけで断られたりする。
- 保育園の入園について、障がいや発達特性を理由とした入園拒否はやめてほしいです。
- 病児保育の申請は2年に1回、変更がなければ、もう少し長くてもよいと思います。
- 学童について、低学年や発達に課題を抱える児童の場合は一人で留守番ができないため、保護者が学校の保護者会や兄弟のイベント(運動会等)に参加する場合も学童の利用を可能とするように制度を変更してほしいです。

(7) 生涯学習・文化芸術・スポーツ・余暇活動

- 学校卒業後の、仕事後の時間の過ごし方が心配です。成人の毎日通所施設(放課後デイサービスにあたるもの)がほしいです。自主的に友人と遊ぶ等がなかなか難しいので。
- 市内の障がい者の親や当事者が集まって交流できるような機会や場所があればよいと思う。
- 就労したら終わりではなく障がい者(児)についても生涯学習しつづけることができる環境を希望します。
- 得意なスポーツ、プール等を習わせたいと思っても、障害児が通えるところはないように思うので、そういった子どもも通えるような場所があれば嬉しいです。

(8) 移動支援

- 移動支援が使いづらい。学校へ迎えに行く事も可能にしてもらいたい。
- 共働きだと療育を受けさせるのが大変です。療育機関と保育園等の移動支援ができる制度がほしいです。

(9) 安全・安心

- コロナ流行で家族が陽性になり、障がいのある子が濃厚接触者になってしまうと外部へ隔離もできず、シッターも依頼できず、大変困りました。
- ひどいかんしゃくを起こした時等、緊急時に即対応できる関係医療機関等と繋がっていると安心です(頓服服用以外にも何かよい対応方法等いくつか知っていた方が心強いです)。

(10) 心のバリアフリー

- 近隣の個人病院は、発達障害、知的障害のある人に対して理解していないところがほとんどのように感じる。特に外見は障害がわからないような患者に対しての配慮もないように感じる。
- 児童館等、公共施設での職員の対応について、障がいについてあまりにも知識がなく、こちらが怒られることがあり、とても不安、不満である。子どもに携わる仕事をしているなら、ある程度理解していただきたい。

第3章 調査結果(児童)

- 障害児をもつ保護者として、当事者になってはじめてわかることが多い。周りの方の理解、支援を今後期待したいが、障害に関する知識など、まだ広まっていないため不安に思う。
- 見た目にはわからない障害（ヘルプマーク以外）で発達障害や多動症等のマークがあると嬉しいです。年齢の割に体が大きい為、外では、心ない言葉を言われたり冷たい視線で涙したことも多々あります。

(1 1) 人材の育成と確保

- 相談支援員さんの数が少ない。相談しても話を聞くだけ、行動に時間がかかる。個々に合わせた支援を望みます。
- 発達特性をもつ、子どもに対する保育環境の整備について、公立、私立問わず、市内の幼稚園、保育園の園長、副園長に対し、発達特性をもつ子どもとその保育方法に関する研修を企画、充実させてほしいです。

(1 2) アンケート

- 3つまでしか回答できない問題が多い。今、困っていること、これから困ることはもっとたくさんあります。このアンケートは、障害者の家族の目線に立って作られていない。
- このアンケートを通して感じたのですが、「福祉サービスを受けている＝障害者」として言葉が使われているのがとても気になり、不快でした。「障害者および障害の可能性のあるもの」などとしていただきたい。言葉づかいにご配慮いただけたらありがたいです。
- 診断は受けていませんが、支援の必要性を判断されている場合の記入欄があるとよいと思いました。

(1 3) その他

- 一時預かりに関しても、1ヶ月24時間しか利用できないため、家族のレスパイトには全く足りない。ショートステイをすすめられるが、事業所のキャパの問題などで、希望の日程で利用することができず今に至っている。
- 市ごとに受給者証発行の条件が違うのはおかしいと思います。
- 長くお世話になっていた（小学生の頃）放課後デイサービスを受けられなくなってしまいました。子どもの独特な成長のためです。中学生に適した支援が不足しているように思います。
- 自閉症の人も安心して働くことができる就労先を増やしていただけるとありがたいです。市職員の障がい者採用枠の拡大等。
- 国として行政手続きのオンライン化が進められているが、障がい者やその家族が対象となるものはほとんど進んでおらず、障がい福祉系の手続きのオンライン化充実を望みます。